

堂の前貝塚発掘調査報告書 V

平成26・27年度復興交付金対象事業関連遺跡発掘調査

2020

岩手県陸前高田市教育委員会

どうのまえかいづかはつくつちょうさほうこくしょ

堂の前貝塚発掘調査報告書

V

平成26・27年度復興交付金対象事業関連遺跡発掘調査

2020

岩手県陸前高田市教育委員会

巻頭図版



堂の前貝塚9・10区(南西から)



堂の前貝塚9・10区(上空から)

序文

陸前高田市は、縄文時代を始めとする約270箇所の遺跡や様々な自然・歴史文化遺産があり、それは山、川そして三陸の海がもたらす豊かな自然の恩恵を享受し、縄文時代から現在にいたるまで当市が発展した証でもあります。

このような先人が残した歴史文化遺産やそれを形成した自然を、適切に保存し未来に伝え残していくことは、現在を生きている私たちの重大な責任です。

一方、市勢発展や地域活性化に還元するための公共事業や社会資本整備等は、豊かな市民生活のためには必要であることも事実です。

しかし、一度破壊した自然・歴史文化遺産を元に戻すことはできず、我々の先人が生きた証は永久に失われてしまいます。

陸前高田市教育委員会では、開発事業や東日本大震災後の様々な復興事業と貴重な遺跡の保護を両立するため、関係機関と事前の協議・調整を行いながら、やむを得ず消滅する遺跡については発掘調査による記録保存を実施してまいりました。

本書は、東日本大震災からの復興に係る開発事業に伴い、平成26・27年度に実施した堂の前貝塚の発掘調査結果を収録したものです。

本書が、地域の方々をはじめ、学術研究、教育活動に広く活用され、ひいては文化財保護思想の普及啓蒙に役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にあたり、ご指導、ご協力をいただきました関係各位に深く御礼を申し上げます。

令和2年9月

陸前高田市教育委員会

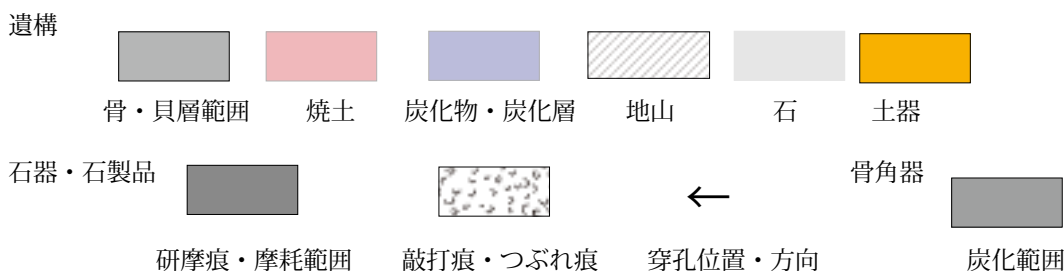
教育長 大久保 裕 明

例言

- 1 本書は、岩手県陸前高田市米崎町字堂の前136番地1他に所在する堂の前貝塚の発掘調査報告書である。
- 2 平成24年度から平成27年度にかけ、堂の前貝塚内で東日本大震災による住宅等の再建を主な原因として復興庁復興交付金の交付を受けて実施された事前発掘調査のうち、本書には平成26・27年度に実施した9・10区の発掘調査成果を所収した。
- 3 本遺跡は岩手県遺跡台帳にNF68-2130として登録されている。
市の遺跡登録番号は160、略号はDNMあるいは、堂の前貝塚2014年度調査を表すDNM14、および堂の前貝塚2015年度調査を表すDNM15である。
- 4 発掘調査は、陸前高田市教育委員会が文化庁・岩手県教育委員会の指導の下、県内外の公共団体と関係機関の協力を受け実施した。調査期間、調査面積、担当者は以下のとおりである。調査を実施した組織については巻末に記した。
平成26年度
調査期間：平成26年8月21日～平成27年3月17日 調査面積：9区 2,053㎡・10区 820.7㎡
調査担当：加藤隆也（福岡市派遣）
平成27年度
調査期間：平成27年4月27日～6月18日 調査面積：10区 193.3㎡
調査担当：瀧本正志（福岡市派遣）
- 5 遺物の水洗・注記などの基礎的整理作業については、陸前高田市教育委員会が発掘調査と並行して行い、完形土器と石器の実測作業については株式会社ラングへ委託し実施した。
- 6 本書刊行作業は陸前高田市教育委員会が平成30年度～令和元年度に実施し、詳細は以下のとおりである。
原稿執筆・編集：増崎勝仁
版下作成・遺物復元：村上奈穂子 村上紀子 岡田美幸（令和元年度）
平成30年度遺物実測：吉田光憲 村上ナオミ 新沼月子 古澤留美
- 7 本書の執筆と編集は増崎が行った。また、炭化材の放射性炭素分析年代測定結果については株式会社加速器分析研究所に執筆いただいた。
- 8 本書の写真は、調査中は各調査員が撮影し、出土遺物図版については、かとうまさゆき写真事務所に撮影を委託した。
- 9 本書に収録した出土遺物及び調査記録は、陸前高田市教育委員会で保管している。
- 10 発掘調査から整理作業、報告書刊行に至るまで、以下の方々と機関にご指導・ご協力をいただいた。記して深謝いたします。（順不同・敬称略）
発掘調査に従事された地元作業員の皆様（巻末別記）
岩手県教育委員会 北海道教育委員会 青森県教育委員会 埼玉県教育委員会 山梨県教育委員会
山梨県教育委員会 鹿児島県教育委員会 福岡市教育委員会 京都市教育委員会 八木光則
- 11 本書刊行前に調査成果の一部が現地説明会や各地での展示会で公開されたが、本書の記載内容が優先する。

凡例

- 1 本書で使用した方位は座標北で、標高は海拔高である。
- 2 各調査区のグリッドポイントは、世界測地系（測地成果 2011）に則し配点した。
- 3 本書で用いた遺構略号は以下のとおりで、種別ごとに番号を付した。
なお遺構種別毎に付した番号は、平成 24～25 年度の各調査区からの連番としている。
SB：建物跡 SI：竪穴建物跡 SK：土坑 SL：焼土跡 SS：配石 SX：不明遺構 NR：自然流路
- 4 調査時に付した遺構略号と番号は、整理作業の中で整理順列し新たに付した。遺構略号と番号の新旧の変遷と対照は、添付 CD 内の「堂の前貝塚 9・10 区 遺構名変遷表」を参照されたい。
- 5 挿図の縮尺は、遺構平面・断面図は 1/40・1/50、攪乱等によって破壊あるいは未調査によって推定した実測線は不連続する線分、オーバーハングした遺構底面等の実測線は破線で表した。
遺物実測図については完形土器 1/4、土器破片 1/3 石器と土製品 3/5・1/3 を基本としているが、図によっては変更しているものがある。
- 6 遺物図版は挿図と凡そ同一縮尺としている。
- 7 土壌の色調は『新版 標準土色帖 (2013 版)』（農林水産省農林技術会事務局監修）に準拠した。
- 8 一部の石器・石製品の石材の肉眼による岩種鑑定には、『河原の石の CD 岩石鑑定図鑑』（2003 版）・『剥片石器に使える石材の CD 岩石図鑑』（2004 版）有限会社考古石材研究所発行を参照した。
- 9 挿図中の配色・トーンは以下のとおりである。



- 10 各遺構の土層説明を含む記述に関しては、整理作業での調整・変更は最小限にとどめ、調査時に作成された記録を最優先した。【規模】は、調査時に現存した最大長軸値×最大短軸値×最深値である。
【重複】は、調査時に判断された先後関係を記載している。【出土遺物】は、調査者が遺構内出土と認定し図示した資料のみを記載している。
- 11 縄文土器の挿図には、() 内に調査時の出土遺構・グリッドと出土層位を付記した。図版の縄文土器に付した番号は、「挿図番号-図中番号」を表す。
- 12 石器・ミニチュア土器を含む土製品・骨角器の遺物挿図()内と遺物図版に付した番号は、陸前高田市内遺跡出土遺物登録台帳への掲載番号を表す。
- 13 図示した完形土器・石器・土偶・土製品・土器片製円盤の出土グリッド・計測値・石材等の属性情報については、調査区を分けて「土器属性表」「石器属性表」「土偶・土製品属性表」「土器片製円盤属性表」「骨角器属性表」に記載し、添付 CD-ROM に XLS・CSV・TXT 形式で記録した。

目次

本文目次

巻頭図版

序文

例言

凡例

第Ⅰ章	はじめに	1
第Ⅱ章	調査成果	3
第1節	調査概要	3
1	調査の経過と方法	3
2	遺構の概要と基本層序	3
第2節	9区の調査	4
1	遺構と出土遺物	4
建物跡		4
土坑		4
焼土跡		41
不明遺構		41
自然流路		41
2	遺構外の出土遺物	43
縄文土器		43
土器片製円盤		47
石器		47
石製品		48
第3節	10区の調査	51
1	遺構と出土遺物	51
竪穴建物跡		51
土坑		67
焼土跡		90
配石		90
2	遺構外の出土遺物	91
縄文土器		91
土製品		100
土器片製円盤		100
石器		104
石製品		111
第Ⅲ章	自然科学分析	125
第1節	堂の前貝塚9区における放射性炭素年代（AMS測定）	125
第Ⅳ章	まとめ	128

報告書抄録

挿図目次

第1図	堂の前貝塚調査地点集成	2	第45図	SK64 出土土器片製円盤	32
第2図	9区遺構分布	5	第46図	SK65	33
第3図	SB3	6	第47図	SK65 出土土器	34
第4図	SB3 掘方断面	7	第48図	SK65 出土土器片製円盤	34
第5図	SB4 (1)	8	第49図	SK65 出土土器 (1)	35
第6図	SB4 (2)	9	第50図	SK65 出土土器 (2)	36
第7図	SB3・4 出土土器	10	第51図	SK66	37
第8図	SK52	11	第52図	SK66 出土土器 (1)	37
第9図	SK52 出土土器	12	第53図	SK66 出土土器 (2)	38
第10図	SK52 出土土器 (1)	13	第54図	SK66 出土土器片製円盤	38
第11図	SK52 出土土器 (2)	14	第55図	SK66 出土土器	38
第12図	SK52 出土土器 (3)	15	第56図	SK67	38
第13図	SK53	16	第57図	SK67 出土土器・石器	38
第14図	SK53 出土土器	17	第58図	SK68	39
第15図	SK53 出土土器	17	第59図	SK68 出土土器	39
第16図	SK54	18	第60図	SK69	40
第17図	SK54 出土土器	19	第61図	SK70	40
第18図	SK54 出土土器	19	第62図	SK70 出土土器	40
第19図	SK55	20	第63図	SK71	40
第20図	SK55 出土土器	20	第64図	SL22	41
第21図	SK56	20	第65図	SX1	41
第22図	SK56 出土土器	21	第66図	SX1 出土土器	42
第23図	SK56 出土土器	21	第67図	NR4	42
第24図	SK57	22	第68図	遺構外出土土器 (1)	44
第25図	SK57 出土土器 (1)	22	第69図	遺構外出土土器 (2)	45
第26図	SK57 出土土器 (2)	23	第70図	遺構外出土土器 (3)	46
第27図	SK58	23	第71図	遺構外出土土器 (4)	47
第28図	SK58 出土土器 (1)	24	第72図	遺構外出土土器片製円盤	48
第29図	SK58 出土土器 (2)	25	第73図	遺構外出土土器 (1)	49
第30図	SK58 出土土器片製円盤	25	第74図	遺構外出土土器 (2)・石製品	50
第31図	SK58 出土土器	26	第75図	10区遺構分布	52
第32図	SK59	27	第76図	SI13	53
第33図	SK59 出土土器 (1)	27	第77図	SI13 出土土器・石器	54
第34図	SK59 出土土器 (2)	27	第78図	SI14・15・16	55
第35図	SK59 出土土器 (3)	28	第79図	SI14 炉	56
第36図	SK60	28	第80図	SI14 出土土器 (1)	57
第37図	SK60 出土土器・石器	28	第81図	SI14 出土土器 (2)	58
第38図	SK61	28	第82図	SI14 出土土器	59
第39図	SK61 出土土器	28	第83図	SI15 出土ミニチュア土器・石器	59
第40図	SK62	29	第84図	SI17	60
第41図	SK62 出土土器	30	第85図	SI17 出土土器	61
第42図	SK63	30	第86図	SI17 出土土器	61
第43図	SK64	31	第87図	SI18 (1)	62
第44図	SK64 出土土器	31	第88図	SI18 (2)	63

第 89 図	SI18 出土土器	64	第 135 図	SK92	86
第 90 図	SI18 出土石器	65	第 136 図	SK92 出土土器	86
第 91 図	SI19	66	第 137 図	SK93	87
第 92 図	SI19 出土土器・耳飾・石器	67	第 138 図	SK94	87
第 93 図	SK72	68	第 139 図	SK94 出土土器	87
第 94 図	SK73	68	第 140 図	SK95・96	87
第 95 図	SK73 出土土器 (1)	68	第 141 図	SK96 出土土器	87
第 96 図	SK73 出土石器	68	第 142 図	SK97	88
第 97 図	SK73 出土土器 (2)	69	第 143 図	SK98	88
第 98 図	SK73 出土土器片製円盤	69	第 144 図	SL24	89
第 99 図	SK74	70	第 145 図	SL24 出土石器	89
第 100 図	SK74 出土土器	70	第 146 図	SS3	89
第 101 図	SK75	71	第 147 図	SS3 出土石器	89
第 102 図	SK75 出土土器	71	第 148 図	SS4	89
第 103 図	SK75 出土石器	71	第 149 図	遺構外出土土器 (1)	92
第 104 図	SK76	72	第 150 図	遺構外出土土器 (2)	93
第 105 図	SK76 出土土器	72	第 151 図	遺構外出土土器 (3)	94
第 106 図	SK76 出土石器	73	第 152 図	遺構外出土土器 (4)	95
第 107 図	SK77	74	第 153 図	遺構外出土土器 (5)	96
第 108 図	SK77 出土石器	74	第 154 図	遺構外出土土器 (6)	97
第 109 図	SK78	75	第 155 図	遺構外出土土器 (7)	98
第 110 図	SK78 出土石器	75	第 156 図	遺構外出土土器 (8)	99
第 111 図	SK78 出土土器	75	第 157 図	遺構外出土土器偶 (1)	101
第 112 図	SK79	76	第 158 図	遺構外出土土器偶 (2)	102
第 113 図	SK80	77	第 159 図	遺構外出土土製品	103
第 114 図	SK80 出土土器	77	第 160 図	遺構外出土石器 (1)	105
第 115 図	SK80 出土石器	78	第 161 図	遺構外出土石器 (2)	106
第 116 図	SK81	78	第 162 図	遺構外出土石器 (3)	107
第 117 図	SK81 出土石器	78	第 163 図	遺構外出土石器 (4)	108
第 118 図	SK82・83	79	第 164 図	遺構外出土石器 (5)	109
第 119 図	SK82・83 出土土器	79	第 165 図	遺構外出土石器 (6)	110
第 120 図	SK84	80	第 166 図	遺構外出土石器 (7)	111
第 121 図	SK84 出土土器	80	第 167 図	遺構外出土石器 (8)	112
第 122 図	SK84 出土石器	80	第 168 図	遺構外出土石器 (9)	113
第 123 図	SK85	81	第 169 図	遺構外出土石器 (10)	114
第 124 図	SK86・90	81	第 170 図	遺構外出土石器 (11)	115
第 125 図	SK86 出土土器・石器	81	第 171 図	遺構外出土石器 (12)	116
第 126 図	SK87	81	第 172 図	遺構外出土石器 (13)	117
第 127 図	SK88・99	82	第 173 図	遺構外出土石器 (14)	118
第 128 図	SK88 出土土器	82	第 174 図	遺構外出土石器 (15)	119
第 129 図	SK88 出土石器	82	第 175 図	遺構外出土石器 (16)	120
第 130 図	SK89	84	第 176 図	遺構外出土石器 (17)	121
第 131 図	SK89 出土石器	84	第 177 図	遺構外出土石器 (18)	122
第 132 図	SK91	85	第 178 図	遺構外出土石製品 (1)	123
第 133 図	SK91 出土土器 (1)	85	第 179 図	遺構外出土石製品 (2)	124
第 134 図	SK91 出土土器 (2)	86	第 180 図	1 号掘立柱遺構と SB3	128

表目次

表 1 放射性炭素年代測定結果 (δ 13C 補正值)	126	表 2 放射性炭素年代測定結果 (δ 13C 未補正值、 暦年較正用 14C 年代、較正年代)	127
--	-----	--	-----

図表目次

図表 1 10 区土器片製円盤属性分布	100
-------------------------------	-----

写真目次

写真 1 堂の前貝塚 9 区調査風景	1	写真 3 堂の前貝塚 10 区調査風景 (1)	1
写真 2 堂の前貝塚 9 区遺構実測作業風景	1	写真 4 堂の前貝塚 10 区調査風景 (2)	1

図版目次

巻頭図版 堂の前貝塚 9・10 区 (南西から) 堂の前貝塚 9・10 区 (上空から)	図版 21 10 区調査状況 (10)
図版 1 9 区調査状況 (1)	図版 22 現地説明会実施状況
図版 2 9 区調査状況 (2)	図版 23 9 区遺構内出土遺物 (1)
図版 3 9 区調査状況 (3)	図版 24 9 区遺構内出土遺物 (2)
図版 4 9 区調査状況 (4)	図版 25 9 区遺構内出土遺物 (3)
図版 5 9 区調査状況 (5)	図版 26 9 区遺構内出土遺物 (4)
図版 6 9 区調査状況 (6)	図版 27 9 区遺構内出土遺物 (5)
図版 7 9 区調査状況 (7)	図版 28 9 区遺構外出土遺物
図版 8 9 区調査状況 (8)	図版 29 10 区遺構内出土遺物 (1)
図版 9 9 区調査状況 (9)	図版 30 10 区遺構内出土遺物 (2)
図版 10 9 区調査状況 (10)	図版 31 10 区遺構内出土遺物 (3)
図版 11 9 区調査状況 (11)	図版 32 10 区遺構内出土遺物 (4)
図版 12 10 区調査状況 (1)	図版 33 10 区遺構内出土遺物 (5)
図版 13 10 区調査状況 (2)	図版 34 10 区遺構内出土遺物 (6)
図版 14 10 区調査状況 (3)	図版 35 10 区遺構外出土遺物 (1)
図版 15 10 区調査状況 (4)	図版 36 10 区遺構外出土遺物 (2)
図版 16 10 区調査状況 (5)	図版 37 10 区遺構外出土遺物 (3)
図版 17 10 区調査状況 (6)	図版 38 10 区遺構外出土遺物 (4)
図版 18 10 区調査状況 (7)	図版 39 10 区遺構外出土遺物 (5)
図版 19 10 区調査状況 (8)	図版 40 10 区遺構外出土遺物 (6)
図版 20 10 区調査状況 (9)	図版 41 10 区遺構外出土遺物 (7)
	図版 42 10 区遺構外出土遺物 (8)

添付 CD 所収内容

- ・堂の前貝塚 9・10 区 遺構名変遷表
- ・土器属性表
- ・石器属性表
- ・土偶・土製品属性表
- ・土器片製円盤属性表

*すべての表を XLS・CSV・TXT 形式で記録した。

第I章 はじめに

本書は、平成26・27年度に陸前高田市教育委員会が、陸前高田市米崎町に所在する周知の遺跡「堂の前貝塚」内で実施した発掘調査成果の報告である。調査は遺跡内の9・10区の2地点で、合計面積3,067㎡である。

調査原因は、東日本大震災の被害を受けた幼稚園施設の再建である。調査は平成26・27年度復興交付金対象事業として実施された。

調査担当者・調査員は、福岡市・岩手県教育委員会からの埋蔵文化財担当職員の派遣を受けた。

平成26年度の調査は、9・10区で平成26年8月21日に着手し平成27年3月17日に完了した。

平成27年度の調査は、10区の未調査部分と測量などを平成27年4月27日に着手し6月18日に完了した。

屋内での作成図面の整理・出土遺物の水洗など基礎的整理作業は、現地調査と並行して実施した。

各調査区の地番、調査面積、調査期間及び担当者・調査員等の詳細については、『堂の前貝塚Ⅲ』（陸前高田市教育委員会 平成30年発行）の「表1 平成24～27年度堂の前貝塚調査組織表」を参照していただきたい。

調査報告書作成作業は、平成30年度に掲載資料の抽出・実測を開始し、令和元年度に縄文土器と石器の実測、および遺物写真撮影を外部委託し、挿図版下作成及び原稿執筆・編集作業を行った。平成26・27年度の調査組織及び平成30・令和元年度の整理作業組織については巻末に記した。

堂の前貝塚の立地と地理・歴史的環境については、『堂の前貝塚Ⅲ』『第二章 遺跡の立地と環境』を参照していただきたい。



写真1 堂の前貝塚9区調査風景



写真2 堂の前貝塚9区遺構実測作業風景



写真3 堂の前貝塚10区調査風景(1)



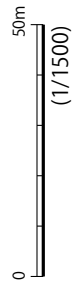
写真4 堂の前貝塚10区調査風景(2)



各調査区の調査原因と調査面積

- 1区：個人専用住宅建築目的の宅地造成
1,429 m²
- 2区：個人専用住宅建築目的の宅地造成
914 m²
- 3区：個人専用住宅建築目的の宅地造成
918 m²
- 4区：個人専用住宅建築目的の宅地造成
438 m²
- 5区：個人専用住宅建築目的の宅地造成
129.7 m²
- 6区：個人専用住宅建築目的の宅地造成
約 450 m²
- 7区：個人専用住宅建築目的の宅地造成
約 514 m²
- 8区：個人専用住宅建築目的の宅地造成
84 m²
- 9区：幼稚園建設のための土地造成
2,053 m²
- 10区：幼稚園建設のための土地造成
1,014 m²

- 「堂の前貝塚」報告（昭和 47 年刊）
- 「堂の前貝塚Ⅰ」報告（平成 9 年刊）
- 「堂の前貝塚Ⅱ」報告（平成 11 年刊）
- 「堂の前貝塚Ⅲ」報告（平成 30 年刊）
- 「堂の前貝塚Ⅳ」報告（令和元年刊）
- 「堂の前貝塚Ⅴ」報告（本書）
- 遺跡範囲



第1図 堂の前貝塚調査地点集成

第Ⅱ章 調査成果

第1節 調査概要

1 調査の経過と方法

平成26年6月、堂の前貝塚の遺跡範囲である陸前高田市米崎町字堂の前136番地1・138番地1の一部において幼稚園施設建築が計画され、事業者から文化財保護法93条第1項に基づき「埋蔵文化財発掘の届出」が提出された。市教育委員会は、直ちに県教育委員会へ進達を行い工事着手前に発掘調査を実施すべき旨の指示を受けた。指示に基づき事業者と協議し、調査対象地中央の道路から西側を9区、東側を10区と呼称し、平成26年8月21日から調査に着手した。

調査は、遺跡内容を把握するための試掘トレンチ調査から着手し、その後、対象区域内の表土を除去し遺構を確認した。その結果、調査対象全域から縄文時代の多数の遺構と遺物が検出された。

調査区に配したグリッドは、世界測地系を基準にして10×10m区画とした。各グリッドの名称は、グリッド北西隅の緯・経度の末尾の数値を合わせて表した。検出した遺構は、『発掘調査のてびき』に掲載された遺構略号に準拠して名称と番号を付した。遺構・遺物実測は、グリッドラインを基準に遣り方測量を行い縮尺は20分の1と10分の1を基本とした。また調査区全域の測量は、デジタル測量システムを使って実施した。記録写真は35mmモノクローム・ネガとカラー・リバーサルの2種を撮影し、補助的にデジタルカメラも使用した。出土遺物は、グリッド・遺構・層位ごとに採取した。平成26年度の調査は、平成27年3月17日に完了した。平成27年度は、平成27年4月27日から6月18日まで10区の未調査部分の調査を行った。

2 遺構の概要と基本層序(第1・2・75図、図版1・11・12・21)

9区の遺構は、掘立柱建物跡2棟・土坑23基・焼土跡1基・自然流路1基・その他1基を数える。

そのほかに、調査区の北西と南西に小穴の群を検出した。北西側の小穴群の一部は、北東から南西方向に配列されているようにもみられるが、伴出遺物や埋土・平面形に共通性もみられず遺構とする確証が得られなかった。中近世から近現代の植栽痕あるいは柵列の可能性は否定できない。

南西側の小穴群は、構築物を形成したと思われる配列を見いだせず、構築時期も確定できなかった。

10区の遺構は、竪穴建物跡7棟・土坑28基・焼土跡1基・配石2基を数える。

調査区は全域にわたって果樹畑造成のための削平が行われている。特に北西側は、植栽や灌漑水配管による攪乱が広範囲にみられ、遺構は南東半の緩斜面に集中している。

他にも地山層に至るまでの土層中には、炉の痕跡と思われる焼土を検出し大小様々な土坑を検出しているが、調査過程において十分な検討を行う余裕がなく調査が終了してしまったことは惜しまれる。

両区の基本的層序は、上位から暗灰色を呈する畑地耕作土、縄文土器片を含む黒色土、黄褐色土、大小の礫を多く含む黄橙色の粘質土の地山層と堆積している。遺構は、耕作土直下の黄褐色土上面で検出される。

表土から地山層までの深さは、おおむね60cmを測るが耕作による攪乱等で、堆積土の消失も見られ調査区全体が一様ではない。

第2節 9区の調査

1 遺構と出土遺物

建物跡

SB3 建物跡 (第3・4・7図、図版2・3・23)

【位置】調査区北東端、0877・0977 グリッド 【規模】桁行 17.8 m (南北方向) × 梁行 5.8 m (東西方向)

【出土遺物】磨石 1・凹石 3・石棒片 1 柱穴埋土から縄文土器片や石器片などが出土したが、本建物跡の構築時期を確定できる遺物は出土していない。

【所見】主軸方位をほぼ南北に向ける 2 間 × 7 間の掘立柱建物跡である。各柱穴の掘り方は隅丸方形で、1 辺が 1 m ～ 1.4 m 程度の大きさである。深さは浅いもので 0.75m、深いもので 1.22m のものがある。

いずれの柱穴も検出面で柱痕が確認されており、底面には柱根の「あたり」が確認される。各柱痕間の芯心距離は、2.3 ～ 2.5 m と若干ばらつきがある。調査区内で検出された柱穴は、2 間 × 7 間の 14 基であるが、調査区外の北側に桁行が伸びる可能性もある。柱痕跡から採取した 3 点の炭化物試料による放射性炭素年代分析 (AMS 測定) では、 $1,527 \pm 24\text{yrBP}$ ～ $1,323 \pm 24\text{yrBP}$ ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值) の測定結果であった。

SB4 建物跡 (第5・6・7図、図版4・23)

【位置】調査区南端、1176・1276・1177・1277 グリッド 【規模】直径 7.5m

【出土遺物】磨製石斧 1

【所見】9 基の柱穴が円形に配置された掘立柱建物である。東側 3 基、西側 3 基の柱穴には、礫と土が充填されている。礫の多くは直径 5cm 程度で、大きなものは直径 30cm のものもあるが少数である。縄文土器も礫に混入し出土する。南側 2 基と北側 1 基は、東西の柱穴より小形で礫の充填も見られなかった。

柱間距離は 2 ～ 3 m を測り一定ではないが、東西及び南北の対称性は保たれている。

東側の 1・2・3 では、太さ 20 ～ 30cm 程度の柱痕跡が確認された。いずれも掘り方の底面までは達しておらず、4 層中に充填された礫で柱を受けていたものと考えられる。また、柱根の明瞭な「あたり」は確認されなかった。

西側の 4・5・6 では柱痕跡は確認されず、礫が覆土中に散在しているような印象を受けた。柱材の腐食あるいは抜き取りで、充填された礫が崩れた可能性もある。

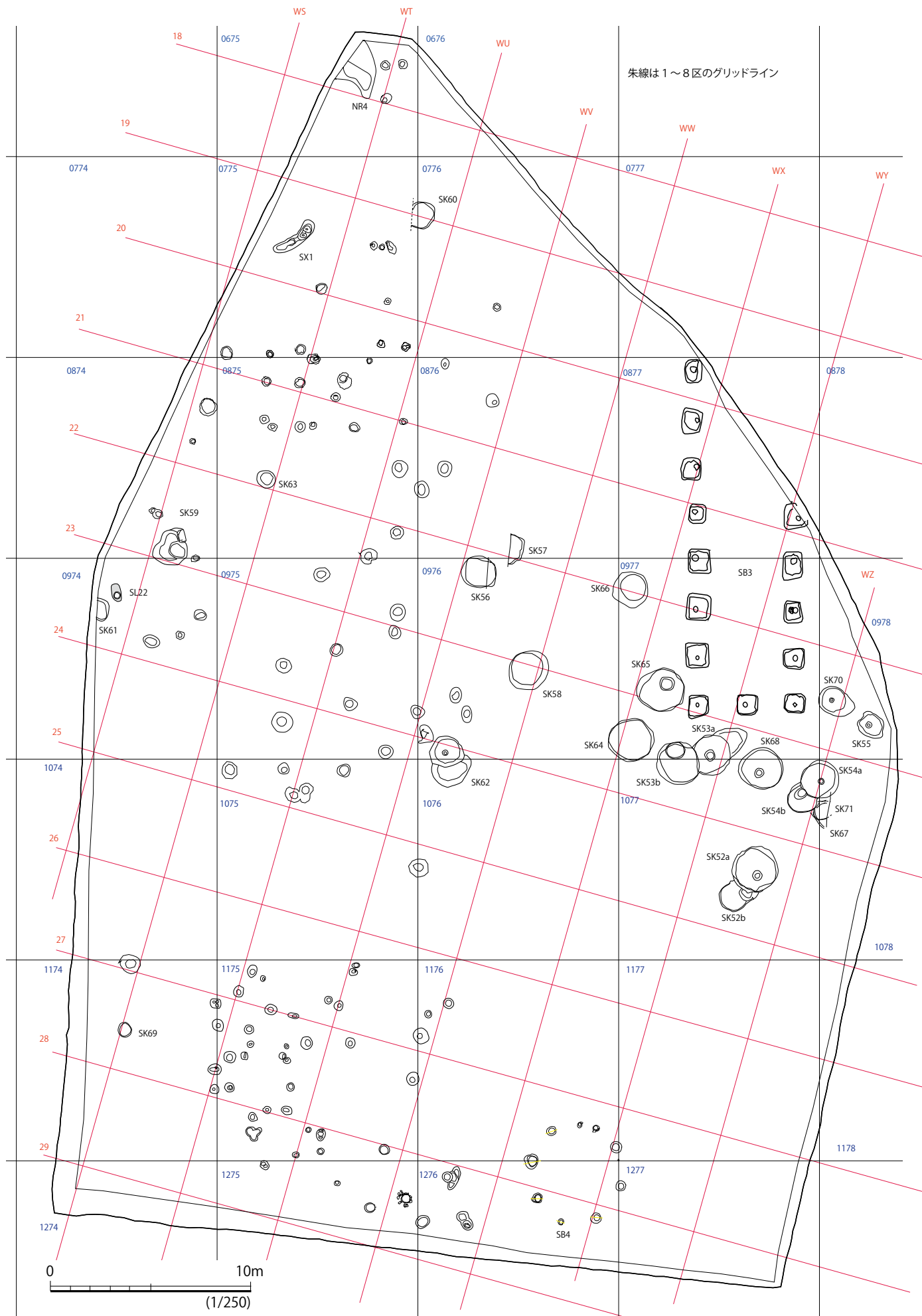
土坑

SK52 土坑 (第8～12図、図版5・23・24)

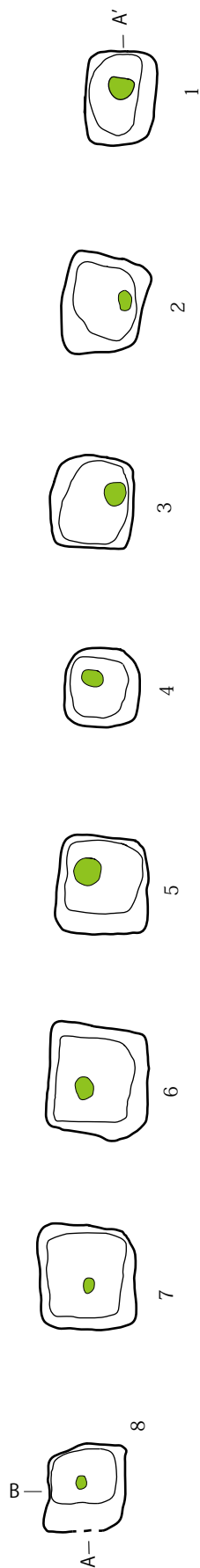
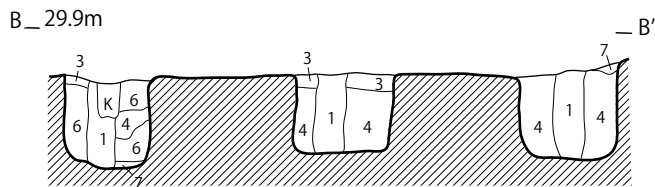
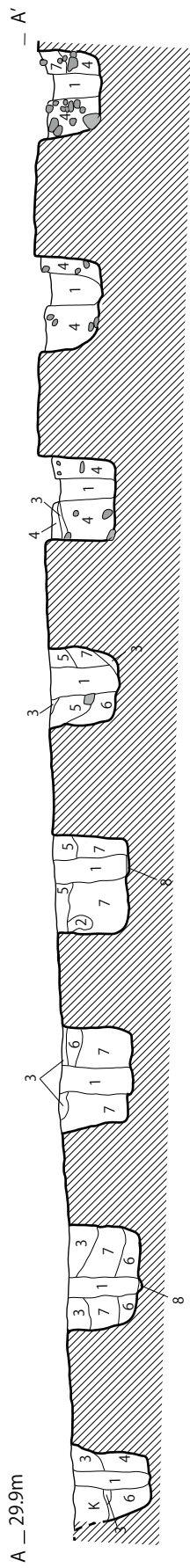
【位置】調査区東、1077 グリッド 【規模】SK52a：口径 190 × 底径 230 × 深さ 110cm SK52b：口径 140cm × 底径 130 × 深さ 50cm 【重複】先後は SK52b → SK52a 【出土遺物】縄文土器 8 (中期末～後期中葉)、石鏃 1・石錐 1・搔器 1・敲石 4・凹石 1・石皿 1・石棒状自然石 3

【所見】2 基が重複し新しいほうを a、古いほうを b とした。確認面には溝状の攪乱を受けていた。SK52a は、円形のプランを呈し、底面は平坦で口径より広がる断面フラスコ形状を呈する。底面のやや南寄りに直径 40cm 程、底径 25cm、深さ 15cm 程の小穴がある。底面南壁際には 10cm ～ 25cm 程の礫が縄文土器とともに出土した。礫には使用痕などはみられなかった。

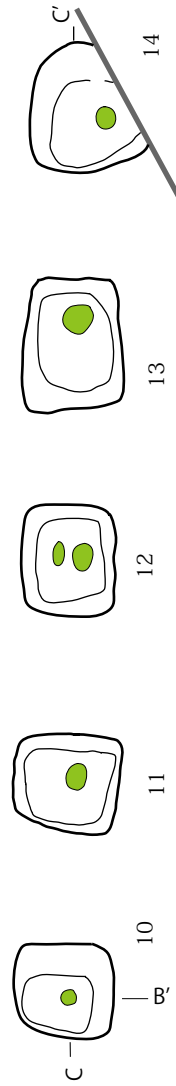
SK52b は SK52a の南側に 1/3 程が重複し、やや小形で浅い。壁はほぼ垂直に立ち上がる。SK52a との重複部分で底面が一段下がる個所がみられるが、SK52a 埋没時の崩落と考えられ、底面に設けられた小穴ではない。埋土下層から底面にかけて円柱状の礫や円礫などが多く出土した。



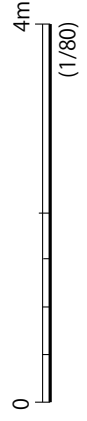
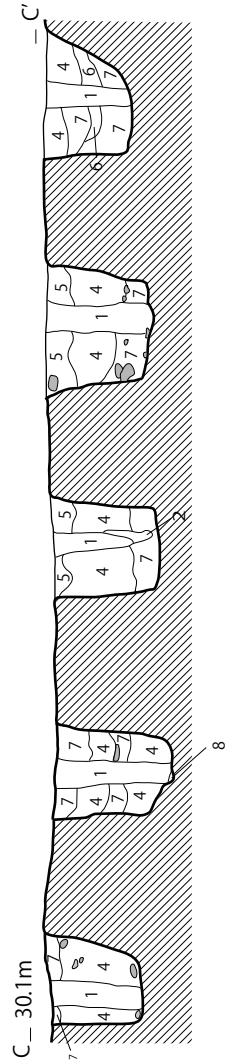
第2図 9区遺構分布



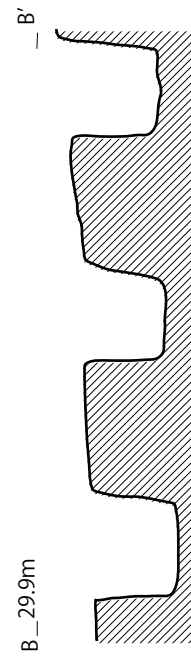
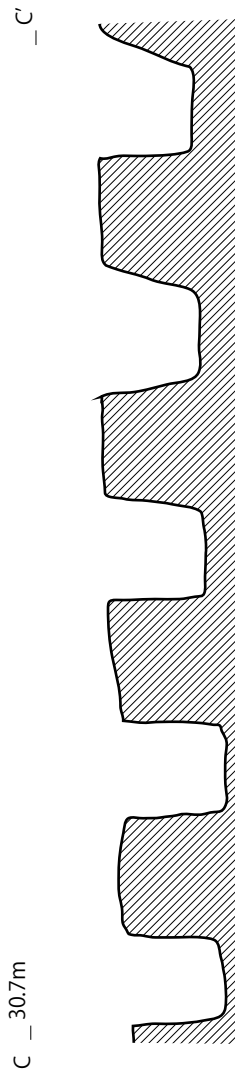
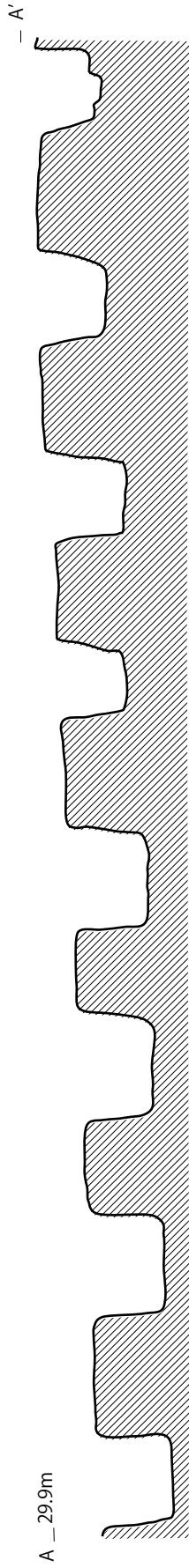
柱根あたり痕



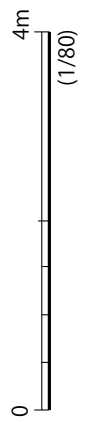
+ 0978



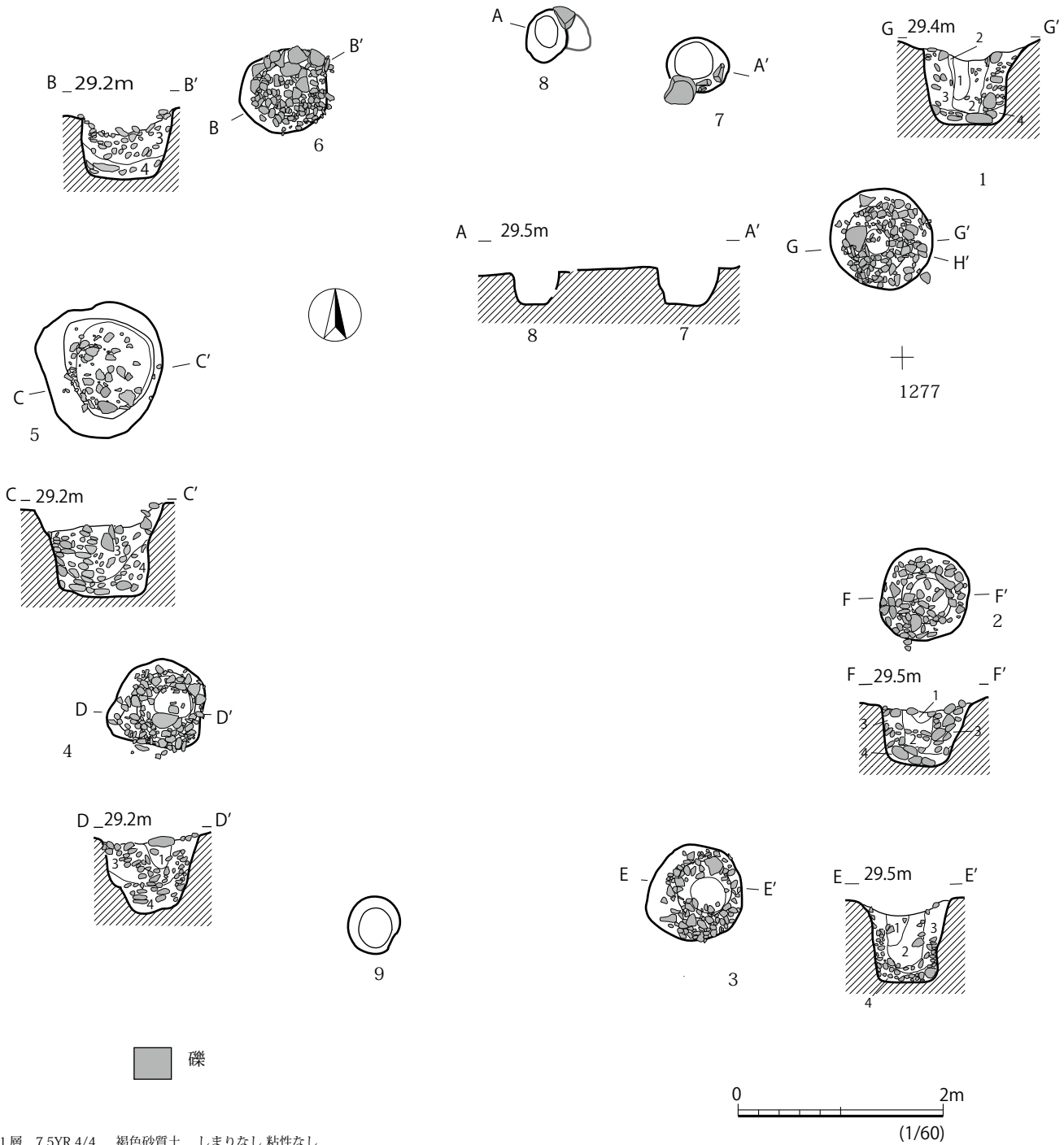
第3図 SB3



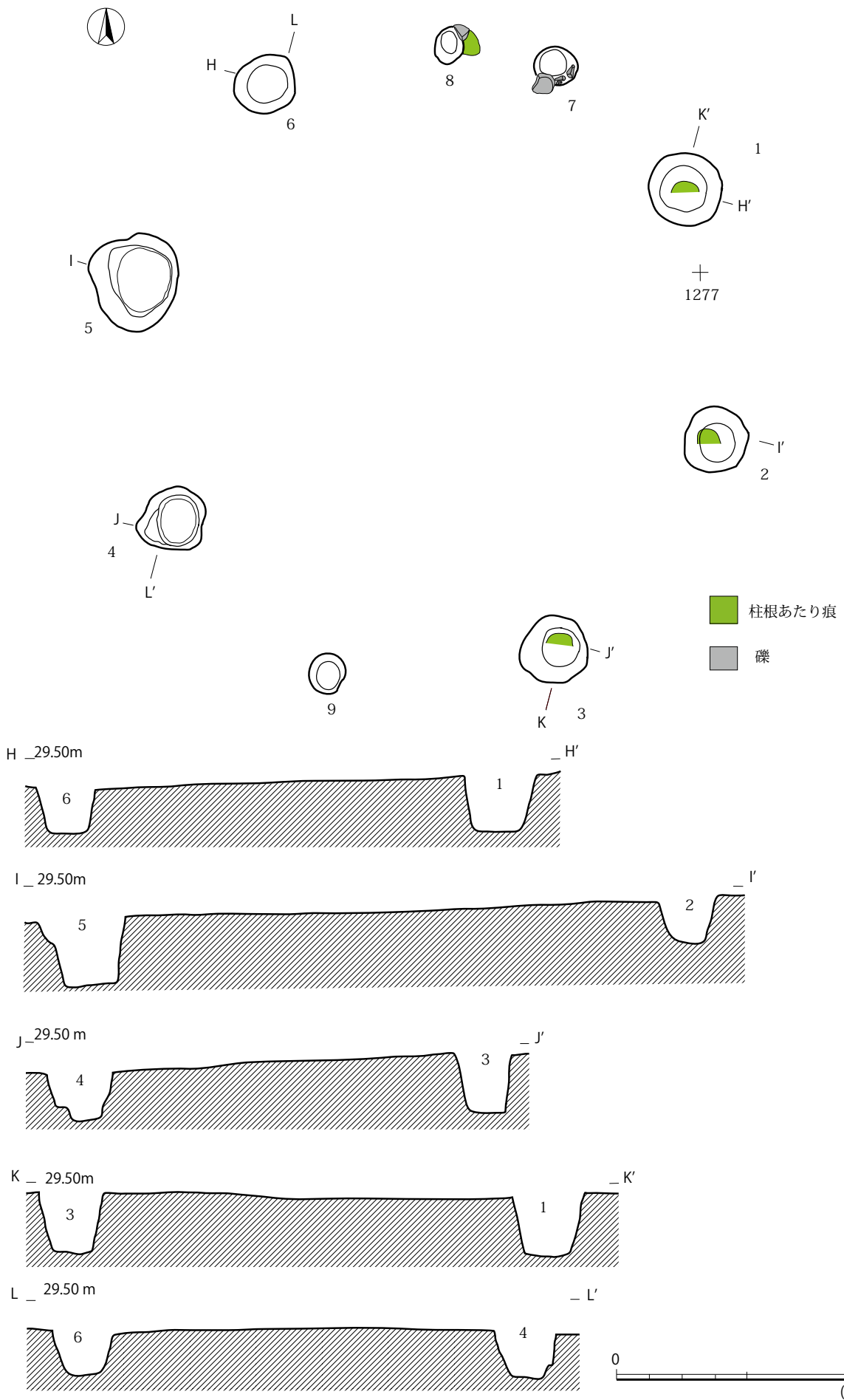
- SB3
- 1層 10Y R2/2 黒褐色砂質土 しまりやや弱 粘性弱 わずかに2.5Y R4/8 赤褐色土(直径1~2mm)を含む
細粒砂質シルト 砕土塊(0.2mm)・炭化物片(5~10mm)を少量含む 柱痕
 - 2層 1に似るがしまりなし
 - 3層 10Y R2/2 黒褐色砂質土 柱痕の土に類似するが、しまりあり。10%程度明褐色土が入る。
 - 4層 7.5Y R5/8 明褐色土と5Y R2/1 黒褐色土の互層 礫(直径20~50mm)を含む しまりあり 地山
シルトブロック混じり細砂質シルト
 - 5層 4に似る。4よりも黒褐色土の割合が多い。明褐色土の割合30%程度
 - 6層 4に似る。4よりも明褐色土の割合が多い。黒褐色土の割合30%程度
 - 7層 7.5Y R5/8 明褐色土に5Y R2/1 黒褐色土が混じる。黒褐色土の割合10%程度。しまりあり。
 - 8層 10Y R6/4 にぶい黄褐色土 しまり強(硬くしまっている) 粘性弱 柱痕あたり痕
- K 攪乱



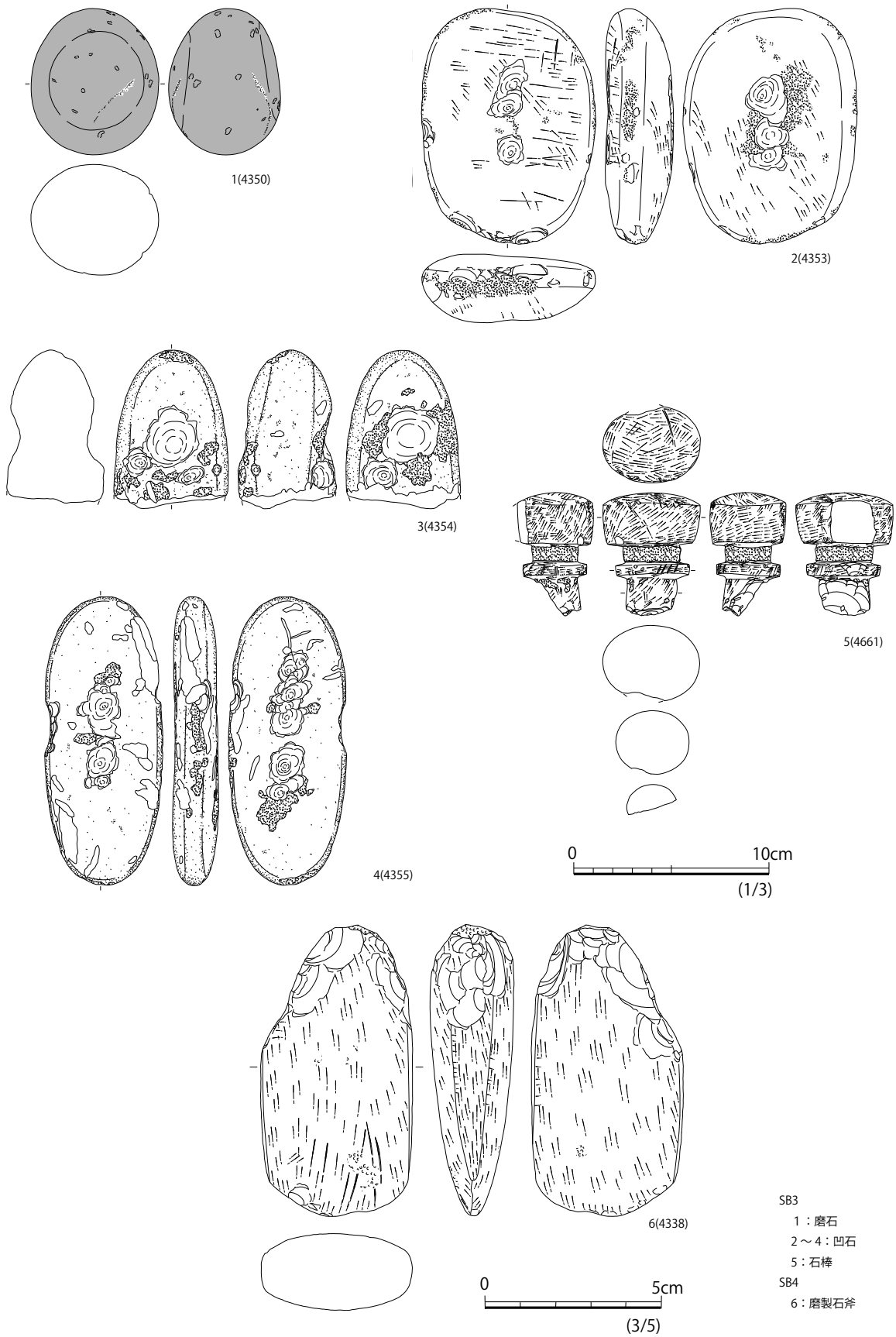
第4図 SB3 掘方断面



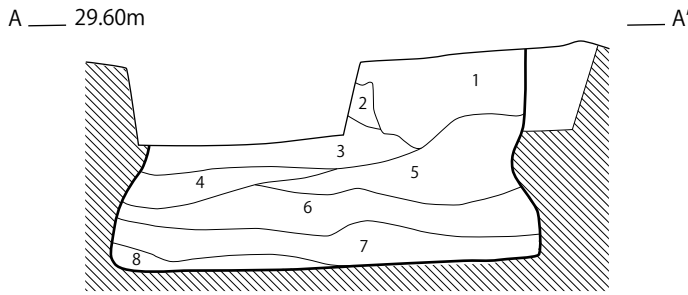
第5図 SB4 (1)



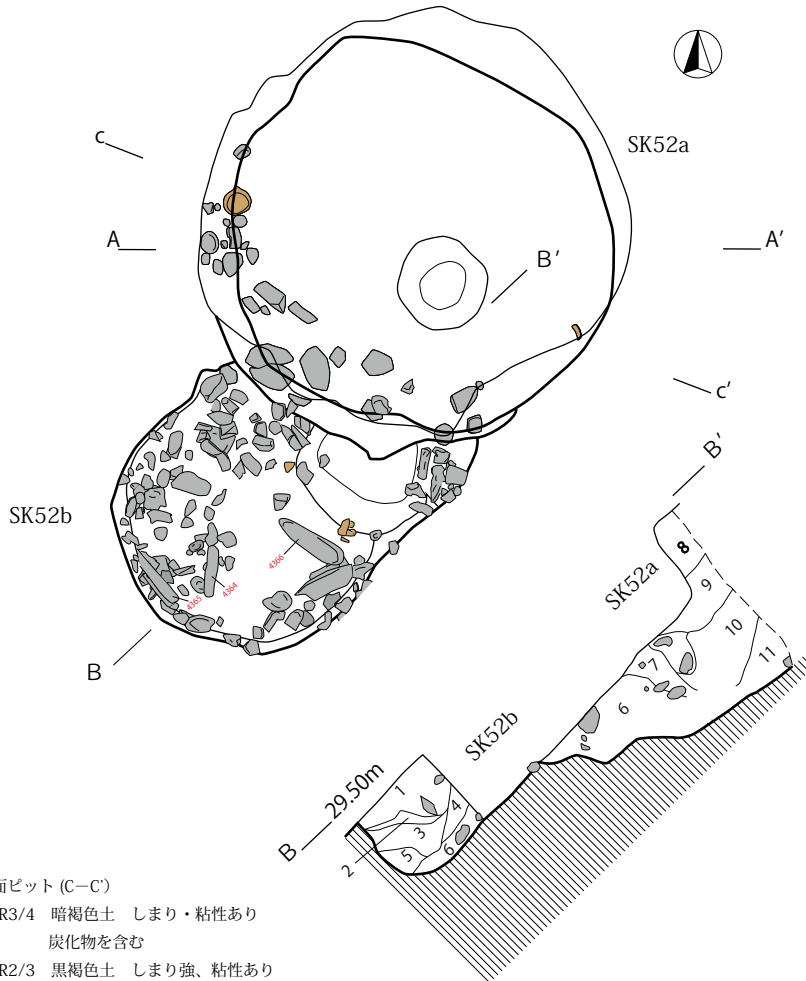
第6図 SB4 (2)



第7図 SB3・4 出土石器



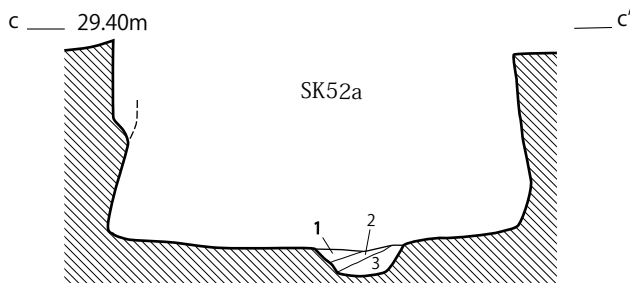
- SK52a (A-A')
- 1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり炭化物(直径1mm)少量、黄色土粒(直径5~10mm)若干含む、礫(直径50~200mm)含む
 - 2層 7.5YR4/6 褐色土 しまり・粘性あり 黄色粒(直径5~10mm)・礫(直径100~200mm)を含む地山(黄褐色土)のブロックを含む
 - 3層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性あり 炭化物(直径1mm)多量、黄色土粒(直径5~10mm)・赤色土塊(直径5~10mm)を含む
 - 4層 7.5YR6/8 橙色土 しまりあり、粘性やや強 地山(黄褐色土)のブロック・炭化物(直径1mm)・黄色粒(直径5~10mm)・赤色土塊(直径5~10mm)を含む
 - 5層 7.5YR3/2 黒褐色土 しまり・粘性あり 炭化物(直径1mm)・地山(黄褐色土)のブロック(直径5~20mm)を含む、赤色土塊(直径5~10mm)・大形の石(直径100~300mm)多量に含む
 - 6層 10YR3/3 暗褐色土 しまり弱、粘性あり 炭化物(直径1mm)多量、黄色土粒(直径5~10mm)・赤色土塊(直径2~3mm)を含む、土器片を多く含む
 - 7層 10YR3/4 暗褐色土 しまりあり粘性あり 炭化物(直径1mm)・橙色ブロック(直径2~5mm)・赤色土塊(直径2~5mm)を含む
 - 8層 7.5YR3/4 暗褐色土 しまりあり粘性あり 炭化物(直径1mm)・黄色土粒(直径5~10mm)・比較的大形の土器片を含む



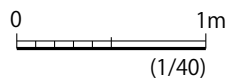
- SK52a (B-B')
- 7層 10YR4/6 褐色土 しまり・粘性あり 黄色土粒・礫(直径30~40mm)多く含む
 - 8層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 小礫(直径5~10mm)多量、小礫(直径20~100mm)少量含む
 - 9層 10YR3/3 暗褐色土 しまり・粘性あり 炭化物・焼土(直径1~5mm)多量、小礫(直径20~30mm)を少量含む
 - 10層 10YR3/3 暗褐色土 しまり・粘性あり 黄色土粒(直径1~5mm)多く含む
 - 11層 10YR2/2 暗褐色土 しまりやや弱、粘性あり 砂粒多く含む

SK52a 底面ピット (C-C')

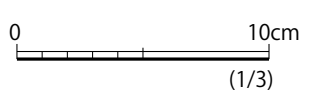
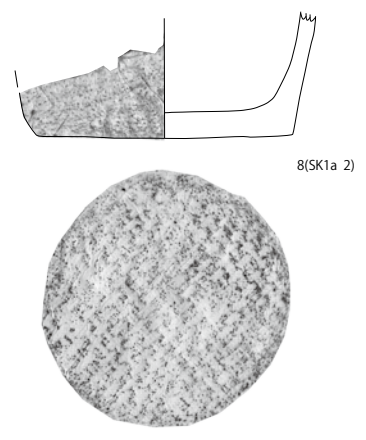
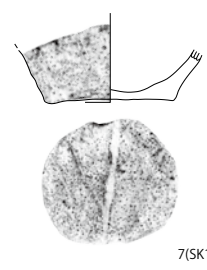
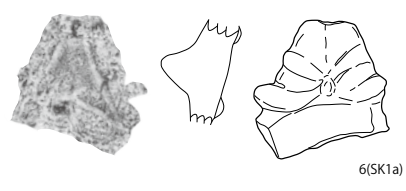
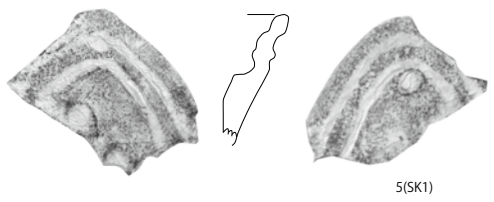
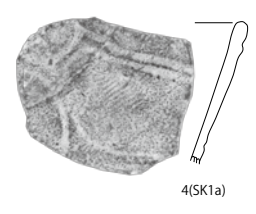
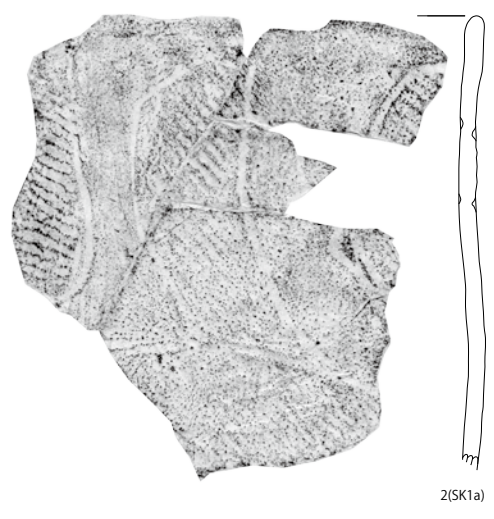
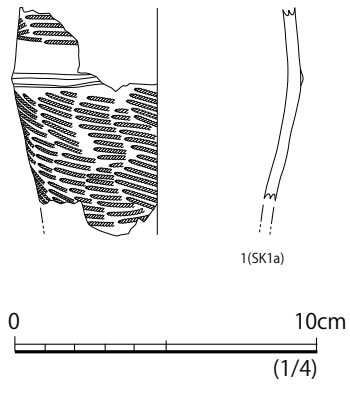
- 1層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性あり炭化物を含む
- 2層 10YR2/3 黒褐色土 しまり強、粘性あり 小礫(直径20mm)炭化材多量に含む
- 3層 10YR3/4 暗褐色土



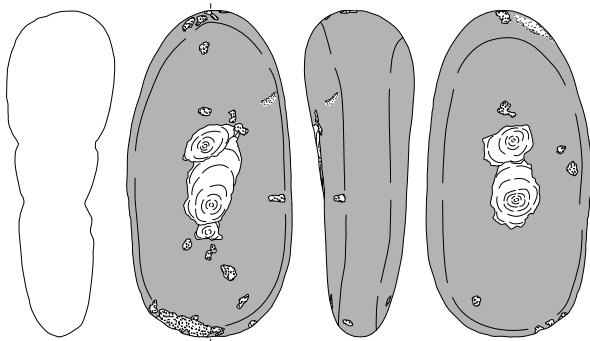
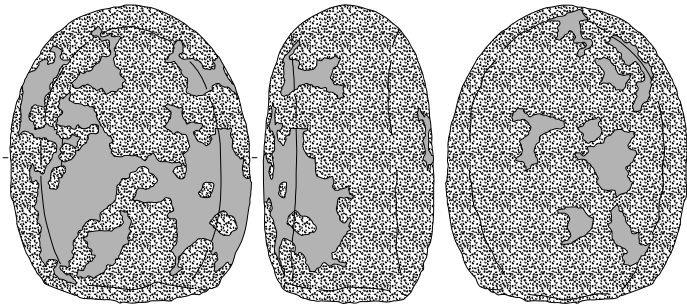
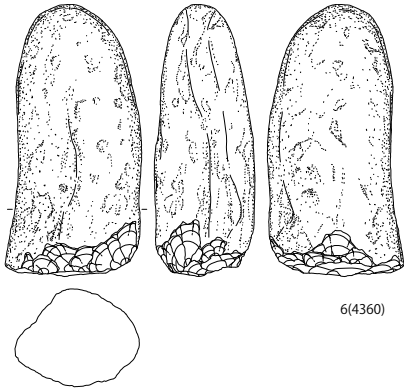
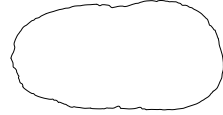
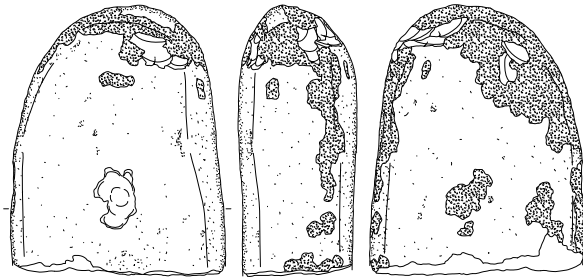
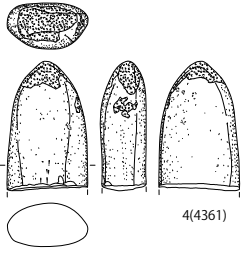
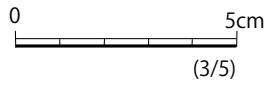
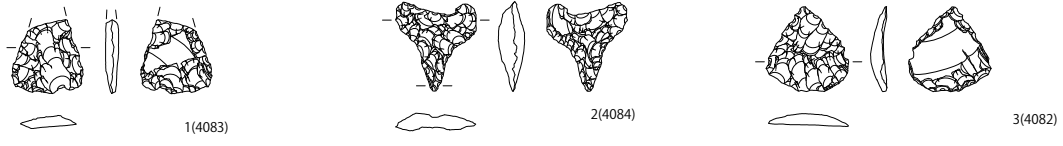
- SK52b (B-B')
- 1層 7.5YR5/2 灰黄褐色土 しまり・粘性あり 黄色土粒(直径1~5mm)・焼土粒(直径1~5mm)を若干含む
 - 2層 7.5YR3/2 黒褐色土 しまり・粘性あり 焼土・炭化物(直径1mm)を若干含む
 - 3層 7.5YR4/3 褐色土 しまり・粘性あり 黄色土粒(直径5mm)少量、焼土・炭化物(直径1mm)若干含む
 - 4層 7.5YR2/2 黒褐色土 しまり・粘性あり 炭化物・風化土多量、焼土(直径1~5mm)少量含む
 - 5層 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり・粘性あり 黄色土粒・焼土(直径1~5mm)若干含む
 - 6層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり



第8図 SK52



第9图 SK52 出土土器

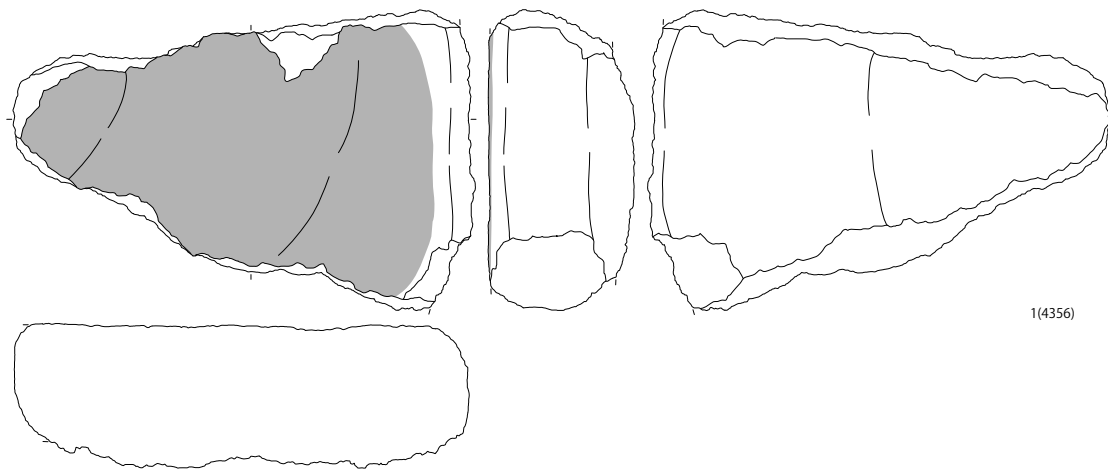


- 1 : 石鏃
- 2 : 石錐
- 3 : 擡器
- 4 ~ 7 : 敲石
- 8 : 凹石

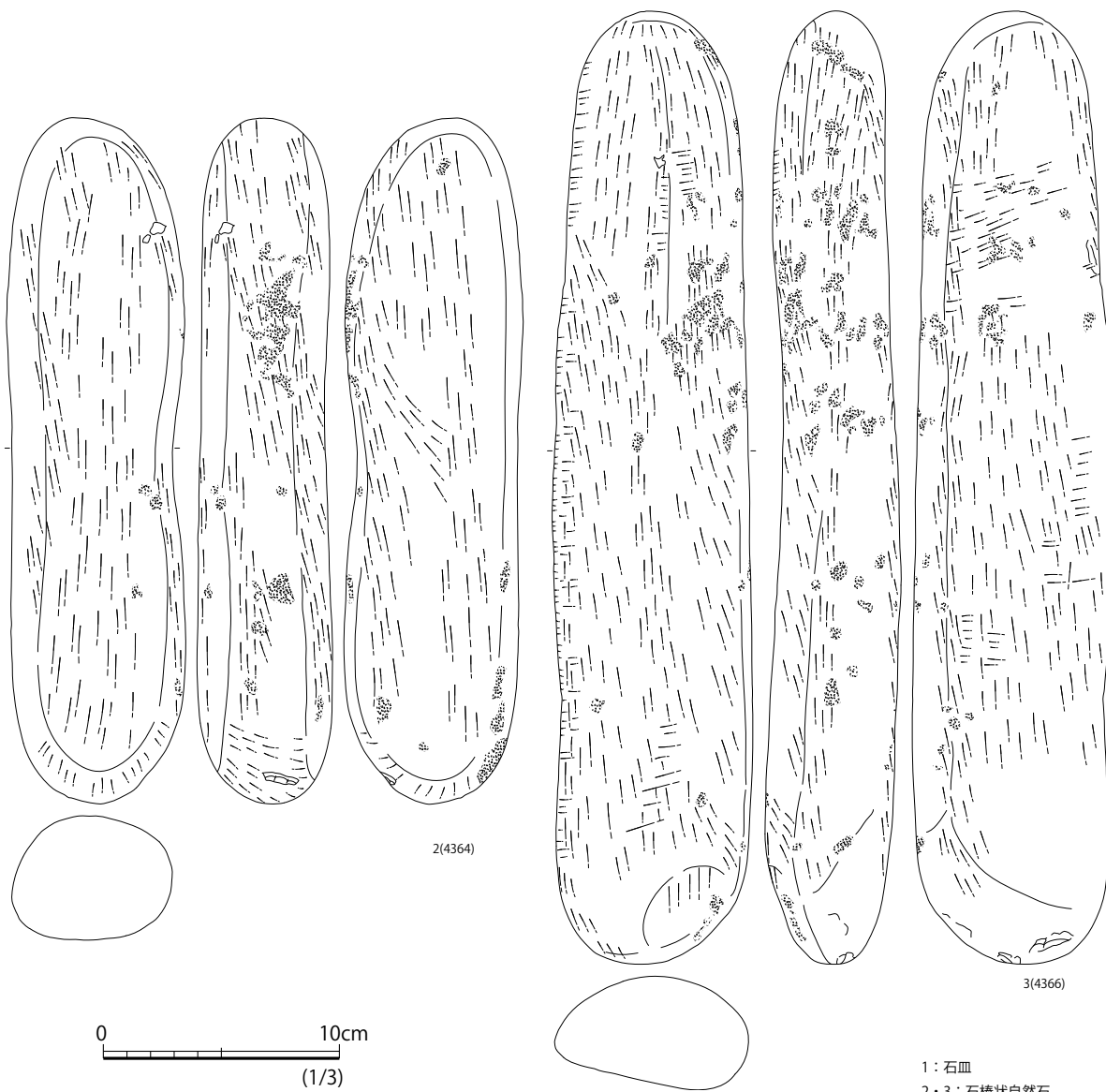
8(4352)



第 10 图 SK52 出土石器 (1)



1(4356)



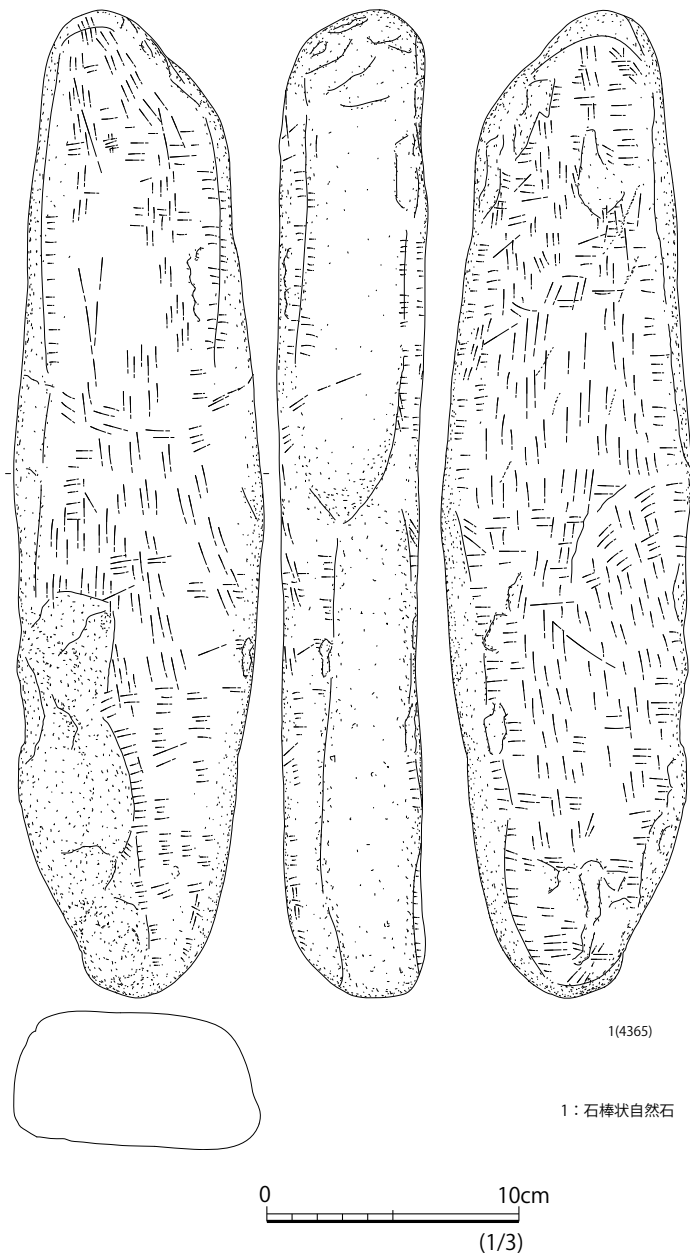
2(4364)

3(4366)

0 10cm
(1/3)

1 : 石皿
2・3 : 石棒状自然石

第 11 図 SK52 出土石器 (2)



第 12 図 SK52 出土石器 (3)

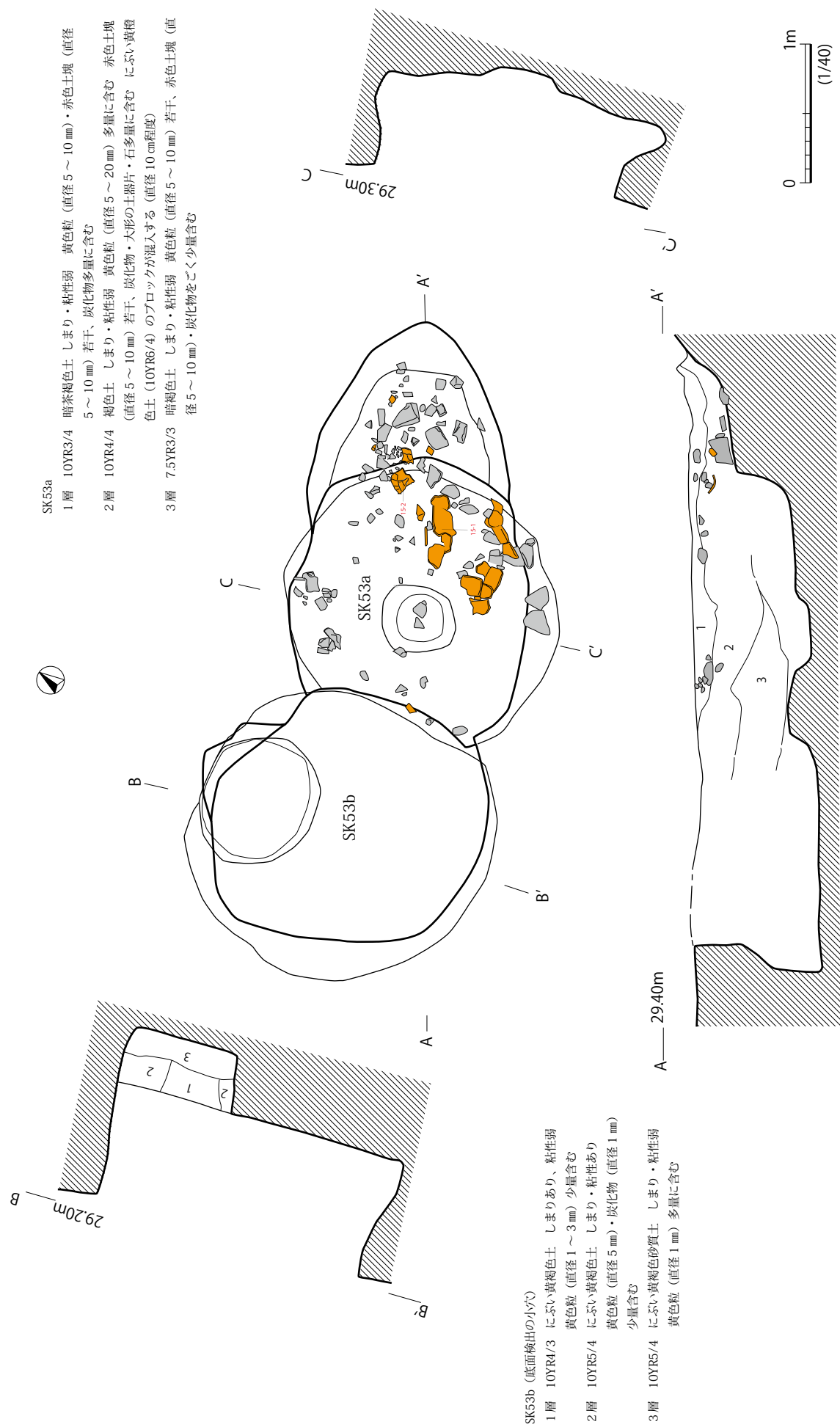
SK53 土坑 (第 13 ~ 15 図、図版 5・24)

【位置】調査区東、0977・1077 グリッド 【規模】SK53a：280（長軸）× 205（底面の最大幅）× 65cm SK53b：口径 190 × 底径 210 × 80cm 【重複】2 基が重複し先後関係は不明

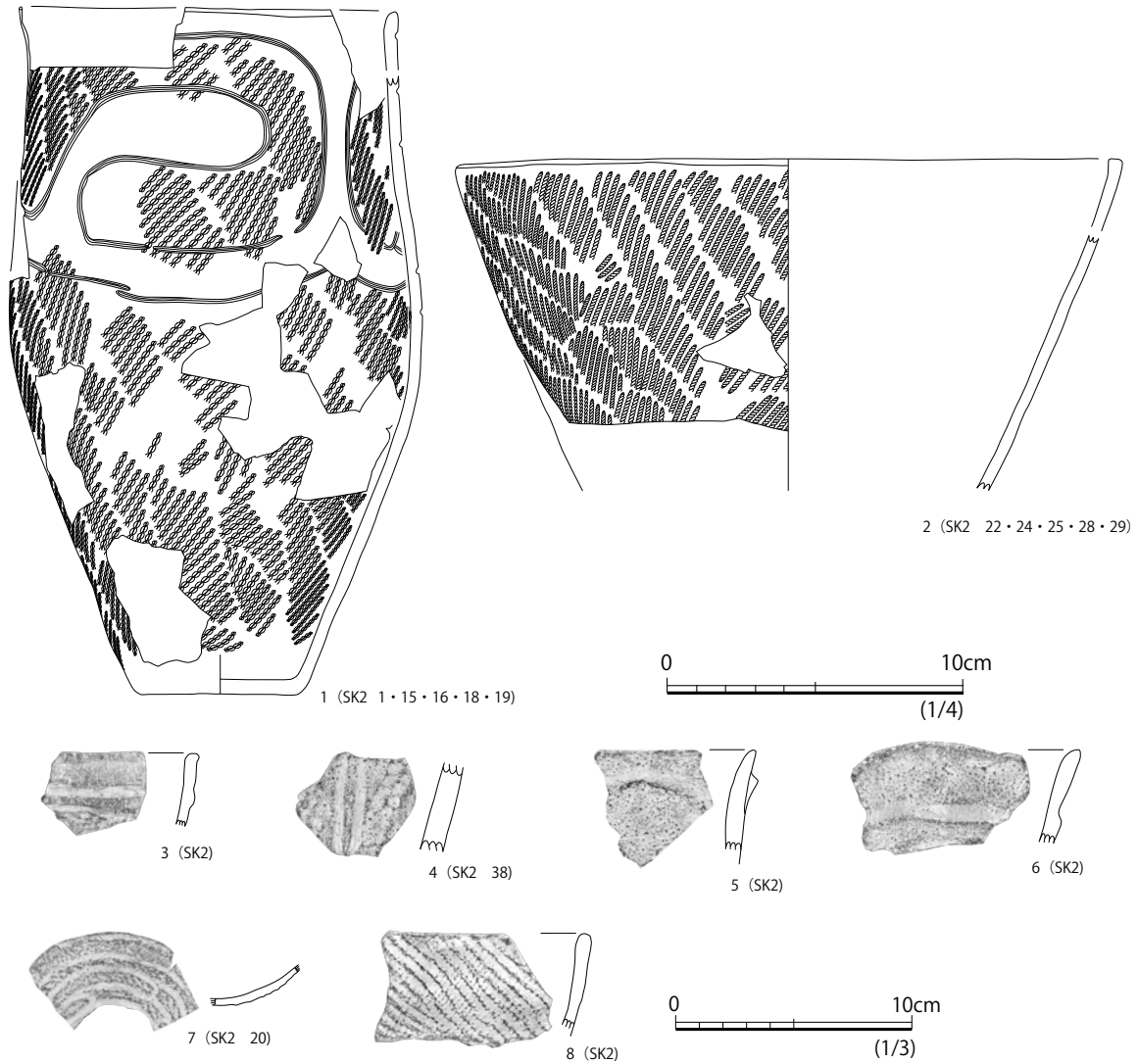
【出土遺物】縄文土器 8(中期末～後期前葉)、石鏃 1・石錐 1

【所見】SK53a は、当初長楕円形のプランとして検出し、埋土上層から多くの土器片が出土した。土器片出土が顕著な埋土上層部に、別遺構が重複している可能性がある。フラスコ状の断面を呈する円形土坑部の底面は、平坦でほぼ中央部に直径 45 ~ 55cm、底径 35cm程、深さ 12cm程のピットが検出された。遺物は上層に土器片が多く出土している。底面南側の縁に 20 ~ 25cm程の礫が数個並べられていた。SK53b は、SK53 a の西側でわずかに重複している。底面は平坦で SK53a より 15cm程深い。

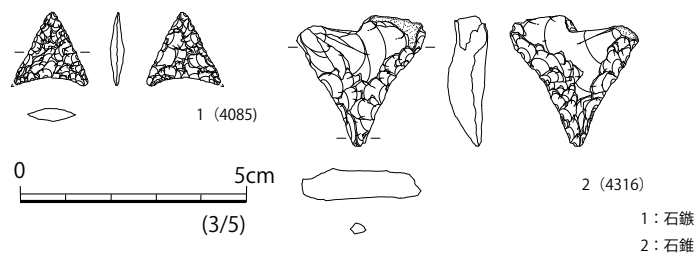
礫などの特徴的な遺物出土状況は認められなかった。底面の北壁に接して、直径 85 ~ 95cm程の円形で深さ 42cm程の小穴が検出された。



第 13 図 SK53



第 14 図 SK53 出土土器



第 15 図 SK53 出土石器

SK54 土坑 (第 16 ~ 18 図、図版 6・24)

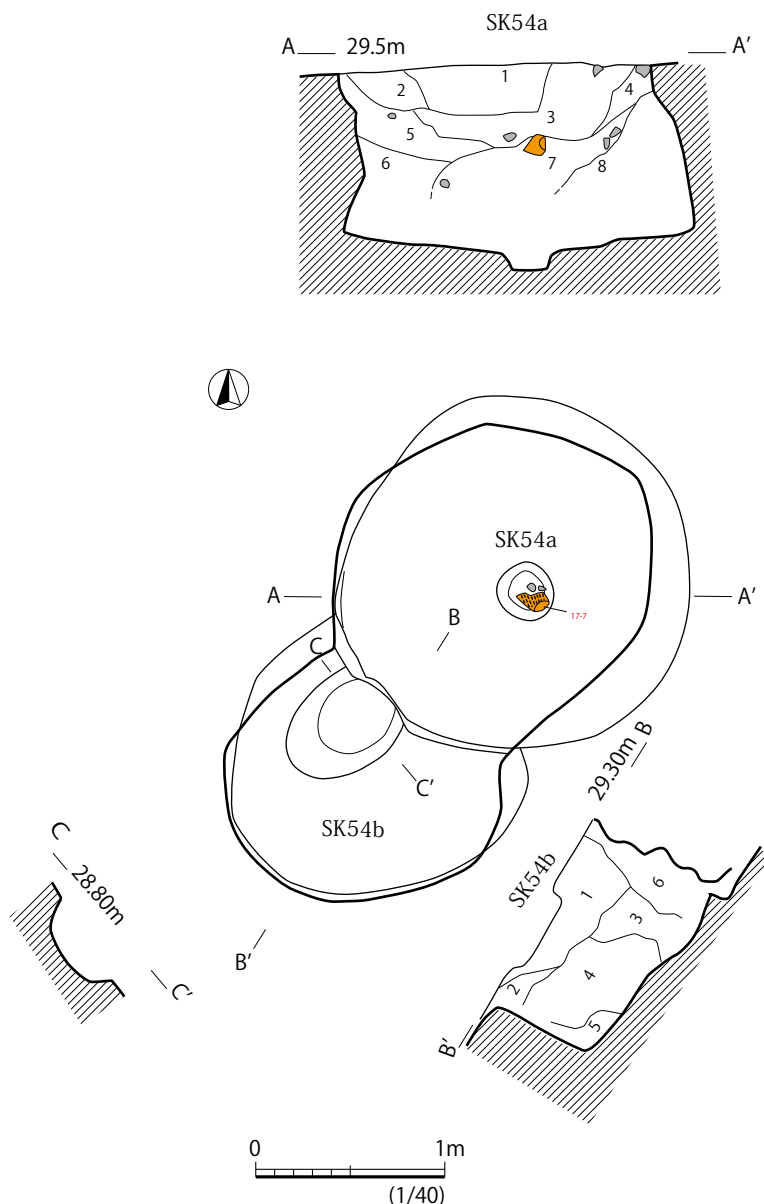
【位置】 調査区東端、1077・1078 グリッド 【規模】 SK54a：口径 160 × 底径 185 × 100cm

SK54b：口径 140 × 底径 150 × 75cm 【重複】 2 基が重複、先後は 54b → 54a

【出土遺物】 縄文土器 7 (後期初頭～前葉)・ミニチュア土器 1、搔器 1・石皿 1

【所見】 SK54a の南西側で SK54b の 1/3 が重複し、わずかに SK54 a が深い。SK54a は、断面がフラスコ形を呈し、平坦な底面のほぼ中央に直径 30cm、深さ 10cm 程の小穴をもつ。埋土は自然堆積を示し、底面小穴直上の埋土中層より土器底部が出土している。

SK54 b は、南西側に重複し、やや小形である。土層堆積状態から SK54 b が古い。底面の西側に深



SK54a

- 1層 10YR3/2 黒褐色土 しまり・粘性あり 焼土（直径1～2mm）を含む、黄色粒（直径1～2mm）・炭化物（直径1～2mm）多量を含む
- 2層 7.5YR4/3 灰褐色土 しまり・粘性あり 焼土（直径1～2mm）若干、黄色粒（直径1～2mm）・炭化物（直径1～2mm）多量を含む
- 3層 10YR3/3 暗褐色土 しまり・粘性あり 焼土（直径2～3mm）若干、黄色粒（直径1～2mm）・炭化物（直径1mm）多量を含む
- 4層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 黄色粒（直径2～5mm）少量含む
- 5層 10YR5/6 黄褐色土 しまり・粘性あり 小石（直径20～30mm）・黄色粒（直径5～10mm）若干、炭化物（直径5mm）少量含む
- 6層 10YR4/6 褐色土 しまり・粘性あり 黄色ブロック（直径20～50mm）・炭化物（直径5～10mm）多量を含む
- 7層 10YR5/3 にぶい褐色土 しまり・粘性あり 炭化物（直径5～10mm）・焼土（直径5mm）多量を含む
- 8層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 黄色ブロック（直径20～50mm）少量、炭化物（直径1mm）若干含む
- 底面小穴覆土 10YR4/2 灰黄褐色土 しまりあり、粘性弱 砂粒多量、炭化材粒（直径1mm）少量含む

SK54b

- 1層 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土 しまり・粘性あり 炭化物（直径5mm程度）若干含む
- 2層 10YR5/2 灰黄褐色土 しまり・粘性あり 炭化物（直径1mm程度）若干含む
- 3層 10YR4/4 褐色土 しまり・粘性あり 炭化物（直径1mm程度）若干、砂粒多量を含む
- 4層 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり・粘性あり 黄色粒子（直径5mm程度）を含む、炭化物（直径5mm程度）少量、焼土若干含む
- 5層 10YR4/4 褐色土 しまりあり、粘性弱 炭化物（直径1mm程度）若干含む
- 6層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 炭化物（直径5mm程度）・礫（直径20～30mm）少量含む
- 底面小穴覆土 10YR4/3 にぶい褐色土 しまりあり、粘性やや弱い 炭化材粒（直径1mm）を少量、砂粒多量を含む

第16図 SK54

さ15cm程の楕円形の小穴を持つ。遺物はほとんどみられなかった。

SK55 土坑（第19・20図、図版6）

【位置】調査区東端、0978グリッド 【規模】直径140×底径110×115cm

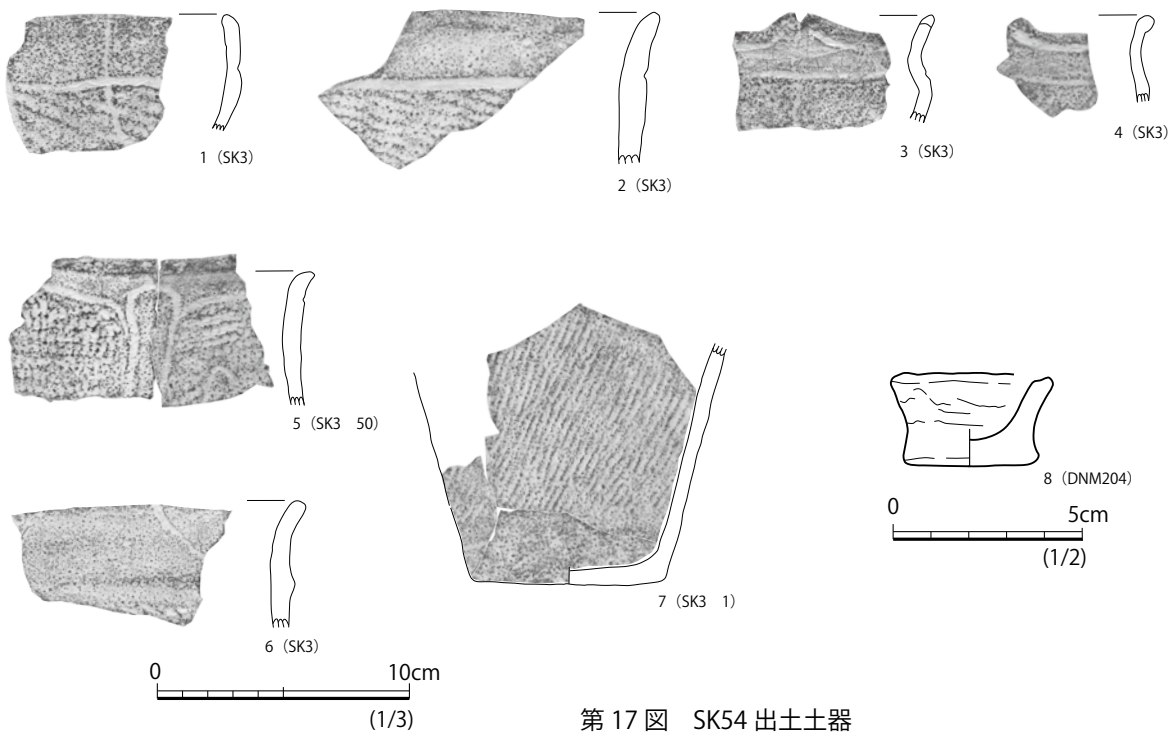
【出土遺物】縄文土器4（後期）

【所見】不整円形を呈する。底面は平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面中央付近に直径30cm程、深さ10cm程の小穴をもつ。埋土は自然堆積を示している。遺物の特徴的な出土状況は認められなかった。

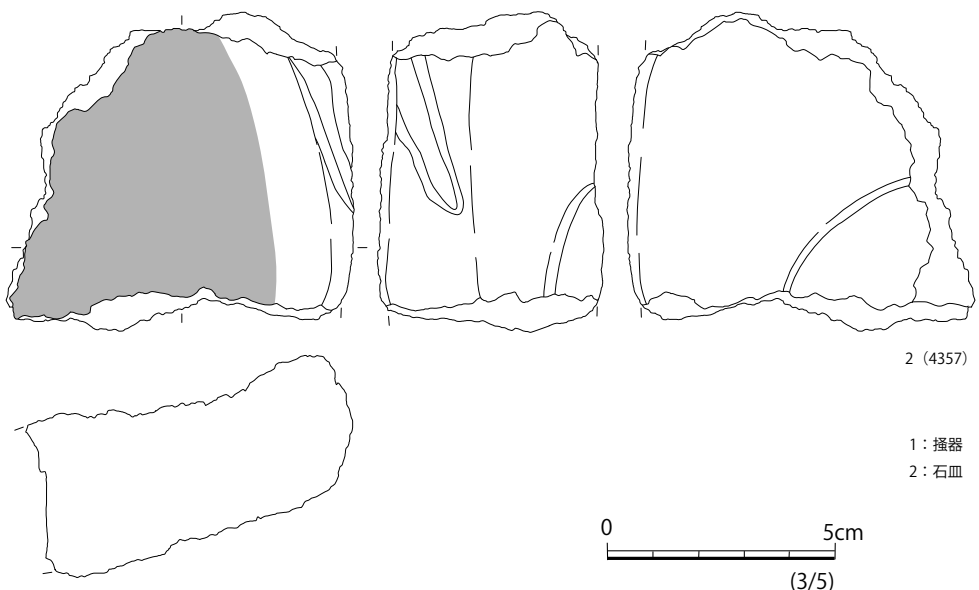
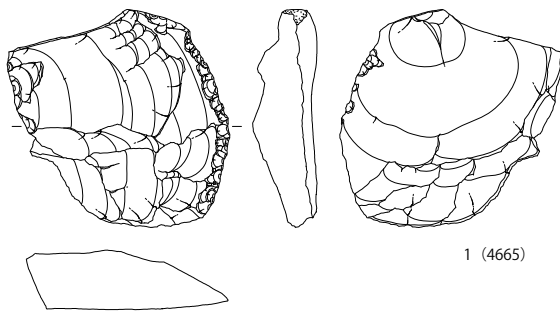
SK56 土坑（第21～23図、図版6・24・25）

【位置】調査区中央付近、0876・0976グリッド 【規模】140×底径170×70cm

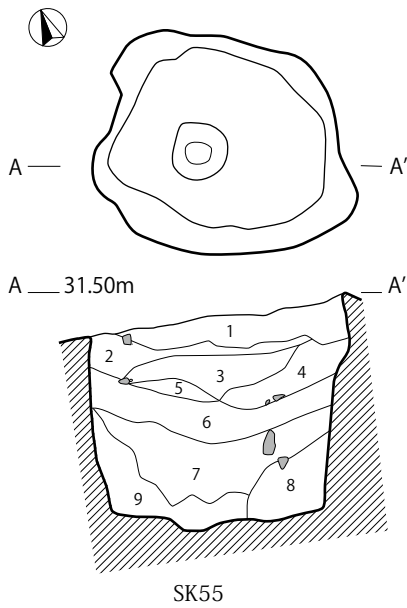
【出土遺物】縄文土器2（中期末）、石鏃1・搔器1・凹石2 【所見】開口部のプランは方形で底部は円形のフラスコ状土坑である。上部の西側は、溝状に攪乱されている。底面には30～40cm程の扁平な礫を壁面に沿って敷き詰めるように配置している。配置された礫のうち、北側には比較的小さめの礫が多く、脚付石皿も見られた。埋土は自然堆積を示しており、大形の礫が多くみられた。



第17图 SK54 出土土器



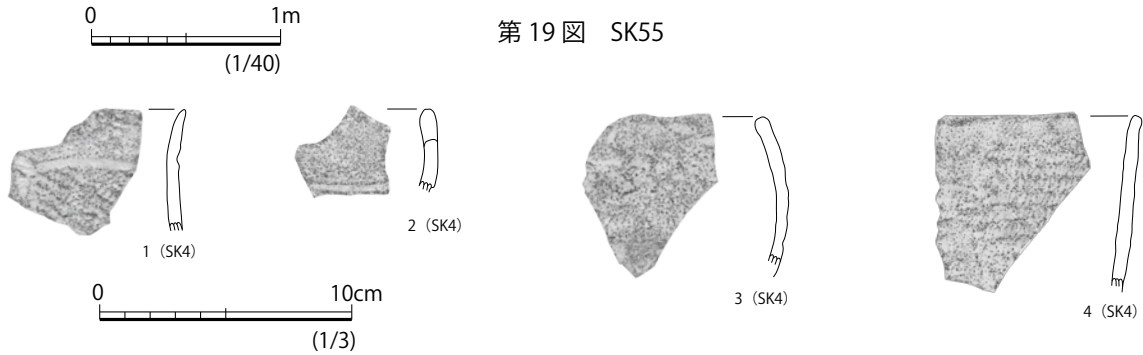
第18图 SK54 出土石器



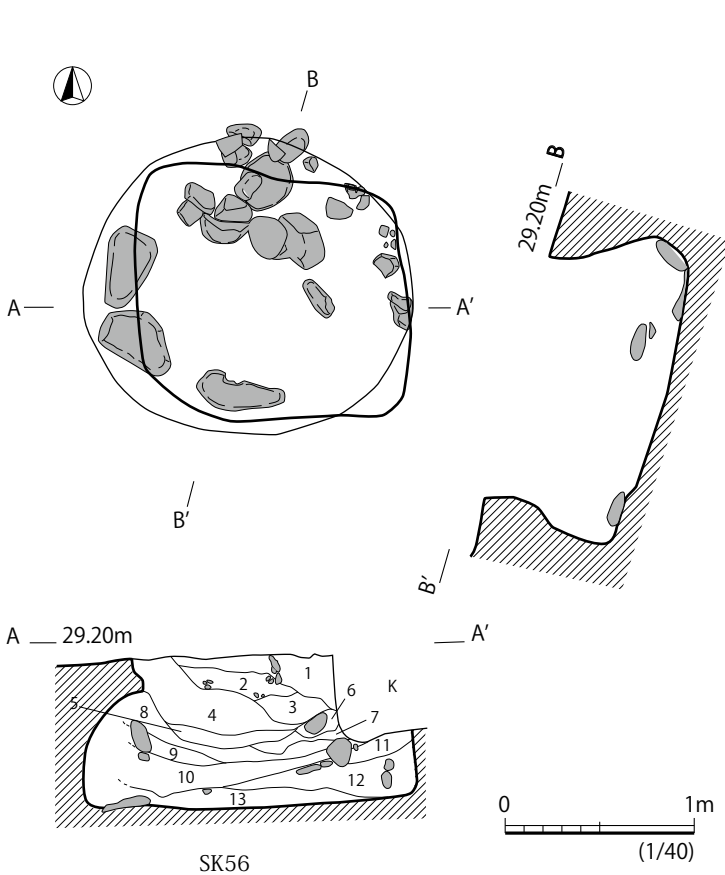
SK55

- 1層 10YR6/4 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり
黄色粒子（直径1mm程度）少量、小礫（直径5～10mm）若干含む
- 2層 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり・粘性あり
焼土粒含む、炭化物（直径1mm程度）少量含む
- 3層 10YR4/4 褐色土 しまり・粘性あり 焼土粒（直径1mm程度）少量、炭化物
（直径1～5mm程度）・小石（直径5～20mm）若干含む
- 4層 10YR5/8 黄褐色土 しまり・粘性あり 小石（直径5～30mm）若干、黄色
砂粒少量含む
- 5層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり弱、粘性あり
小礫（直径5～10mm）多量に含む
- 6層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり
小石（直径5～30mm）若干含む
- 7層 10YR5/6 黄褐色土 しまりやや弱、粘性あり 砂粒多量に含む
- 8層 10YR4/4 褐色土 しまりあり、粘性弱 砂粒多量に含む
- 9層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまりあり、粘性弱 砂粒多量に含む

第19図 SK55



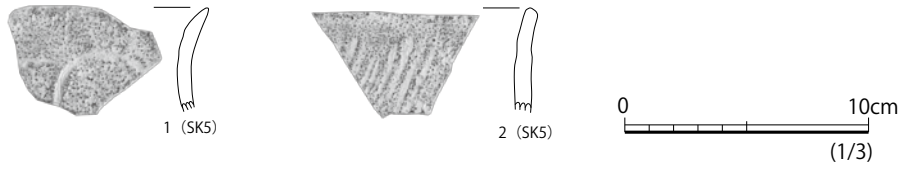
第20図 SK55 出土土器



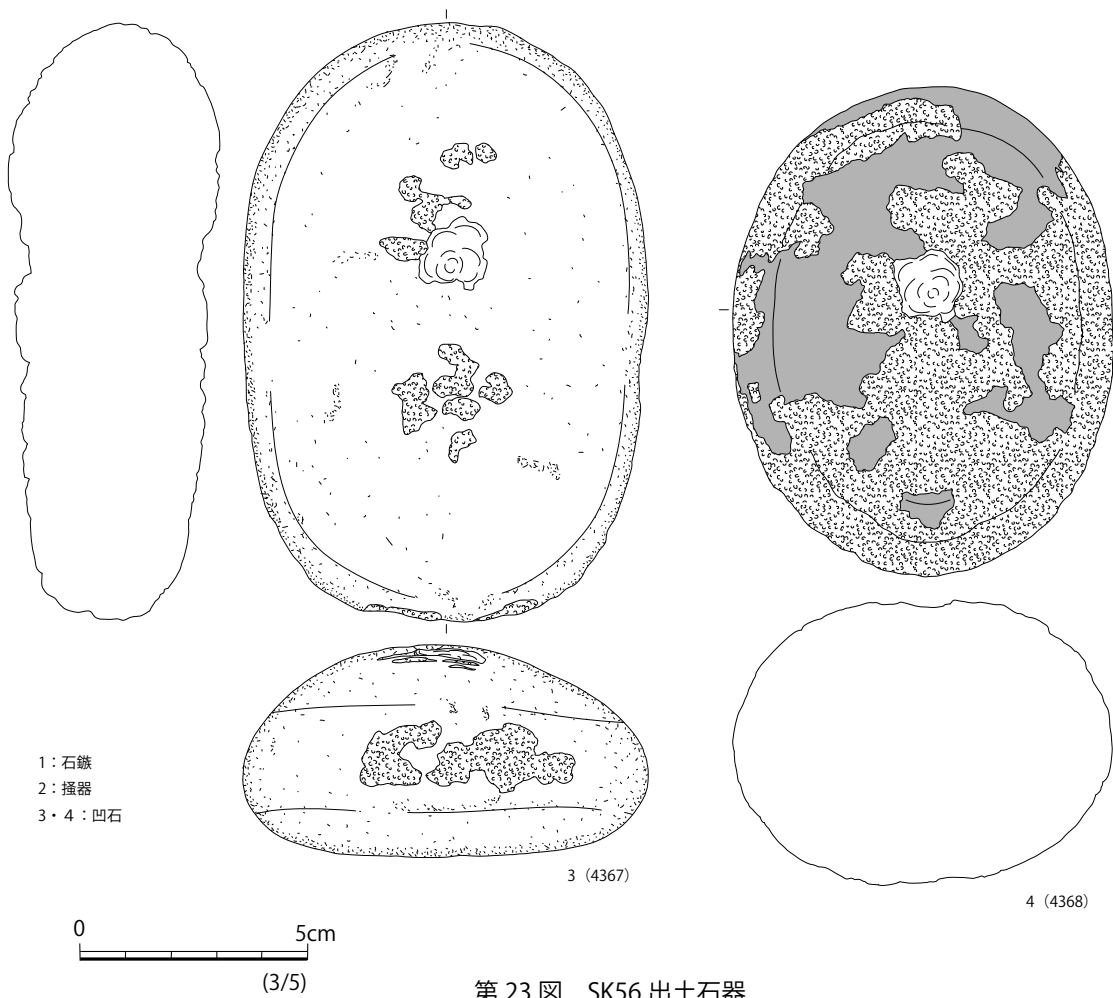
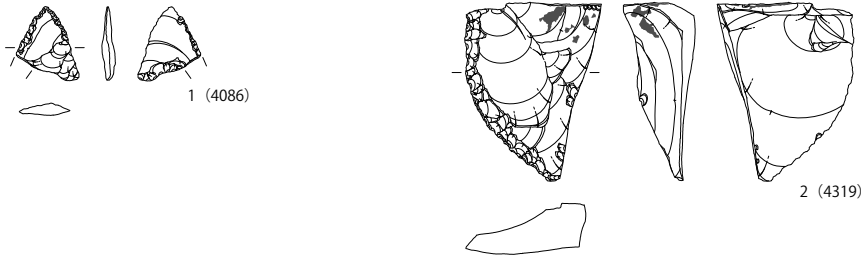
SK56

- 1層 10YR5/2 灰黄褐色土 しまり・粘性あり 炭化物・
焼土粒・小礫（直径10～20mm）少量含む
- 2層 10YR5/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 炭化
物少量、焼土粒・砂粒・小礫（直径10～
20mm）多量に含む
- 3層 10YR3/3 暗褐色土 しまり・粘性あり 焼土粒・炭
化物粒少量含む
- 4層 10YR4/6 褐色土 しまり・粘性あり 黄橙粒（直径
1mm）・炭化物少量、砂粒多量、小礫若干含む
- 5層 10YR4/6 褐色土 しまり・粘性あり 炭化物（直径5
mm）・砂粒多量、小礫若干、黄橙粒（直径
1mm）少量含む
- 6層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 焼土
（直径5～10mm）多量、黄橙粒（直径1mm）
少量含む
- 7層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 焼土
（直径5mm）・炭化物・黄橙粒（直径1mm）
少量含む
- 8層 10YR4/4 褐色土 しまり・粘性あり 炭化物・黄色
ブロック多量に含む
- 9層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 焼土
（直径5mm）少量含む
- 10層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 炭
化物（直径5mm）・黄色ブロック多量に含む
- 11層 10YR7/6 暗黄褐色土 しまり・粘性あり 黄色ブ
ロック多量に含む
- 12層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 炭
化物（直径5mm）多量に含む
- 13層 10YR4/4 褐色土 しまり・粘性強 炭化物・焼土
若干含む

第21図 SK56



第 22 図 SK56 出土土器



1: 石鏃
2: 搔器
3・4: 凹石

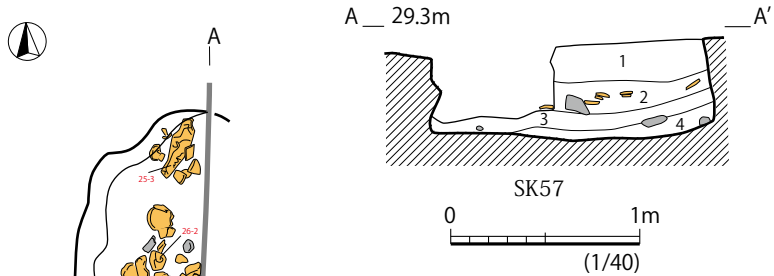
第 23 図 SK56 出土石器

SK57 土坑 (第 24 ~ 26 図、図版 7)

【位置】調査区中央付近、0876・0976 グリッド 【規模】150 × 70 × 50cm

【出土遺物】縄文土器 7 (後期初頭～前葉)

【所見】西側半分が溝状の攪乱によって消失している。不整円形を呈するものと思われる。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土の中層からは多くの土器片がブロック状に出土している。



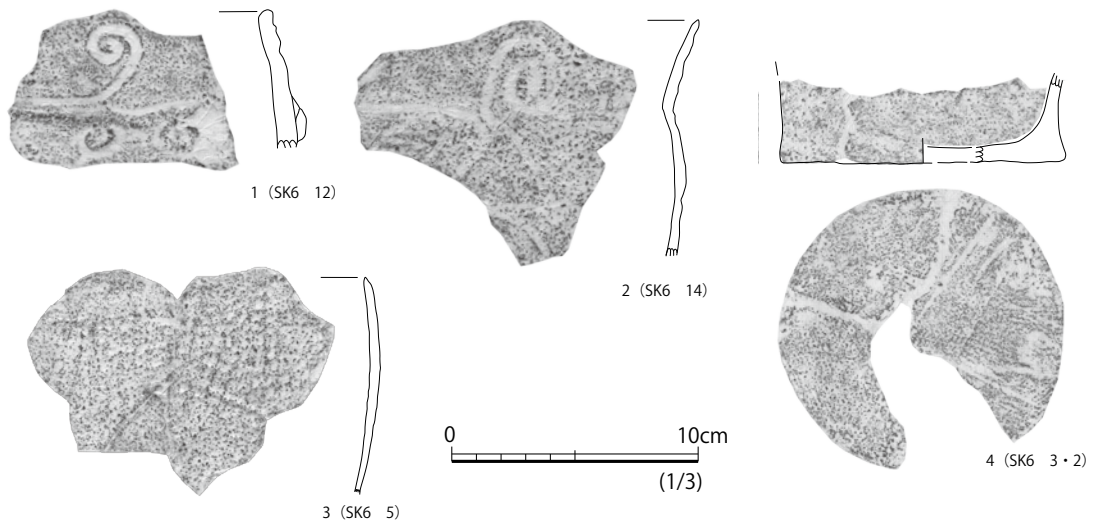
SK57

- 1層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり
黄色粒（直径1mm程度）少量、礫（直径5～10mm）若干含む
- 2層 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり・粘性あり
砂粒・炭化物（直径1～5mm程度）少量、黄色粒子多量、土器片含む
- 3層 10YR3/2 褐色土 しまり・粘性あり 砂粒・黄色粒多量、炭化物粒少量含む
- 4層 10YR6/4 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 礫（直径5～10mm）少量含む

第24図 SK57



第25図 SK57 出土土器 (1)



第26図 SK57 出土土器 (2)

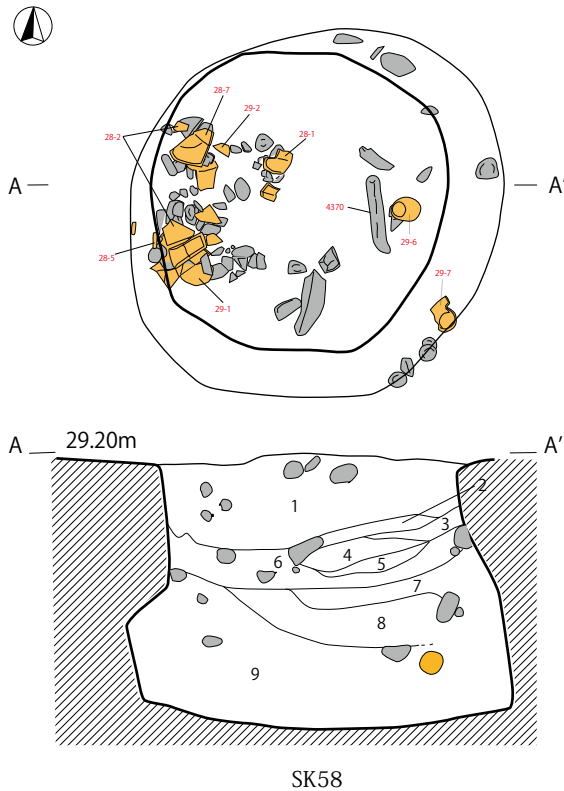
SK58 土坑 (第27～31図、図版7・25)

【位置】調査区東、0977・1077 グリッド

【規模】口径 160 × 底径 210 × 145cm

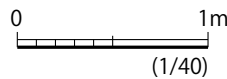
【出土遺物】縄文土器 17 (後期初頭～前葉)、土器片製円盤 5、搔器 1・石棒 1

【所見】フラスコ状土坑である。平坦な底面には、小穴は認められなかった。底面直上に、石棒様の細長い石がみられ、西側壁寄りには土器がまとまって出土した。また北側から東側縁にかけて 10cm程の礫が数点みられた。埋土中には 10～15cm程の礫が多く出土している。

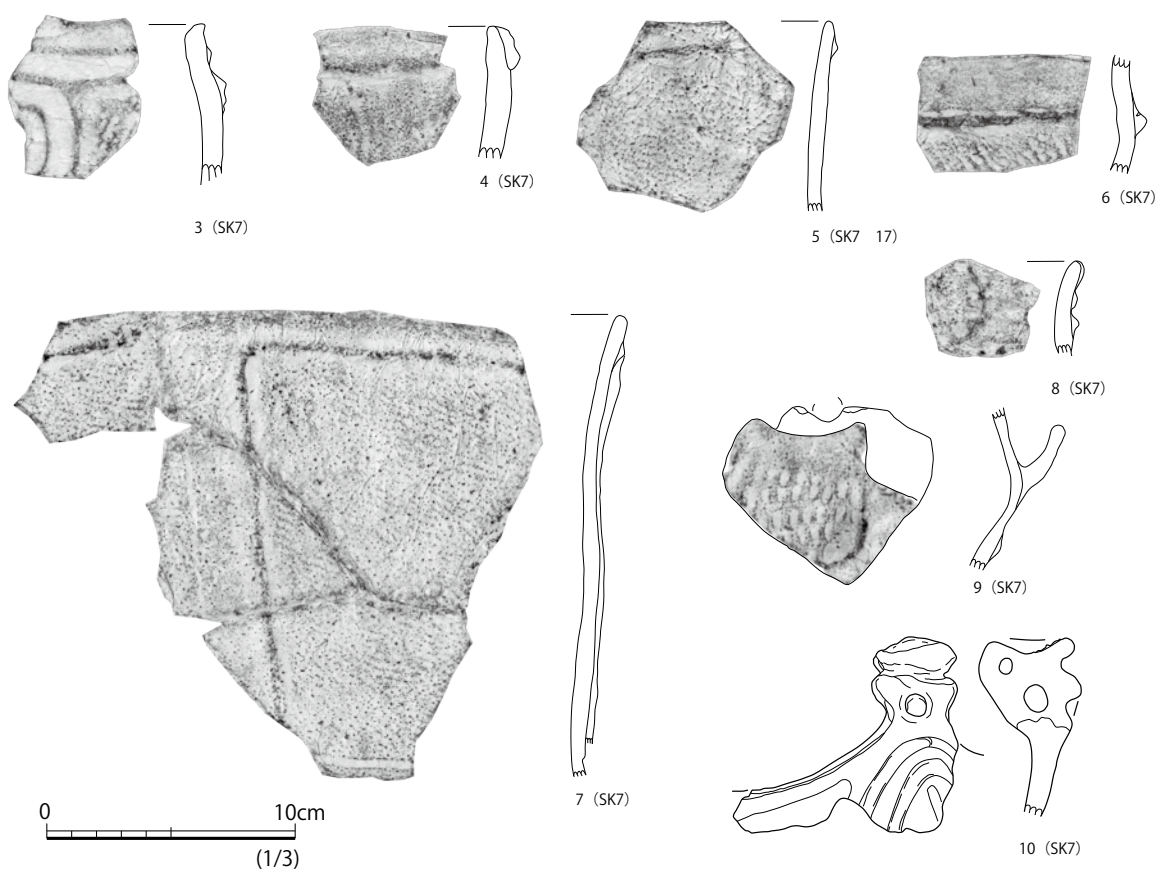
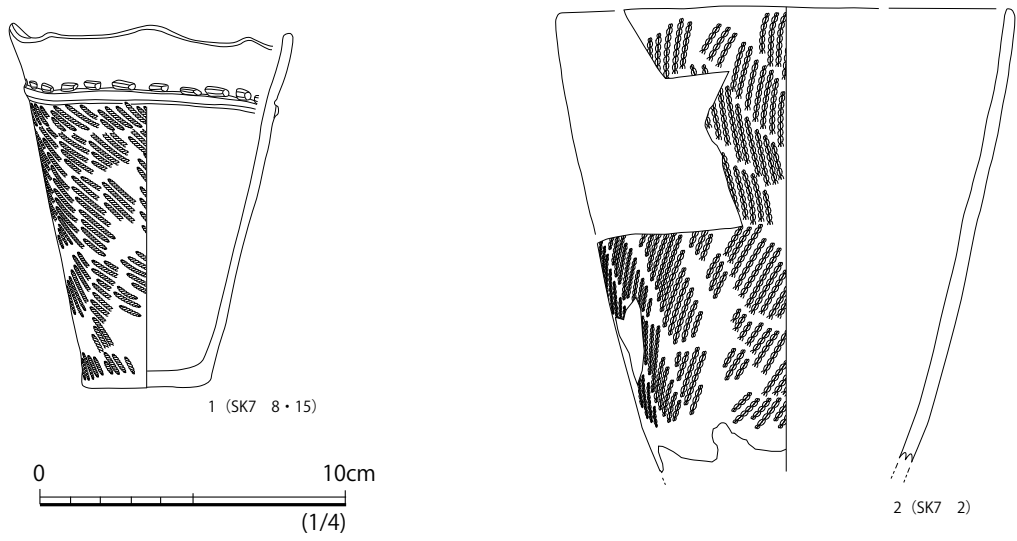


SK58

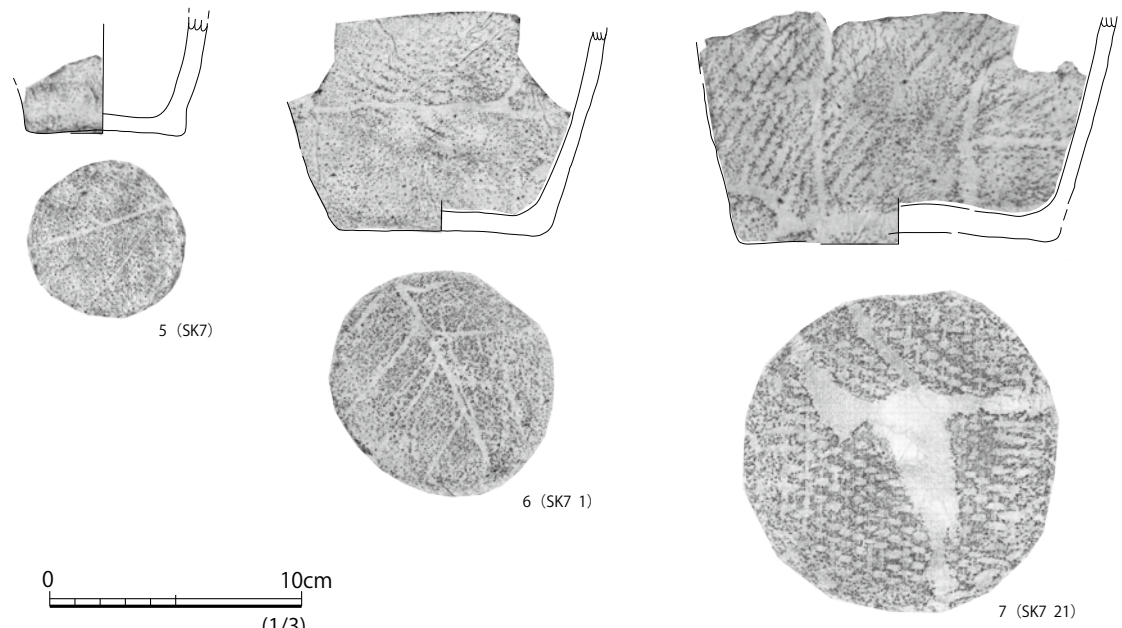
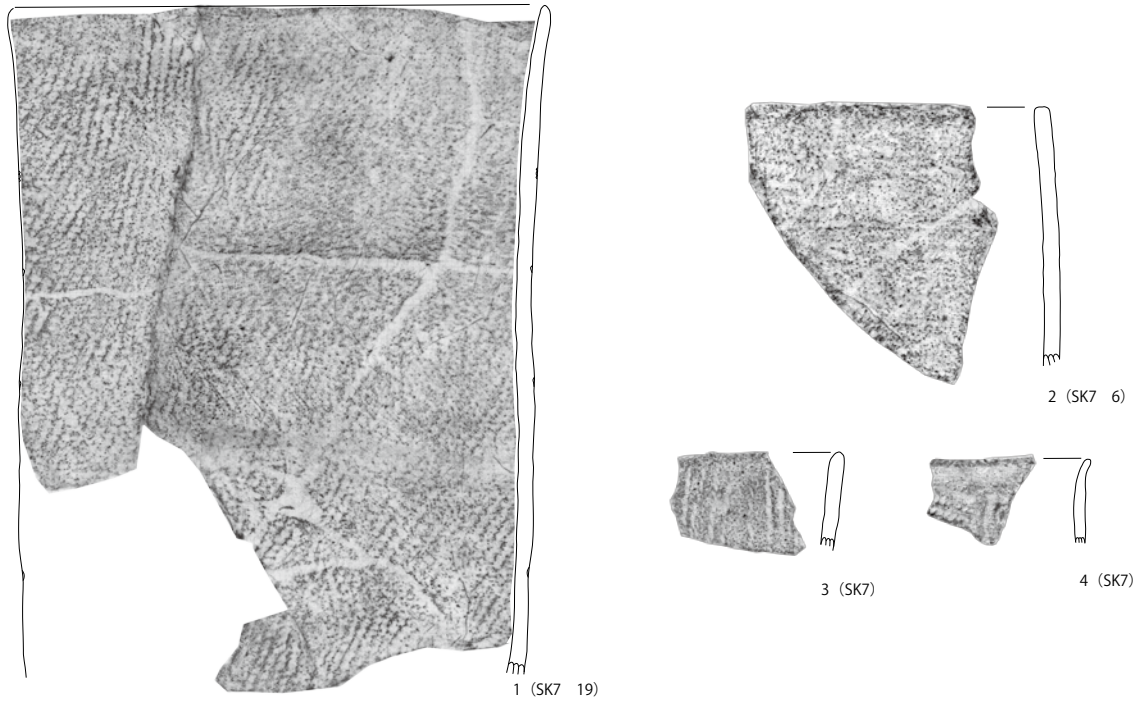
- 1層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性あり 礫 (直径 100～200 mm) 小礫 (直径 10～20 mm) 少量、黄色粒・炭化物粒 (直径 1 mm) 若干、砂粒多量に含む
- 2層 10YR4/4 褐色土 (上層やや暗い) しまり・粘性あり 焼土粒 (直径 1 mm) を含む、砂粒 (直径 1～5 mm) 多量に含む
- 3層 10YR3/2 黒褐色土 しまり・粘性あり 炭化物粒 (直径 1 mm) 多量 焼土・砂粒若干含む
- 4層 10YR4/4 褐色土 しまり・粘性あり 炭化物・焼土若干、砂粒を少量含む
- 5層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 炭化物粒・焼土多量に含む
- 6層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 炭化物を少量、砂粒多量に含む下層に焼土面あり
- 7層 10YR5/8 黄褐色土 しまりあり、粘性強 炭化物粒 (直径 5 mm) 若干含む
- 8層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまりあり、粘性強 炭化物粒 (直径 1～5 mm) 多量に含む
- 9層 10YR6/4 褐色土 しまり・粘性あり 砂粒・炭化物 (直径 10～20 mm) 多量に含む



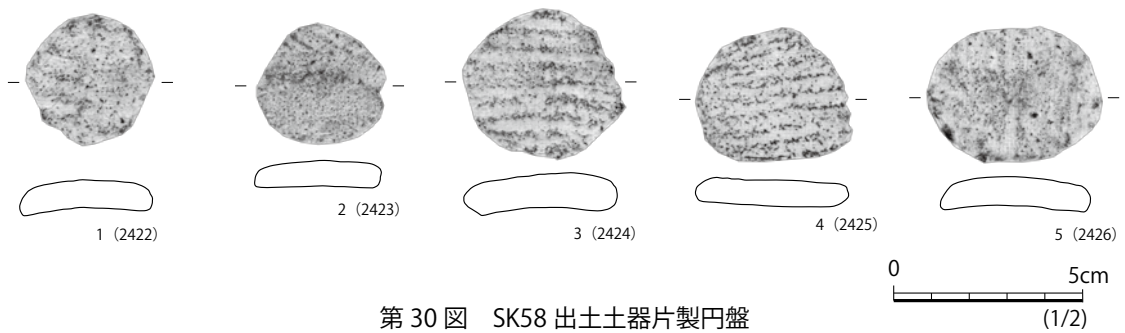
第27図 SK58



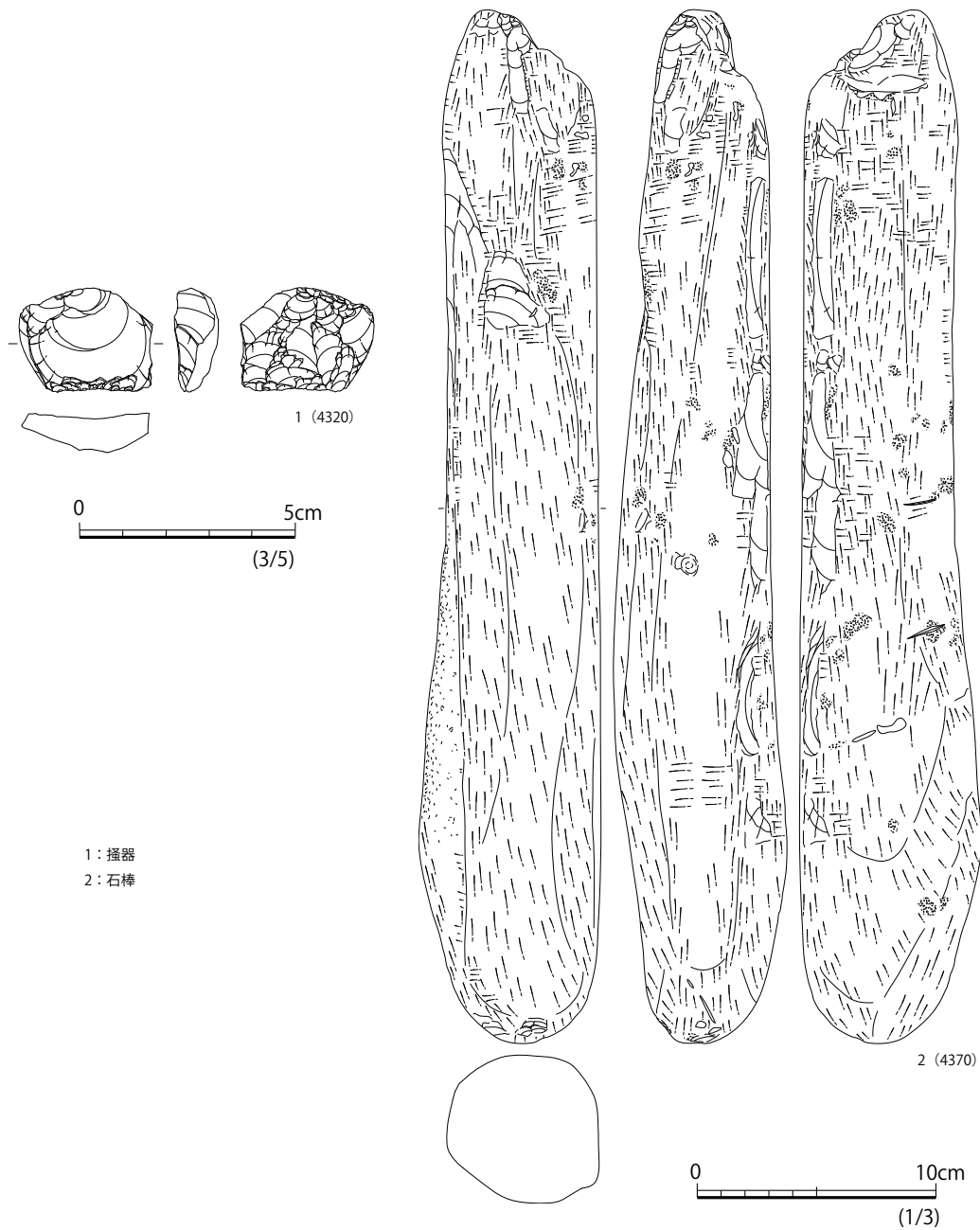
第 28 図 SK58 出土土器 (1)



第 29 図 SK58 出土土器 (2)



第 30 図 SK58 出土土器片製円盤



第31図 SK58 出土石器

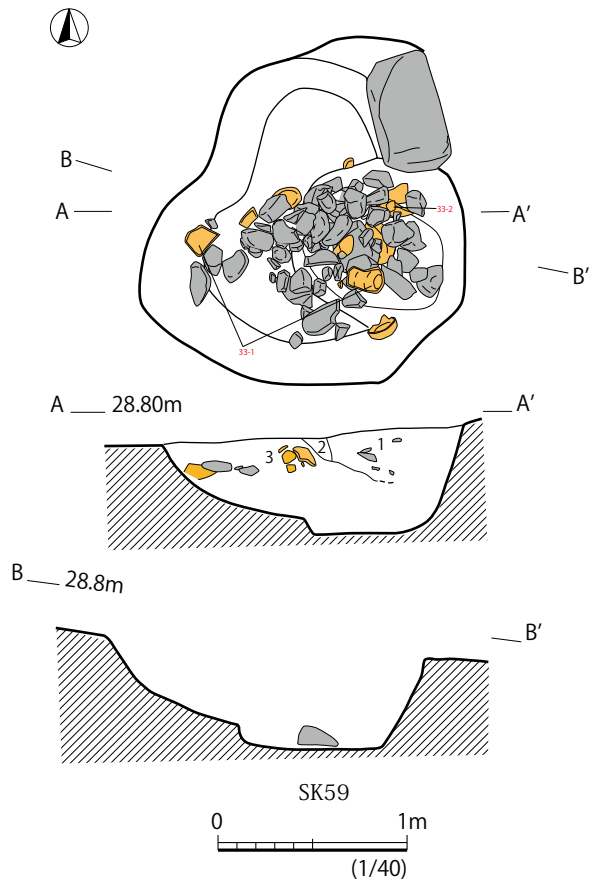
SK59 土坑 (第32～35図、図版7・25・26)

【位置】 調査区北西端、0874・0974 グリッド 【規模】 170 × 170 × 55cm

【出土遺物】 縄文土器 15(後期初頭・後葉)

【所見】 北東隅の地山中の大形の石が障害となって不整形となっている。底面は東側が直径100cm程の範囲で深くなり段差がある。西側の底面は平坦であるが、ゆるく傾斜して立ち上がる。

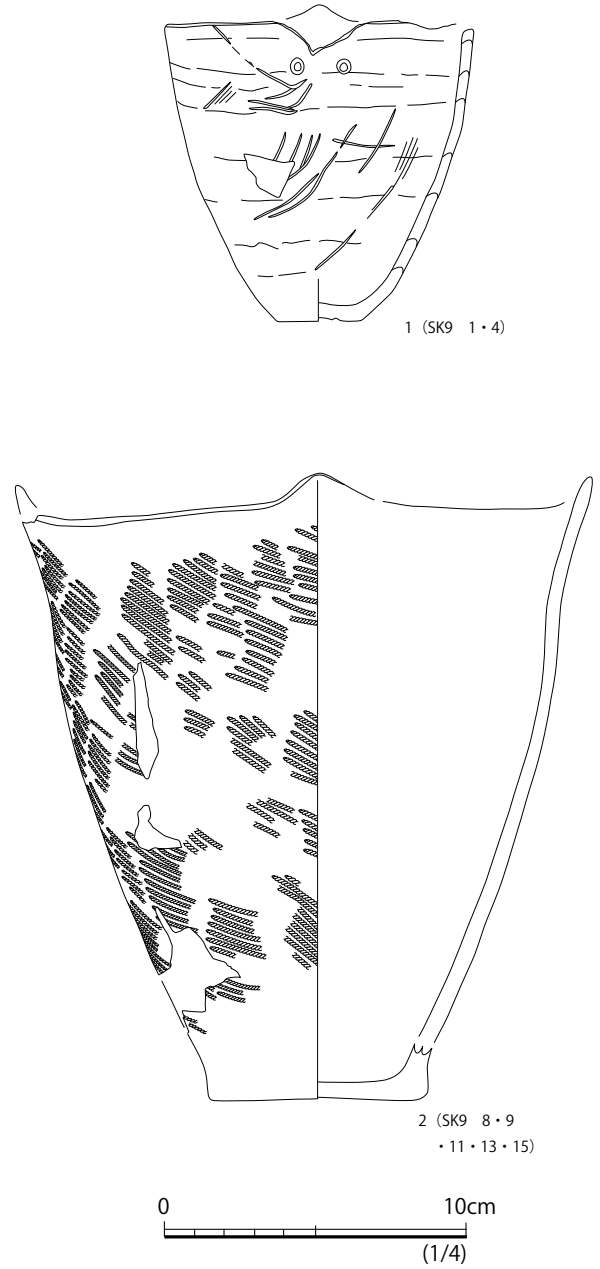
南東側の壁面から比較的大形の土器片が出土。底面からは十数個の礫とともに大形の土器片が横倒しになった状態で出土した。埋土中の赤色土塊片は粉碎した土器に由来すると考える。



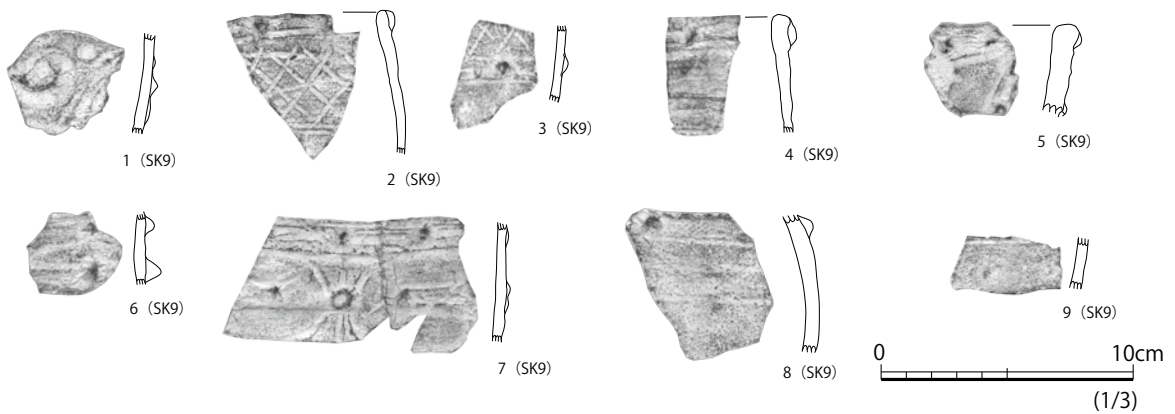
SK59

- 1層 5YR3/4 暗赤褐色土 しまりやや強、粘性あり 黄色粒子（直径1mm程度）・赤色土塊片（直径1mm程度）・炭化物（直径5～10mm）を少量含む
- 2層 7.5YR3/1 黒褐色土 しまり・粘性弱 黄色粒子（直径1～5mm程度）・赤色土塊片（直径1mm程度）・炭化物（直径5～10mm程度）を少量含む
- 3層 5YR3/2 赤褐色土 しまり・粘性弱 黄色粒子（直径1～5mm程度）・赤色土塊片（直径1mm程度）・炭化物（直径5～10mm）・礫（直径5～20mm）を少量、土器片含む

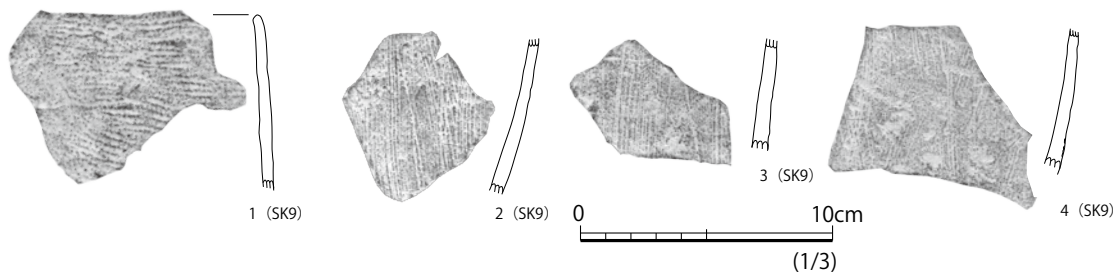
第32図 SK59



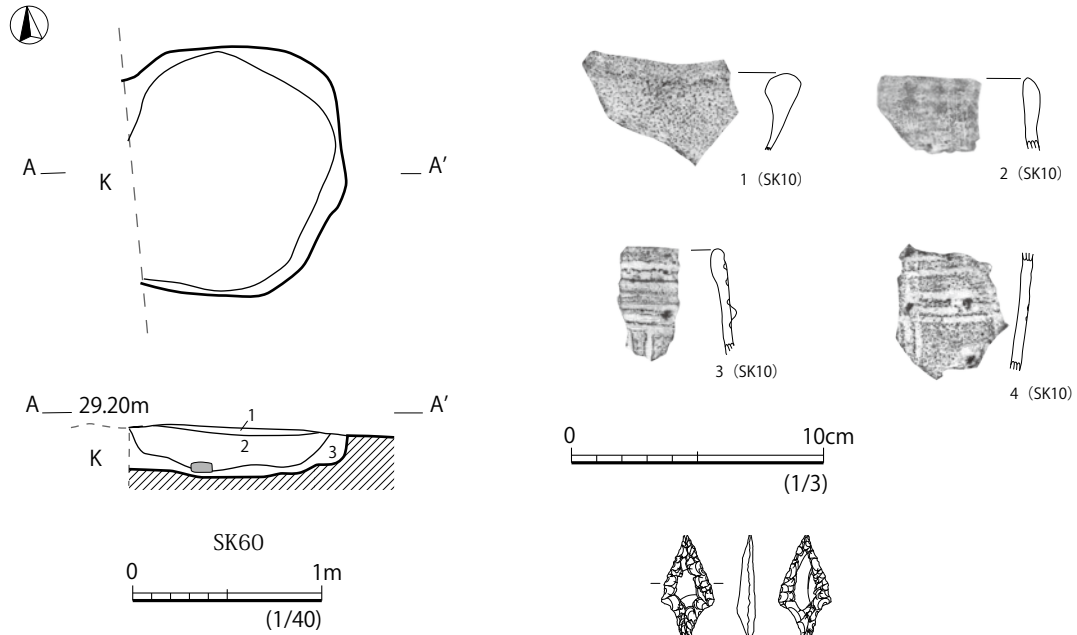
第33図 SK59 出土土器 (1)



第34図 SK59 出土土器 (2)



第 35 図 SK59 出土土器 (3)

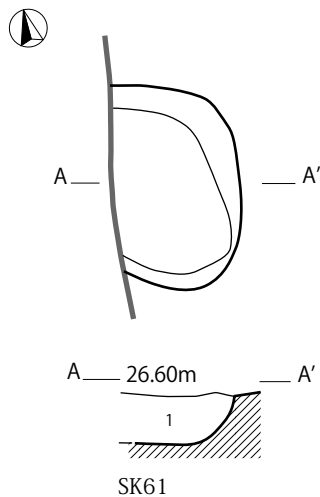


SK60

- 1層 7.5YR3/1 黒褐色土 しまり若干、粘性弱 黄色粒（直径2～3mm程度）をわずかに含む
- 2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまりあり、粘性弱 黄色粒（直径2～10mm程度）を含む 小礫・赤色土塊片（直径5～10mm）をわずかに含む
- 3層 10YR4/4 褐色土 しまり・粘性弱 黄色粒（直径2～5mm程度）少量、小礫（直径5～10mm）をわずかに含む

第 36 図 SK60

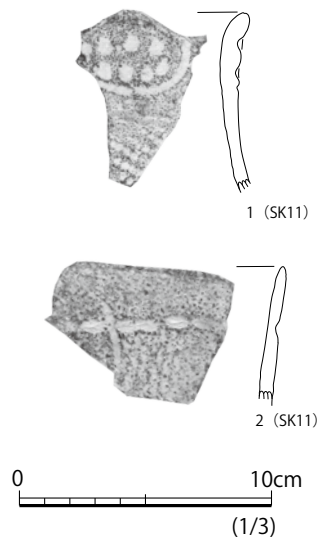
第 37 図 SK60 出土土器・石器



SK61

- 1層 10YR 3/2 黒褐色土 しまり・粘性あり 小軽石（直径2～5mm） 極小赤色土塊片を含む

第 38 図 SK61



第 39 図 SK61 出土土器

SK60 土坑 (第 36・37 図、図版 8・26)

【位置】 調査区北、0775・0776 グリッド

【規模】 130 × 130 × 30cm 【出土遺物】 縄文土器 4 (後期中・後葉)、石鏃 1

【所見】 西側約 1/4 が攪乱されている。底面は平坦である。

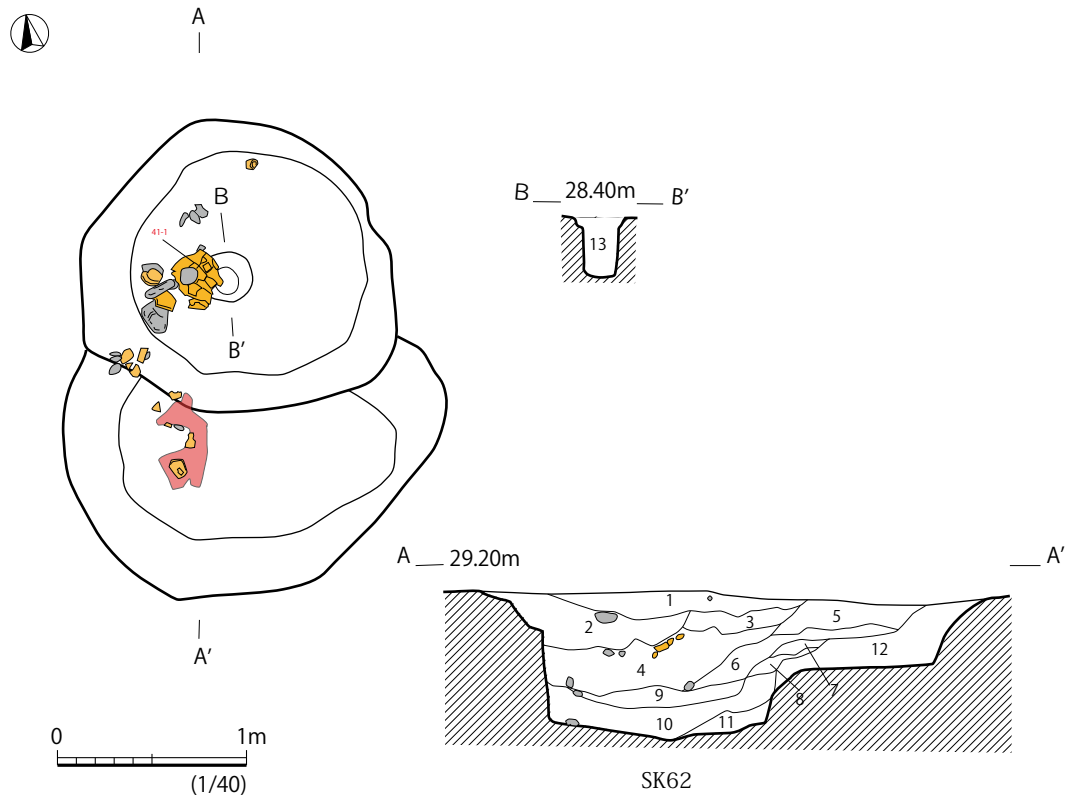
SK61 土坑 (第 38・39 図、図版 8)

【位置】 調査区西端、0974 グリッド 【規模】 105 × 65 × 25cm 【出土遺物】 縄文土器 2 (後期初頭)

【所見】 不整形円形を呈すると思われる。底面は平坦で、壁は緩やかに広がりながら立ち上がる。

SK62 土坑 (第 40・41 図、図版 8・26)

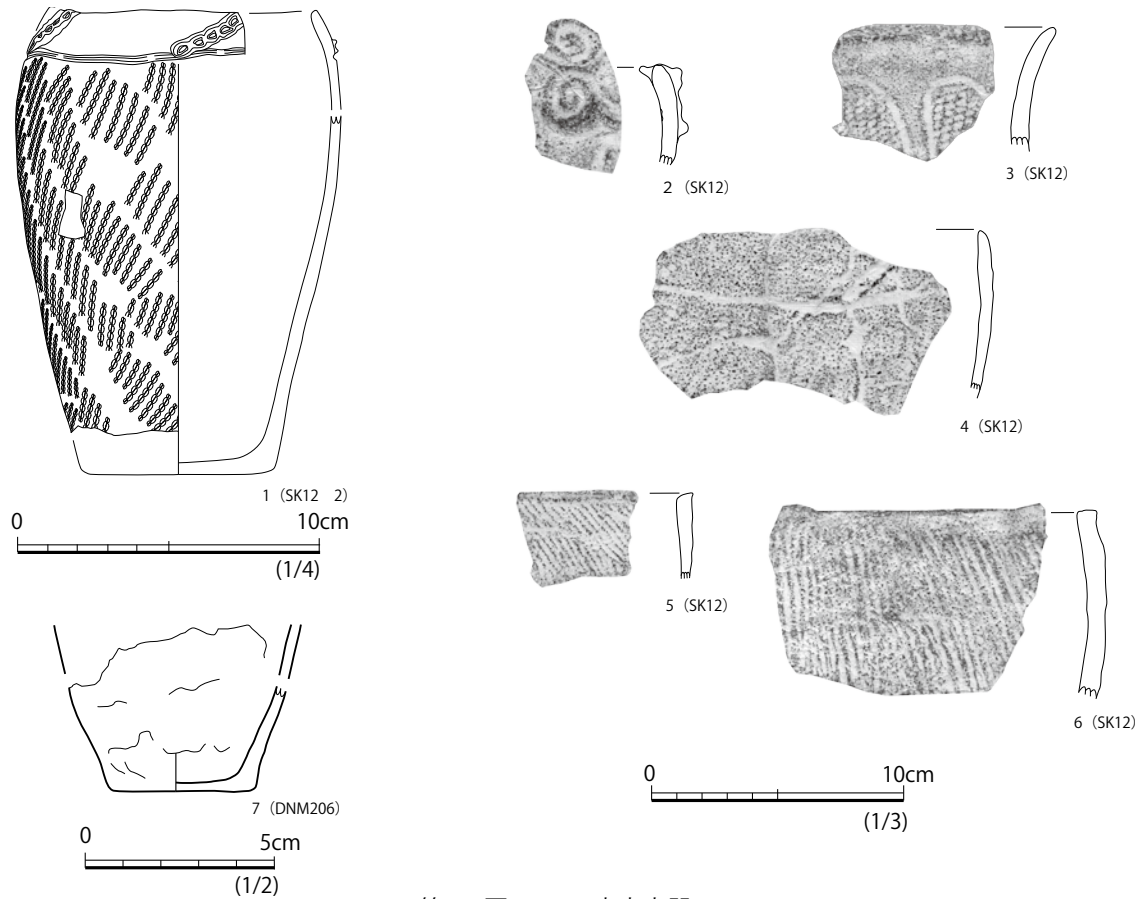
【位置】 調査区中央、0976・1076 グリッド 【規模】 SK62a: 口径 170 × 底径 125 × 77cm



SK62

- 1層 10YR3/1 黒褐色土 しまり・粘性あり 黄色粒子 (直径 1mm 程度)・小礫 (直径 5mm 程度) 少量含む
- 2層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 焼土粒 (直径 1mm 程度)・小礫 (直径 5mm 程度) 少量含む
- 3層 10YR3/2 黒褐色土 しまり強、粘性あり 焼土粒 (直径 1mm 程度)・炭化物 (直径 1mm 程度) 若干、黄色粒子 (直径 1~5mm 程度) 少量含む
- 4層 10YR3/2 黒褐色土 しまり弱、粘性あり 炭化物 (直径 5mm) 多量、焼土粒 (直径 1mm 程度) 少量含む
- 5層 10YR3/2 黒褐色土 しまり・粘性あり 小石 (直径 20~30mm) 多量に含む
- 6層 7.5YR4/2 灰褐色土 しまり・粘性あり 炭化物 (直径 1mm) 多量、焼土粒 (直径 5mm 程度) 少量含む
- 7層 10YR2/2 黒褐色土 しまり弱、粘性あり 砂粒多量に含む
- 8層 10YR4/4 褐色土 しまり・粘性あり 炭化物 (直径 5mm)・黄色粒子 (直径 1mm 程度) 少量含む
- 9層 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり弱、粘性あり 砂利 (直径 5mm) 少量、炭化物 (直径 1~5mm) 多量に含む
- 10層 10YR3/1 黒褐色土 しまり・粘性あり 炭化物 (直径 2~3mm)・焼土粒 (直径 1~2mm 程度) 多量に含む
- 11層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 炭化物 (直径 5~10mm) 若干含む
- 12層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 炭化物 (直径 1mm) 若干含む
- 13層 10YR5/2 灰黄褐色土 しまり・粘性あり

第 40 図 SK62



第 41 図 SK62 出土土器

SK62 b : 200 × 170 × 35cm 【重複】 2 基が重複している、先
後は SK62 b → SK62 a

【出土遺物】 縄文土器 6 (中期中葉～後期初頭)、ミニチュア土器 1
【所見】 SK62a 壁上端部が崩落しているが、ほぼ立ち上がりは垂直となる。
平坦な底面のほぼ中央部に直径 25cm 程、深さ 35cm 程の小穴がある。

埋土上層の 4 層上面で、底面小穴のほぼ直上に土器片がまとまって
出土した。また SK62a の埋土下層からは東側と西側の 2 か所
に石器剥片類がまとまって出土している。SK62b は、SK62a に約
1/3 程が壊されているが、東西方向に主軸を持ち、平坦な底面から、
壁がゆるやかに立ち上がる。埋土中層から焼土がまとまって土器片
とともに検出された。

SK63 土坑 (第 42 図、図版 8)

【位置】 調査区北西、0875 グリッド 【規模】 95 × 85 × 50cm

【所見】 底面は、平坦部分は少なく湾曲し、そのまま壁面に続く。

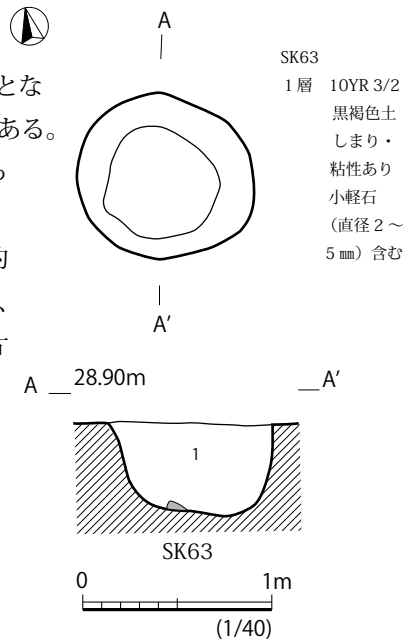
底面の拳大の石は、地山中の自然石だと思われる。

埋土中からは、ごく少量の遺物が出土した。

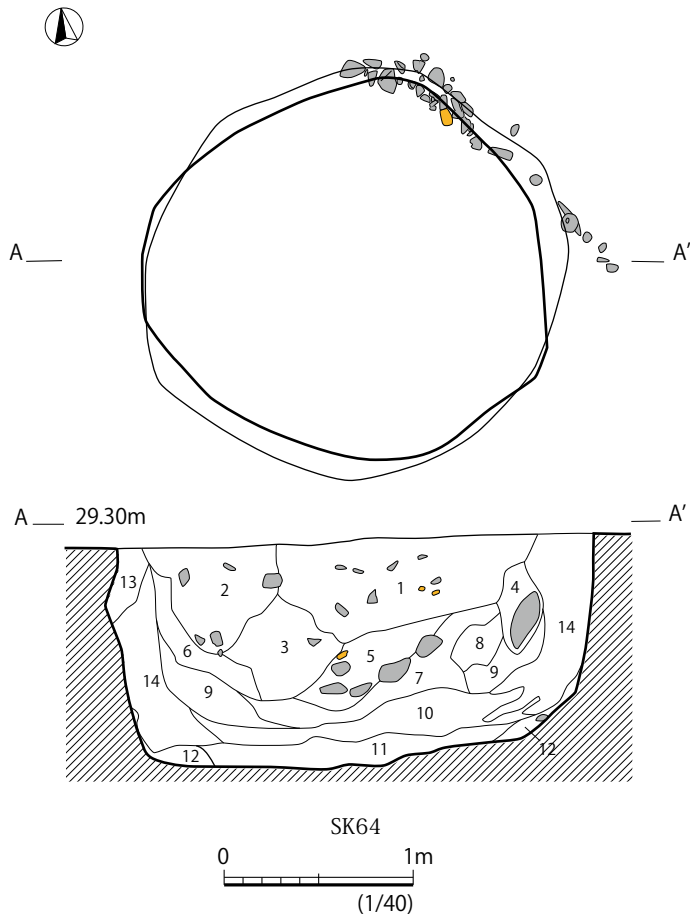
SK64 土坑 (第 43 ~ 45 図、図版 8・26)

【位置】 調査区東、0976・0977 グリッド

【規模】 口径 210 × 底径 230 × 120cm



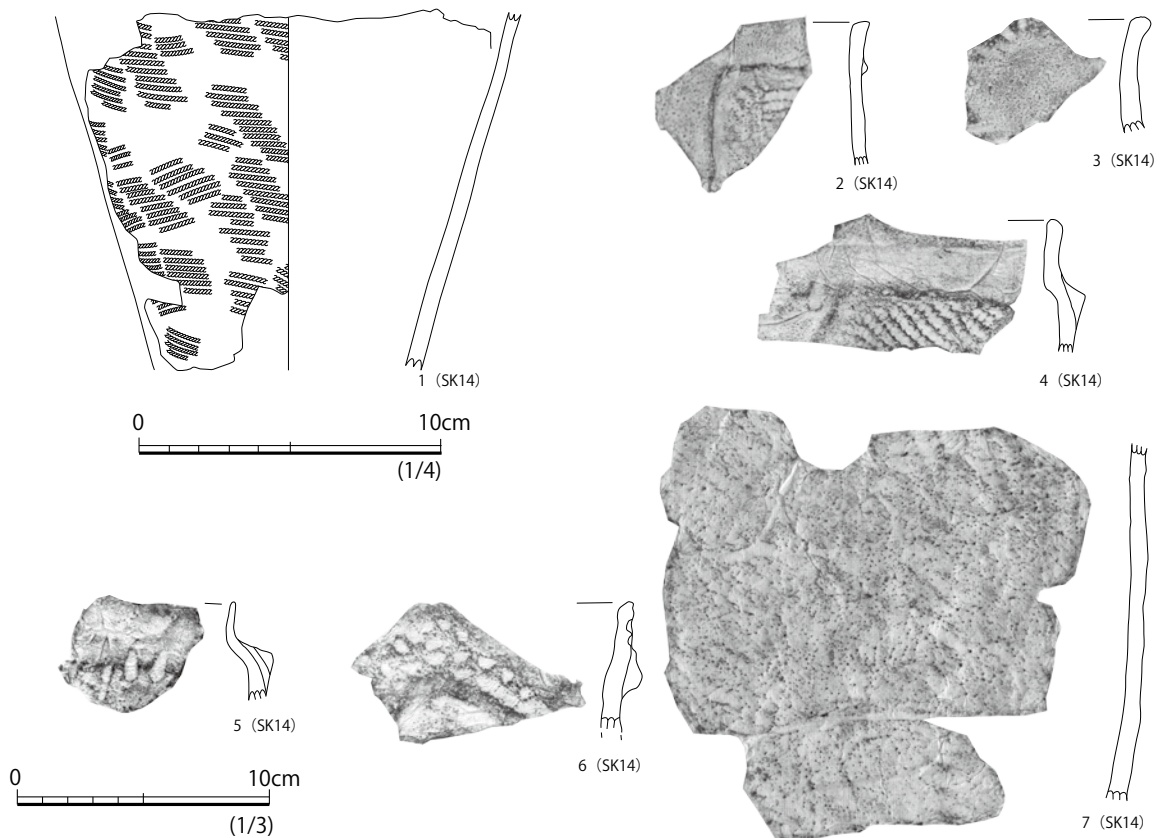
第 42 図 SK63



SK64

- 1層 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり・粘性あり 黄色土ブロック (直径 20 ~ 100 mm) レンズ状に混入 礫 (直径 5 mm)・焼土粒 (直径 5 mm程度) 少量、炭化物粒 (直径 5 ~ 10 mm) 多量に含む
- 2層 10YR5/8 黄褐色土 しまり・粘性あり 礫 (直径 5 ~ 10 mm) を少量、焼土粒 (直径 5 mm程度) 若干含む
- 3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 炭化物粒 (直径 5 ~ 10 mm) 少量、焼土粒 (直径 5 mm程度) 若干含む
- 4層 10YR6/6 明黄褐色土 しまり・粘性あり 礫あり 黄色粒 (直径 1 mm) 若干含む
- 5層 10YR4/4 褐色土 しまり・粘性あり 黄色土ブロック (直径 10 mm) 混入 炭化物・焼土若干含む
- 6層 10YR6/8 明黄褐色砂質土 しまりあり、粘性弱 炭化物粒 (直径 1 ~ 2 mm) 少量含む
- 7層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性あり 炭化物 (直径 5 ~ 20 mm) 多量、焼土 (直径 10 mm) 若干含む
- 8層 10YR6/8 明黄褐色砂質土 しまり・粘性弱 黄・灰色風化 礫 (直径 5 ~ 20 mm) 多量に含む
- 9層 10YR7/8 明橙色砂 しまりあり、粘性なし 黒色斑 (直径 2 ~ 3 mm) あり 花崗岩風化砂
- 10層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 黄色粒 (直径 1 ~ 20 mm)・炭化物 (直径 5 ~ 20 mm) 多量に含む
- 11層 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり・粘性あり 黄色粒 (直径 5 mm)・炭化物 (直径 20 mm) 多量に含む
- 12層 10YR5/6 黄褐色土 しまり弱、粘性あり 炭化物 (直径 1 ~ 2 mm) 若干含む
- 13層 10YR6/6 明黄褐色砂質土 (地山)
- 14層 5YR6/6 橙色砂 (地山)

第 43 図 SK64



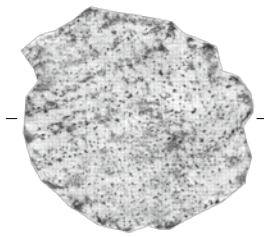
第 44 図 SK64 出土土器

【出土遺物】縄文土器 7(後期初頭)、土器片製円盤 1

【所見】底面がやや広くなるフラスコ状土坑である。底面は平坦で小穴などは検出されなかったが、北東側の壁際に 5～15cm程の礫が並べられていた。砂質の地山層に掘り込まれており、底面の立ち上がりは埋土と区別がつかず、砂質地山層中にレンズ状に褐色埋土層が入り込む状況であった。

これは、砂質の壁が順次崩落した埋没過程を示していると思われる。

埋土中層から上層にかけては 10～20cm程の礫が多く検出された。



1 (2427)

SK65 土坑 (第 46～50 図、図版 9・26・27)

【位置】調査区東、0977 グリッド

【規模】口径 210 × 底径 240 × 100

【出土遺物】縄文土器 4(後期初頭)、土器片製円盤 3、石鏃 1・石棒 2・石皿 1 【所見】壁の中段から底面にかけて広がるフラスコ状土坑である。

東半部分は後世の攪乱を受けている。底面はほぼ平坦だが、縁辺部がやや高くなる。底面の北東よりに径 65～70cm、深さ 35cm程の小穴が検出された。埋土中層から石棒様の細長い自然石が 2 点出土している。



第 45 図 SK64 出土
土器片製円盤

SK66 土坑 (第 51～55 図、図版 9・27)

【位置】調査区東、0976・0977 グリッド

【規模】口径 130 × 底径 170 × 85cm

【出土遺物】縄文土器 9(後期初頭)、土器片製円盤 2、石斧(磨製) 1・石棒 1

【所見】底面が大きく広がるフラスコ状土坑である。底面は平坦で、小穴などは検出されなかった。

埋土下層からは 10～25cm程の礫や土器片などが多く出土している。底面からは石棒や土器が出土し、また角柱状の石が置かれていた。

SK67 土坑 (第 56・57 図、図版 9・27)

【位置】調査区東端、1077・1078 グリッド 【規模】140 × 58 × 20m 【重複】SK21 先・後は SK67 → SK21 【出土遺物】縄文土器 1、石棒 1 【所見】東側の大半を現代の帯状攪乱によって破壊されているため、正確な規模・形状は明らかではない。ほぼ同一地点で検出された SK21 に先行して検出された。底面はほぼ平坦であるが、南から北へ傾斜している。埋土中から、ごく少量の遺物が出土した。

SK68 土坑 (第 58・59 図、図版 10)

【位置】調査区東、0977・1077 グリッド 【規模】口径 210 × 底径 180 × 75cm

【出土遺物】縄文土器 4(後期初頭)、ミニチュア土器 1 【所見】壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦で、中央から東寄りに径 45～50cm程、深さ 15cm程の小穴が検出された。底面の北西側の壁際に 5～20cm程の礫が多く出土している。

SK69 土坑 (第 60 図、図版 10)

【位置】調査区南西端、1174 グリッド 【規模】75 × 70 × 5cm

【所見】底面は平坦で、小穴などは検出されなかった。

SK70 土坑 (第 61・62 図、図版 10)

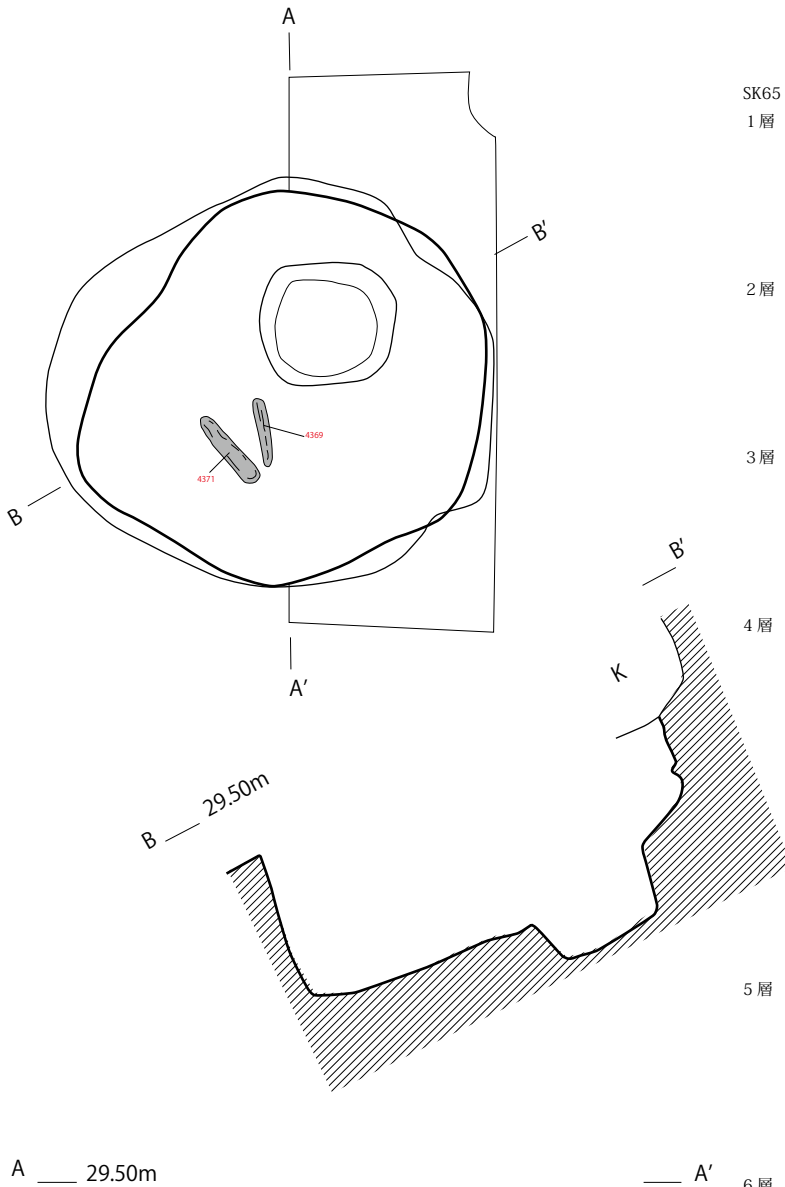
【位置】調査区東端、0978 グリッド 【規模】口径 135 × 底径 120 × 40cm 【出土遺物】縄文土器 1

【所見】底面は平坦で、中央に直径 20cm、深さ 10cm程の小穴が検出された。

SK71 土坑 (第 63 図、図版 10)

【位置】調査区東端、1077・1078 グリッド 【規模】90 × 85 × 30cm 【重複】SK54a・b、SK67

先後は SK71 → SK54a・b、SK67 【所見】東半部分は攪乱され、円形を呈するものと思われる。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

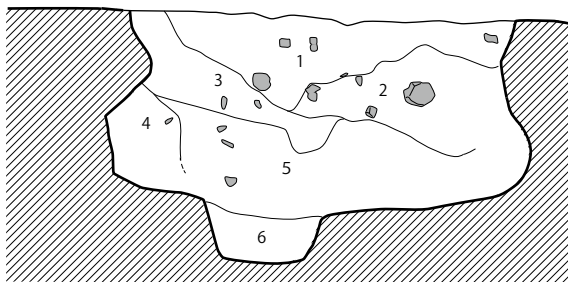


SK65

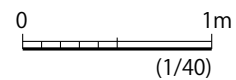
- 1層 10YR4/4 褐色土 しまり・粘性あり
炭化物（直径1mm）をわず
かに含む 黄色土粒（直径2
～4mm）・赤色土塊（直径
2～5mm）・礫（直径20～
50mm）・小形の土器片含む
- 2層 7.5YR6/6 橙色土 しまり・粘性あり
炭化物（直径1mm）をわず
かに含む 黄色土粒（直径2
～5mm）・小礫（直径20～
50mm）・礫（直径100～
300mm）を含む
- 3層 10YR4/6 褐色土 しまり・粘性あり
炭化物（直径1mm）をわず
かに含む 黄色土粒（直径2
～4mm）・赤色土塊（直径2
～5mm）・小礫（直径20～
30mm）を含む
- 4層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性あり
炭化物（直径1mm）をわず
かに含む 黄色土粒（直径2～
4mm）・赤色土塊（直径2～5
mm）・小形の土器片含む、黄
褐色土ブロック（直径10mm）
混入
- 5層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまり・粘
性あり 炭化物（直径1mm）
をわずかに含む 黄色土粒
（直径2～4mm）・赤色土塊
（直径2～5mm）・小形の土器
片含む 黄褐色土ブロック
（直径10mm）混入
- 6層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘
性あり 炭化材粒（直径1m
m）・礫（直径20～50mm）
を少量含む

A — 29.50m

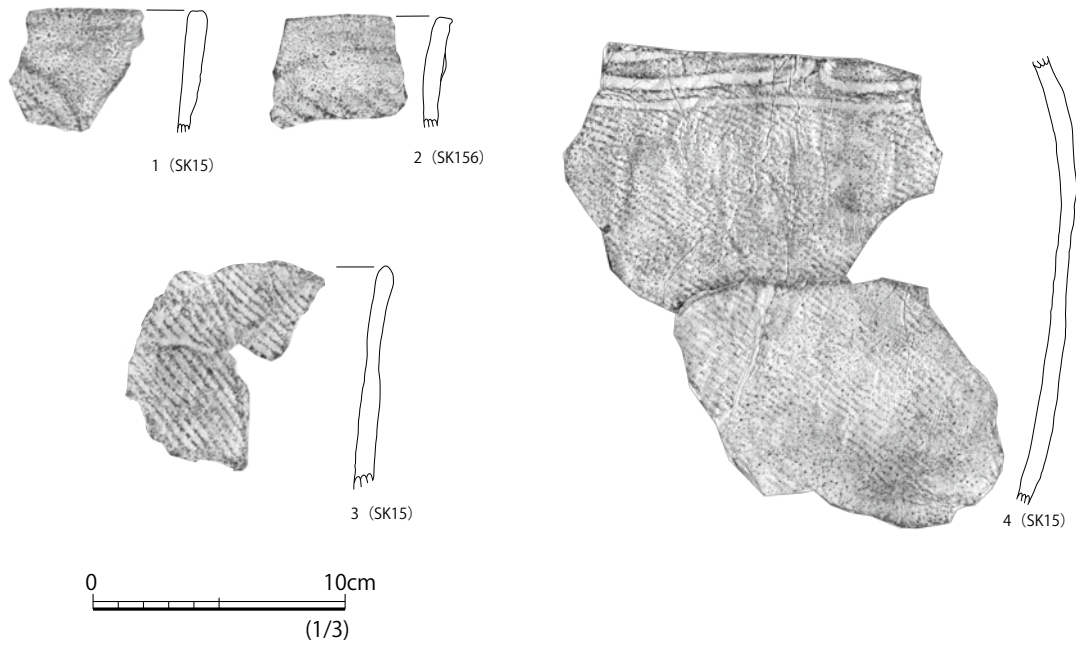
— A'



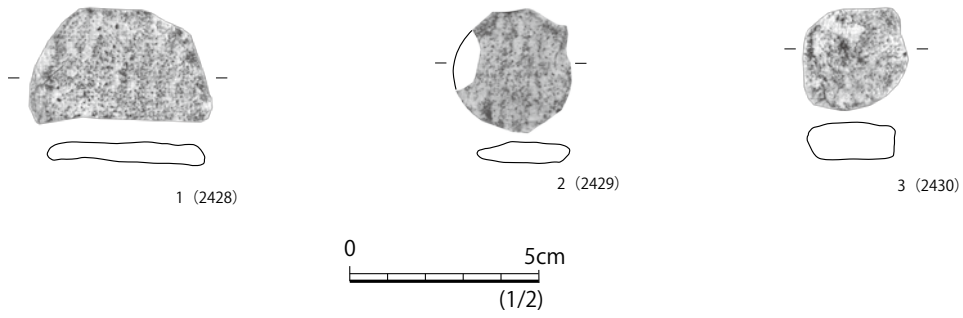
SK65



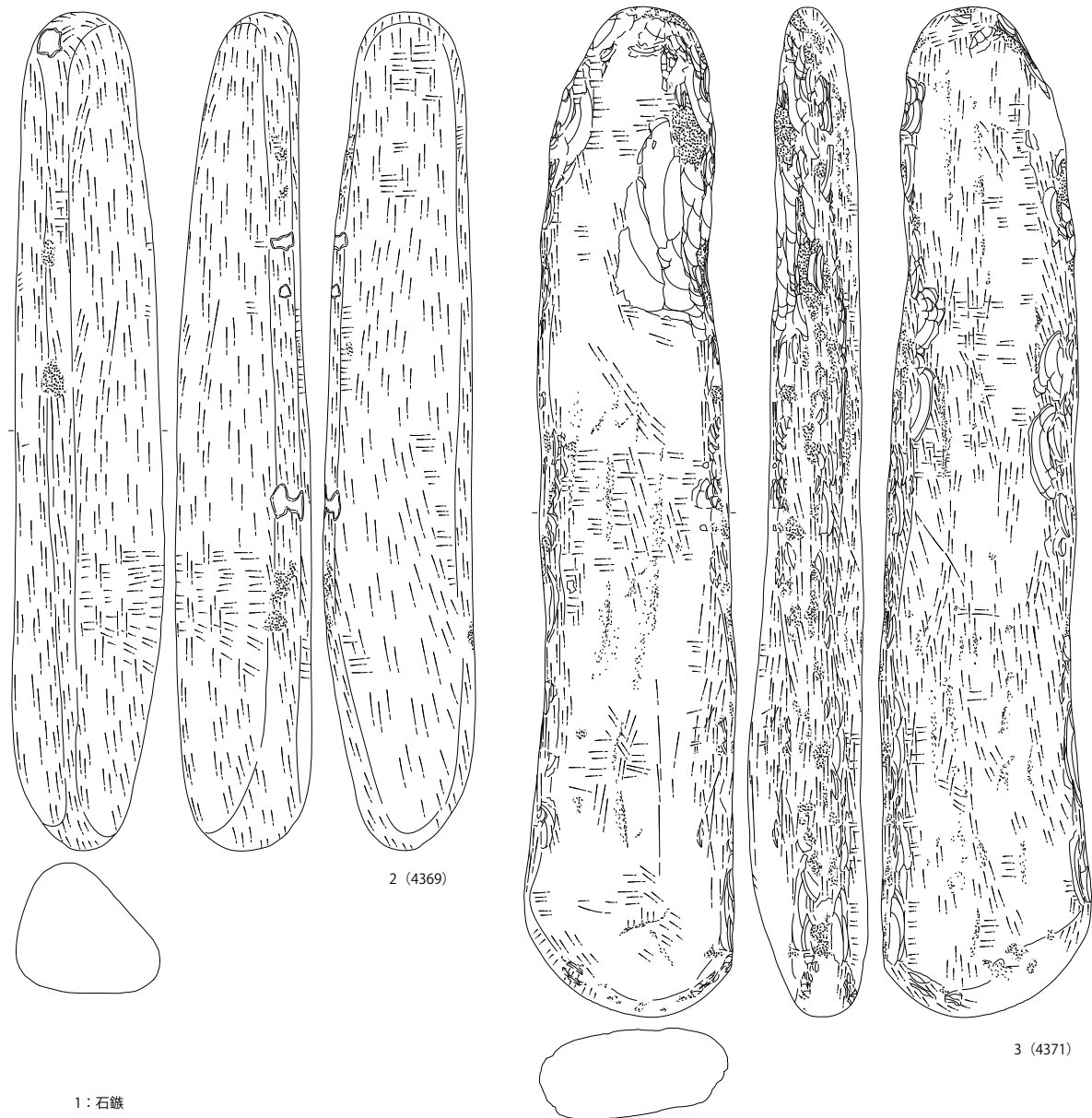
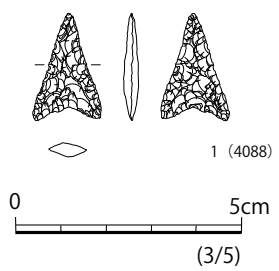
第46図 SK65



第 47 図 SK65 出土土器



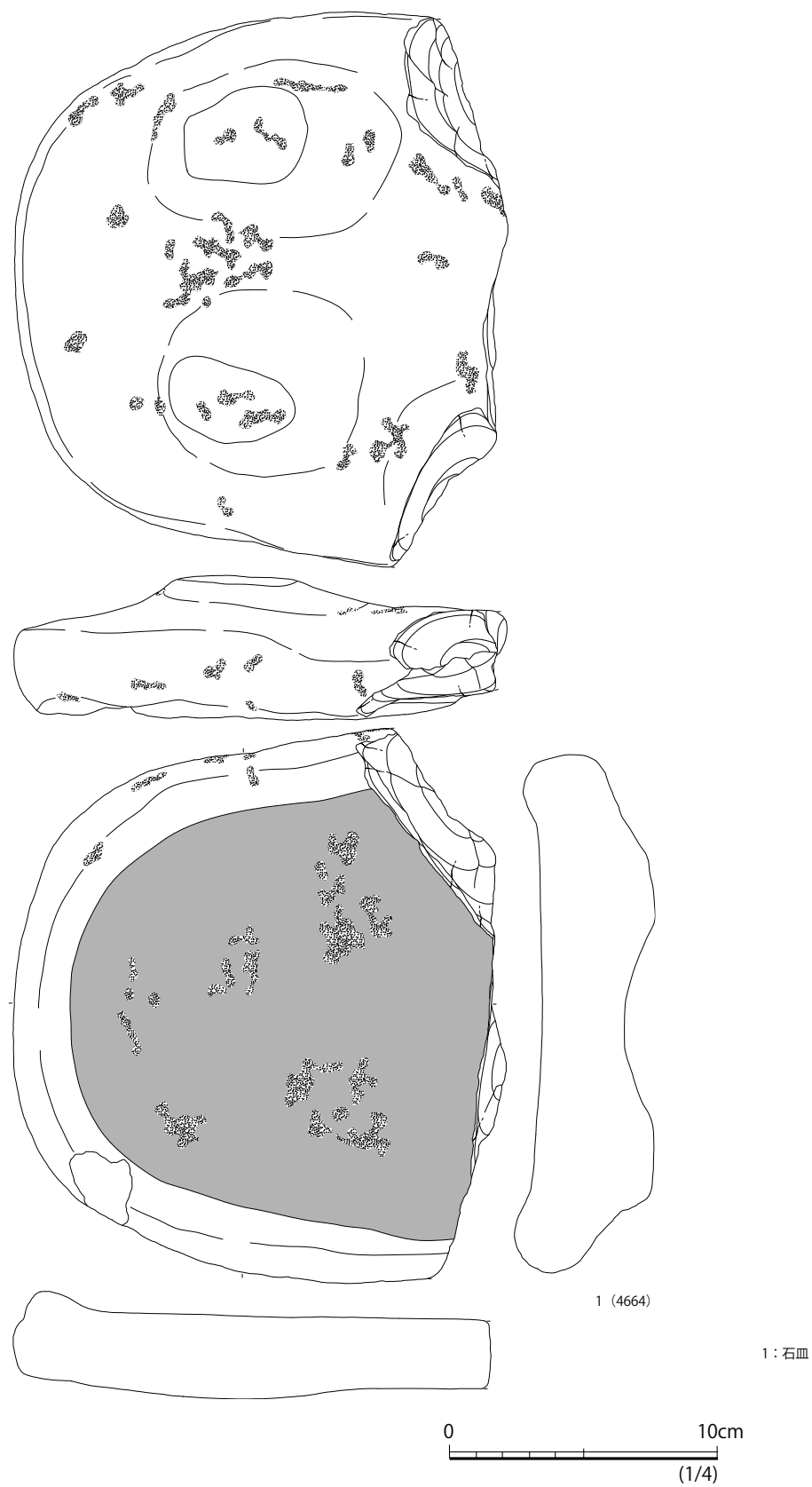
第 48 図 SK65 出土土器片製円盤



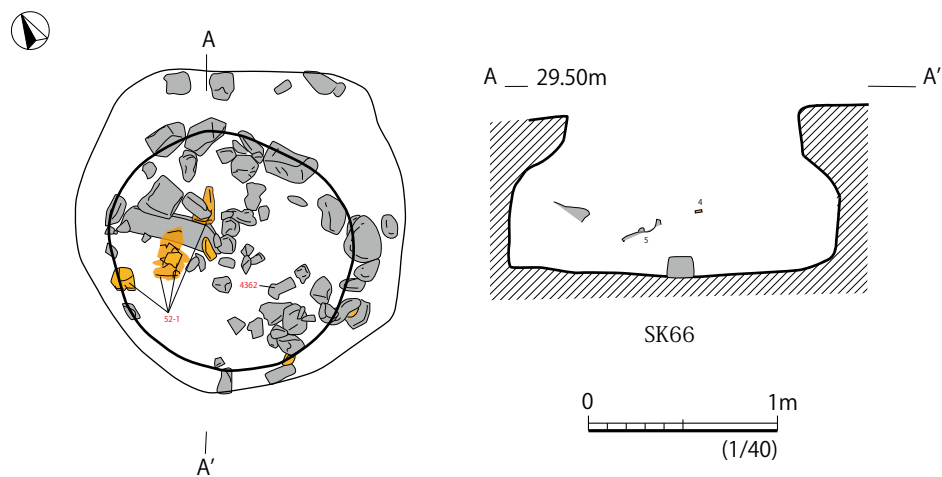
1: 石鏃
2・3: 石棒



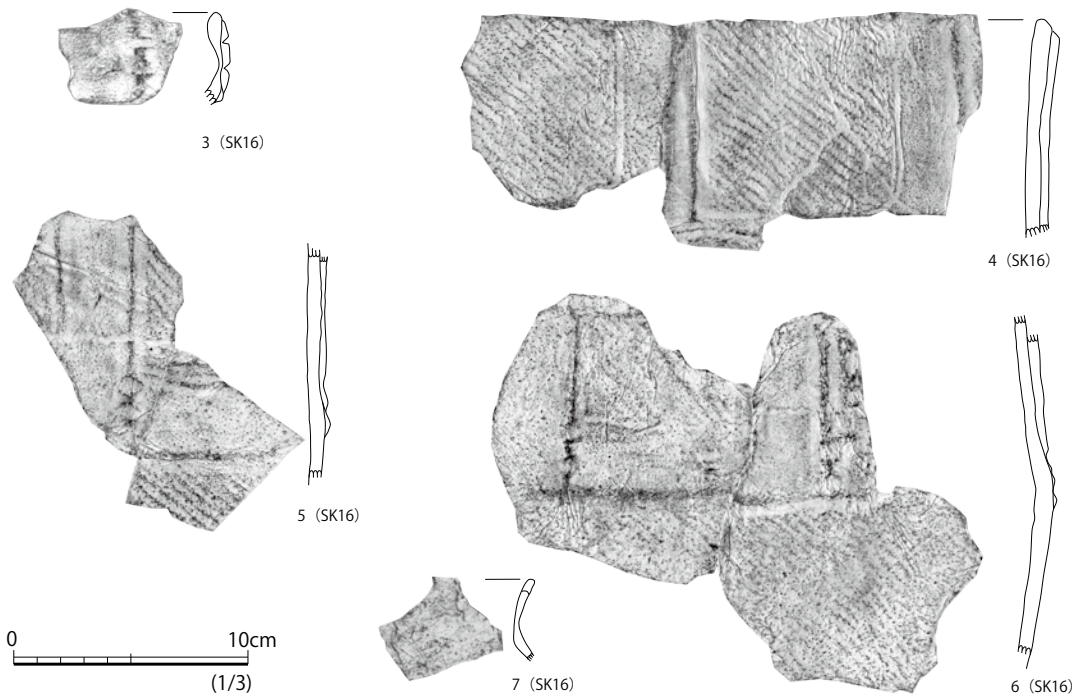
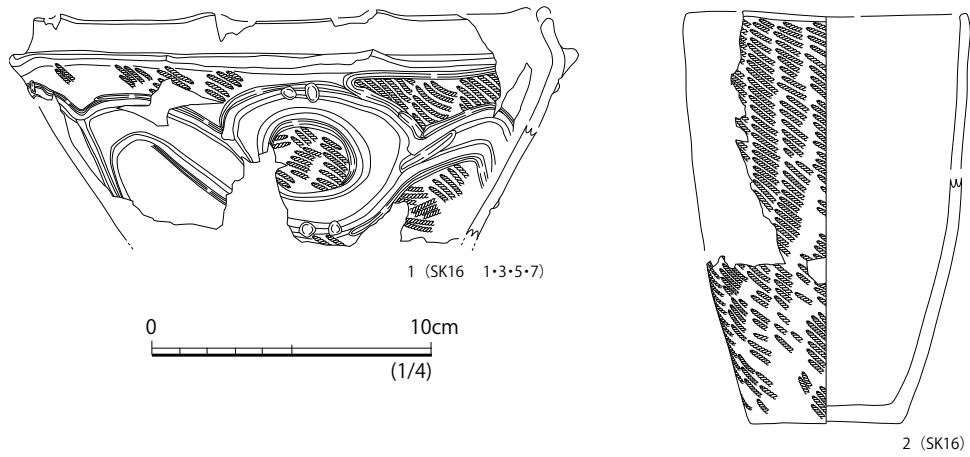
第 49 図 SK65 出土石器 (1)



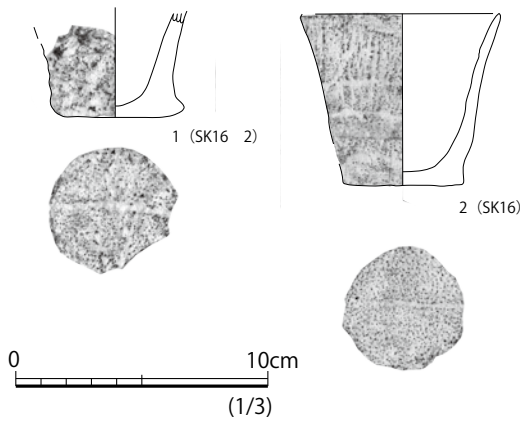
第 50 图 SK65 出土石器 (2)



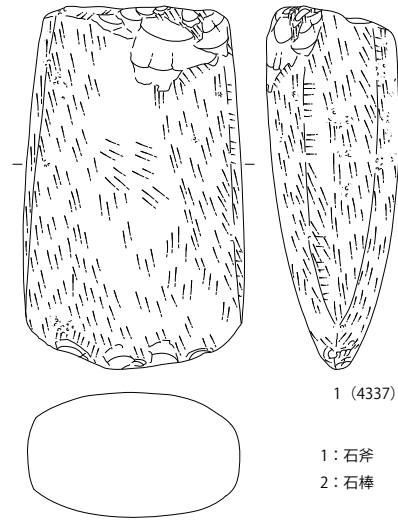
第 51 図 SK66



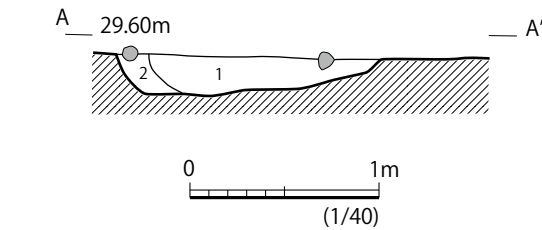
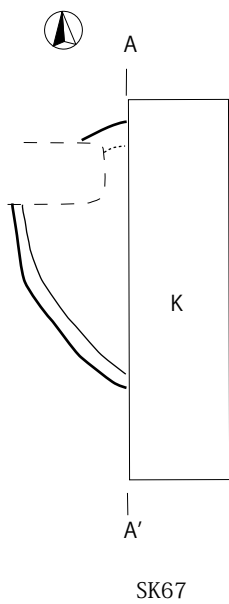
第 52 図 SK66 出土土器 (1)



第53図 SK66 出土土器 (2)



第55図 SK66 出土石器

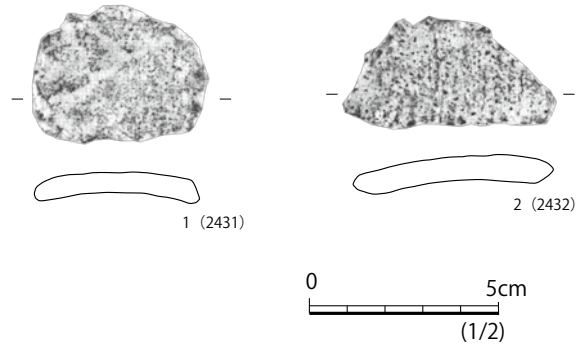


SK67

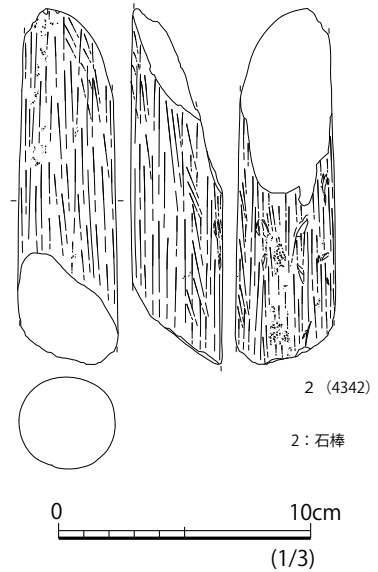
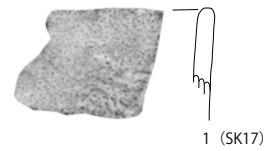
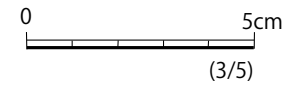
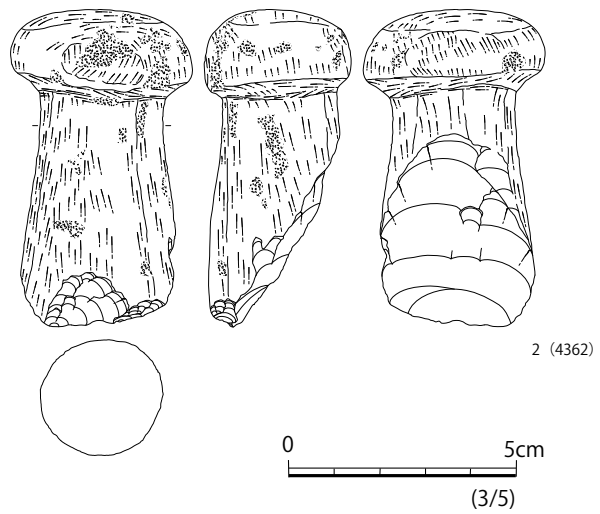
- 1層 10YR3/3 暗褐色土 しまりあり、粘性弱
黄色土粒（直径2～5mm）・赤色土塊（直径5～10mm）を含む、炭化物をごく少量含む
- 2層 10YR4/6 暗褐色土 しまりあり、粘性弱
黄色土粒（直径2～5mm）を少量含む 地山に類似するが若干の混土（1層）が入る

SK67

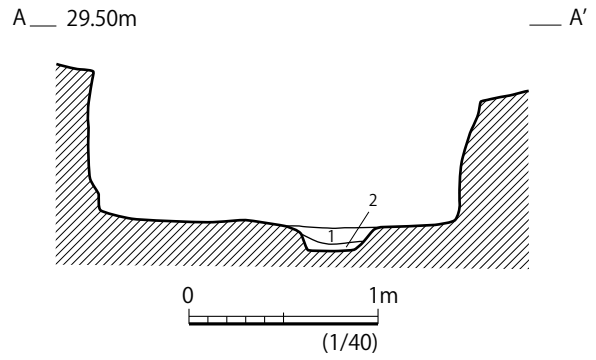
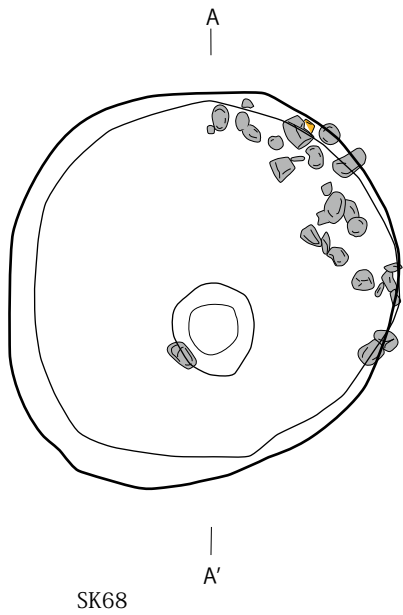
第56図 SK67



第54図 SK66 出土土器片製円盤

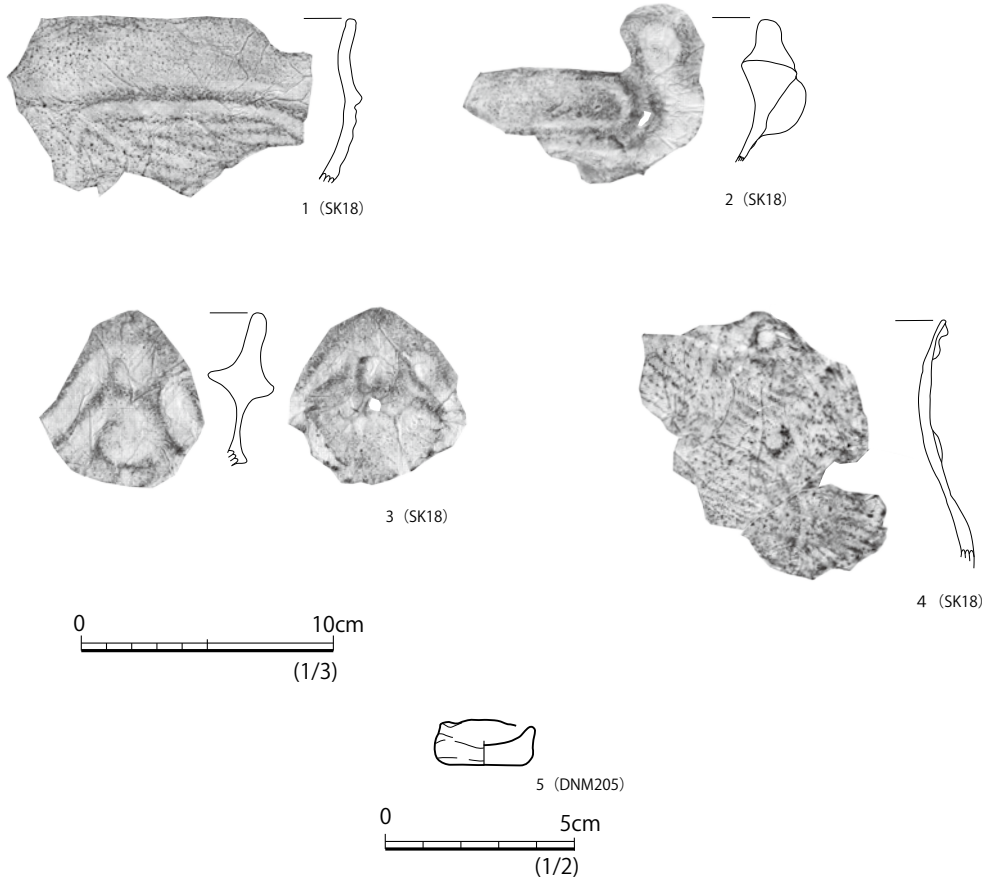


第57図 SK67 出土土器・石器

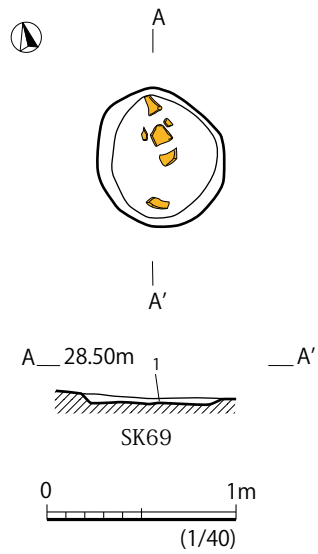


SK68
 1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 礫（直径20～30mm）・黄色土粒（直径2mm）少量含む
 2層 10YR6/5 黄褐色砂質土

第58図 SK68

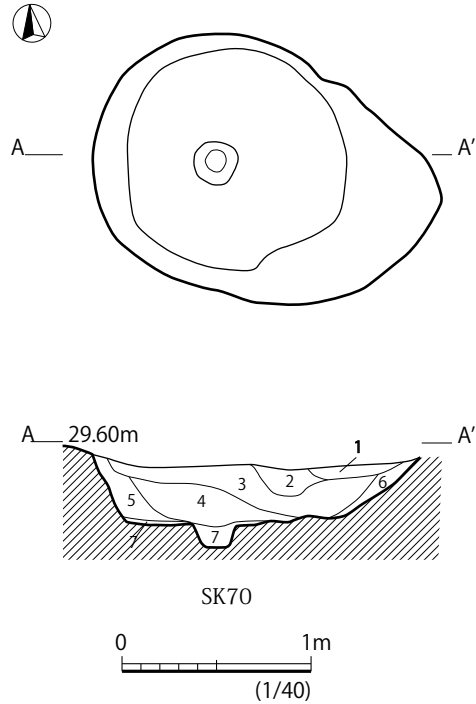


第59図 SK68 出土土器



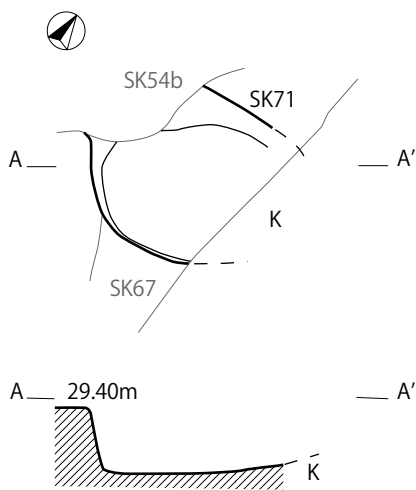
SK69
1層 10YR 3/4 暗褐色土 しまり・粘性あり

第 60 図 SK69

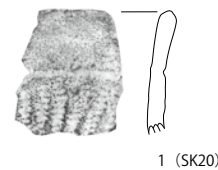


SK70
1層 10YR5/3 にぶい黄褐色土 しまり弱
礫（直径 20～30 mm）多量に含む
2層 10YR3/1 黒褐色土 しまり・粘性あり
炭化物（直径 1 mm）を含む、焼土（直径 1 mm）少量含む
3層 10YR4/4 褐色土 円礫（直径 20～50 mm）少量含む
4層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 黄色土粒（直径 5 mm）・礫（直径 5～10 mm）・炭化物（直径 1 mm）を少量含む
5層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり
黄色土粒（直径 5 mm）多量に含む
6層 10YR6/4 にぶい黄褐色土 礫（直径 5 mm）多量に含む
もろい地山層
7層 10YR4/4 褐色土 しまり・粘性あり 黄色土粒少量含む

第 61 図 SK70



第 63 図 SK71



0 10cm
(1/3)

第 62 図 SK70 出土土器

焼土跡

SL22 (第 64 図、図版 10)

【位置】調査区西端、0974 グリッド 【規模】90 × 45 × 4cm 【所見】調査区の西側にて単独で検出した。掘り込みも確認できず、周囲の小穴を含め竪穴建物に付属する炉跡と認定するには至らなかった。

不明遺構

SX1 (65・66 図、図版 10)

【位置】調査区北西、0775 グリッド 【規模】230 × 50cm × 23cm 【出土遺物】縄文土器 2

【所見】長楕円形の土坑で、北半に小穴状に 2 か所掘り込みがある。比較的大形の土器片等が出土しているが、いずれの遺物も 2 層中からの出土である。

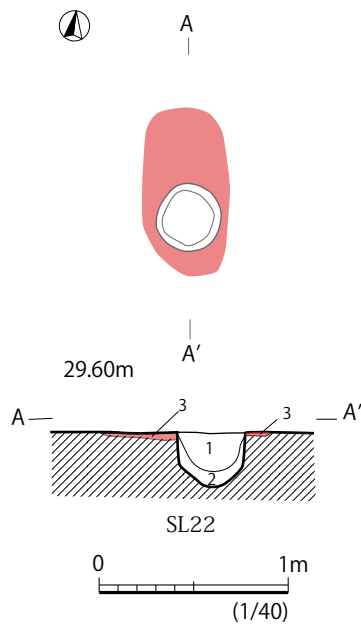
竪穴建物に伴う「壁帯溝」の可能性を考慮して調査したが、詳細は明らかにできなかった。

自然流路

NR 4 (第 67 図、図版 10)

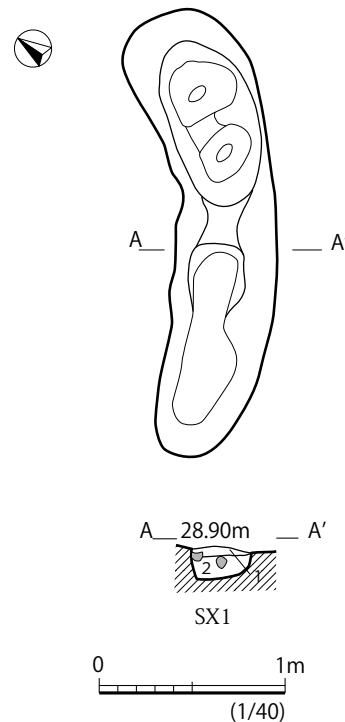
【位置】調査区北西端、0675 グリッド 【規模】270 × 240 × 30cm

【所見】土層断面図の 1 層が表土、2 層が包含層となるので、本遺構の埋土は 3 層が該当する。埋土は石が多く含まれる礫層であった。中央付近で底面が一段くぼむ。1 区で検出された東西方向に伸びる自然流路 (NR2) の東端部にあたると考えられる。



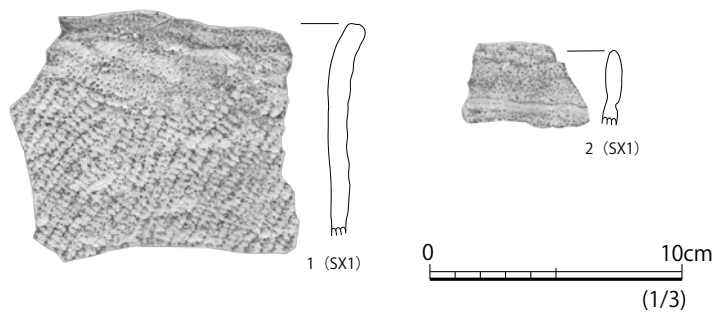
- 1層 10YR 3/1 黒褐色土 しまり・粘性あり
黄色土粒 (直径 1 mm)・焼土粒
(直径 1 mm) 少量含む
- 2層 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり
黄色土粒 (直径 1 ~ 2 mm) を少量
含む
- 3層 2.5YR 4/8 赤褐色 焼土

第 64 図 SL22

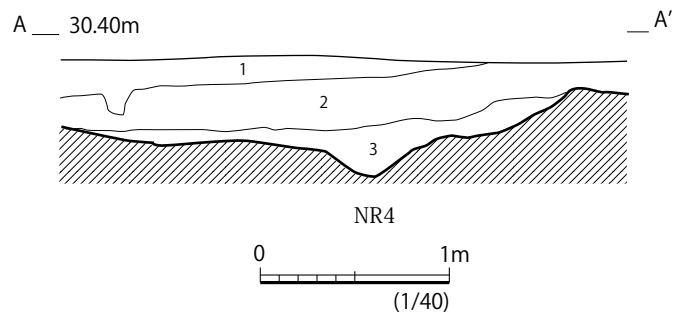
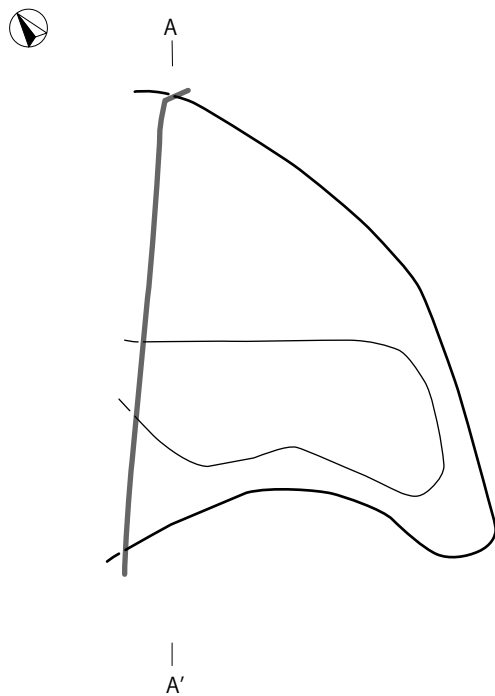


- 1層 10YR 3/2 黒褐色土 しまり・粘性あり
小軽石 (直径 2 ~ 5 mm) を含む
- 2層 7.5YR 3/1 黒褐色土 しまり・粘性弱
小軽石 (直径 2 ~ 3 mm)・細い樹痕・小
さな赤色土塊を含む

第 65 図 SX1



第 66 図 SX1 出土土器



- 1層 10YR 3/1 黒褐色土 しまり弱 粘性あり 10YR 7/8 黄橙色との混土 細い樹根 (直径 2 ~ 5 mm) が多く入る。表土
- 2層 10YR 3/1 黒褐色土 しまりあり 粘性弱 黄色土粒 (直径 1 ~ 2 mm) を少量含む 小礫 (直径 5 ~ 20 mm) を多く含む 礫 (直径 30 ~ 70 mm) ・土器片を若干含む 明黄橙色粒 (直径 5 ~ 20 mm) を若干含む
- 3層 10YR 4/1 褐灰色 しまり弱 粘性なし 礫 (直径 30 ~ 100 mm) を多く含む礫層

第 67 図 NR4

2 遺構外の出土遺物

縄文土器

縄文時代中期の土器 (第 68 図 1～11)

1 は沈線による渦巻文が見られる。2・3 は口縁部破片で隆線による文様区画が見られる。4 は口縁部に 2 列の連続した列点が巡る。5 は胴部破片で太い刻線で区画された文様が見られる。1～5 は大木 8 式に比定される。

6～8 は口縁部破片で刻線により区画された大柄な文様が施される。大木 10 式に比定される。

9～11 は中期末葉の土器である。隆線によって区画された文様が胴上半部に展開すると推定される。

縄文時代後期の土器 (第 68 図 12～第 70 図 15)

68 図 12 は隆線の結節点にボタン状貼付けが見られる胴部破片である。13 は波状口縁部破片で刺突を施された隆線が波頂から垂下する。14 は無文の口縁部下に鎖状隆線と刻線で区画された内部を連続列点で埋める文様帯が横位に展開すると思われる。12～14 は門前式に比定される。

69 図 1～3 は多数の垂下する刻線で器面に文様を描いている。文様意匠に堀之内 1 式との相似が見られる。

4・5 は斜方向に羽状縄文が見られる口縁部破片である。4 には施文を区切る沈線も見られる。6 は肥厚した口縁のみに縄文を施し下位は無文となる破片である。7・8 は直線状の縄文帯が見られる口縁部破片である。9～13 は沈線区画内に縄文が施される。69 図 4～13 は後期初頭から前葉に属すると思われる。

14～17 は口縁の装飾突起である。14 は口唇部に楕円形、15 は円形「の」字状の装飾突起である。16 は口唇部に円孔が見られる装飾突起である。17 は列点・刻線文が見られる中空の大形突起である。

70 図 1～3 は口縁端部に沿って列点文が見られる。4 は振幅の大きい 3 単位の波状口縁とみられ、無文の口縁部と縄文が施された胴部の一部である。69 図 14～70 図 4 は、加曾利 B 式に並行する後期中葉頃に属すると思われる。

70 図 5～15 は口唇部に山形突起が見られる。5・6 は帯縄文の下位に斜行刻線が見られる。7 は帯縄文の間に幅広の無文部が見られる。8・9 は口唇部が肥厚し縄文が施される。9 の山形突起の左右には瘤状突起が見られる。10 は小形浅鉢で口縁部に帯縄文が巡り、胴部は弧状帯縄文が見られる。11～15 は粗製土器と思われる。これらの山形突起が見られる土器は、縄文後期後葉と思われる。

縄文時代晩期の土器 (第 70 図 16～第 71 図 7)

70 図 16～23 は平行沈線文が見られる口縁部破片である。71 図 1～7 は平行沈線・変形工字文に 1 あるいは 2 個の粘土粒が貼付される。7 は高坏の脚部破片と推定される。

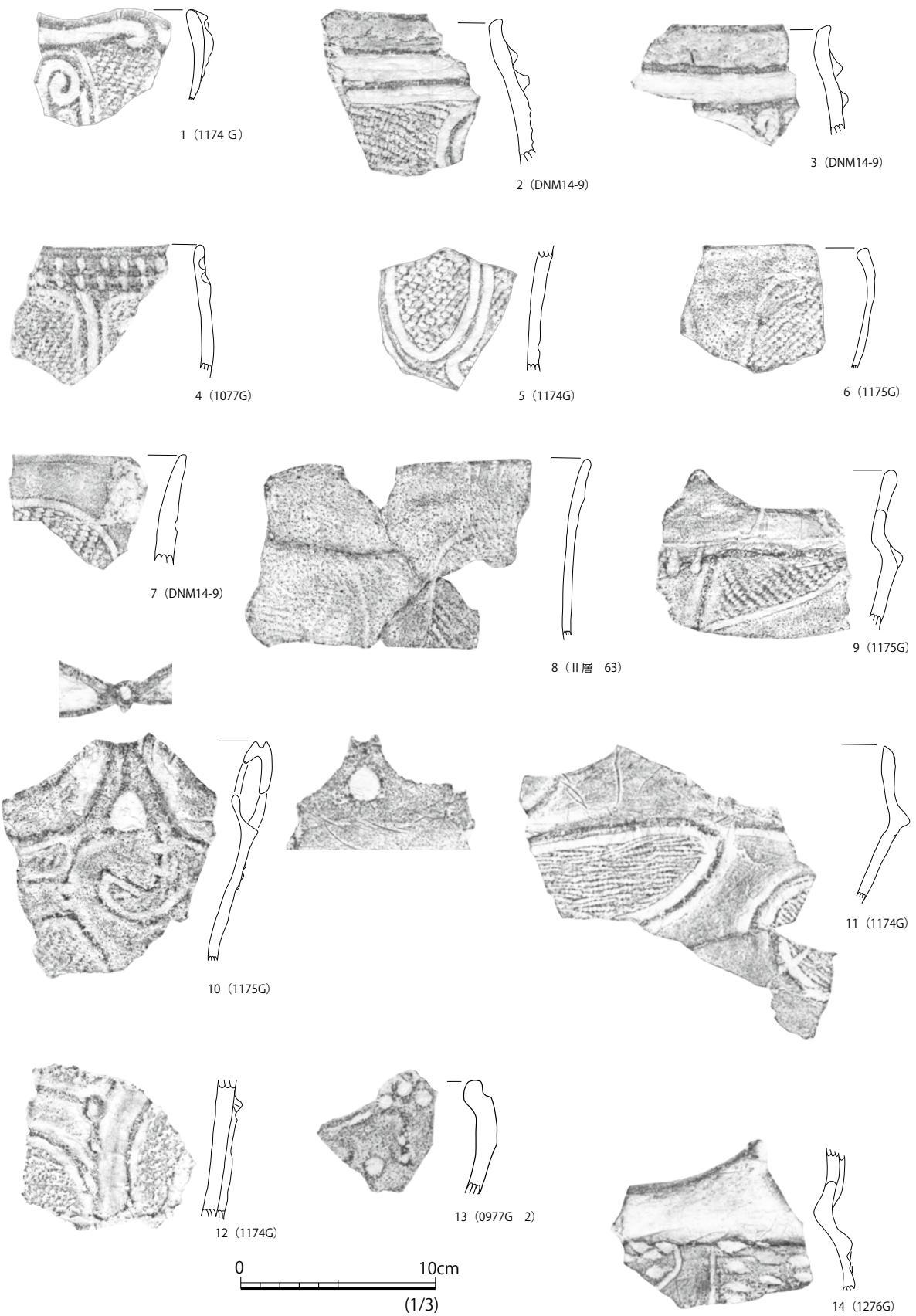
すべて晩期末葉大洞 A 式に比定される。

粗製土器 (第 71 図 8～11)

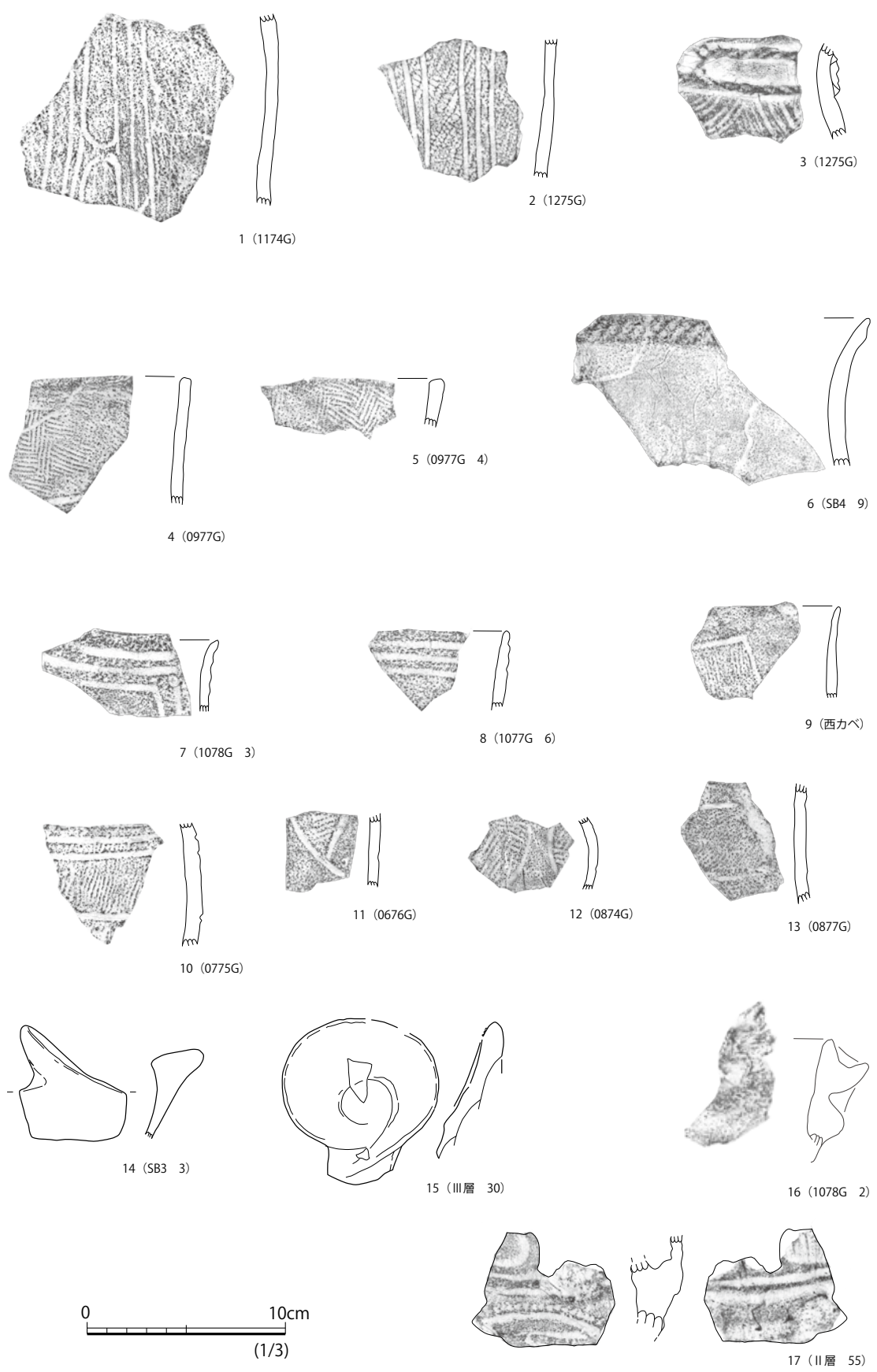
粗製ではあるが頸部のすぼまる器形的特徴が見て取れる破片を一括した。8・11 は口縁部は無文であるが胴部には縄文が施される。9 は頸部に横位の刻線が巡り無文の口縁部と縄文施文の胴部が区切られる。10 の器面は無文である。

ミニチュア土器 (第 71 図 12～14)

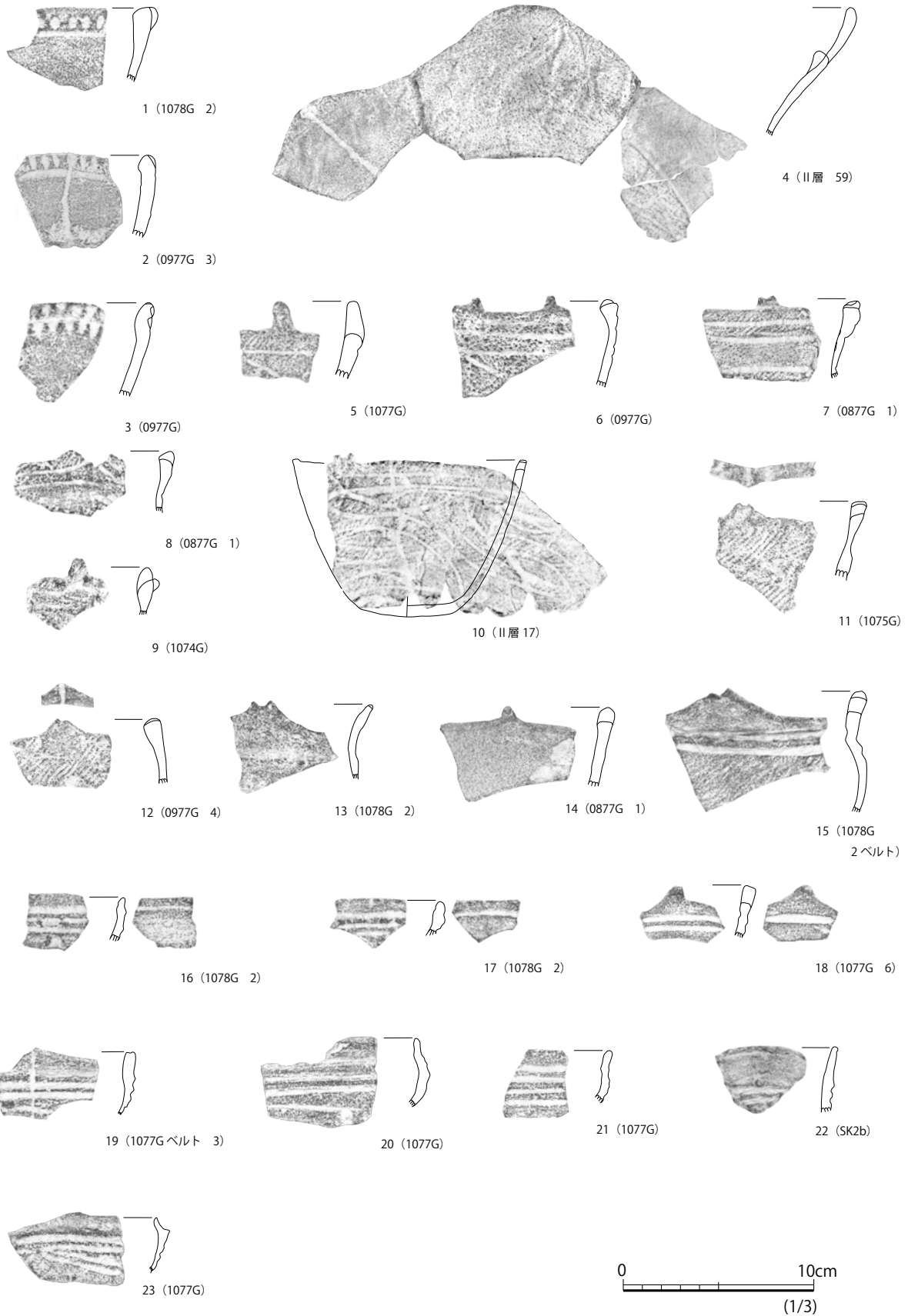
すべて平底の坏である。



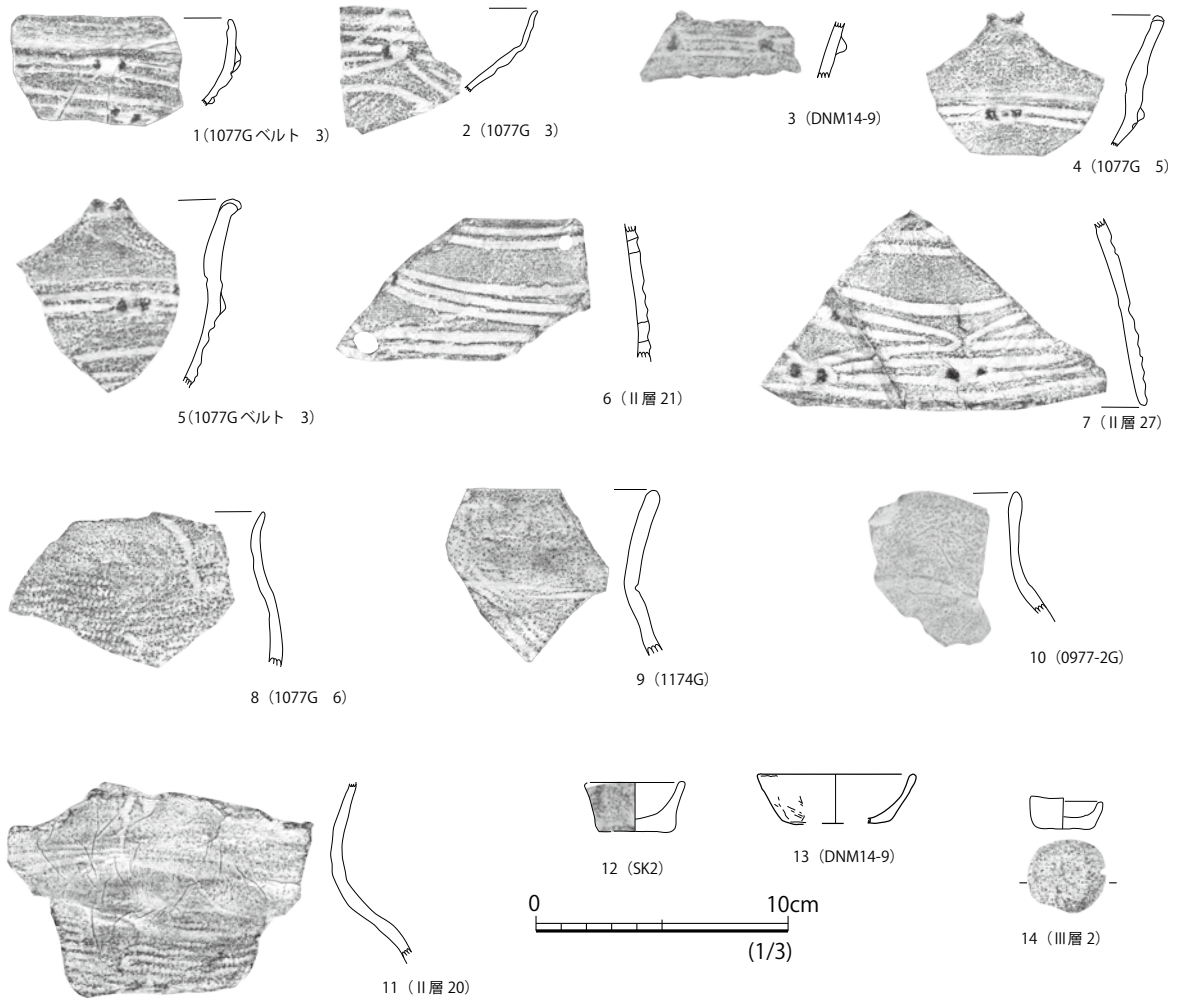
第 68 図 遺構外出土土器 (1)



第 69 図 遺構外出土土器 (2)



第70図 遺構外出土土器 (3)



第71図 遺構外出土土器 (4)

土器片製円盤 (第72図1～12)

遺構外から出土した土器片製円盤は30点であった。全て縄文土器片を円盤状に整形している。また円形を呈してはいないが、側縁部に明らかに切込みが観察される土器片を図示した。

石器

石鏃 (第73図1～9、図版28)

1～5の有柄と6～9無柄のものがある。1・2は二等辺三角形の身部を呈し、3・4は正三角形の身部を呈する。5は身部先端が弧状となる。

6・7は基部が抉入する。8・9の基部は直線状となる。

石錐 (第73図10・11、図版28)

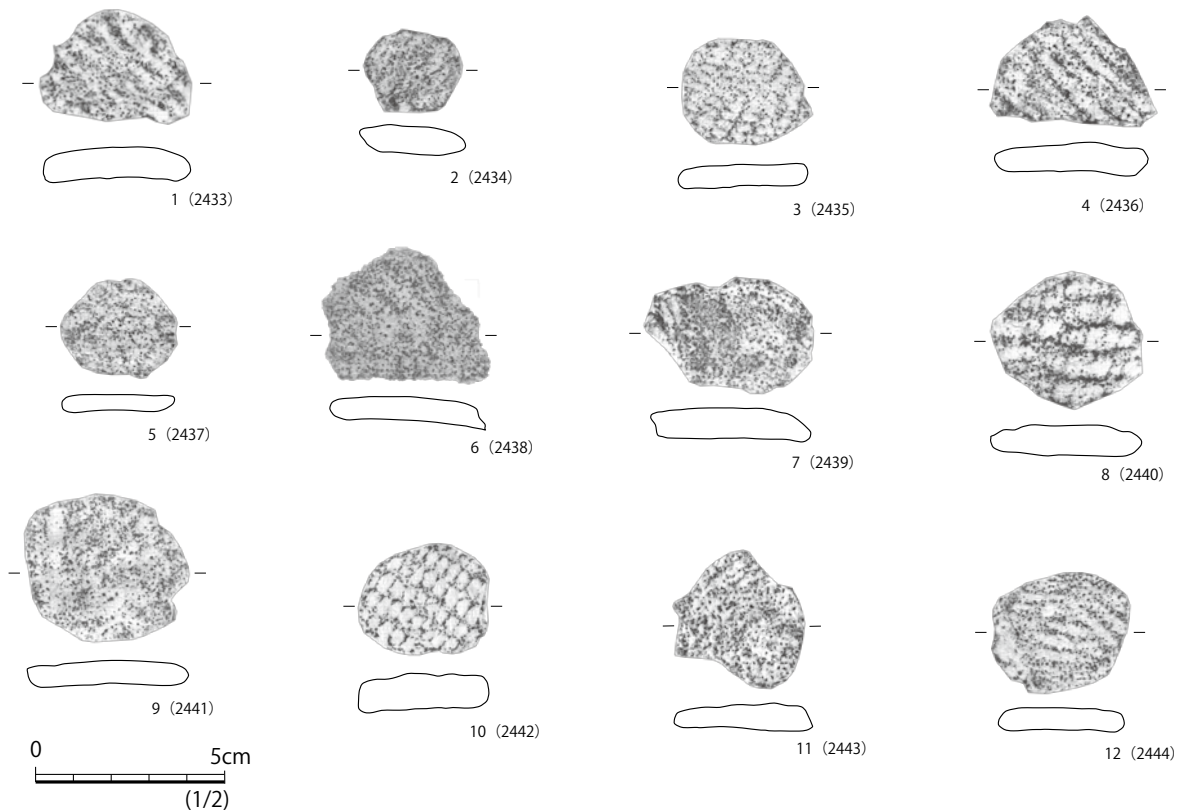
逆三角形の形状を呈する。

石匙 (第73図12、図版28)

表面の左右両側縁に入念な調整剥離が見られる。柄部には表面左側に浅い抉りを加えている。

搔器 (第73図13～21、図版28)

13・14は水滴状の形状を呈し、突出した端部両側縁に入念な調整剥離が施される。15は台形状の形状を呈し、弧を描く側縁に入念な調整剥離が見られる。16～21は不定形の形状を呈するが、側縁の一部に入念な調整剥離が施され、刃部を作出している。



第 72 図 遺構外出土土器片製円盤

磨製石斧 (第 74 図 1・2、図版 28)

いずれも先端部側の半壊品である。断面方形で側縁の一部に欠損や表面の荒れがみられるが、よく研磨されている。

磨石 (第 74 図 3・4、図版 28)

3は扁平な円形を呈し表裏面の中央に研磨痕が見られる。4は全面を研磨され周縁部の一部に敲打痕が見られる。

礫器 (第 74 図 5、図版 28)

周縁を粗く打ち欠いて利器としている。

石皿 (第 74 図 6・7、図版 28)

6・7ともに破片である。表面に研磨による窪みが見られる。

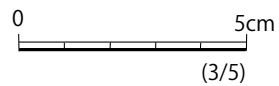
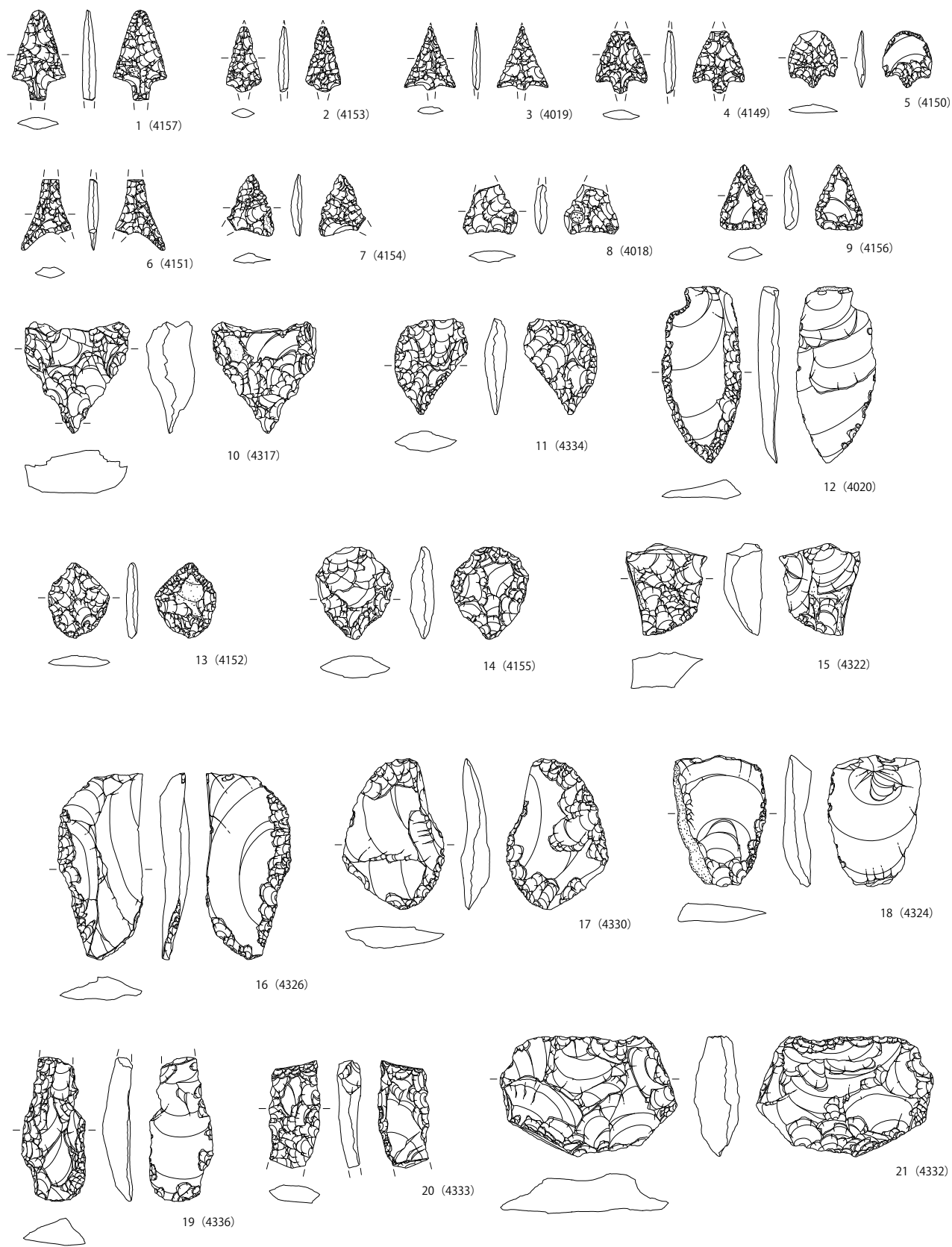
石製品

石棒 (第 74 図 8～10、図版 28)

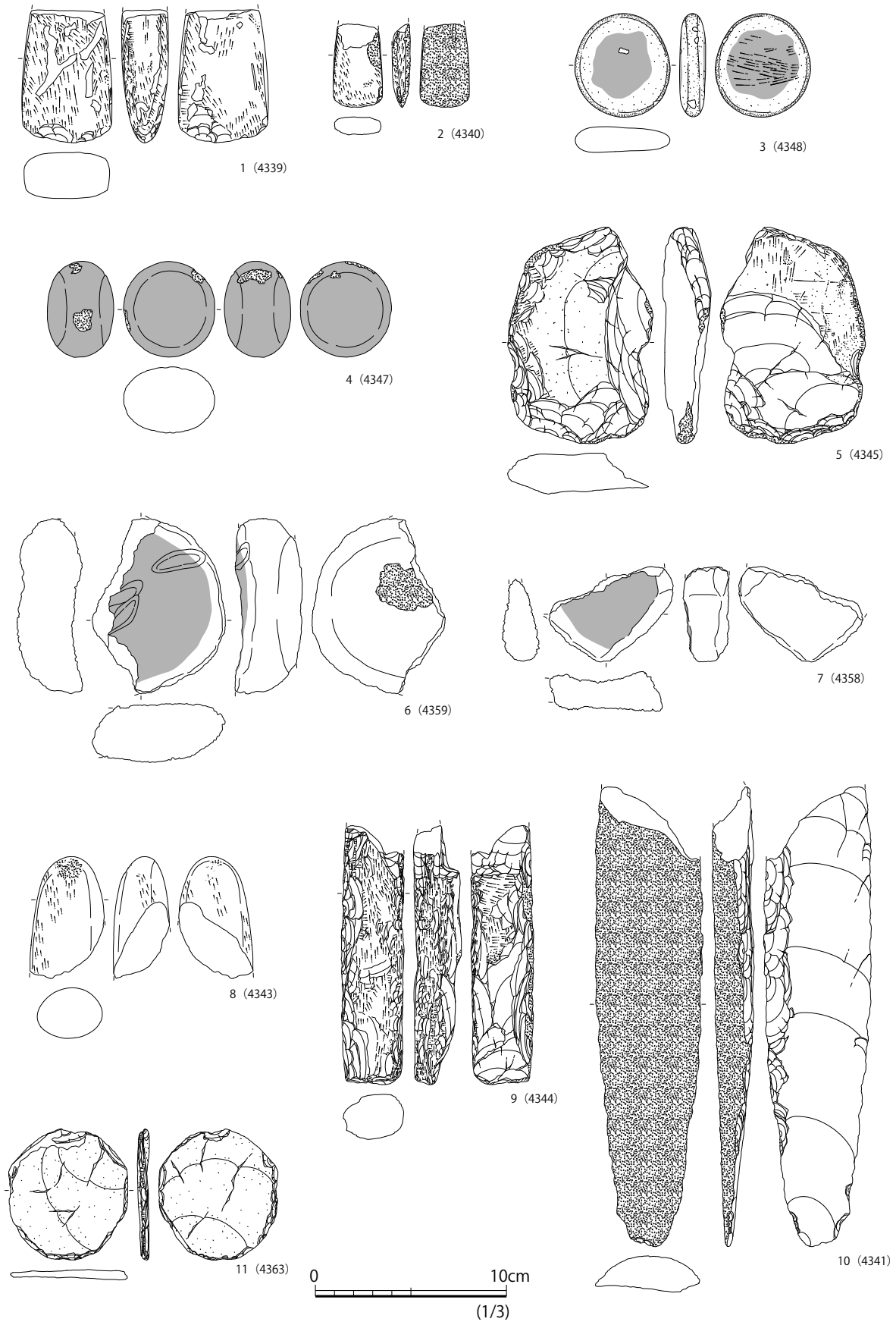
8は端部の破片である。全面がよく研磨されている。9は体部の破片である。打撃による剥離が見られる。10は体部表面の剥離破片である。片側縁部に粗い調整剥離が見られ、再加工され搔器等に転用された可能性がある。

石製円盤 (第 74 図 11、図版 28)

薄片状にはがれた石材を円形に研磨調整している。



第 73 図 遺構外出土石器 (1)



第74図 遺構外出土石器(2)・石製品

第3節 10区の調査

1 遺構と出土遺物

竪穴建物跡

SI13 竪穴建物跡 (第76・77図、図版13)

【位置】調査区北東端、0981グリッド 【規模】8.56 × 3.22 × 0.72 m 【重複】同一地点に複数の建物が重複、あるいは同一建物が拡張を繰り返している。 【出土遺物】縄文土器2 (底部)、石鏃2
【所見】建物の東半部は、調査区外に広がる。廃絶された柱穴を覆う貼床面や土層断面に壁状の立ち上がりが見られ、重複や拡張が繰り返されたと推定されるが、重複数や拡張回数は明らかにできなかった。調査ができた西半部の床中央には、炉と思われる焼土を検出した。

SI14 竪穴建物跡 (第78～82図、図版13・14・29・30)

【位置】調査区南西、1079・1080グリッド 【規模】7.4 × 7.0 × 0.4 m 【重複】同一地点に少なくとも4基以上の重複、あるいは同数の拡張が行われている。SK81・南側にはSI15が重複する、先後関係は不明。 【出土遺物】縄文土器10(中期中～末葉)、搔器1・石棒2 (被熱し破断)
【所見】北側の半円弧を描く壁状の立ち上がりの範囲内で検出された周溝・柱穴・炉跡をSI14とした。柱穴を結び円弧状をなす周溝と炉跡の数から、複数の竪穴建物が重複しているようであるが、その基数は把握できなかった。

SI15 竪穴建物跡 (第78・83図、図版30)

【位置】調査区南西、1079・1080・1179・1180グリッド 【規模】7.7 × 7.5 × 0.3 m
【重複】SI14・SK80・86・87・89・90・SK97 先後は、SI15 → SK86 → SK90 と推定されるが、その他の遺構との関係は不明。 【出土遺物】ミニチュア土器(注口)、石鏃4・調整剥片2
【所見】SK86・90の破壊を免れた焼土を炉跡と推定し、これを中心に半径約4.0mの円内に群集する柱穴を建物跡とした。

SI16 竪穴建物跡 (第78図)

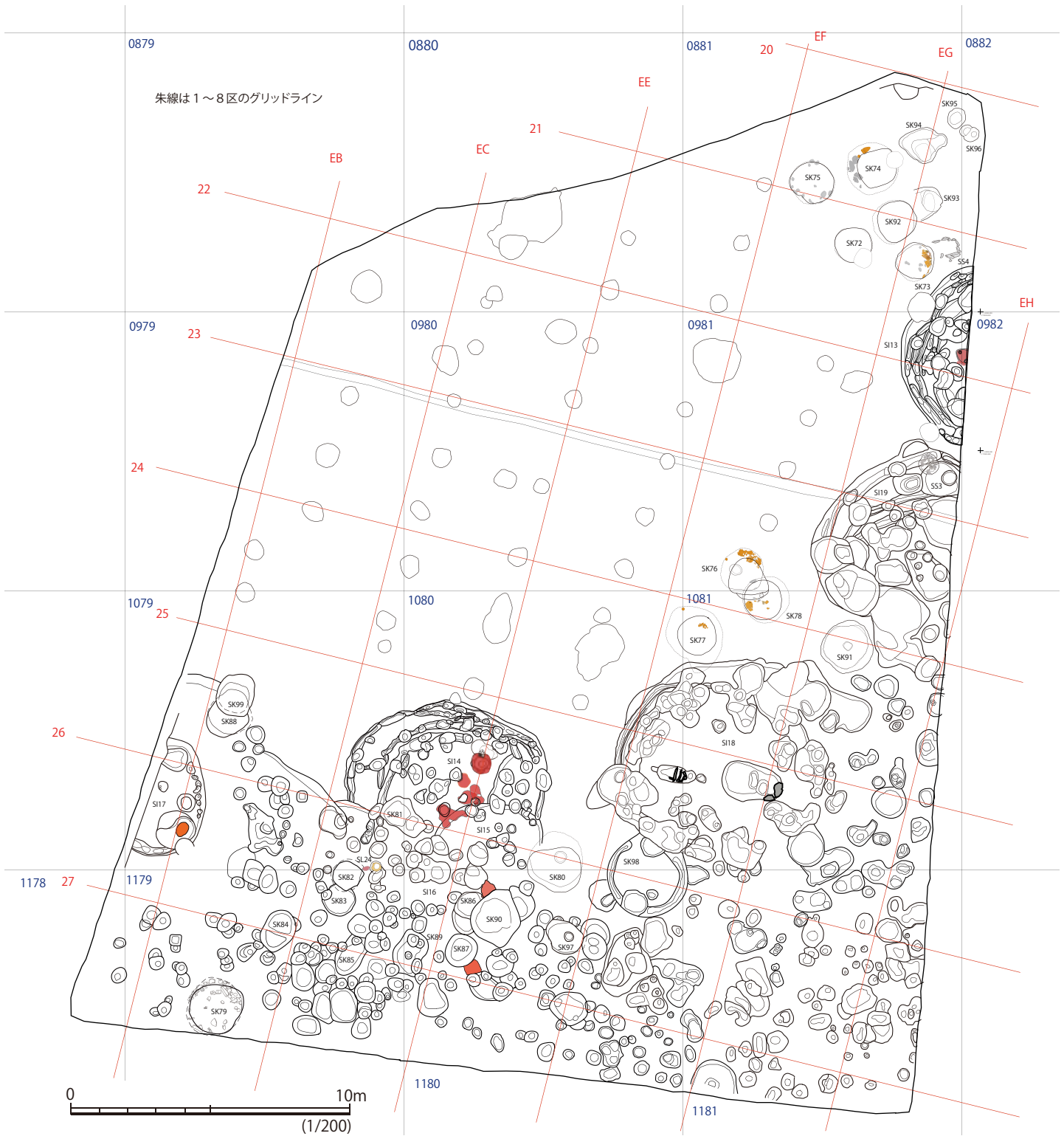
【位置】調査区南西、1079・1080・1179・1180グリッド 【規模】5.8 × 5.8 × 1m
【重複】SI15・SK86・87・89・90・97 先後はSI16 → SK87 と推定される。その他の遺構との関係については不明。 【所見】SK87の破壊を免れた焼土を炉跡と推定し、これを中心に円形に囲む柱穴群を建物跡とした。

SI17 竪穴建物跡 (第84～86図、図版14・15・30)

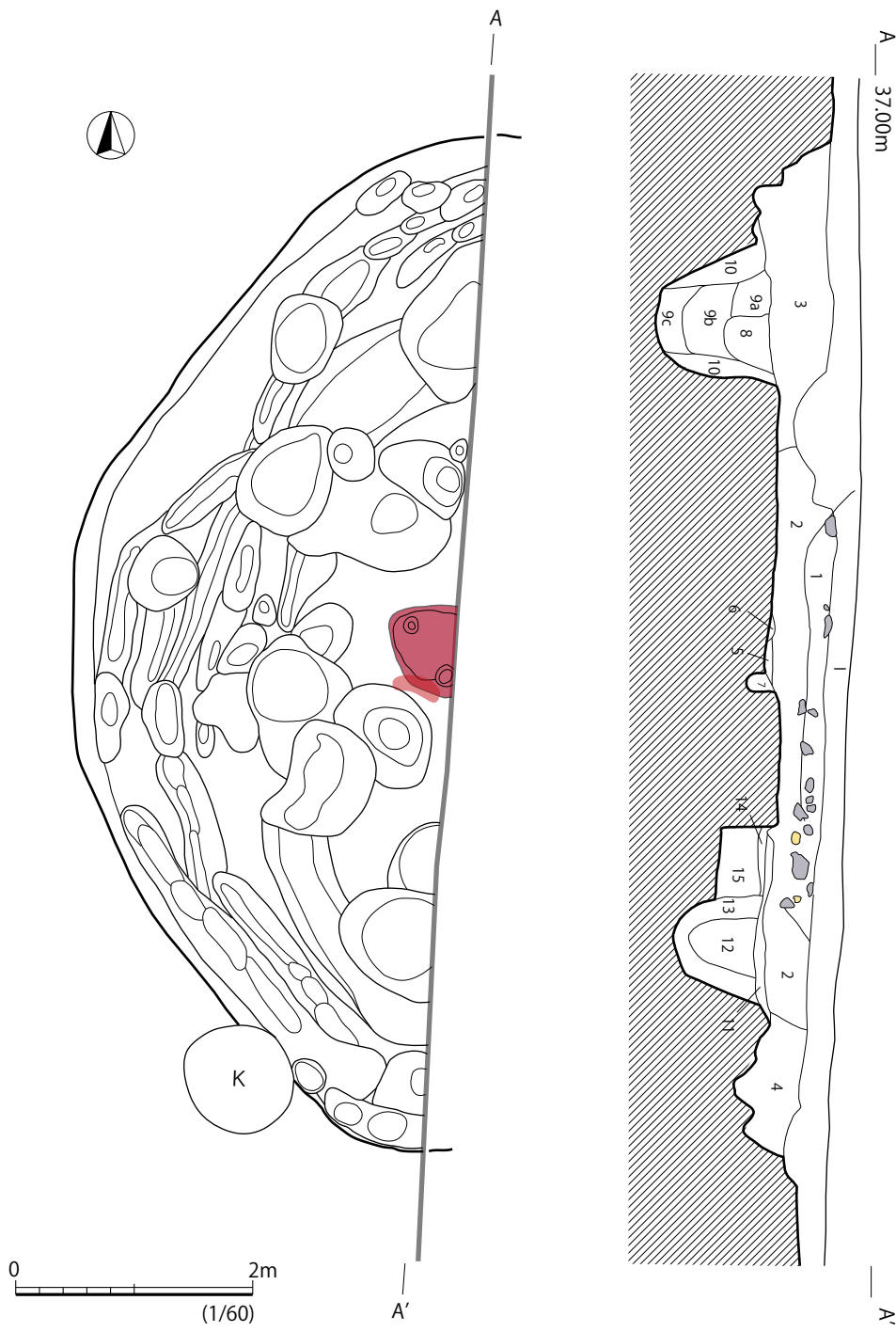
【位置】調査区南西端、1079グリッド 【規模】4.3 × 2.0 × 0.6 m
【出土遺物】縄文土器8 (後期初頭～中葉)、石鏃3・石錐1
【所見】建物の西側半分は調査区外にある。炉は検出されなかったが、床面の中央付近には、炉の存在をうかがわせる焼土層が確認された。床面直上には、弧状に配置された礫群が検出された。

SI18 竪穴建物 (第87～90図、図版30・31)

【位置】調査区中央付近、1080・1081グリッド 【規模】8.0 × 7.0 × 0.7m
【重複】SK98 先後は、SK98 → SI18 【出土遺物】縄文土器4 (中期後半)、石器6 (石鏃2・石斧3)
【所見】建物範囲内に重畳して炉が検出され、同一地点を長期間にわたり居住地として利用したと推定される。柱穴も同一箇所にも複数検出され、ほぼ同一規模の竪穴建物が連続して建て替えられた様である。最下層の床面から炉1～4が検出された。炉3は、主軸を東西方向にもち130 × 110cmの楕円形を呈する石囲い炉である。石は東辺と南辺の東隅に斜位に立てられている。深さ30cm程の掘り込みがある。炉2は、炉3の下層から焼土面が検出されたことから確認した。土層断面からさらにこの下層に炉1がある。炉1は、炉3及び炉2の西側下層に重複している。主軸をやや西に傾いた南北方向に



第 75 図 10 区遺構分布

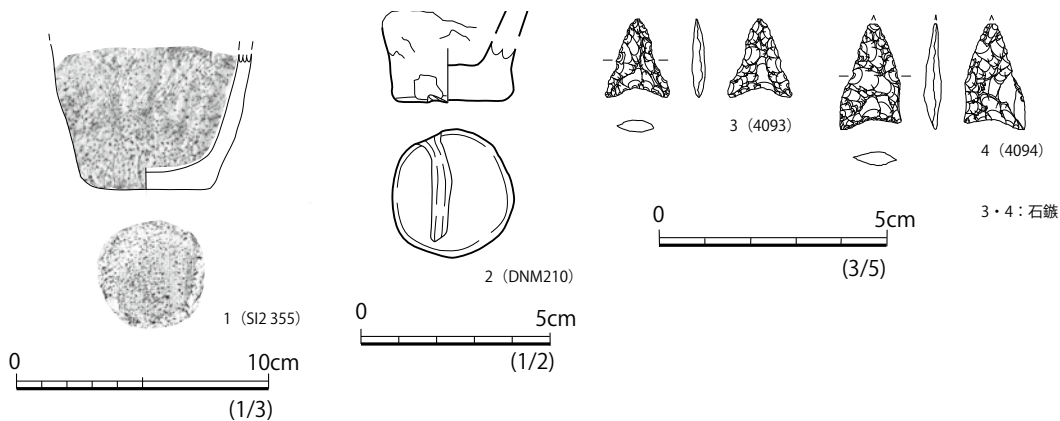


SI13

- 1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性有り 礫(φ3~5mm)を含む
- 2層 10YR4/6 褐色土 しまり・粘性有り 1層に比して礫少量
- 3層 10YR5/6 黄褐色土 しまり・粘性有り 礫(φ3~5mm)を含む
- 4層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性有り SI11北側を切る土坑の覆土か
- 5層 10YR32/1 黒色土 しまり・粘性有り 木炭を多く含む
- 6層 焼土
- 7層 10YR4/6 褐色土 しまり有り、粘性弱い

- 8層 10YR5/6 黄褐色土 しまり・粘性有り 柱痕
- 9a層 10YR5/6 黄褐色土 しまり・粘性有り 木炭含む 旧柱痕
- 9b層 10YR4/6 褐色土 しまり・粘性有り 旧柱痕
- 9c層 10YR4/6 褐色土 しまり・粘性有り 旧柱痕
- 10層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性有り 地山土がブロック状に混じる
- 11層 10YR3/4 暗褐色土 しまり強、粘性有り 床面
- 12層 10YR2/3 黒褐色土 やや柔らかい、粘性有り 柱痕
- 13層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性有り
- 14層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり強、粘性有り 11層より古い床面
- 15層 10YR3/4 暗褐色土 しまり有り・有り 底面のしまりは特に強い

第76図 SI13



第 77 図 SI13 出土土器・石器

とり、長軸 120cm 程の土器横位埋設の複式炉であったと思われるが、遺存状況はよくない。北辺に炉石が 1 点みられ、南側には掘方に対して横に穿孔し土器を横位に埋設している。土器は胴部下半のみで、土器内の土も被熱している。深さ 35cm 程で掘方西側ではほぼ垂直に立ち上がる。焼土は掘方外にも広がっている。炉 1～3 の先後は、土層断面の観察から炉 1→炉 2→炉 3 と推定される。

炉 4 は、床面中央西よりで検出された。東西方向に主軸をとり、3 個体の埋甕を伴う複式炉である。

東側には板状礫を、南側には円礫と板状礫をほぼ垂直に設置し火床の囲いとする。北側の炉石の一部は抜かれている。西側には深鉢が横位に埋設され上面を除き完形である。炉の外周には焼土が広がり、特に北側に広くみられた。焼土は 5cm 程の厚さで、石囲い炉の北側 80cm 程、東西で 110cm 程に広がり、焼土下には薄い褐色土があって、下層の床面が確認できた。炉 4 は、炉 1～3 に比べ遺存状態が良いことから、炉 1～3 より新しいと思われる。

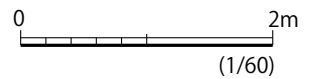
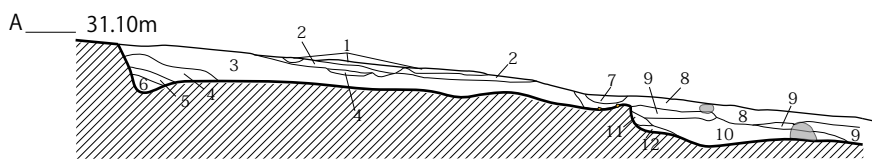
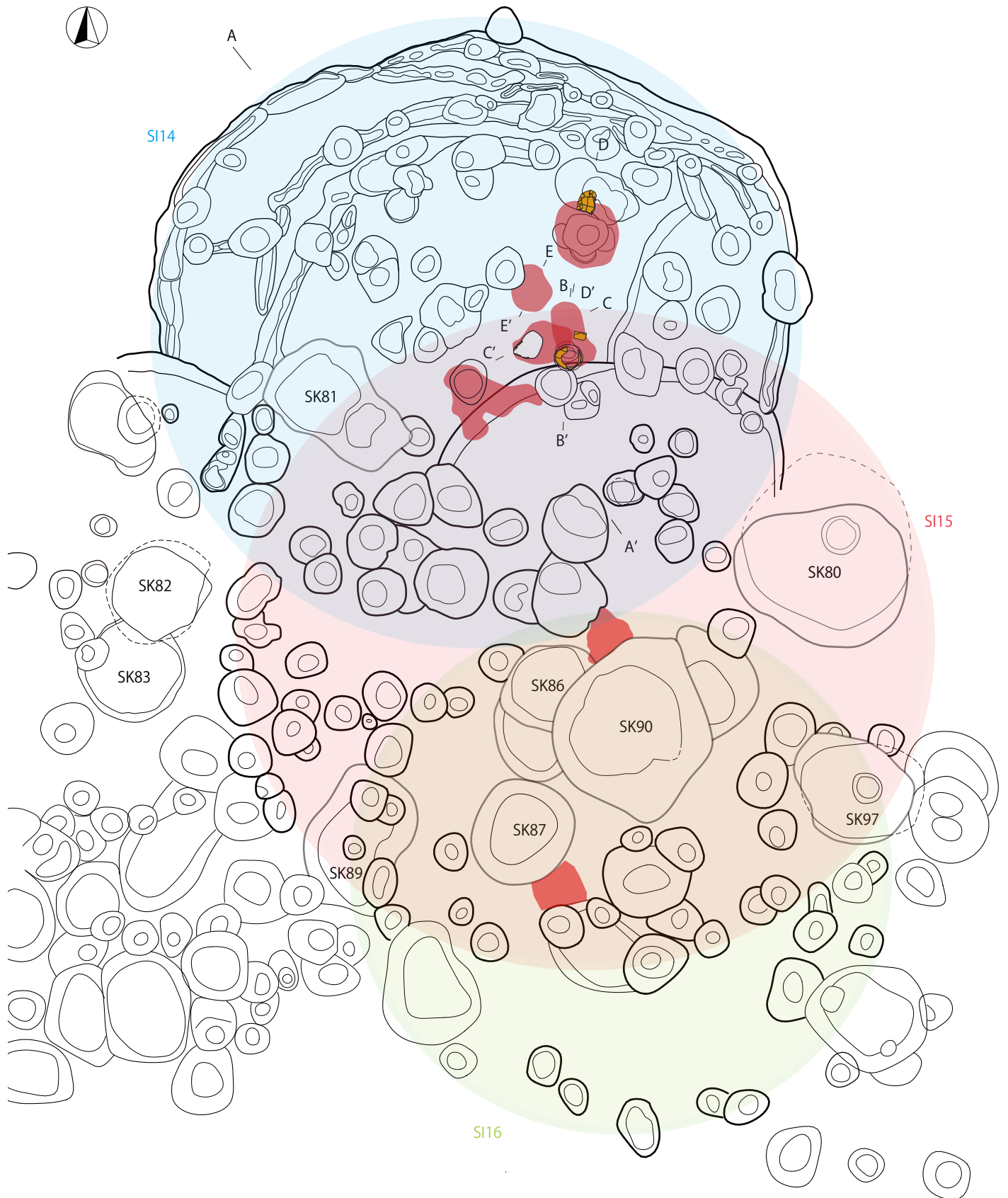
その他にも複数の炉の痕跡を確認したが、重複した建物と各々の炉との関係を明らかにできる知見は得られなかった。

SI19 竪穴建物 (第 91・92 図、図版 16・31)

【位置】調査区東端、0981・1081 グリッド 【規模】7.5 × 5.0 × 0.75 m

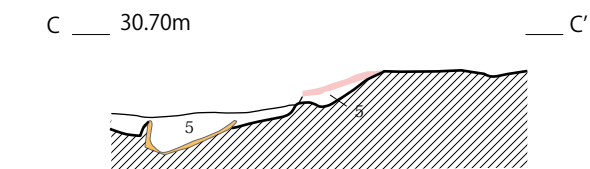
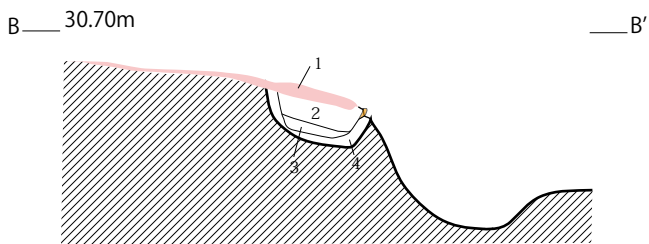
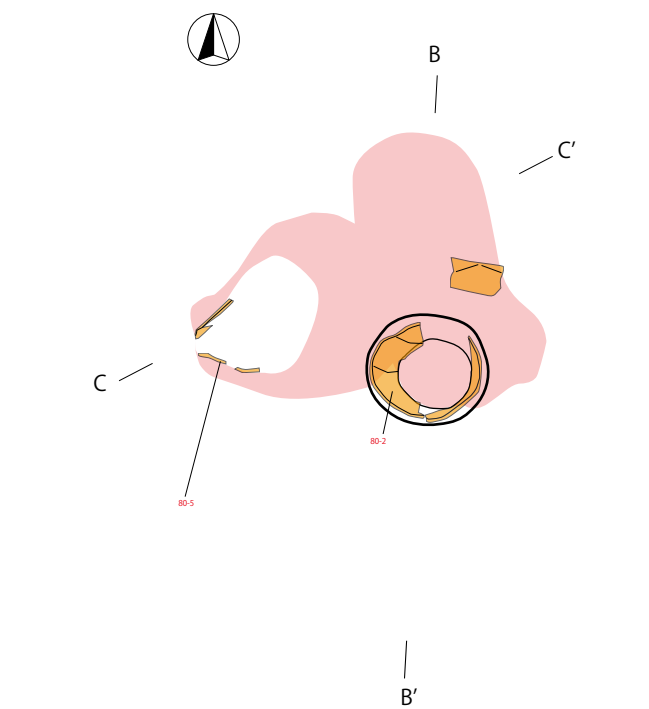
【出土遺物】縄文土器 7 (後期前～後葉)、耳飾 1、石鏃 2、搔器 1

【所見】建物北側は固く締まった貼床となっており、床下には埋め戻されたフラスコ状土坑が検出された。柱穴や周溝の数、炉の遺存状態から、同一地点での建物の重複や拡張が推定される。



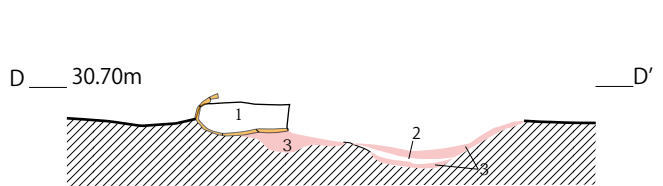
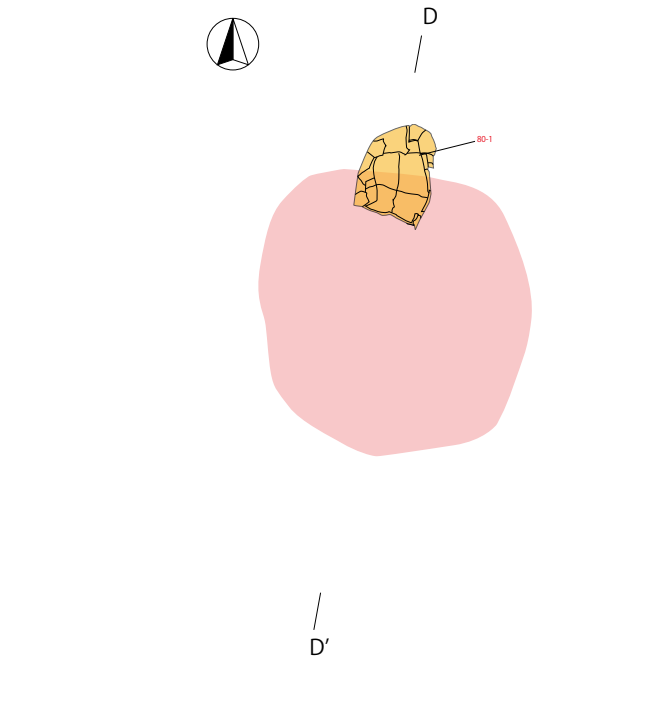
- 1層 10YR2/3 黒褐色土 基本土層IV層に類似する
- 2層 10YR1.7/3 黒色土 原形を留めない木炭主体、焼土粒を含む
- 3層 10YR3/4 暗褐色土 III層に類似、拳大の礫を含む
- 4層 10YR2/3 黒褐色土
- 5層 10YR3/4 暗褐色土 3層に類似
- 6層 10YR2/3 黒褐色土

- 7層 10YR1.7/1 黒色土
- 8層 10YR3/4 暗褐色土
- 9層 10YR2/3 黒褐色土
- 10層 10YR3/4 暗褐色土
- 11層 10YR3/4 暗褐色土 10cm前後の焼土ブロックを含む
- 12層 10YR4/6 基本土層IV層の流入土



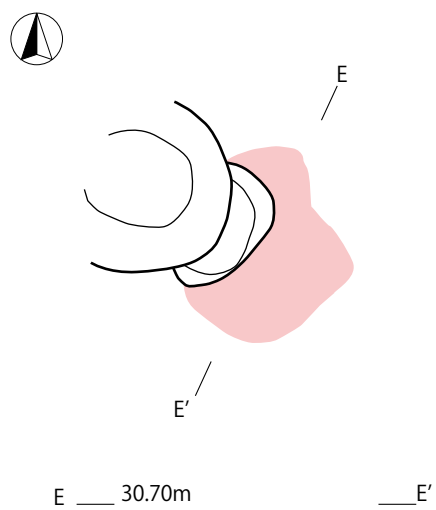
SI14 炉 1

- 1層 焼土
- 2層 10YR2/3 暗褐色土 しまり・粘性有り
- 3層 10YR4/6 褐色土 しまり・粘性有り
- 4層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性有り
- 5層 10YR4/6 褐色土 しまり・粘性有り



SI14 炉 2

- 1層 10YR2/2 黒褐色土 しまり・粘性有り 木炭を多く含む
- 2層 10YR2/3 黒褐色土 しまり・粘性有り 焼土を多く含む
- 3層 焼土 硬く焼き縮まった火床面

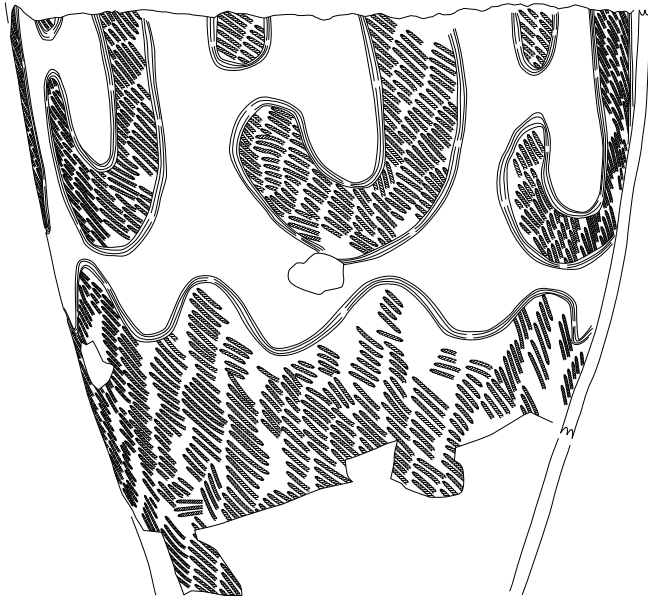


E ___ 30.70m ___ E'

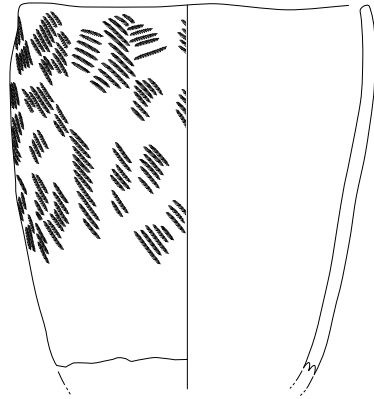


SI14 炉 3

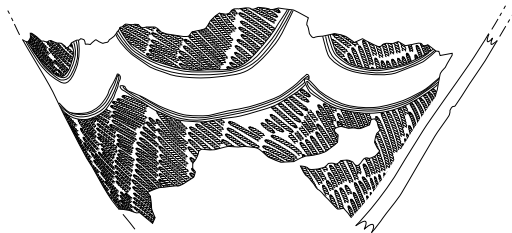
第79図 SI14 炉



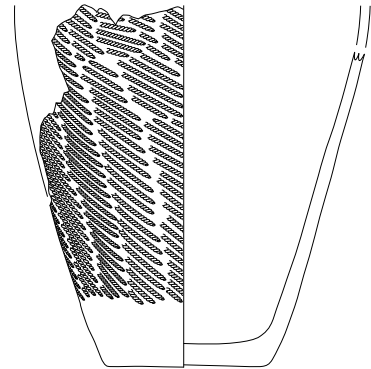
1 (SI3 ウメガメ 1)



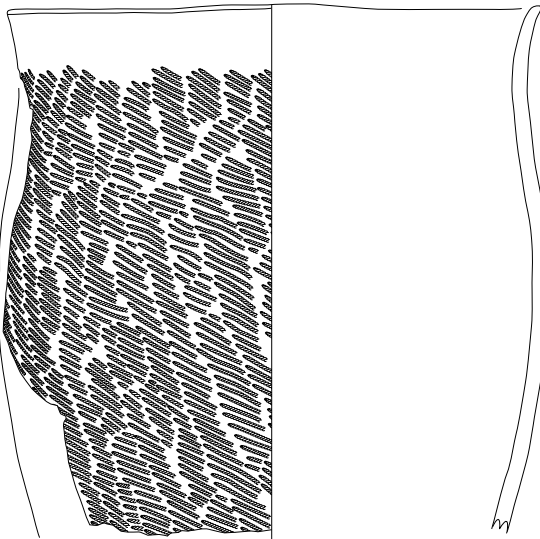
4 (SI3 ウメガメ 2 5)



2 (SI3 ウメガメ 2)



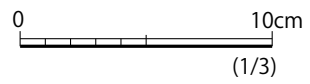
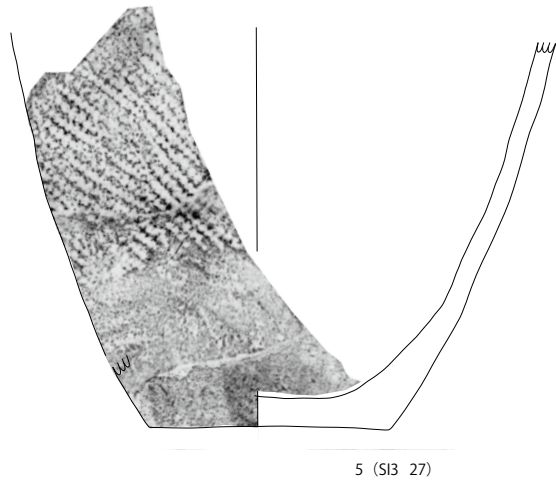
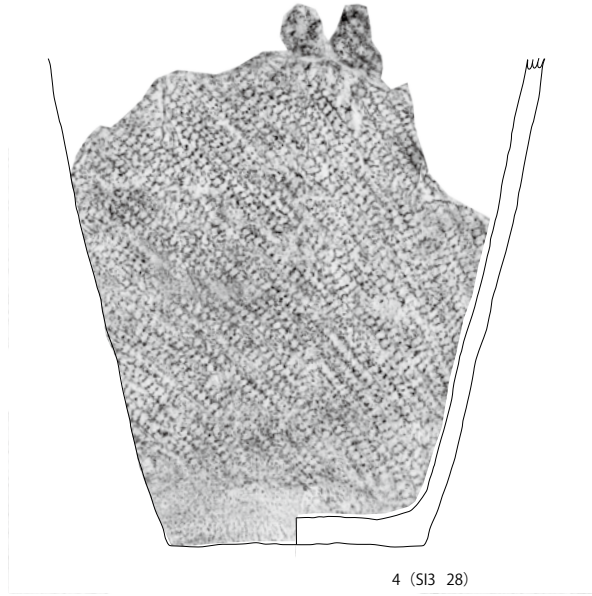
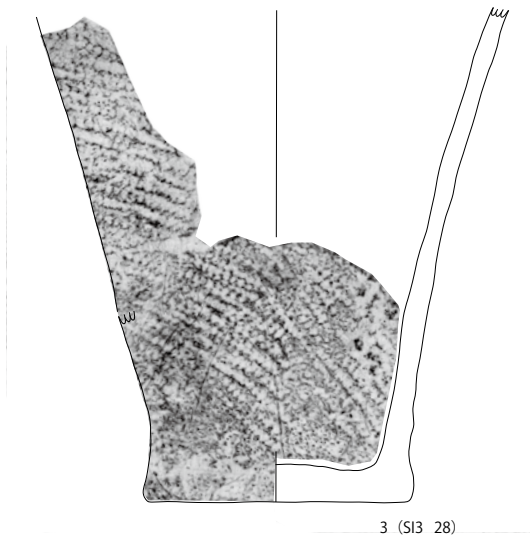
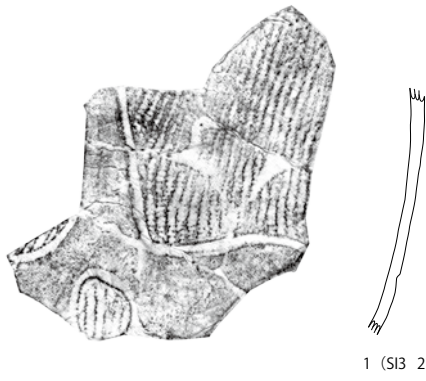
5 (SI3 焼土 04)



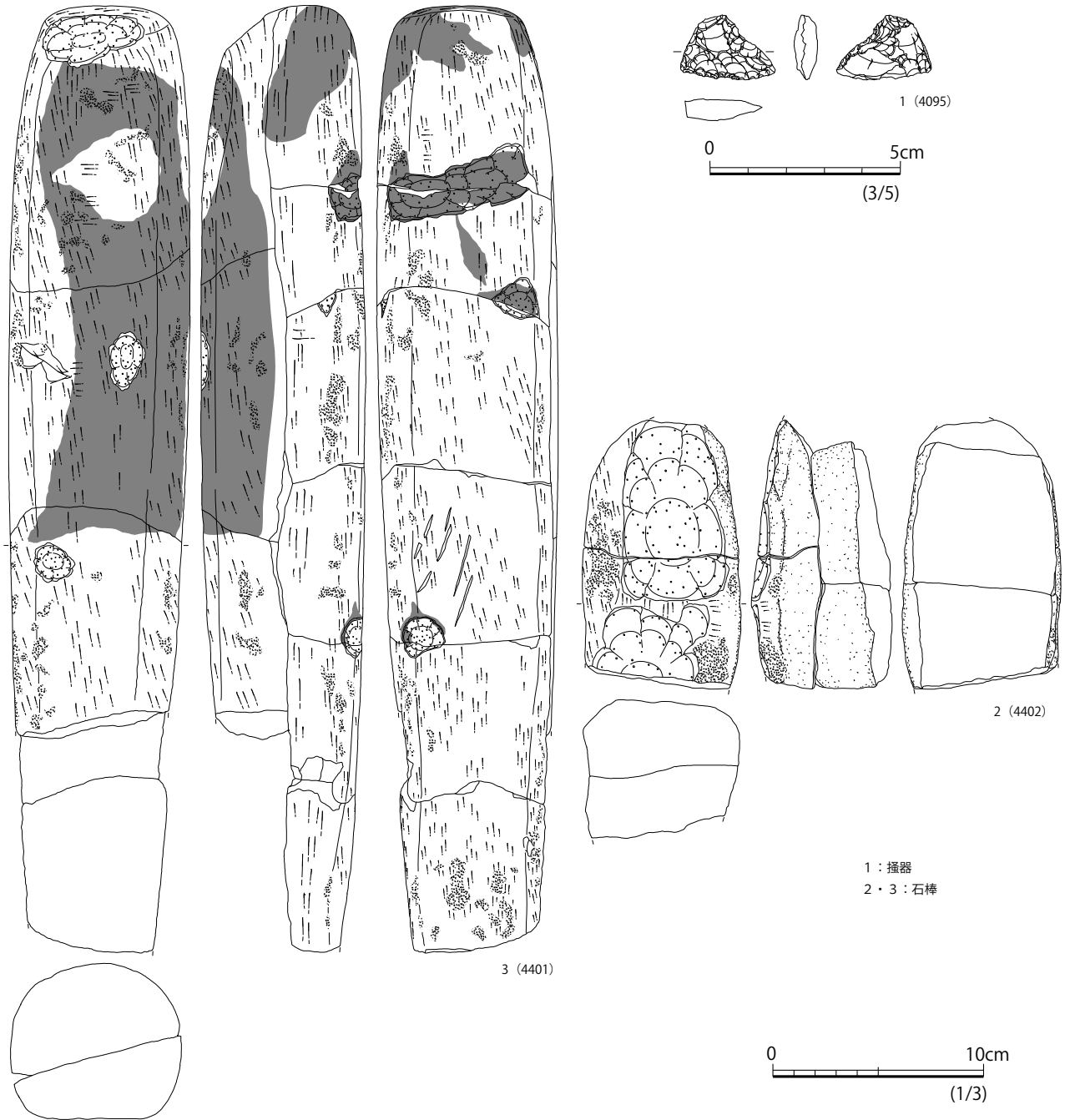
3 (SI3 ウメガメ 2)



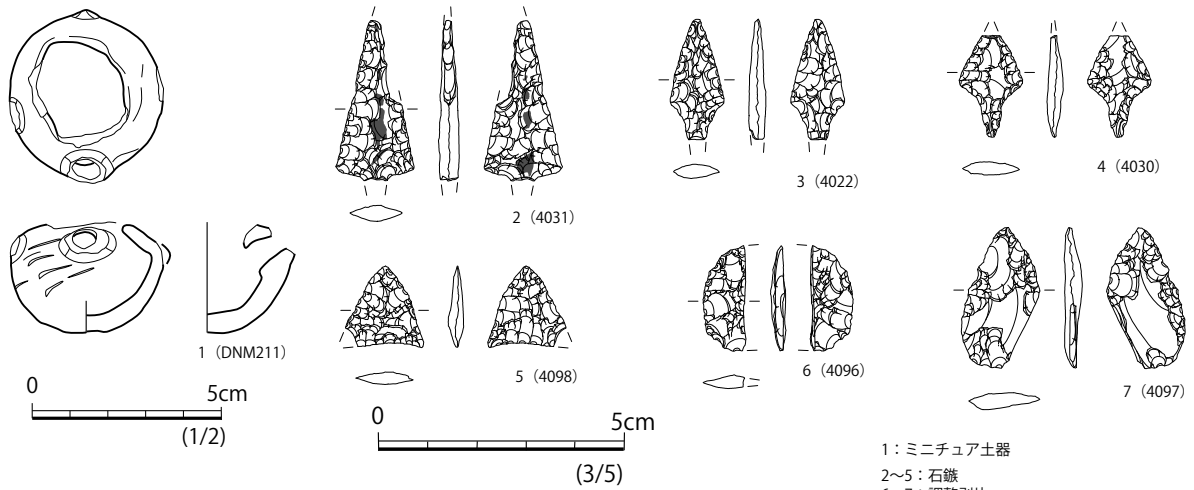
第 80 図 SI14 出土土器 (1)



第 81 图 SI14 出土土器 (2)



第 82 図 SI14 出土石器

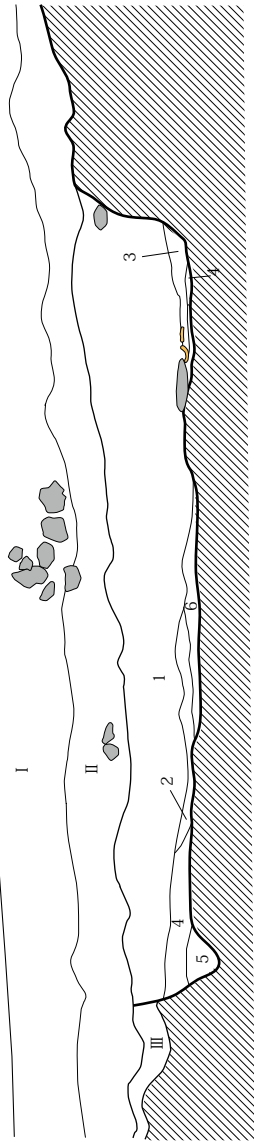


第 83 図 SI15 出土ミニチュア土器・石器

A—31.00m

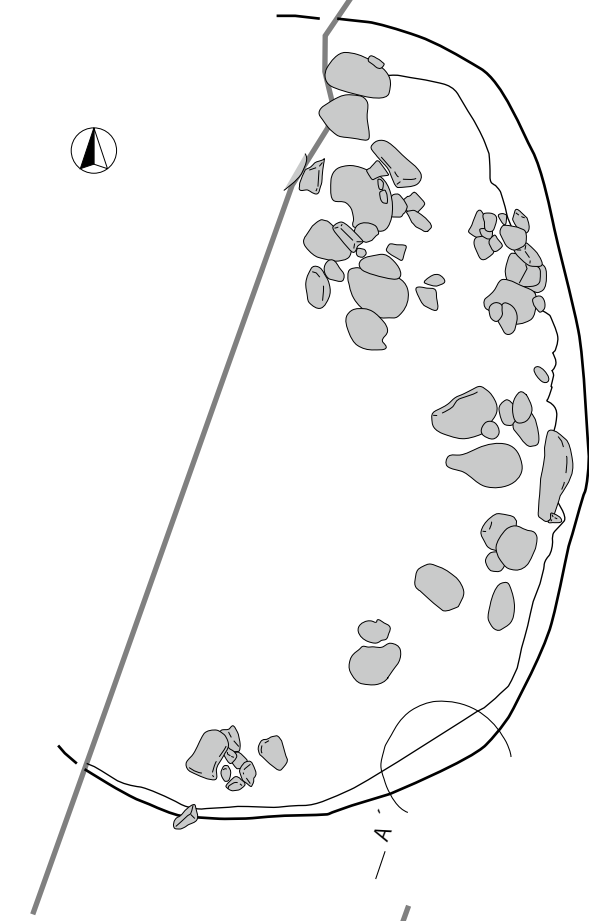
A'

- 1層 10YR3/4 暗褐色土 締めり有り、粘性有り
- 泥岩 (～φ5mm～)10%、その他礫 (～φ1cm～)1%、III層に似る
- 2層 10YR3/4 暗褐色土 締めり有り、粘性有り 焼土粒を含む。
- 3層 10YR3/4 暗褐色土 締めり有り、粘性有り
- 1層に似るが明色で礫を含まない。
- 4層 焼土層、焼骨片・木炭を含む。
- 5層 10YR4/6 褐色土 締めり有り、粘性有り II層とIV層の混土
- 6層 焼土層、灰及びその周辺の焼土と考えられる。



A—

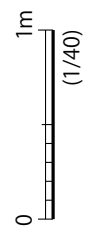
A'



床面上礫出土状況

B-B'

- 1層 焼土層
- 2層 10YR3/4 暗褐色土 締めり有り、粘性有り 木炭を僅かに含む
- 3層 10YR3/3 暗褐色土 締めり有り、粘性有り 焼土ブロック (～φ1cm～)・木炭を僅かに含む
- C-C'
- 1層 10YR3/4 暗褐色土 締めり有り、粘性有り
- 2層 10YR3/4 暗褐色土 締めり有り、粘性有り ロームブロック (～φ1cm～)を多く含む



B—30.00m

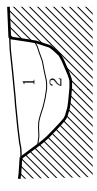
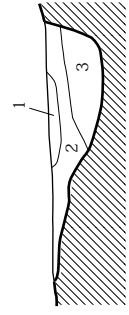
C—30.00m

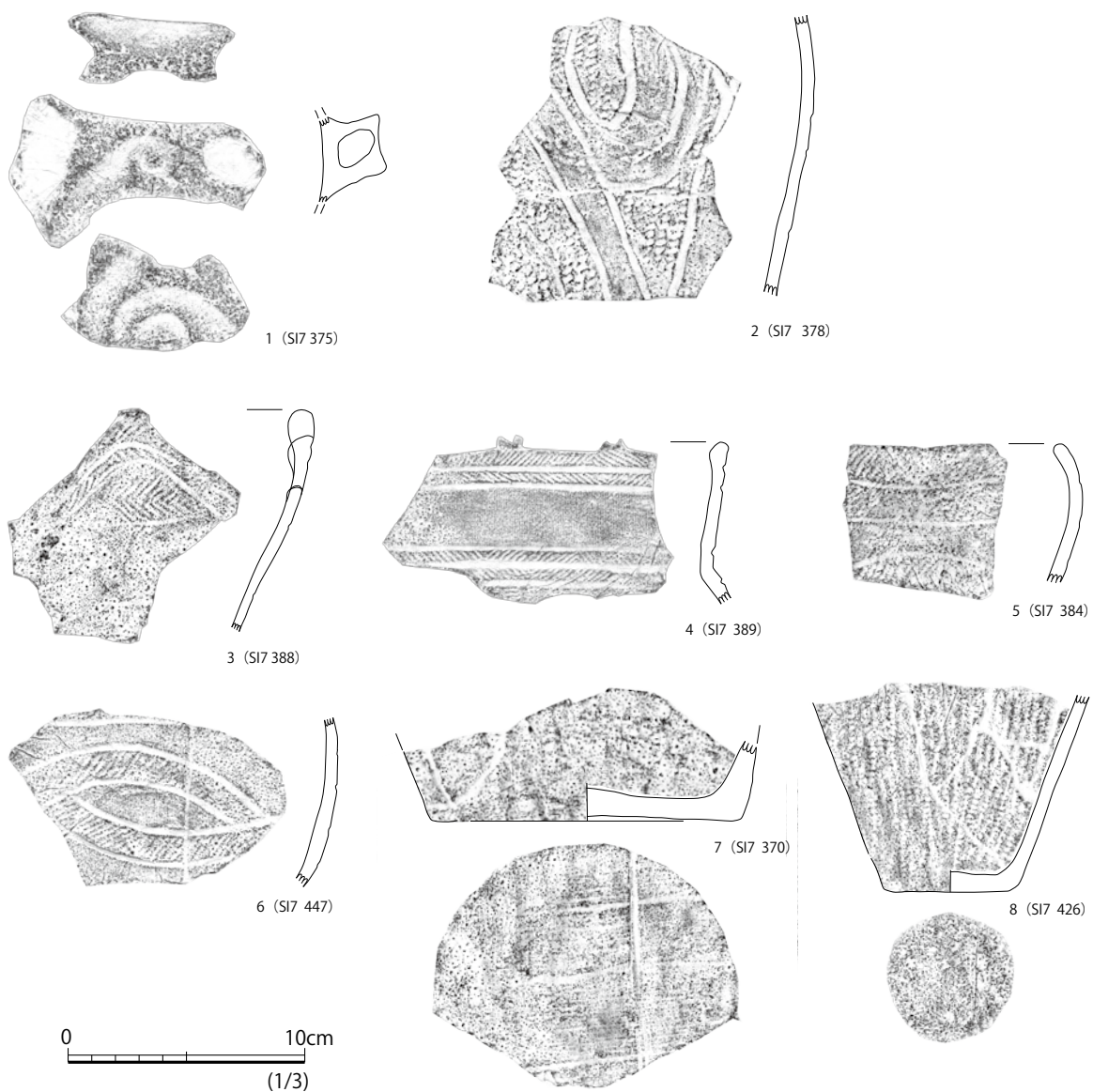
C'

B'

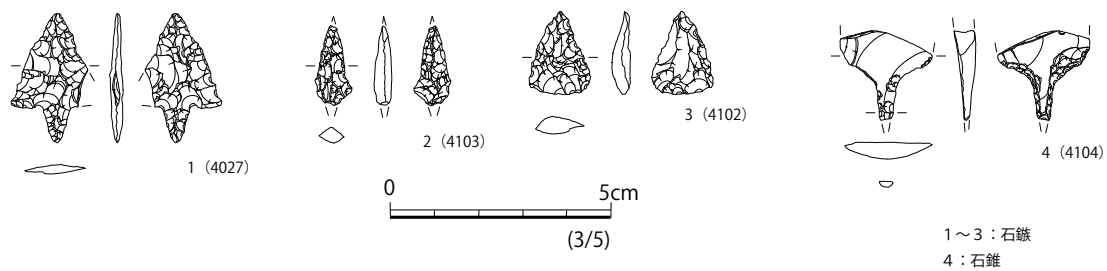
B'

C'

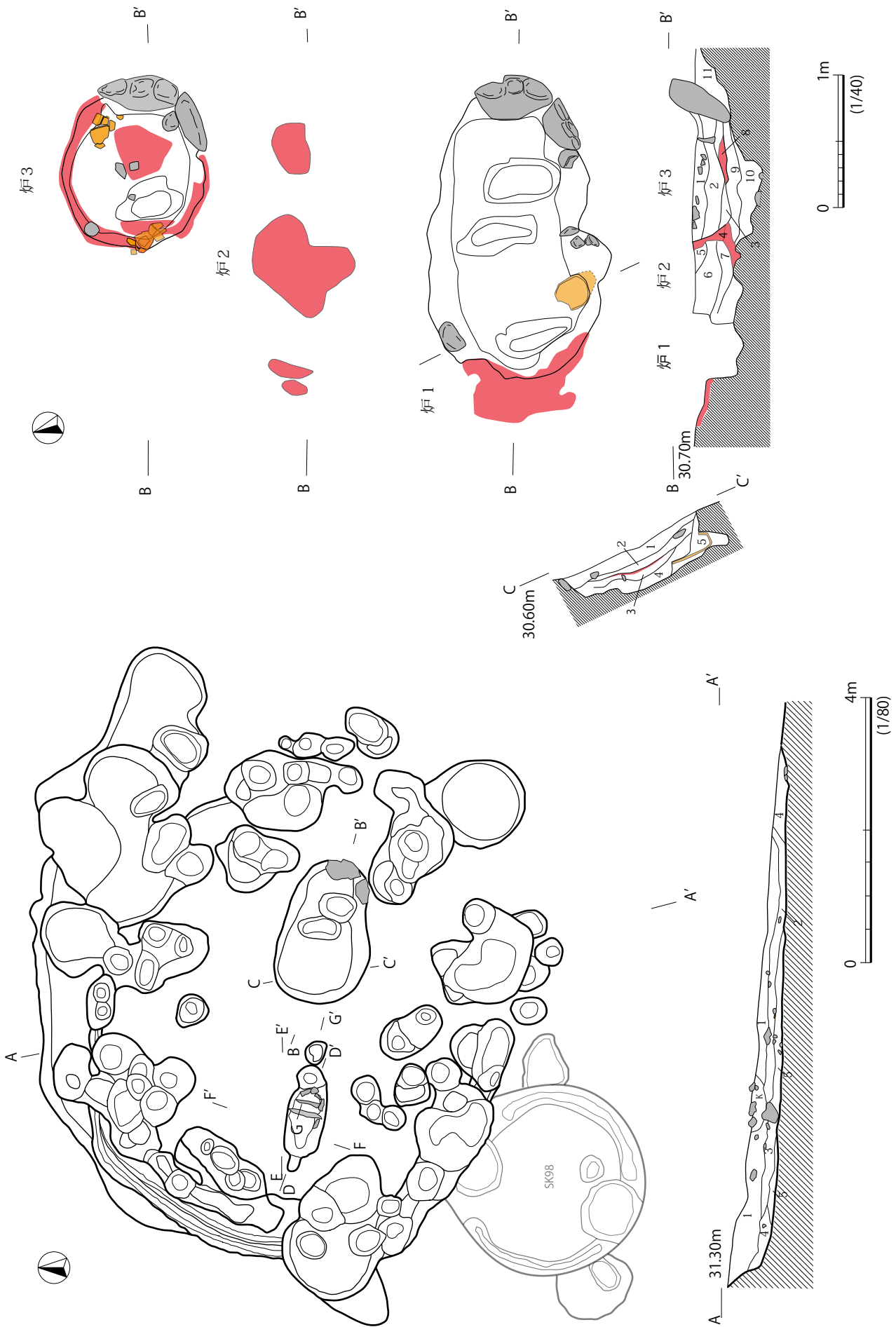




第 85 図 SI17 出土土器



第 86 図 SI17 出土石器



第 87 图 S118 (1)

S118 土層説明

A—A'

- 1層 10YR6/4 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 礫(10～200mm)少量、黄粒子(1～5mm)多量に含む
- 2層 10YR3/3 暗褐色土 しまり・粘性あり 礫(20～50mm)少量、黄粒子(1mm前後)多量、炭化物少量含む
- 3層 10YR5/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 礫(20～50mm)・黄粒子(1mm前後)少量含む、
- 4層 10YR5/6 黄褐色土 しまり・粘性あり 礫(10～20mm)若干、黄粒子(1mm前後)少量、炭化物若干含む
- 5層 10YR4/4 褐色土 しまり・粘性あり 礫(10～20mm)少量、黄粒子(1～5mm)多量に含む

B—B'

- 1層 10YR4/4 褐色土 しまり・粘性あり 黄褐色土(1～5mm)・礫(20～50mm)少量含む
- 2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり、粘性あり 焼土粒子(1～5mm)若干含む
- 3層 10YR4/4 褐色土 しまり・粘性あり 黄褐色土(1mm)若干含む
- 4層 2.5YR3/4 暗赤褐色焼土 しまり・粘性あり
- 5層 5YR3/1 黒褐色土 しまり・粘性あり 炭化材料(2～3mm)・焼土(1mm)少量含む
- 6層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 黄褐色土(2～3mm)多量、礫(10～30mm)若干含む
- 7層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり、粘性あり 上端に炭化層うすく入る 焼土(1～2mm)多量に含む、
- 8層 2.5YR3/6 暗赤褐色焼土
- 9層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり、粘性あり 黄褐色土(1mm)多量に含む
- 10層 10YR4/4 褐色土 しまり・粘性あり、粘性あり 黄褐色土(1mmを少量)、焼土(2～5mm)若干含む
- 11層 10YR4/4 褐色土 しまり・粘性あり 黄褐色土(2～3mm)少量、焼土(1mm)を若干含む

D—D'・C—C'

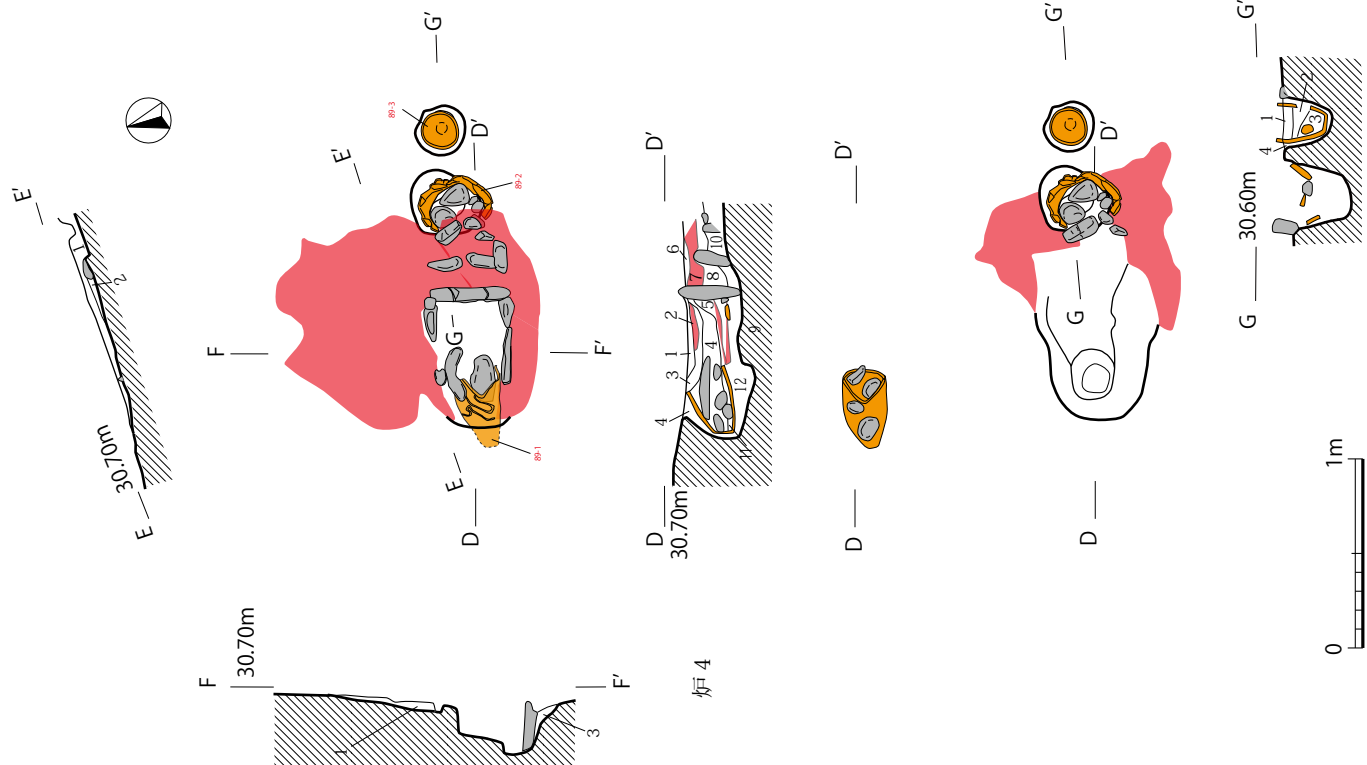
- 1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 黄褐色土(1～2mm)・焼土粒子(1mm)少量含む
- 2層 2.5YR4/6 赤褐色焼土
- 3層 10YR5/6 黄褐色土 しまり・粘性あり 黄褐色土(2～3mm)多量に含む
- 4層 10YR3/3 暗褐色土 しまり・粘性あり 黄褐色土(1mm)・焼土粒子(1mm)少量含む
- 5層 2.5YR4/6 焼土
- 6層 10YR6/4 にぶい黄褐色土 しまり・粘性やや強い 黄褐色土(5～10mm)多量に含む
- 7層 2.5YR4/6 焼土
- 8層 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり・粘性あり 焼土粒子(5mm)・黄褐色土(5～10mm)少量含む
- 9層 2.5YR4/6 焼土
- 10層 5YR2/4 暗赤褐色土
- 11層 10YR8/4 浅黄褐色粘質土
- 12層 10YR4/4 褐色土 黄褐色土(1mm)多量に含む

C—C'

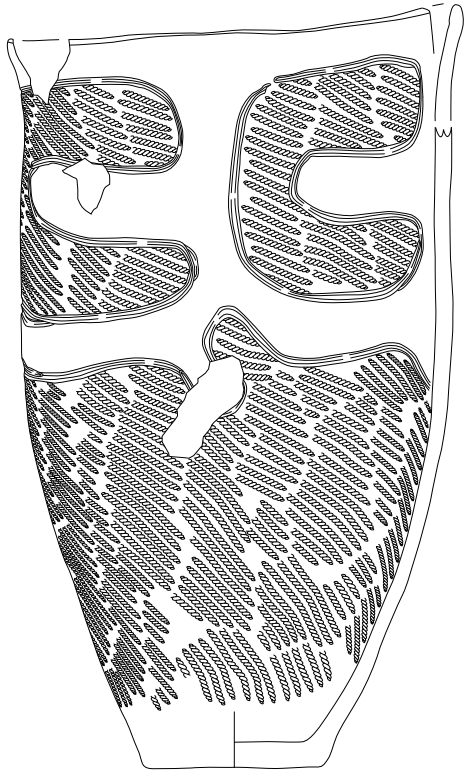
- 1層 10YR4/4 褐色土 しまり・粘性あり 小礫(5～10mm)・黄褐色土(1mm)少量、礫(20～30mm)若干含む
- 2層 10YR3/2 黒褐色土 しまり・粘性あり 炭化材料(1mm)・焼土(1～2mm)少量含む
- 3層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 黄褐色土(1～2mm)少量含む
- 4層 10YR3/2 黒褐色土 しまり・粘性あり 焼土粒子(1～3mm)多量
- 5層 10YR4/3 褐色土 しまり・粘性あり 黄褐色土(1mm)少量含む

E—E'・F—F'

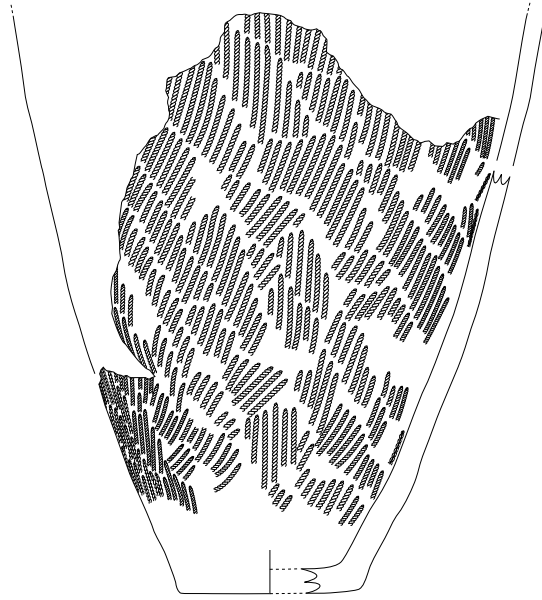
- 1層 10YR2/6 暗赤褐色焼土
- 2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり 黄褐色土(1～5mm)多量に含む
- 3層 2.5R4/8 赤褐色焼土



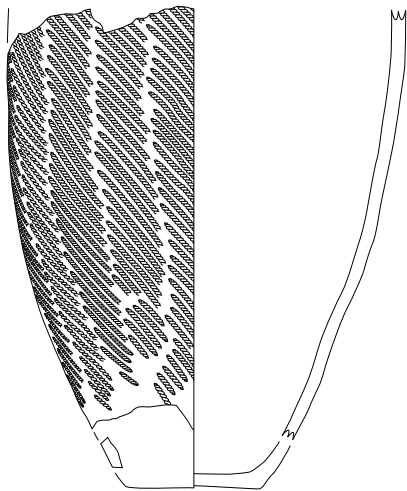
第 88 図 S118 (2)



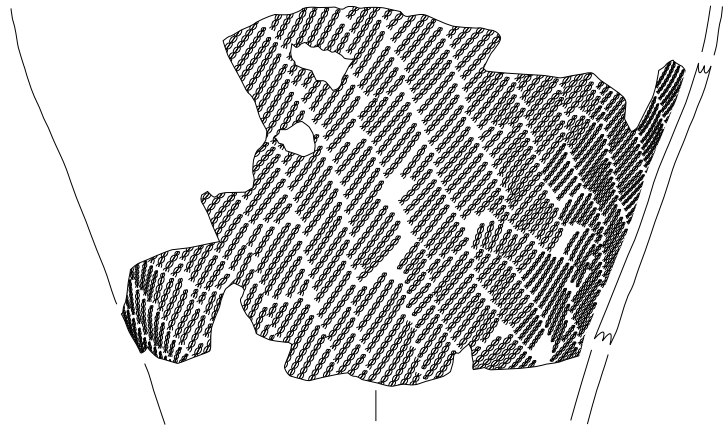
1 (SI10 炉3-2)



2 (SI10 炉8)



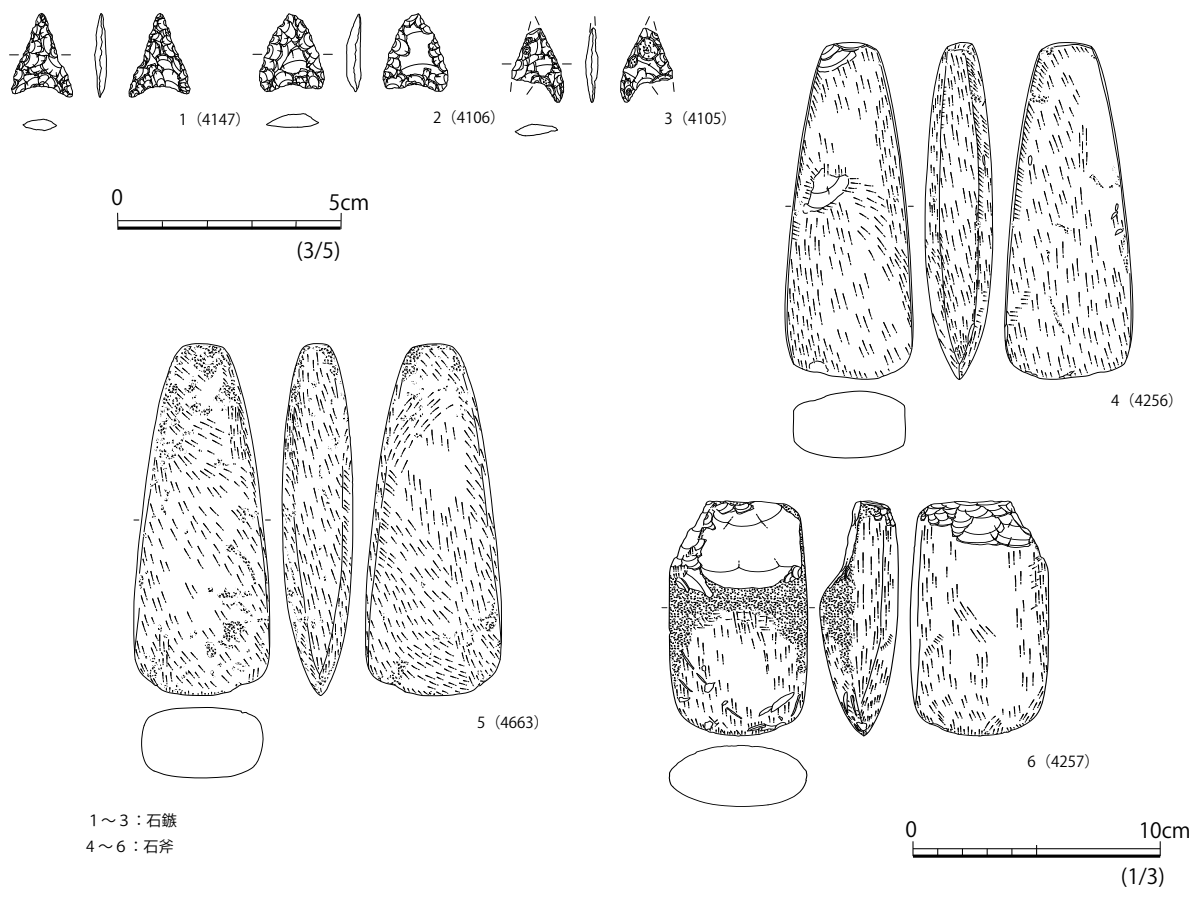
3 (SI10 炉7)



4 (SI10 炉11)



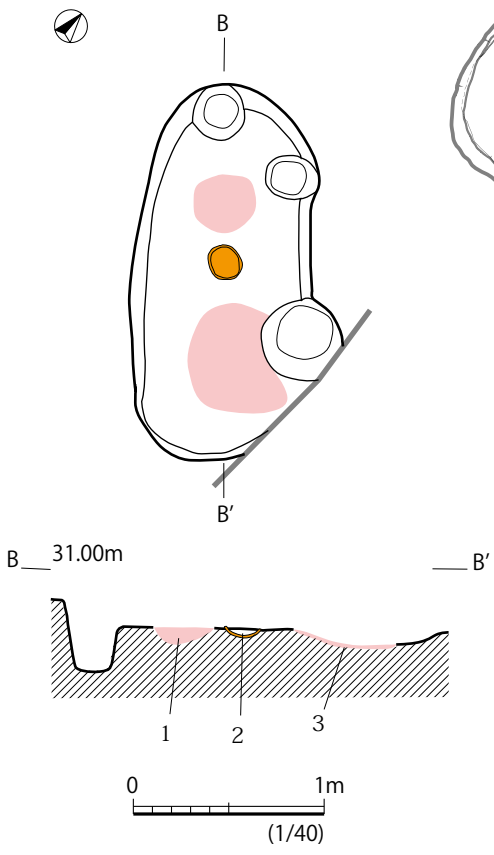
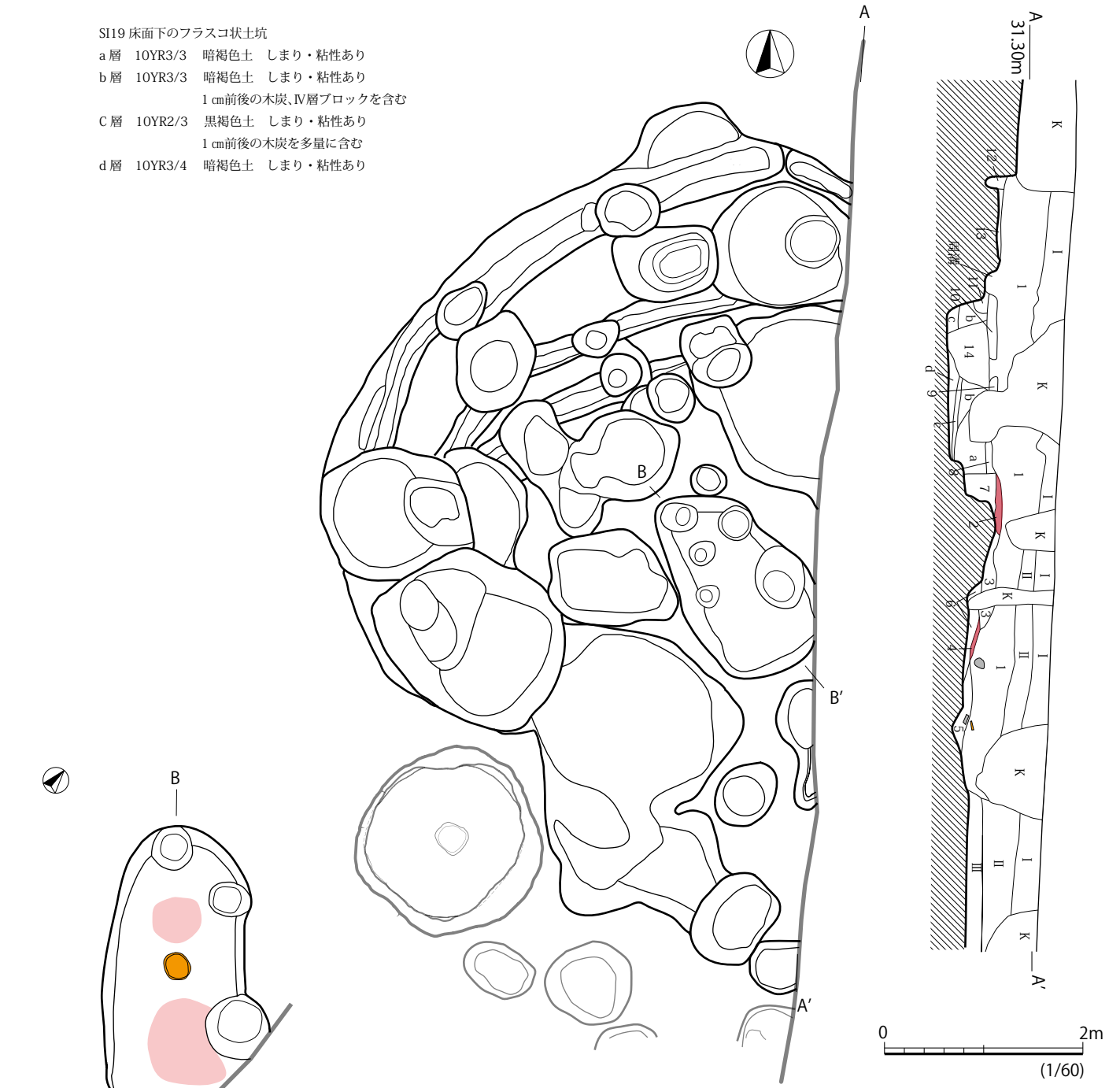
第89图 SI18出土土器



第 90 图 SI18 出土石器

SI19 床面下のフラスコ状土坑

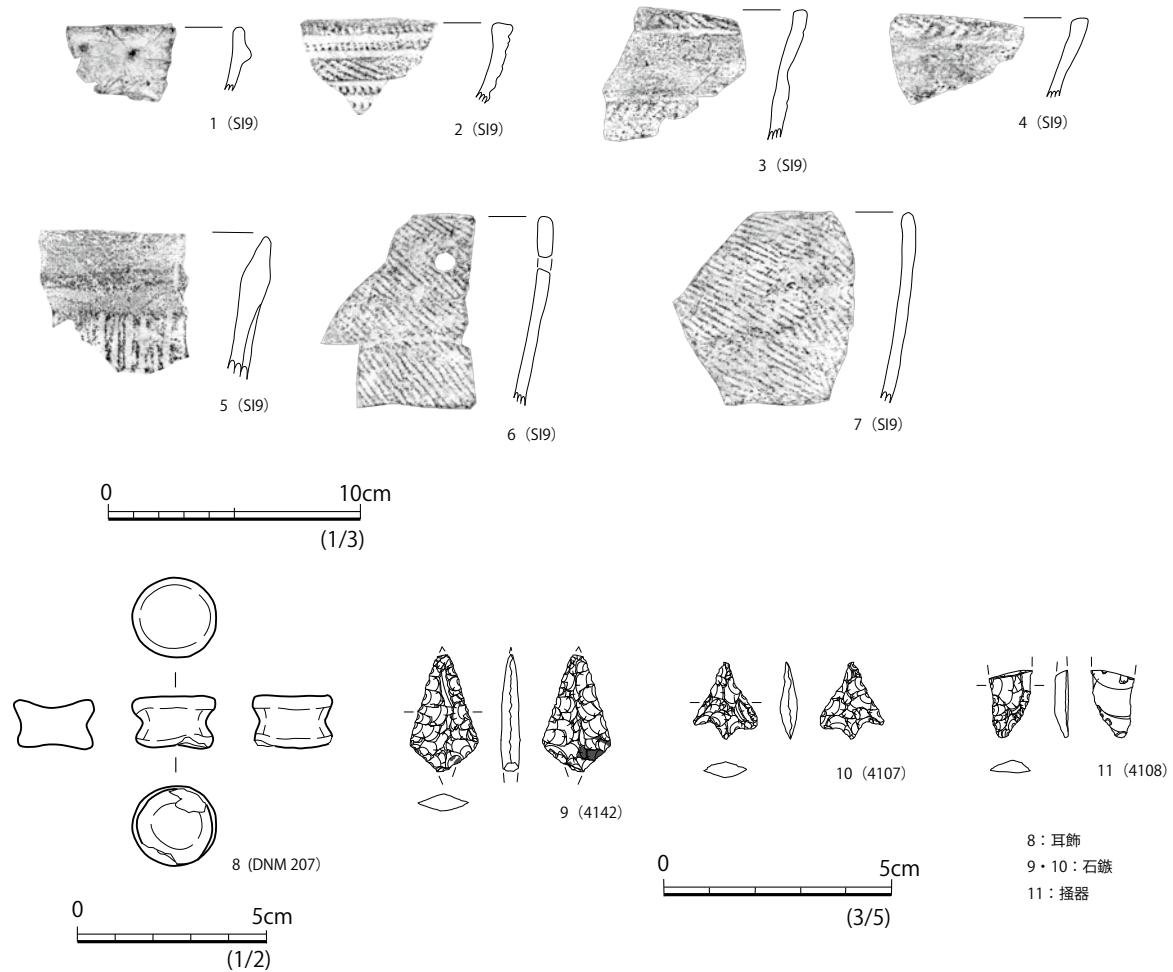
- a層 10YR3/3 暗褐色土 しまり・粘性あり
- b層 10YR3/3 暗褐色土 しまり・粘性あり
1 cm前後の木炭、IV層ブロックを含む
- C層 10YR2/3 黒褐色土 しまり・粘性あり
1 cm前後の木炭を多量に含む
- d層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性あり



- 1層 2.5YR4/3 にぶい赤褐色土 しまり・粘性あり 粒子密
- 2層 7.5YR2/1 黒色土 しまり・粘性なし 炭化粒を多量に含む
- 3層 2.5YR3/6 暗赤褐色土 固く焼き縮まった焼土層 火床

- 1層 10YR3/3 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり
10 cm前後の礫を含む、断面北側ほど明色
- 2層 10YR3/3 焼土層 調査区外へとの延びる灰の一部か？
- 3層 10YR4/6 褐色土 しまり・粘性あり
- 4層 焼土層 6層が焼土化したもの、灰の一部である
- 5層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性あり
全体的に赤色がかかる、調査区外へとのびる灰の一部か？
- 6層 10YR4/6 褐色土 しまり・粘性あり
- 7層 10YR2/3 黒褐色土 やや柔らかい、粘性あり 古い段階の柱穴埋土か
- 8層 10YR3/4 暗褐色土 しまり強い、粘性なし 上面は焼土化、貼床
- 9層 10YR3/4 褐色土 しまり強い、粘性なし IV層に似る 貼床
- 10層 10YR3/3 暗褐色土 しまり強い、粘性なし
1層に似るが、やや明色 貼床
- 11層 10YR34/6 褐色土 しまりあり、粘性あり
古い段階の周溝の埋土なし、下層にあるフラスコ土坑に
落ち込んだIV層のブロック
- 12層 10YR4/4 褐色土 しまりあり、粘性あり IV層に似るが暗色
- 13層 10YR4/6 褐色土 しまり強い、粘性あり 貼床
- 14層 10YR3/3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり
1 cm前後木炭含む、柱穴埋土 断面では見えないが、
柱穴2基の切り合いか

第 91 図 SI19



第92図 S19出土土器・耳飾・石器

土坑

SK72 土坑 (第93図、図版17)

【位置】調査区北東隅、0881グリッド 【規模】134×128×70cm

【所見】底面は平坦で、壁面はわずかに内傾する。

SK73 土坑 (第94～98図、図版17・31)

【位置】調査区北東隅、0881グリッド 【規模】144×128×128cm

【出土遺物】縄文土器8(後期初頭)、土器片製円盤7、石鏃1

【所見】土坑の東側の壁付近の埋土から、縄文土器の大形破片・礫が集中して出土した。底面は平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。

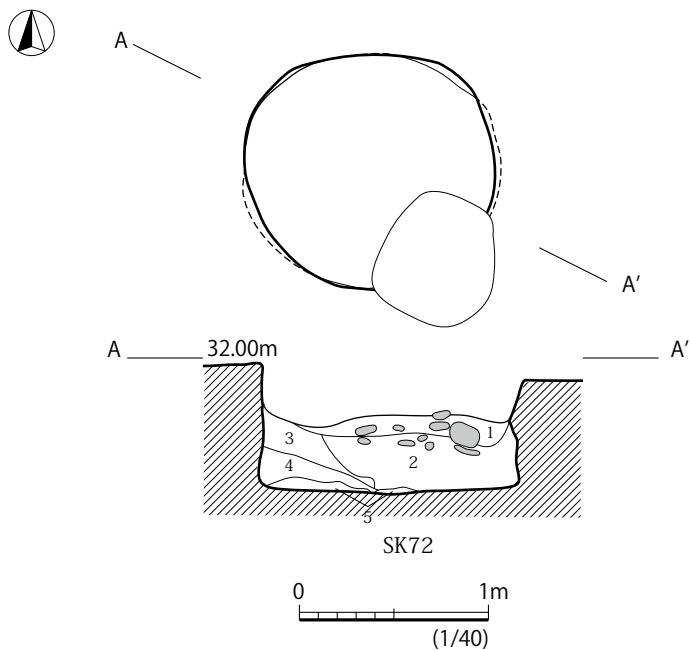
SK74 土坑 (第99・100図、図版17・31)

【位置】調査区北東隅、0881グリッド 【規模】開口部：一辺約120cmの隅丸方形 底面：直径約190cmの円形 深さ172cm 【出土遺物】縄文土器1(後期初頭)

【所見】フラスコ状土坑である。埋土中には複数の焼土層が観察され、また大形礫や完形に近い縄文土器も出土した。底面直上からは多量の小礫が検出された。

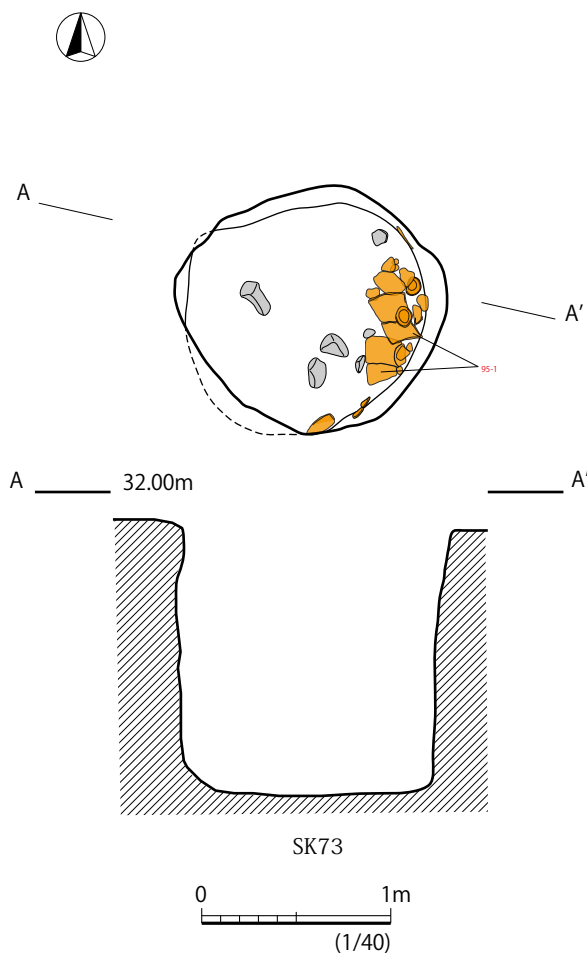
SK75 土坑 (第101～103図、図版32)

【位置】調査区北東隅、0881グリッド 【規模】開口部：直径約150cmの円形 底面：直径160cmの円形 深さ120cm 【出土遺物】縄文土器1(後期初頭)、石鏃1

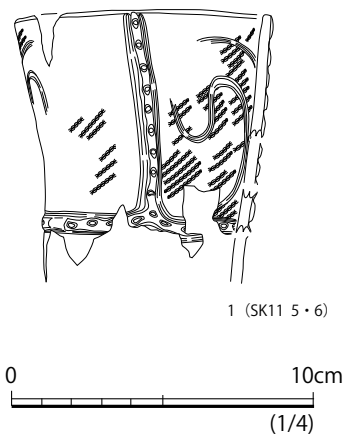


- SK72
- 1層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性有り
木炭(直径10mm)3%、拳大礫15%含む
 - 2層 10YR5/8 黄褐色土 しまり・粘性有り
地山ローム質土に木炭(直径10mm)3%、
拳大礫15%含む
 - 3層 10YR4/6 褐色土 しまり・粘性有り
地山ローム質土に似る均一な層だがやや暗色
木炭(直径10mm)3%含む
 - 4層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性有り
均質で他の層よりしまり強
木炭(直径5mm)3%
 - 5層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性有り

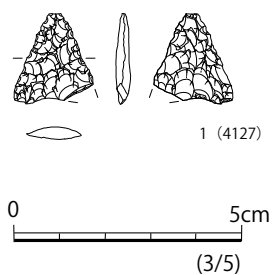
第93図 SK72



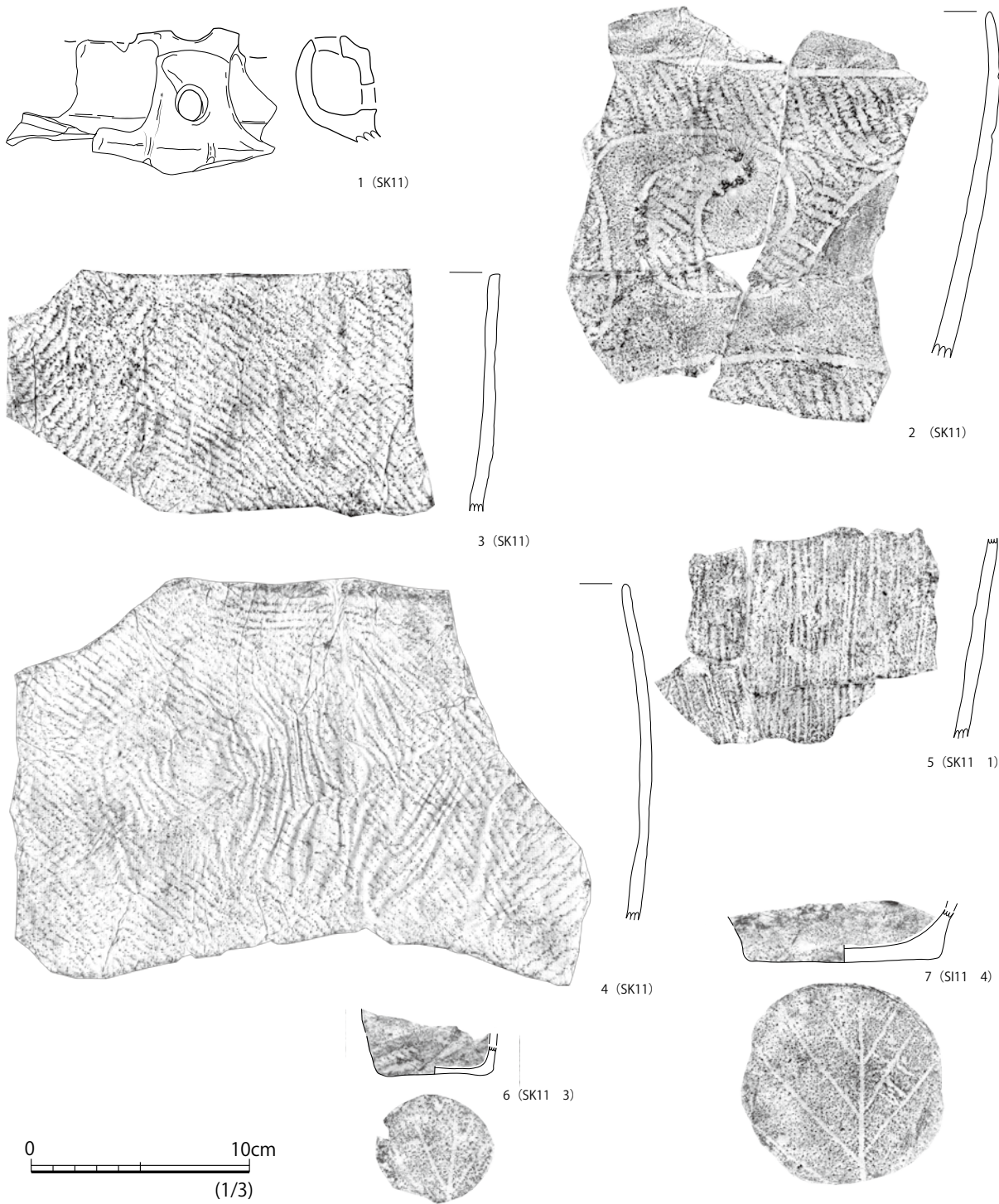
第94図 SK73



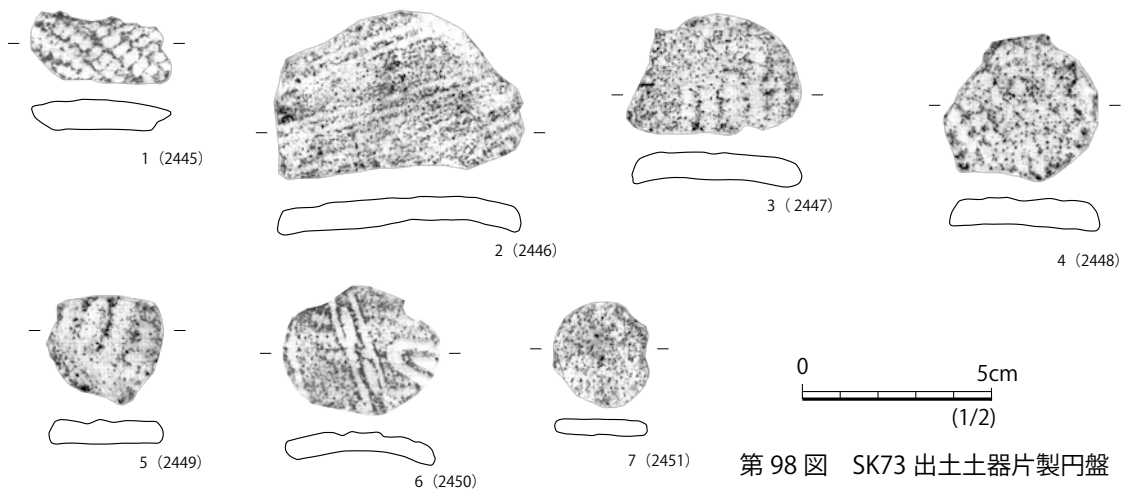
第95図 SK73 出土土器 (1)



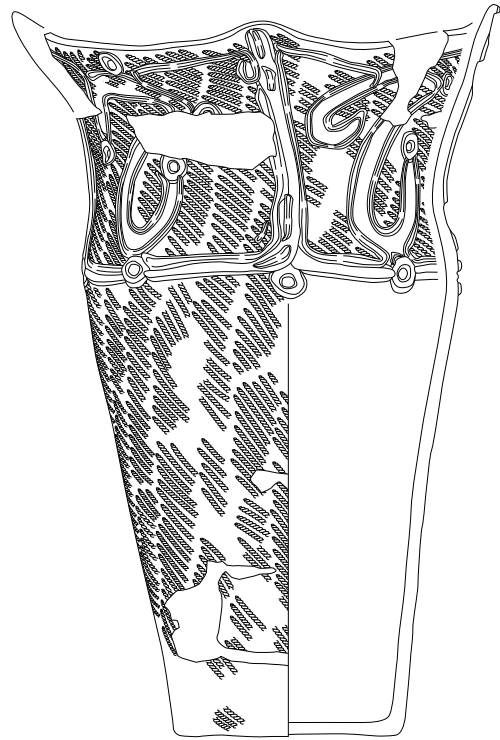
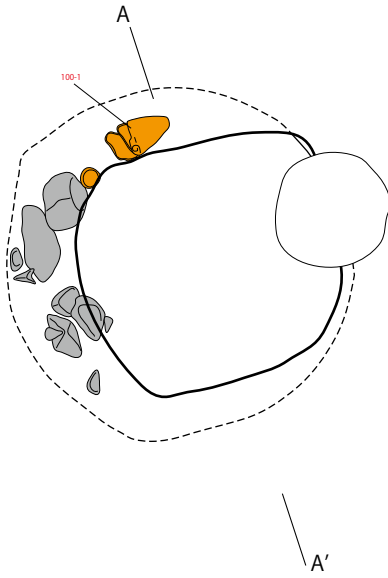
第96図 SK73 出土石器



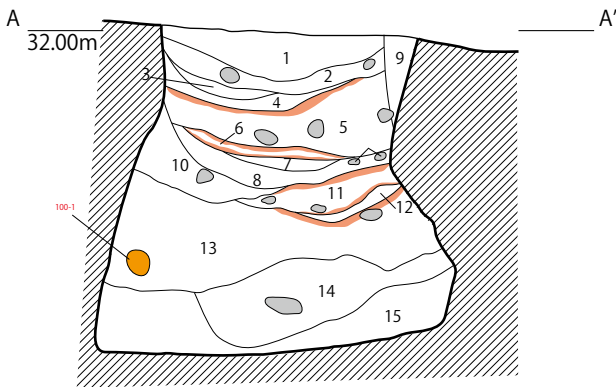
第97図 SK73 出土土器 (2)



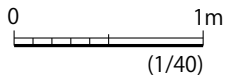
第98図 SK73 出土土器片製円盤



1 (SK12 1)



SK74 焼土化していた面

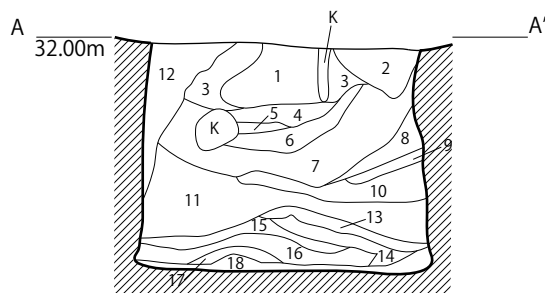
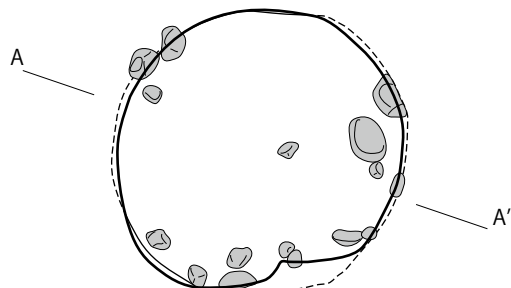


第 100 図 SK74 出土土器

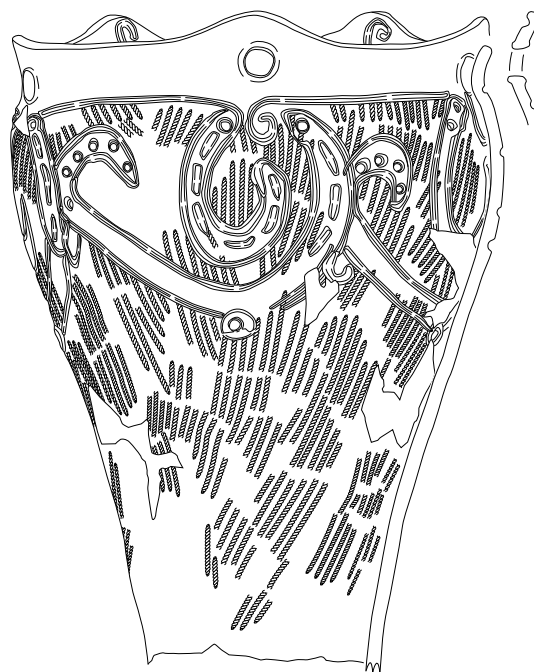
SK74

- 1層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性有り
小礫(直径30mm)3%含む
- 2層 10YR4/6 褐色土 しまり・粘性有り
- 3層 10YR2/3 黒褐色土 しまり・粘性有り
- 4層 10YR2/2 黒褐色土 しまり・粘性有り
- 5層 10YR4/6 褐色土 しまり・粘性有り
角礫(直径100mm)10%含む
- 6層 10YR2/2 黒褐色土 しまり・粘性有り
上下に木炭層
- 7層 焼土 焼骨片含む
- 8層 10YR2/2 黒褐色土 しまり・粘性有り
- 9層 10YR4/6 褐色土
- 10層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性有り
- 11層 10YR2/3 黒褐色土 しまり・粘性有り
- 12層 焼土
- 13層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性有り
- 14層 10YR4/6 褐色土 しまり有・粘性有り
- 15層 14層に似るが礫を多量に含む

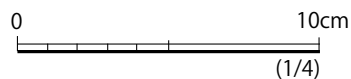
第 99 図 SK74



SK75



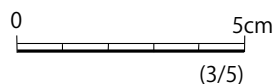
1 (SK13)



第102図 SK75 出土土器



1 (4128)



1 : 石鏃

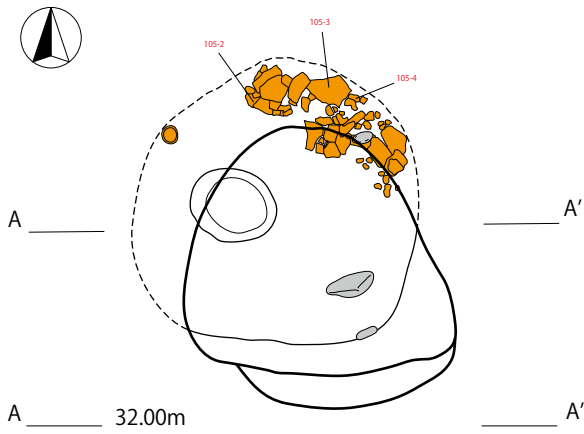
第103図 SK75 出土石器

SK75

- 1層 10YR2/3 黒褐色土 しまり・粘性あり 果樹植栽痕?
- 2層 10YR4/6 褐色土 しまり強、粘性あり 礫混じりの層
- 3層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性あり 焼骨片(魚骨か?) 5%含む
- 4層 10YR4/6 褐色土 しまり・粘性あり
- 5層 10YR3/4 暗褐色土 しまりなし、粘性あり
- 6層 10YR3/4 暗褐色土 しまりなし、粘性あり 5層に比して暗色
- 7層 10YR4/6 褐色土 しまり・粘性あり 小礫(直径5cm)15%含む
- 8層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性あり
- 9層 10YR2/3 黒褐色土 しまり・粘性あり 赤色を帯びている

- 10層 10YR4/6 褐色土 しまり・粘性あり 均質
- 11層 10YR4/6 褐色土 しまり・粘性あり 10層に比して暗色
- 12層 10YR4/6 褐色土 しまり強、粘性あり 礫混じりの層
- 13層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性あり 木炭(直径10mm)5%含む
- 14層 10YR4/4 暗褐色土 しまり・粘性あり
- 15層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性あり 木炭(直径10mm)5%含む
- 16層 10YR4/4 暗褐色土 しまり・粘性あり
- 17層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性あり 木炭(直径10mm)5%含む
- 18層 10YR4/4 暗褐色土 しまり・粘性あり

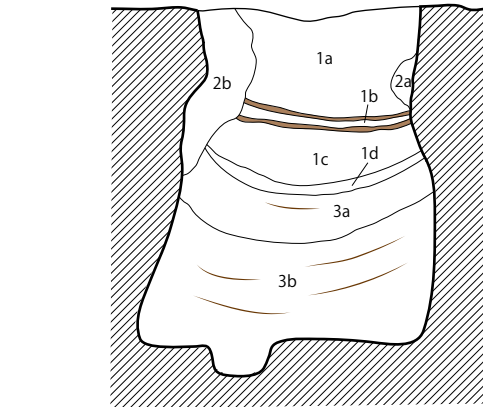
第101図 SK75



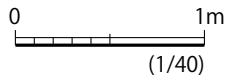
SK76

- 1a層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性有り
木炭(直径10mm)3%、小礫(直径3mm)10%含む
- 1b層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性有り 赤みを帯びている
焼土・焼骨片を多く含む
- 1c層 10YR4/6 褐色土 しまり・粘性有り
礫(直径150mm)25%、木炭(直径10mm)3%含む
- 1d層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性有り やや赤みを帯びている
木炭(直径10mm)10%含む
- 2a層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性有り 1a層よりやや明るい
小礫(直径30mm)10%
- 2b層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性有り 1a層よりやや明るい
- 3a層 10YR4/6 褐色土 しまり・粘性有り 目立った混入物は無く均質
- 3b層 10YR3/4 暗褐色土 しまり・粘性有り
ローム・木炭・焼土の互層の中に、木炭層(5mm程の木炭粒と10mm程の焼土粒の混土)の堆積が複数見られる

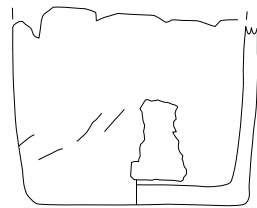
木炭層



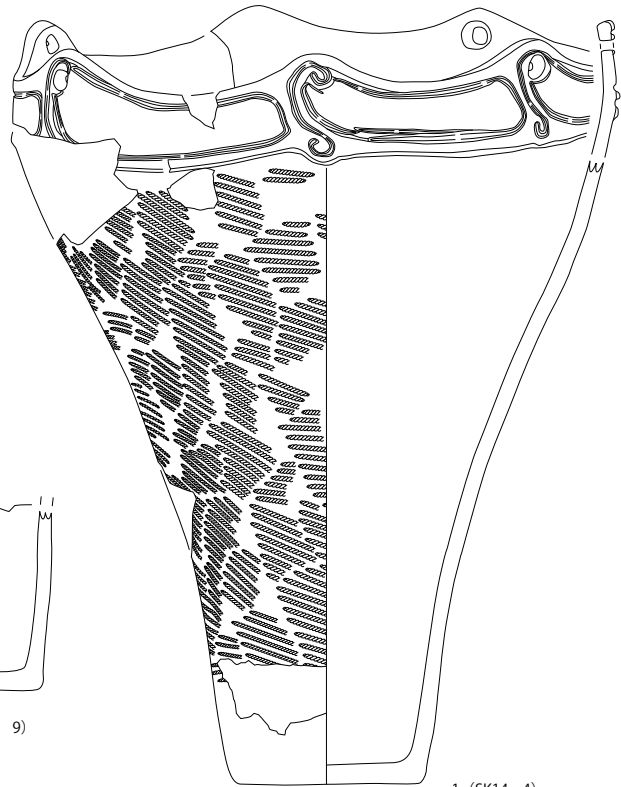
SK76



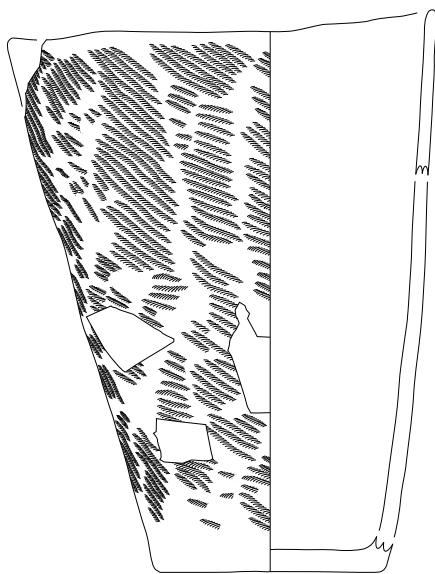
第104図 SK76



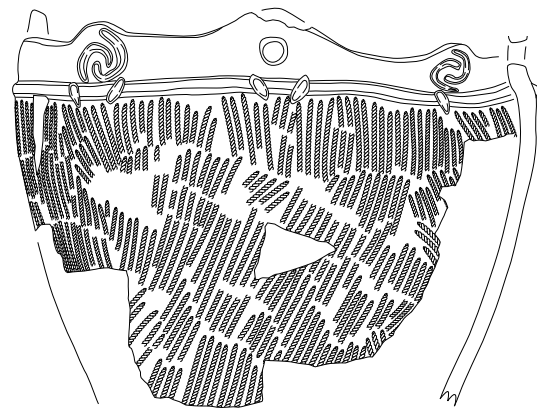
4 (SK14 9)



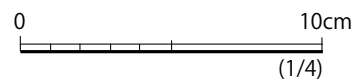
1 (SK14 4)



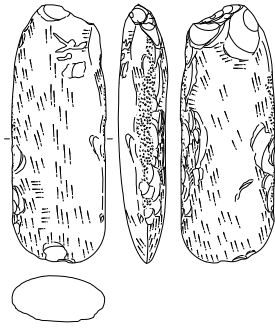
3 (SK14 2・4・9)



2 (SK14)



第105図 SK76 出土土器

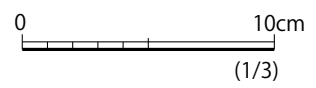


1 (4259)



2 (4278)

1: 磨製石斧
2: 石皿

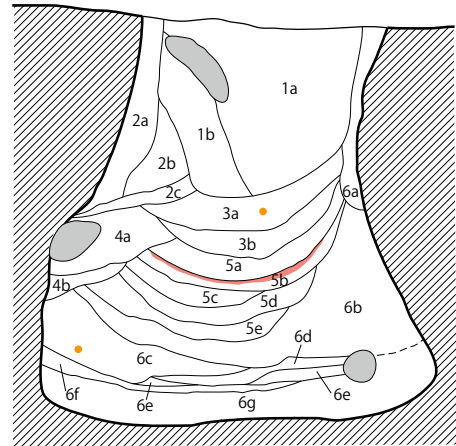
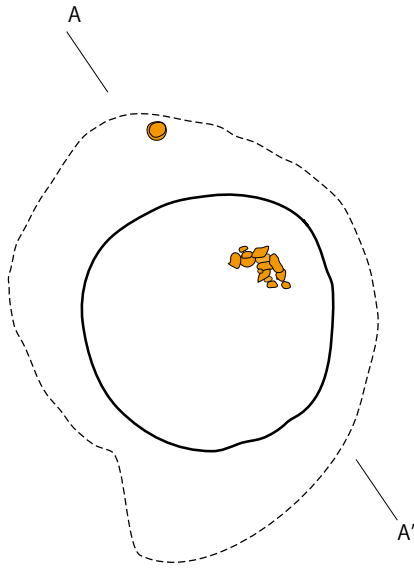


第 106 図 SK76 出土石器



A _____ 31.00m

_____ A'



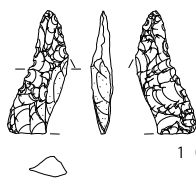
SK77



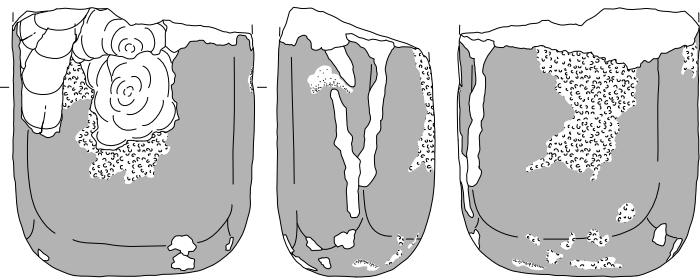
SK77

1 a 層	10YR3/4	暗褐色土	しまり・粘性有り	木炭 (直径 10 mm) 5%、小礫 (直径 3 mm) 7% 含む	5 b 層	10YR3/4	暗褐色土	しまり・粘性有り	赤みを帯びる 木炭 (直径 2 mm) 10%、焼骨片含む
1 b 層	10YR3/4	暗褐色土	しまり・粘性有り	1 a 層より明るい 木炭 (直径 10 mm) 3%、小礫 (直径 3 mm) 1% 含む	5 c 層	10YR3/4	暗褐色土	しまり・粘性有り	木炭 (直径 2 mm) 7%、焼骨片含む
2 a 層	10YR3/4	暗褐色土	しまり・粘性有り	小礫 (直径 10 mm) 5% 含む	5 d 層	10YR4/6	褐色土	しまり・粘性有り	木炭 (直径 3 mm) 3%、焼骨片含む
2 b 層	10YR3/4	暗褐色土	しまり・粘性有り		5 e 層	10YR3/4	暗褐色土	しまり・粘性有り	木炭 (直径 1 mm) 3% 含む
2 c 層	10YR5/6	黄褐色土	しまり・粘性有り	炭 (直径 10 mm) 3% 含む	6 a 層	10YR3/4	暗褐色土	しまり・粘性有り	木炭 (直径 2 mm) 10% 含む
3 a 層	10YR3/4	暗褐色土	しまり・粘性有り	1 a・b 層より暗い 木炭 (直径 20 mm) 10%、焼骨片含む	6 b 層	10YR3/4	暗褐色土	しまり・粘性有り	木炭 (直径 1 mm) 3% 含む
3 b 層	10YR3/4	暗褐色土	しまり・粘性有り	3 a 層より明るい 混入物なく均質	6 c 層	10YR3/4	暗褐色土	しまり・粘性有り	6 b 層よりやや暗い
4 a 層	10YR3/4	暗褐色土	しまり・粘性有り	礫 (直径 3 mm) 15% 含む	6 d 層	10YR3/4	暗褐色土	しまり・粘性有り	6 c 層より明るい
4 b 層	10YR3/4	暗褐色土	しまり・粘性有り	木炭 (直径 2 mm) 1% 含む	6 e 層	10YR3/4	暗褐色土	しまり・粘性有り	
5 a 層	10YR3/4	暗褐色土	しまり・粘性有り	木炭 (直径 2 mm) 3%、焼骨片含む	6 f 層	10YR3/4	暗褐色土	しまり・粘性有り	やや赤みを帯びる 木炭 (直径 1 mm) 3% 含む
					6 g 層	10YR3/4	暗褐色土	しまり・粘性有り	

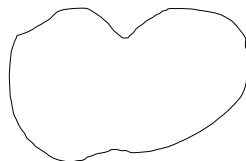
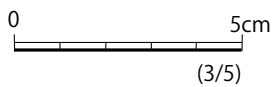
第 107 図 SK77



1 (4129)

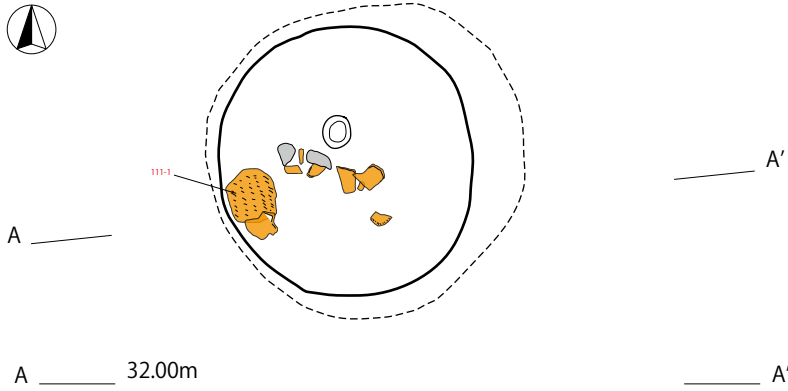


2 (4260)



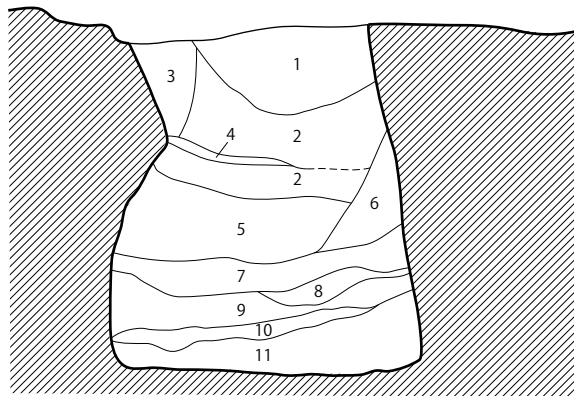
1: 石鏃
2: 凹石

第 108 図 SK77 出土石器



SK78

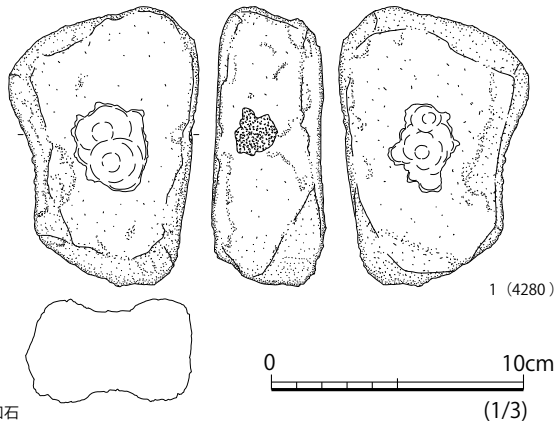
- 1層 7.5YR4/3 褐色土 しまり・粘性弱い
小礫 (φ20~30mm)、木炭を含む
- 2層 10YR5/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性弱い
砂を含む
- 3層 7.5YR4/3 褐色土 1層に似る 壁崩落土か
- 4層 7.5YR4/3 褐色土
- 5層 7.5YR4/3 褐色土 しまり無、粘性有り
小礫含む 中位に木炭集中
- 6層 7.5YR4/2 灰褐色土 しまり無、粘性弱
木炭・土器片を含む
- 7層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり無、粘性弱
- 8層 10YR3/1 黒褐色土 しまり無、粘性弱
木炭を多量に含む
- 9層 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり無、粘性弱
木炭を含む
- 10層 10YR5/6 黄褐色土 しまり無、粘性弱
土器片を含む
- 11層 10YR3/1 黒褐色土 しまり無、粘性少
木炭・礫を含む



SK78

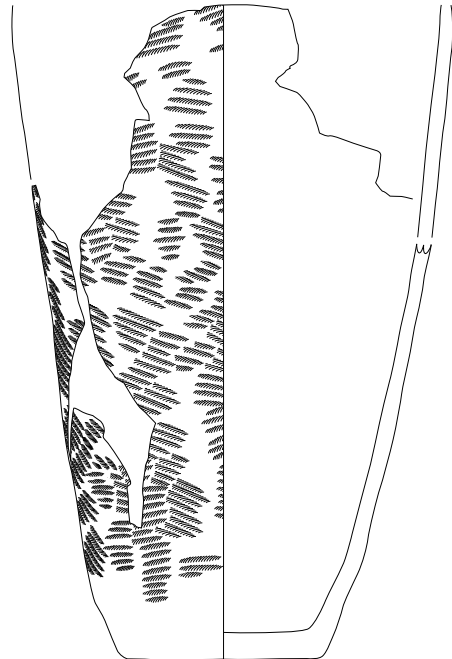


第109図 SK78

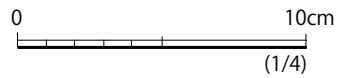


1:凹石

第110図 SK78 出土石器



1 (SK16 8)



第111図 SK78 出土土器

【所見】底面に向かってわずかに広がるフラスコ状を呈する。底面は平坦である。底面近くに炭化物を含む薄層が堆積し、壁際から大形礫が出土した。

SK76 土坑 (第 104 ~ 106 図、図版 17・32・33)

【位置】調査区中央付近、0981・1081 グリッド 【規模】開口部：一辺 150cmのほぼ三角形

底面：直径 160cmのほぼ円形 深さ 170cm

【重複】SK78 先後は、SK76 → SK78

【出土遺物】縄文土器 4(後期初頭)、磨製石斧 1・石皿 1

【所見】埋土全体に木炭粒が含まれる。一部の木炭粒は集中して堆積し薄い層状となる。底面付近の埋土は、褐色土・木炭粒・焼土の互層の間に木炭粒と焼土混土層も見られる。

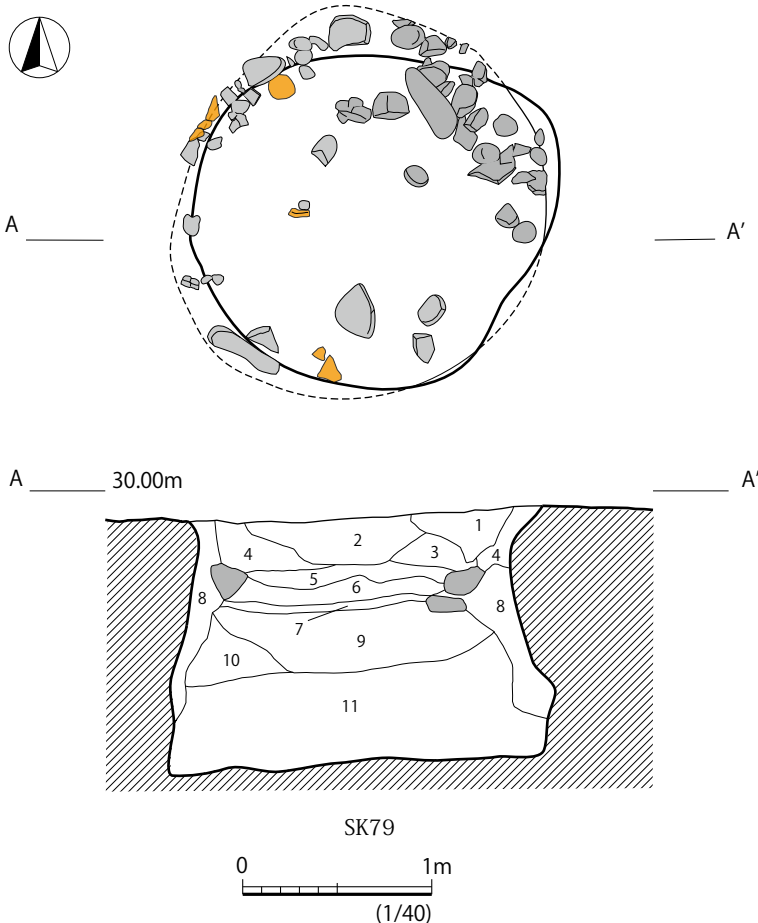
底面の西寄りに 46 × 38 × 12cmの小穴が検出された。

SK77 土坑 (第 107・108 図、図版 18・33)

【位置】調査区中央付近、1080・1081 グリッド

【規模】開口部：直径約 120cmの円形 底面：約 240 × 約 190cmの不整楕円形 深さ 220cm

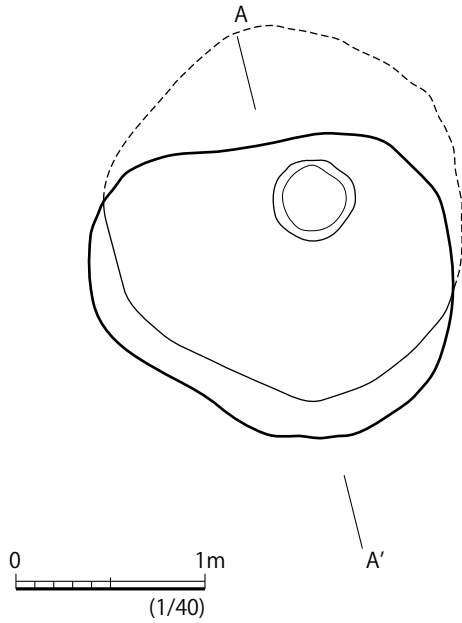
【出土遺物】石鏃 1・凹石 【所見】開口部より底面が大きく広がるフラスコ状土坑である。埋土中に焼土や木炭粒を含み、大小の礫も混入する。



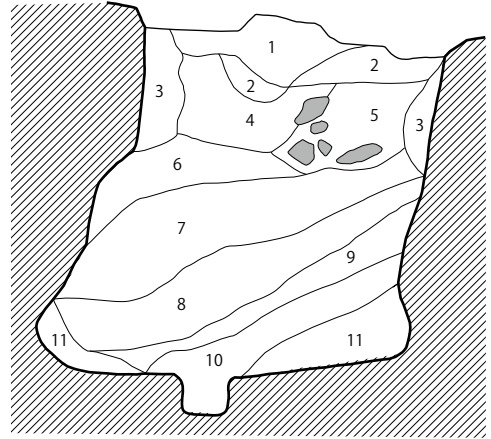
SK79

- 1層 7.5YR3/2 黒褐色土 しまり・粘性有り
黄色土粒 (φ1 ~ 5 mm) 多量、
小礫 (φ5 ~ 10 mm) 若干含む
- 2層 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり・粘性有り
黄色土粒 (φ1 ~ 2 mm) 少量、
小礫 (φ10 ~ 30 mm) 若干含む
- 3層 10YR4/3 にふい黄褐色土 しまり・粘性有り
黄色土粒 (φ1 mm)・焼土・炭化物
(φ1 mm) を若干含む
- 4層 10YR5/3 にふい黄褐色土 しまり・粘性有り
黄色土粒 (φ1 mm)・礫 (φ10 ~
30 mm) 少量含む
- 5層 10YR3/2 黒褐色土 しまり・粘性有り
黄色土粒 (φ1 mm)・焼土・炭化物
(φ1 mm) を少量含む
- 6層 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり・粘性有り
炭化物粒 (φ1 mm) 少量含む
- 7層 10YR3/2 黒褐色土 しまり・粘性有り
炭化物粒 (φ1 mm) 少量、焼土
(φ1 mm) 多量含む
- 8層 10YR5/3 にふい黄褐色土 しまり・粘性有り
黄色土粒 (φ1 ~ 5 mm)・炭化物
(φ1 ~ 3 mm) 少量、焼土若干含む
- 9層 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり・粘性有り
炭化物 (φ1 mm) 多量、黄色土粒
(φ1 ~ 5 mm)・小礫 (φ20 ~ 30 mm)
若干含む
- 10層 10YR3/3 暗褐色土 しまり弱、粘性有り
炭化物 (φ1 ~ 3 mm) を少量、
礫 (φ20 ~ 50 mm) 若干含む
- 11層 10YR3/2 黒褐色土 しまり弱・粘性有り
炭化物 (φ10 ~ 20 mm) を大量に、
ほぼ水平に含む、礫 (φ30 ~ 50 mm)
・黄色粒・焼土粒 (φ1 ~ 5 mm) 若干
含む

第 112 図 SK79



A _____ 31.00m _____ A'



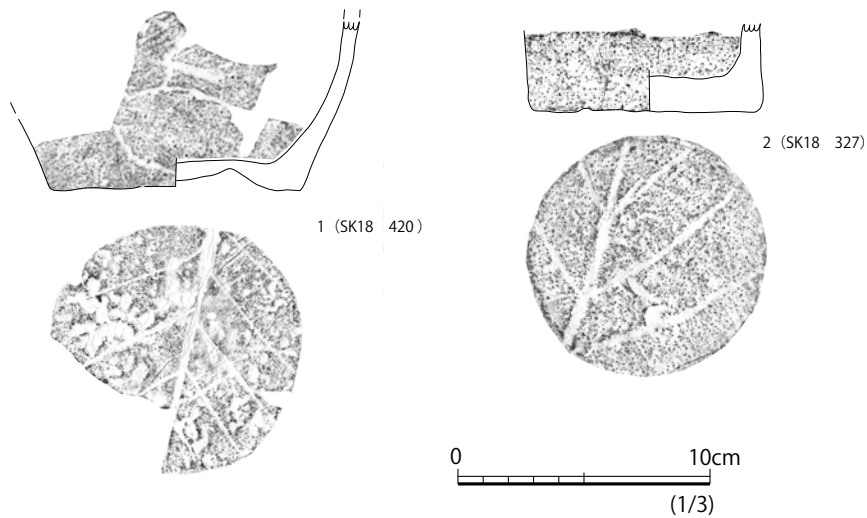
SK80

SK80

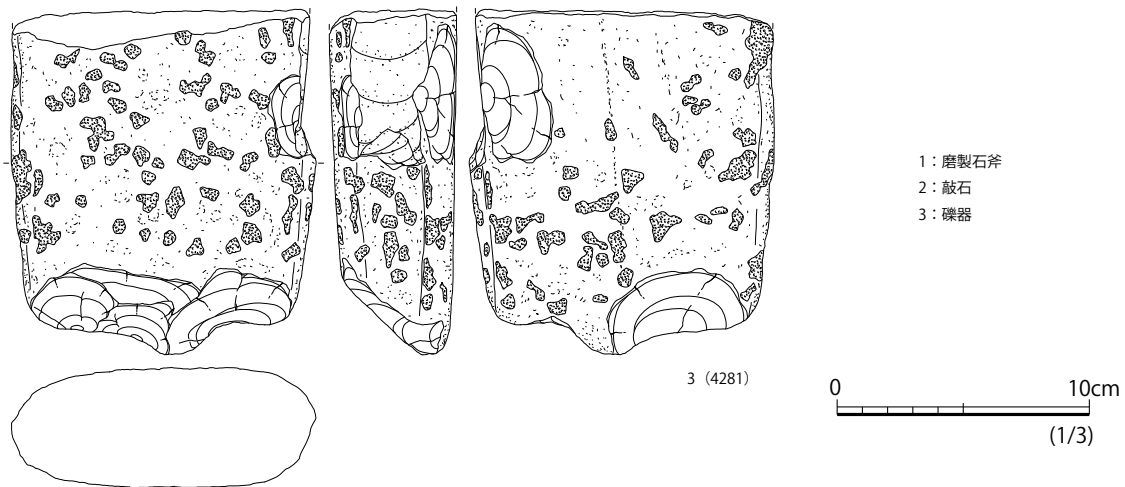
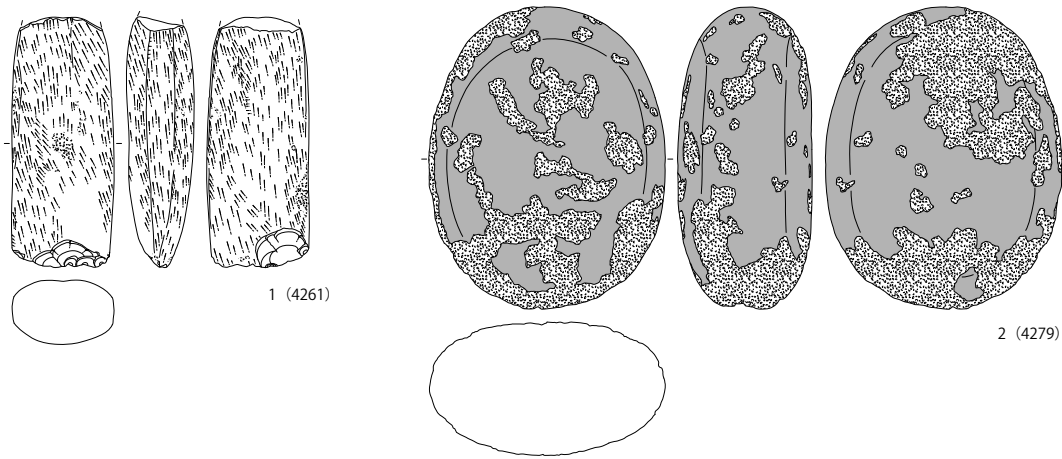
- 1層 10YR2/4 黒褐色土 しまり・粘性有り
黄色土粒 (φ1~5mm)・小礫 (φ10mm)・焼土 (φ1~2mm)
を多量に含む
- 2層 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり・粘性有り
黄色土粒 (φ1~3mm)・小礫 (φ5mm) を多量に含む
- 3層 10YR5/6 黄褐色土 壁崩落土
- 4層 10YR4/4 褐色土 しまり・粘性有り
黄色土粒 (φ1~3mm) 多量・炭化物 (φ1mm) 少量含む、砂礫
(φ3~5mm) を若干含む
- 5層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり・粘性有り
炭化物 (φ1~5mm) を多量に含む、焼土 (φ1~3mm)・黄色
土粒 (φ1mm) を少量含む
- 6層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまり・粘性有り 炭化物 (φ1~10mm) を少量含む

- 7層 10YR4/6 褐色土 しまり弱、粘性有り
炭化物 (φ10~40mm)・黄色土ブロック多量、礫 (φ5~
10mm) 若干含む
- 8層 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり弱、粘性有り
黄色土ブロック (φ20~30mm)・炭化物 (φ10~20mm)
を多量に含む
- 9層 10YR5/6 黄褐色土 しまり弱、粘性有り
黄色土ブロック (φ20~30mm) 多量、炭化物少量含む
- 10層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり弱、粘性有り
炭化物 (φ1~5mm) を多く含む
- 11層 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土 しまり・粘性有り
黄色土粒 (φ5mm) 少量含む

第113図 SK80

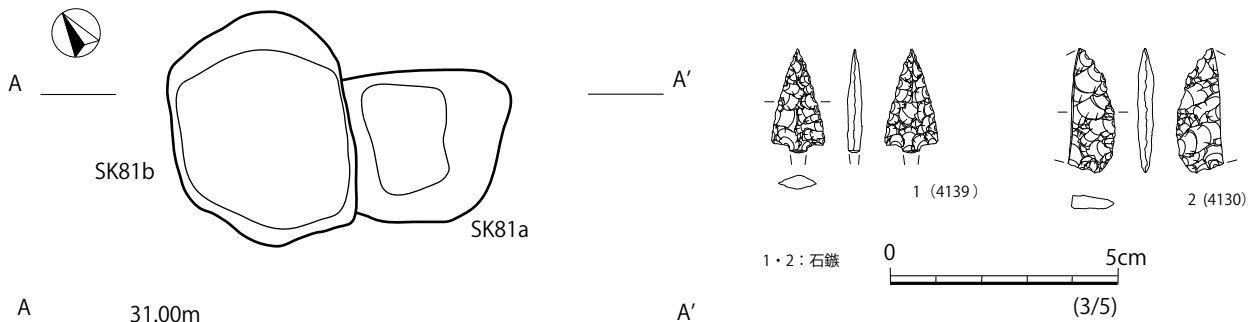


第114図 SK80 出土土器

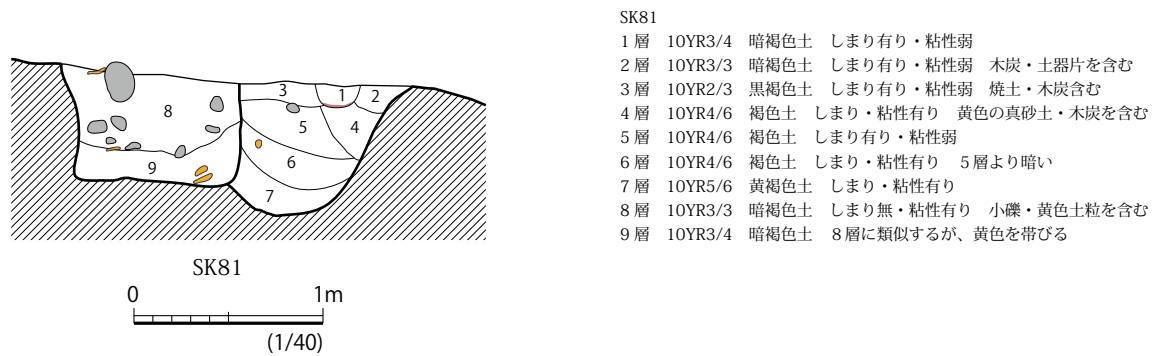


- 1: 磨製石斧
- 2: 敲石
- 3: 礫器

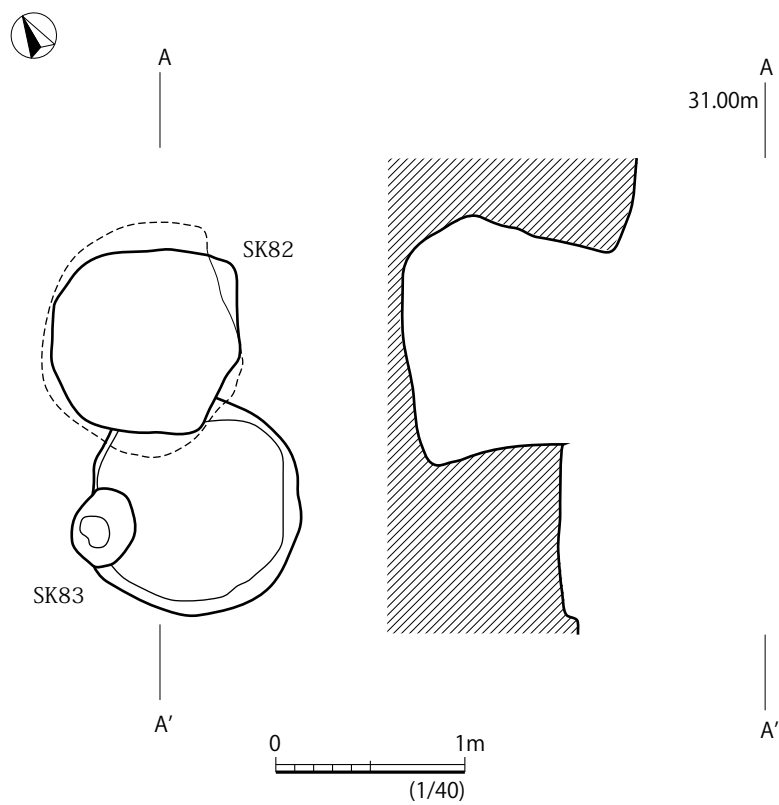
第 115 図 SK80 出土石器



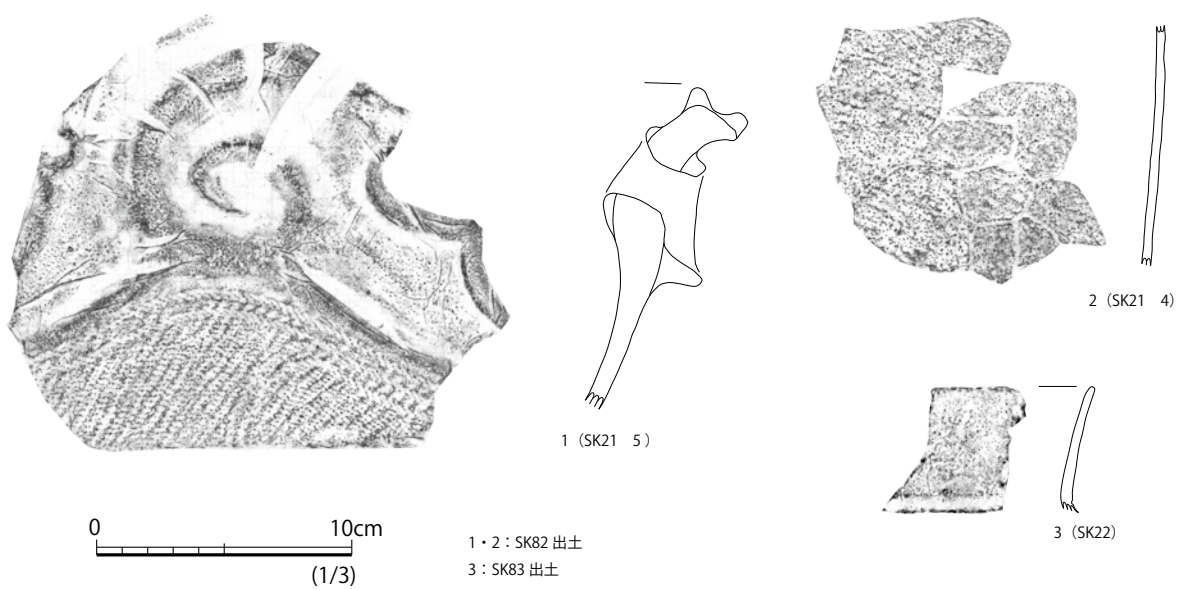
第 117 図 SK81 出土石器



第 116 図 SK81



第 118 图 SK82・83



第 119 图 SK82・83 出土土器

SK 78 土坑 (第 109 ~ 111 図、図版 18・33)

【位置】 調査区中央付近、0981・1081 グリッド 【規模】 開口部：直径約 140cmの円形 底面：約 160cmの円形 深さ約 180cm 【重複】 SK76 先後は SK78 → SK76 【出土遺物】 縄文土器 1 (粗製)、凹石 1 【所見】 埋土には木炭粒・焼土が混入する。底面の中央付近に直径 18cm程の小穴がある。

SK79 土坑 (第 112 図、図版 18)

【位置】 調査区南西隅、1179 グリッド 【規模】 開口部：直径約 200cmの不整円形 底面：直径約 210cmの不整円形 深さ 128cm 【所見】 埋土中に焼土・木炭粒を含み、大形礫の出土も目立つ。

SK80 土坑 (第 113 ~ 115 図、図版 18・34)

【位置】 調査区中央南、1080・1180 グリッド 【規模】 開口部：200 × 160cmの不整楕円形 底面：約 190cmの円形 深さ 200cm 【出土遺物】 縄文土器 2 (底部)、磨製石斧 1・敲石 1・礫器 1

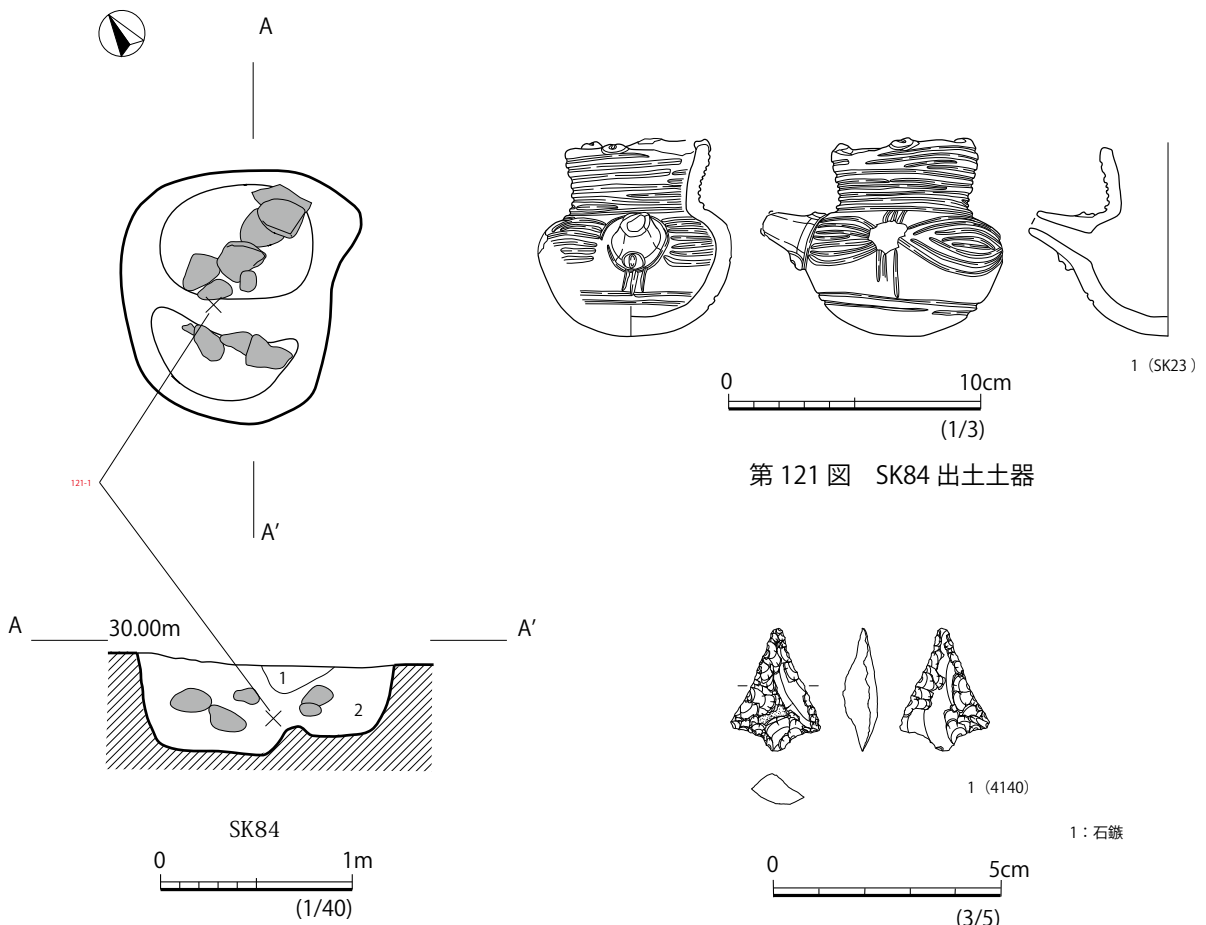
【所見】 底面中央付近に直径 40cm・深さ 20cm程の小穴がみられる。

SK81 土坑 (第 116・117 図、図版 18・34)

【位置】 調査区中央南西、1079・1080 グリッド 【規模】 a：一辺約 80cmの不整形方形 深さ 70cm

b：一辺 100cmの不整形方形 深さ 56cm 【重複】 SI 14 先後は不明。a・bの先後は a → b

【出土遺物】 石鏃 2



第 121 図 SK84 出土土器

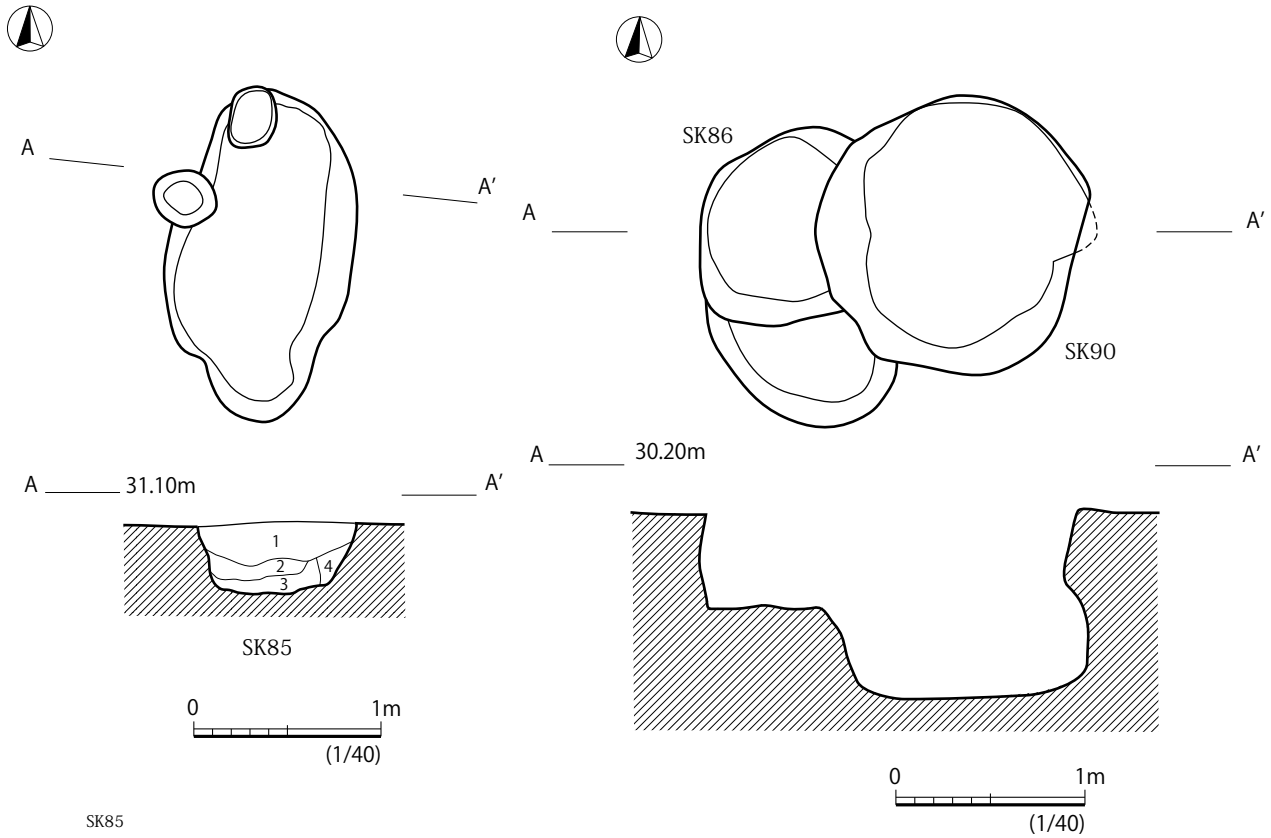
第 122 図 SK84 出土石器

SK84

1層 10YR2/3 黒褐色土 しまり無・粘性有り 木炭含む

2層 10YR3/4 暗褐色土 しまり無・粘性有り 土器片・礫多量に含む

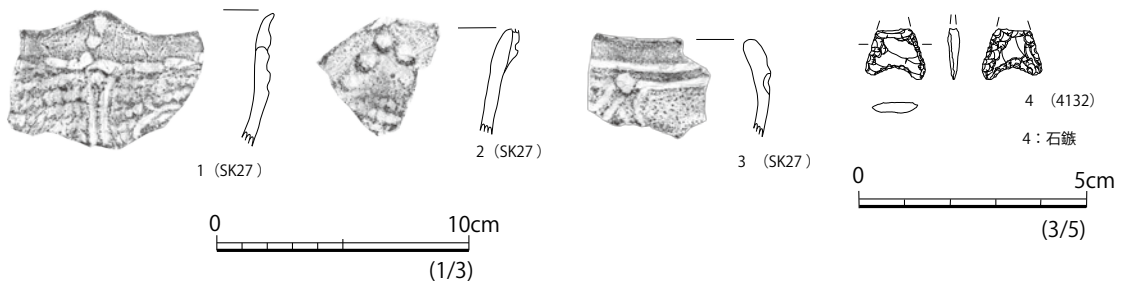
第 120 図 SK84



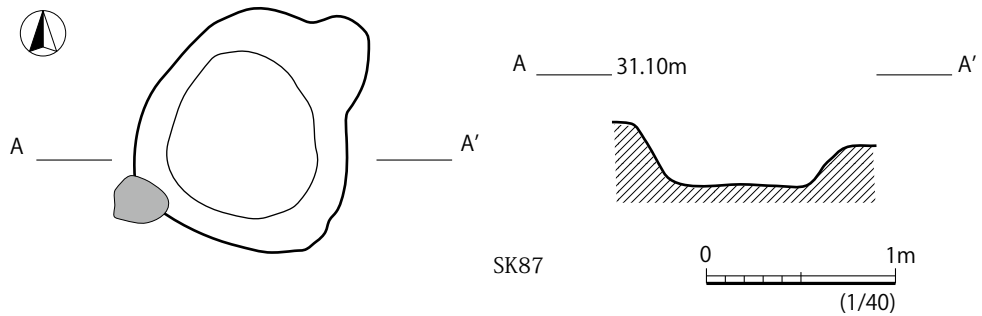
SK85
 1層: 10YR2/3
 2層: 10YR3/4
 3層: 10YR2/3
 4層: 10YR3/4 IV層に似る

第123図 SK85

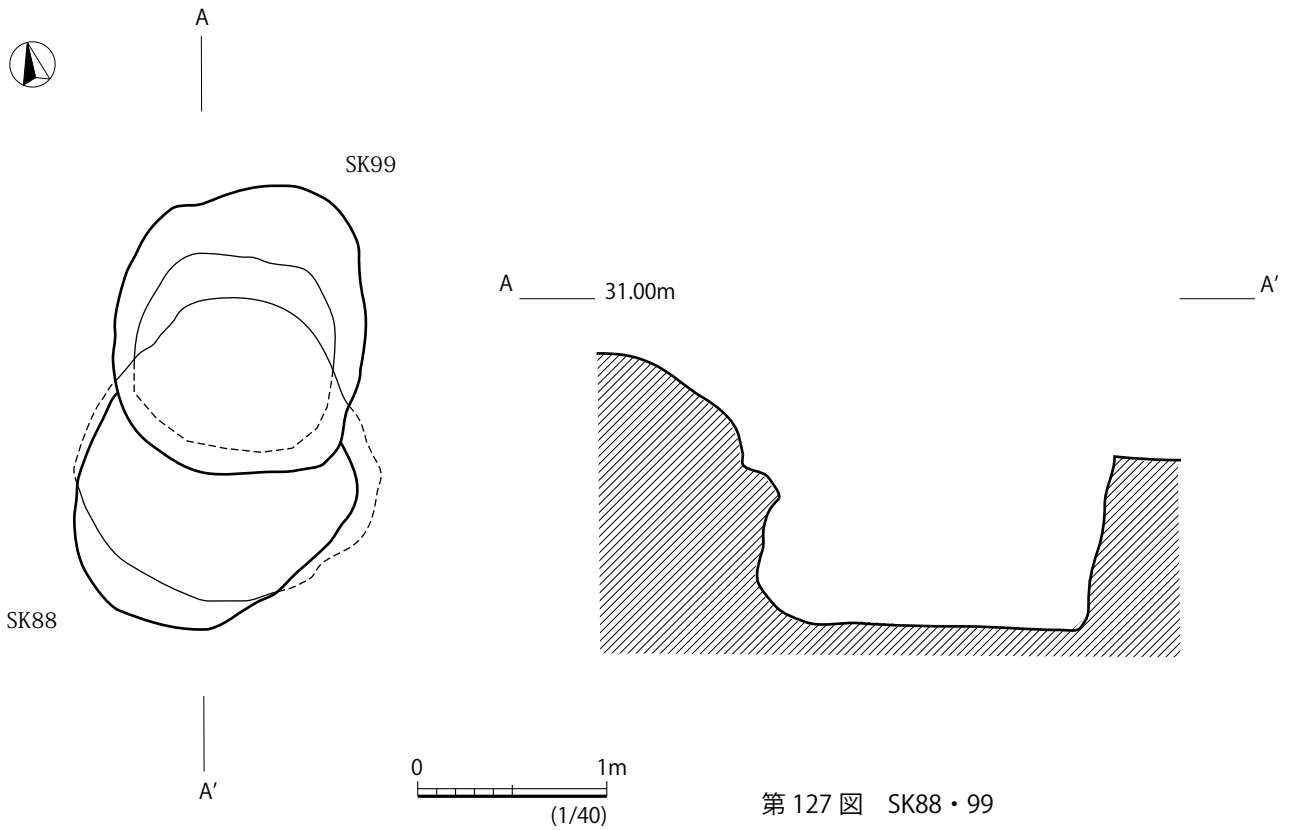
第124図 SK86・90



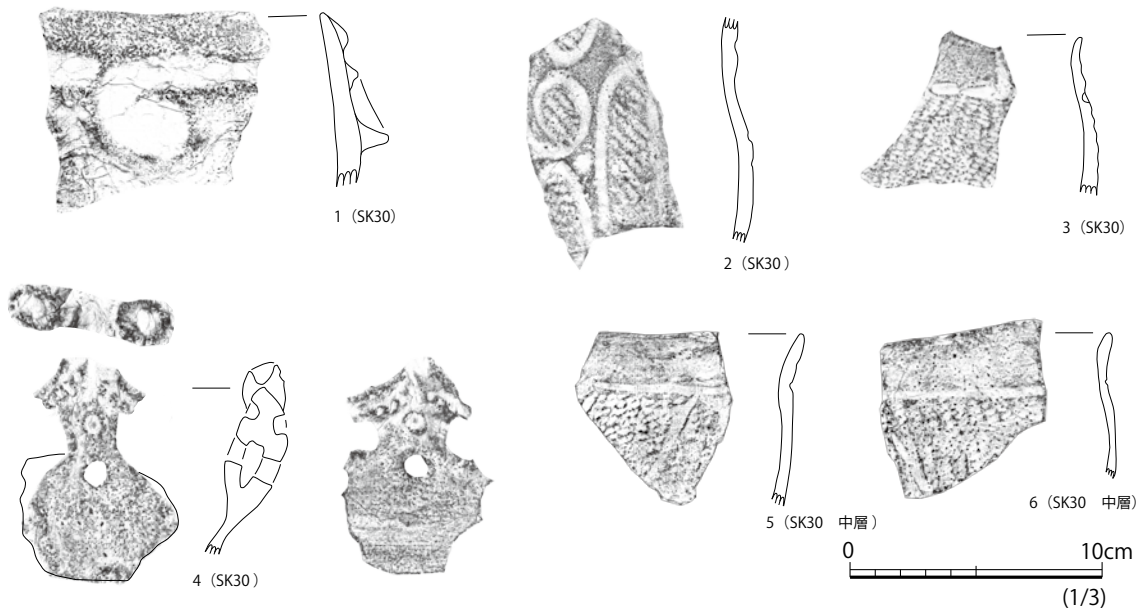
第125図 SK86 出土土器・石器



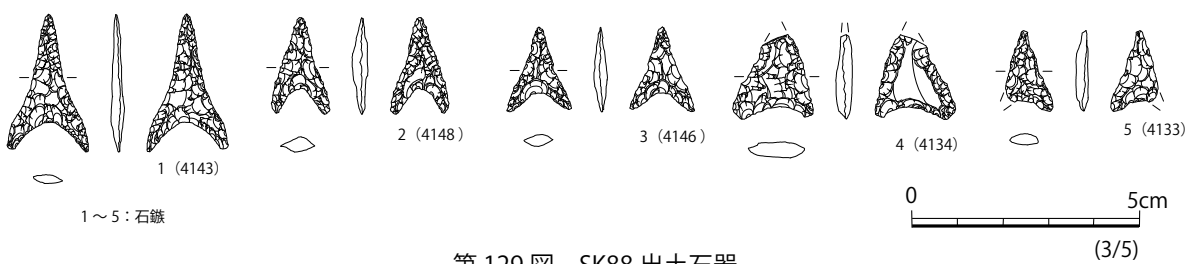
第126図 SK87



第 127 图 SK88・99



第 128 图 SK88 出土土器



1~5: 石鏃

第 129 图 SK88 出土石器

SK82 土坑 (第 118・119 図、図版 18)

【位置】調査区南西、1079・1179 グリッド 【規模】開口部：一辺約 100cmの隅丸方形 底面：120 × 100cmの不整楕円形 深さ 110cm 【重複】SK83 先後は不明 【出土遺物】縄文土器 2 (中期中葉)

SK83 土坑 (第 118・119 図、図版 18)

【位置】調査区南西、1179 グリッド 【規模】直径 116cmの円形 深さ 6cm 【重複】SK82 先後は不明 【出土遺物】縄文土器 1 (後期) 【所見】西側壁に小穴がある。

SK84 土坑 (第 120～122 図、図版 19・34)

【位置】調査区南西隅、1179 グリッド 【規模】120 × 110 × 45cm 【出土遺物】縄文土器 1 (小形注口土器：後期中葉)、石鏃 1 【所見】底面の中央に仕切り状の高まりがある。その付近から注口土器が出土した。

SK85 土坑 (第 123 図、図版 19)

【位置】調査区南西、1179 グリッド 【規模】136 × 100 × 38cm 【所見】北西壁に 2 基の小穴がある。

SK86 土坑 (第 124・125 図)

【位置】調査区南、1180 グリッド 【規模】160 × 100 × 50cm 【重複】SK90 SK86 → SK90

【出土遺物】縄文土器 3 (後期初頭)、石鏃 1

【所見】底面に段差があり、土坑 2 基が重複した可能性がある。

SK87 土坑 (第 126 図)

【位置】調査区南、1180 グリッド 【規模】140 × 120 × 30cm

SK88 土坑 (第 127～129 図、図版 19・34)

【位置】調査区西端、1079 グリッド 【規模】開口部：直径 120cmの円形 底面：直径 160cmの不整円形 深さ約 130cm 【重複】SK99 先後は SK88 → SK99 【出土遺物】縄文土器 6 (中期中葉・後期初頭)、石鏃 5 【所見】構築時はフラスコ状土坑であったと推定される。

SK89 土坑 (第 130・131 図、図版 19・34)

【位置】調査区南西、1179・1180 グリッド 【規模】158 × 102 × ーcm 【出土遺物】石皿 1 (大形、脚付)

【所見】底面に 3 基の小穴がある。

SK90 土坑 (第 123 図、図版 19)

【位置】調査区南、1180 グリッド 【規模】直径 150cmの円形 深さ 100cm 【重複】SK86 先後は SK86 → SK90

SK91 土坑 (第 132～134 図)

【位置】調査区東、1081 グリッド 【規模】開口部：直径 190cmの円形 底面：158cmの円形 深さ 250cm 【出土遺物】縄文土器 6 (後期初頭～前葉)

【所見】平坦な底面の中央に一辺 30cmの方形小穴がある。

SK92 土坑 (第 135・136 図、図版 19)

【位置】調査区北東隅、0881 グリッド 【規模】開口部：直径 140cmの円形 底面：直径 150cmの円形 深さ 160cm 【出土遺物】縄文土器 1 (後期初頭)

【所見】底面が平坦なフラスコ状土坑である。

SK93 土坑 (第 137 図、図版 20)

【位置】調査区北東隅、0881 グリッド 【規模】180 × 160 × 148cm

【所見】北側の壁は段差があるが、南側の壁は垂直に立ち上がる。

SK94 土坑 (第 138・139 図、図版 20)

【位置】調査区北東隅、0881 グリッド 【規模】350 × 252 × 124cm 【出土遺物】縄文土器 1 (後期)

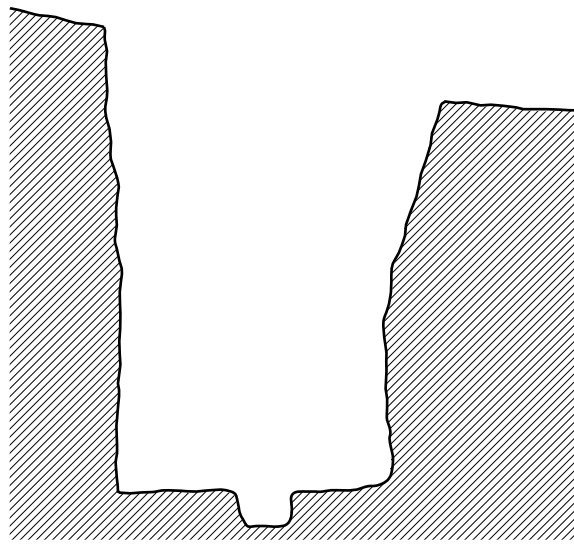
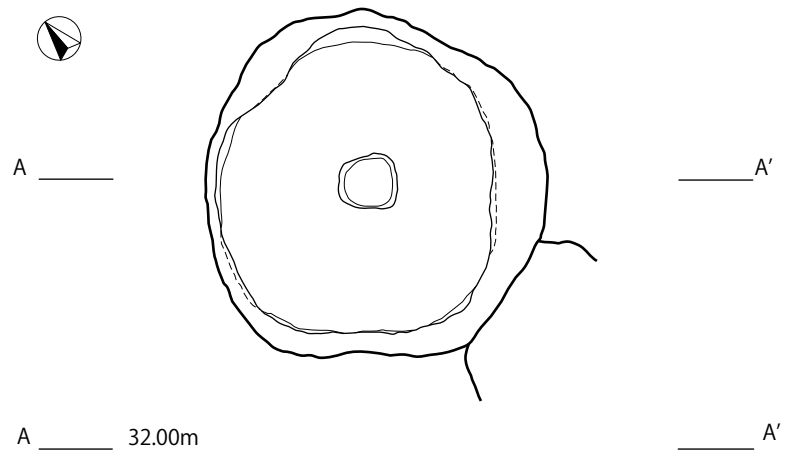
【所見】南側に偏って 126 × 96cmの底面がある。



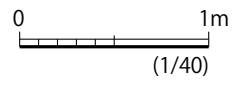
第130图 SK89

1: 石皿

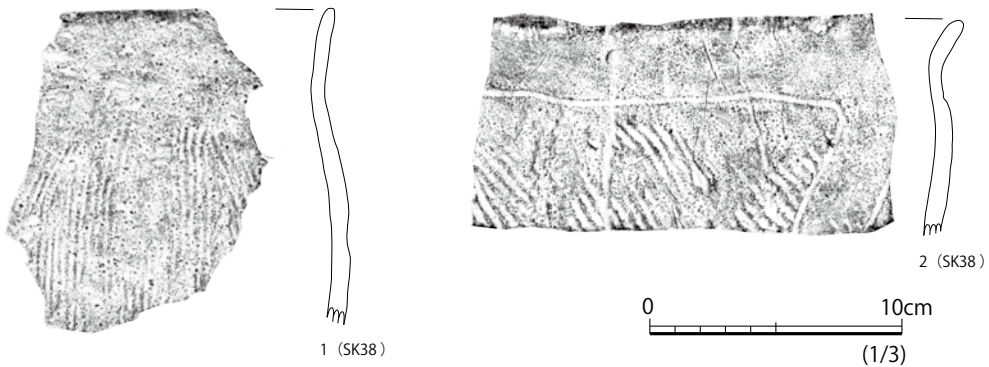
第131图 SK89 出土石器



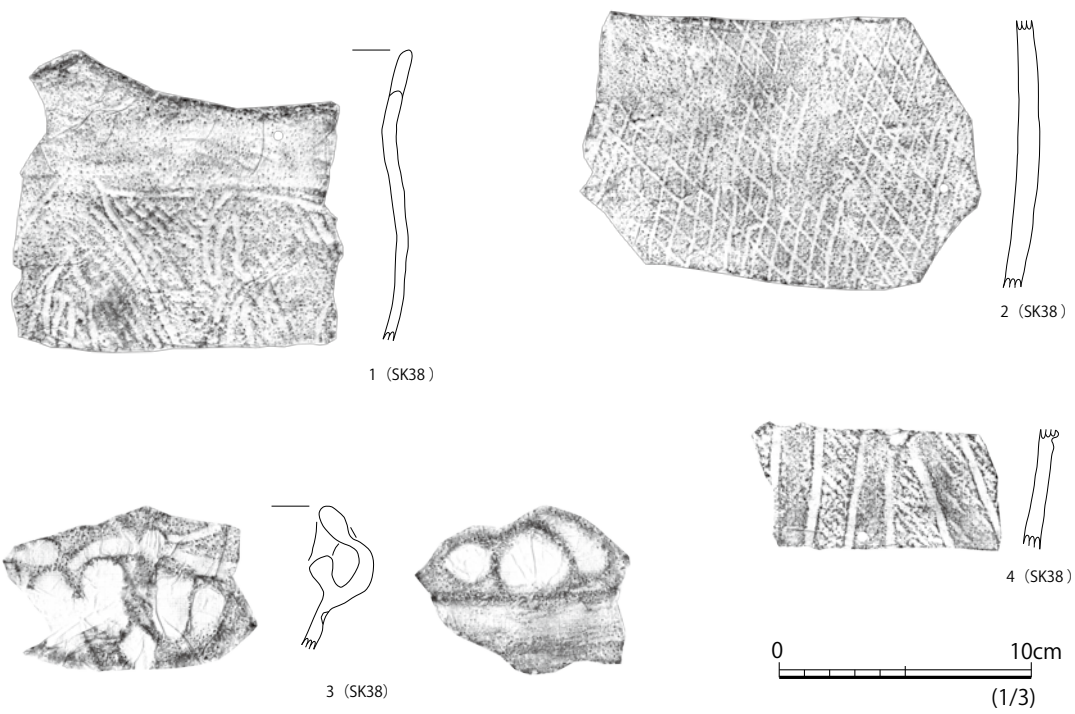
SK91



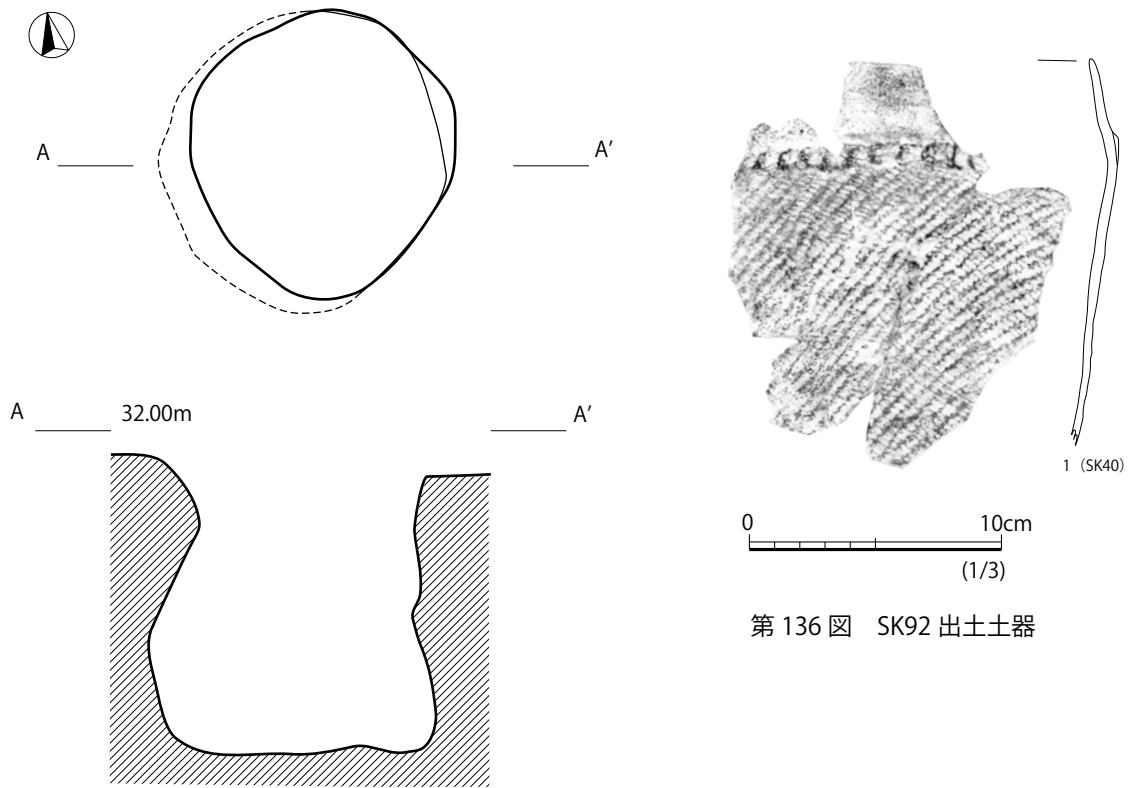
第 132 图 SK91



第 133 图 SK91 出土土器 (1)

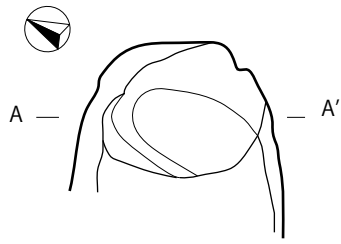


第 134 图 SK91 出土土器 (2)

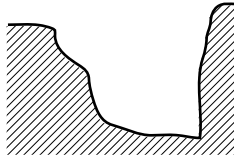


第 136 图 SK92 出土土器

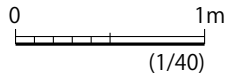
SK92
0 1m
(1/40)
第 135 图 SK92



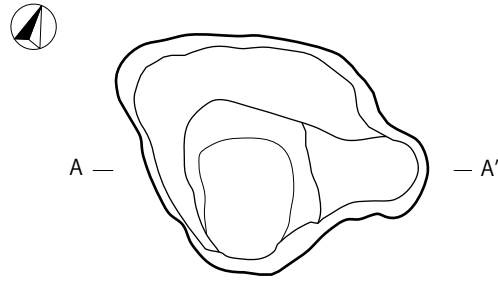
A — 31.70m — A'



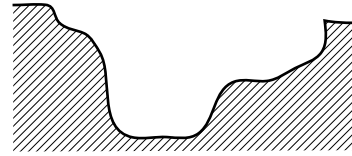
SK93



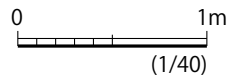
第 137 图 SK93



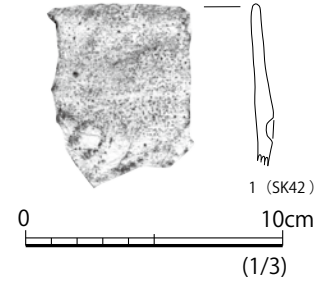
A — 31.90m — A'



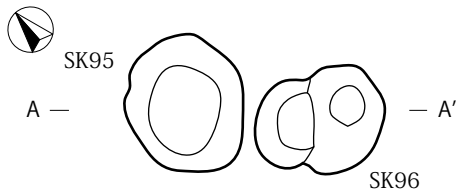
SK94



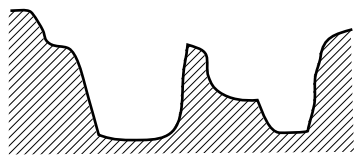
第 138 图 SK94



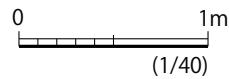
第 139 图 SK94 出土土器



A — 33.00m — A'



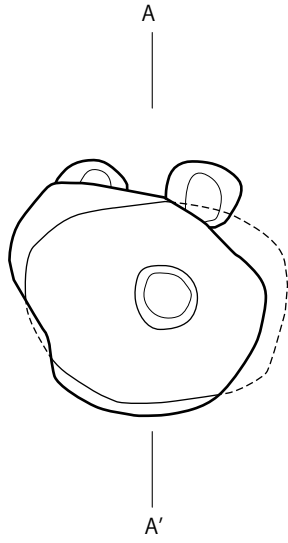
SK95 SK96



第 140 图 SK95 · 96

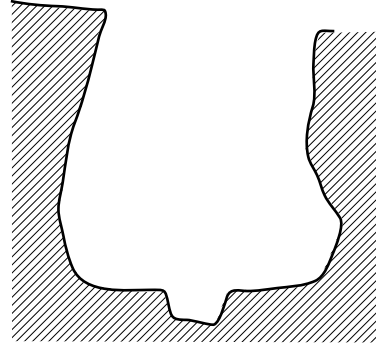


第 141 图 SK96 出土土器

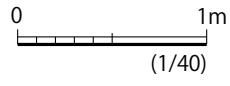


A _____ 30.20m

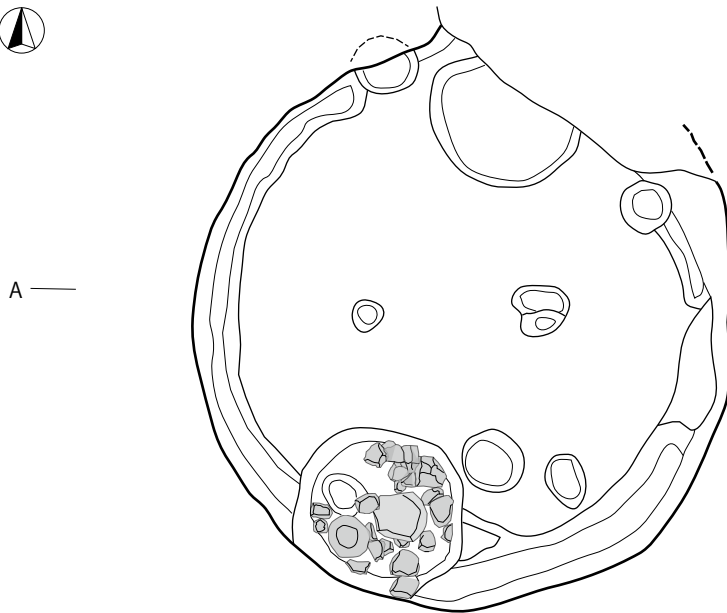
_____ A'



SK97

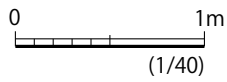
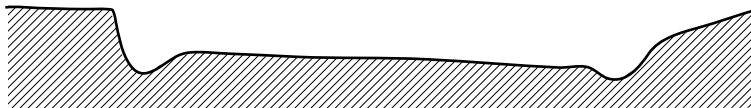


第 142 图 SK97



A _____ 31.00m

_____ A'



第 143 图 SK98

SK95 土坑 (第 140 図、図版 20)

【位置】調査区北東隅、0881 グリッド 【規模】150 × 130 × 144cm

【所見】西壁には段差があるが、東壁は垂直に立ち上がる。

SK96 土坑 (第 140・141 図)

【位置】調査区北東隅、0881 グリッド 【規模】140 × 90 × 110cm 中央がくびれるダルマ形を呈する。

【出土遺物】縄文土器 1 (後期)

【所見】西壁は段差があるが東壁は垂直に立ち上がる。土坑 2 基の重複の可能性がある。

SK97 土坑 (第 142 図、図版 20)

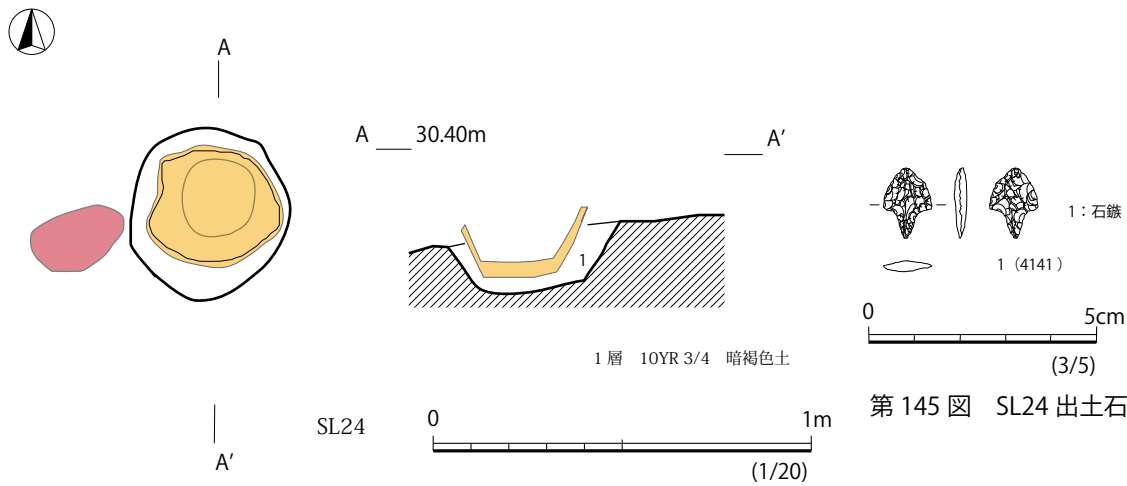
【位置】調査区南、1180 グリッド 【規模】140 × 120 × 150cm

【所見】底面中央に直径 34cm の小穴があるフラスコ状土坑である。

SK98 土坑 (第 143 図、図版 20)

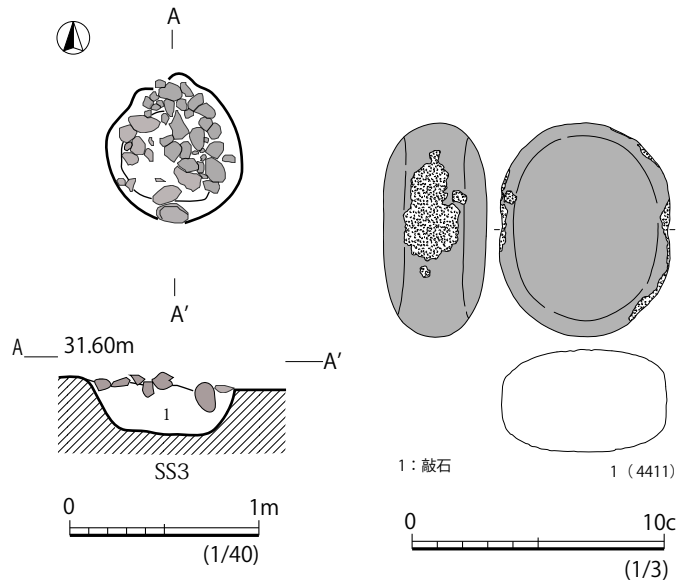
【位置】調査区南、1080・1180・1181 グリッド 【規模】直径約 300・深さ 34cm の円形

【所見】壁際に周溝が巡る。南西壁の小穴の内部から土器片が集中して出土した。



第 145 図 SL24 出土石器

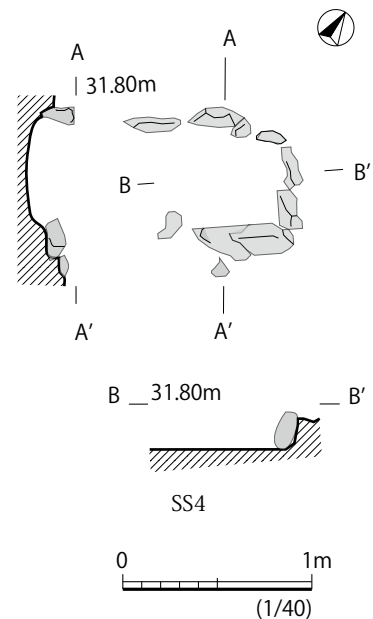
第 144 図 SL24



1 層 10YR 3/4 褐色土 しまり・粘性有り

第 146 図 SS3

第 147 図 SS3 出土石器



第 148 図 SS4

SK99 土坑 (第 127 図)

【位置】 調査区西、1179 グリッド 【規模】 150 × 120 × 50cm 【重複】 SK88 先後は SK88 → SK99

【所見】 土坑内に礫が充填されていた。

焼土跡

SL24 焼土跡 (第 144・145 図、図版 34)

【位置】 調査区南西、1079・1179 グリッド 【規模】 焼土：25 × 15 × 1cm 埋甕土坑：45 × 40 × 15cm 【出土遺物】 石鏃 1 【所見】 埋甕を伴った焼土跡である。竪穴建物に伴った炉跡であった可能性が高い。

配石

SS3 配石 (第 146・147 図、図版 20・34)

【位置】 調査区東、0981 グリッド 【規模】 80 × 70 × 26 【出土遺物】 敲石 1

【所見】 円形土坑内の上面に拳大の礫を充填する。

SS4 配石 (第 148 図、図版 20)

【位置】 調査区北東隅、0881 グリッド 【規模】 100 × 80 × 20cm 【所見】 西側を除きコの字形に長方形で扁平な礫を並べる。方形の石囲い炉の様相を呈すが、内外に焼土などは検出されなかった。

2 遺構外の出土遺物

縄文土器

縄文時代中期の土器（第 150 図 1～第 151 図 3）

第 150 図 1 は隆線による渦巻文が見られ大木 8b 式に比定される。3 は口縁部破片であるが刻線により区画された縦長の楕円形の文様単位が見られ大木 9 式に比定される。

第 150 図 2 は振幅の大きい波状口縁に対応し、太い沈線に縁どられた磨消縄文が展開する。4～7 も太い沈線で区画された磨消縄文がみられる。2・4～7 は大木 10 式に比定される。

8・9 は中央に円孔がある口縁部突起で、突起頂点から弧状に隆線が垂下する。10・11 は橋状突起が残る口縁で、隆線で区切られた文様が展開すると推定される。

第 151 図 1 は内傾する口縁に隆線で区画された磨消縄文が見られる。2・3 は口縁に向かい直線状に開く深鉢の破片で、沈線で区画された縦長の磨消縄文の一部に隆線が付加されている。1～3 は中期末葉～後期初頭に位置づけられる。

縄文時代後期の土器（第 151 図 4～第 154 図 14）

第 151 図 4・5 は鎖状浮線文が見られる。6 は沈線で区画された方形磨消縄文が巡ると思われる口縁部破片である。4～6 は門前式に比定される。

第 152 図 1・2 は吊耳状の把手である。3～5 は沈線区画の磨消縄文、J 字状文、U 字状文、円形刺突文などが見られる。6 は口縁部を沈線と刻線によって装飾し、胴部に半円及び垂下する多条沈線文が見られる。3～6 は文様意匠に堀之内 1 式との相似を指摘でき、後期初頭から前葉に位置づけられる。

第 152 図 7～9 は帯縄文で文様を描いている。7・8 は緩やかな波状口縁に沿って縄文帯が伸びる。

9 は方形の縄文帯が見られる胴部破片である。後期初頭から前葉に位置づけられる。

第 153 図 1～5 は多段の帯縄文が見られる。1 は内傾する口縁の下に平行沈線と帯縄文が巡り、それを縦に区切る沈線も見られる。2・3 は外反する口縁部に幅広く縄文を施し、横位の平行沈線を多重に巡らす。4 は三段の帯縄文の下に無文帯を挟み、さらに縄文を施す。5 は胴下部に横位平行沈線が見られる底部である。器面を装飾する多段の縄文帯は加曾利 B 式の影響とみられ、後期中葉に位置づけられる。

第 153 図 6・7 は高く突出する山形突起部分である。3 は突起下に複数の帯縄文が巡る。7 は鉤状の隆線文が見られる。8・9 は丸みを帯びた突起部の破片で、内面側の中央が窪む。10 は口唇部が内屈する振幅の大きな波状口縁部破片で、下位に横位刻線文が見られる。11 は中空の肥大した口縁突起部の内外面を浮線や穿孔で装飾している。下位には帯縄文も見られる。第 154 図 1 は板状に成形された口縁を列点や刻線、縄文を施し、さらに肥厚した口唇部に S 字状の隆線を貼付している。第 153 図 6～第 154 図 1 は後期中葉に位置づけられる。

第 154 図 2～5 は入組带状文・弧線文が見られる。2 には小突起も見られる。6～9 は同一個体の破片と推定され、口唇部に連続した二頂の山形小突起と刻目、区画内を刺突文で埋めた横位に連続するレンズ状文、さらに下位には刺突文を充填した文様帯と横走する羽状縄文が巡っている。

10～14 は器面に貼付された瘤状小突起が特徴となる。第 154 図 2～14 は後期後葉に位置づけられる。

粗製土器（第 149 図 1・2、第 155 図 1～12、図版 35）

第 149 図 1・2 は、竪穴建物の炉跡出土とされているが竪穴建物詳細や出土状況の記録が無く、遺構外の粗製土器とした。

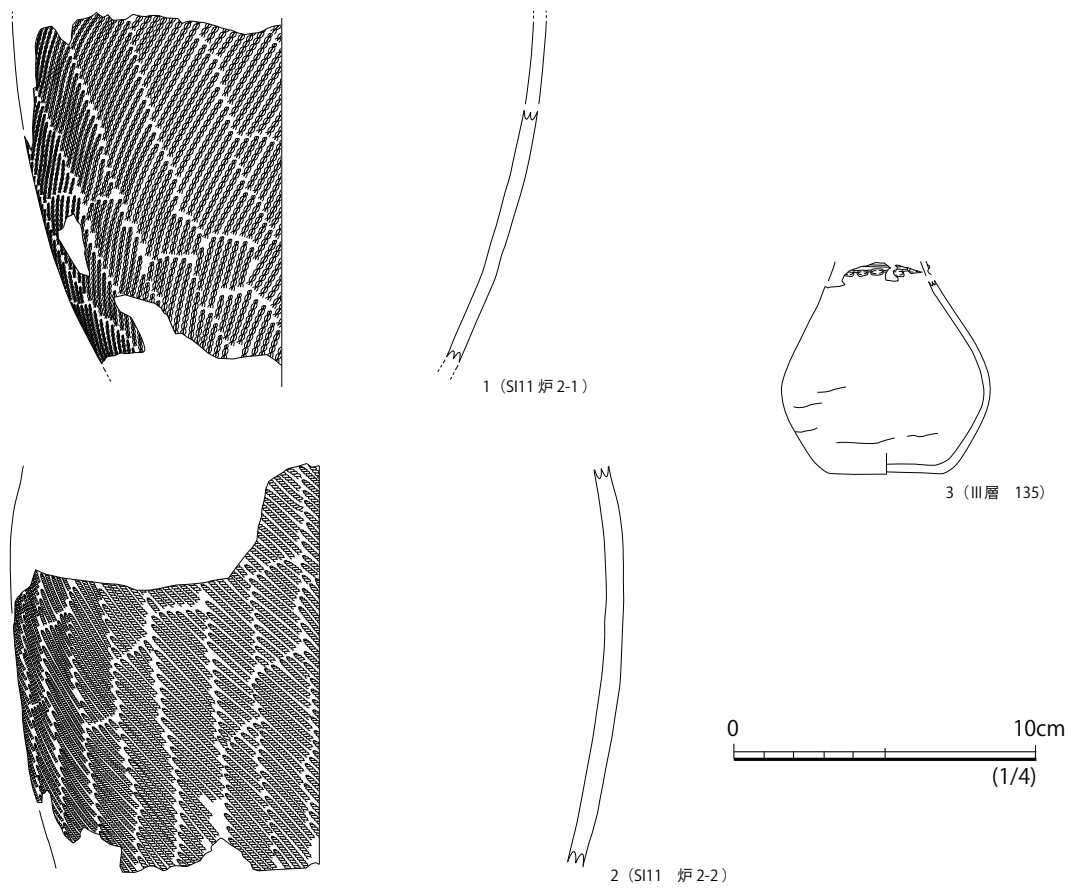
第 155 図の各土器は無文あるいは縄文が見られるもので、一部には補修孔も観察される。
粗製土器の大半は後期初頭～前葉に位置づけられる。

その他の土器（第 149 図 3・第 156 図 1～9）

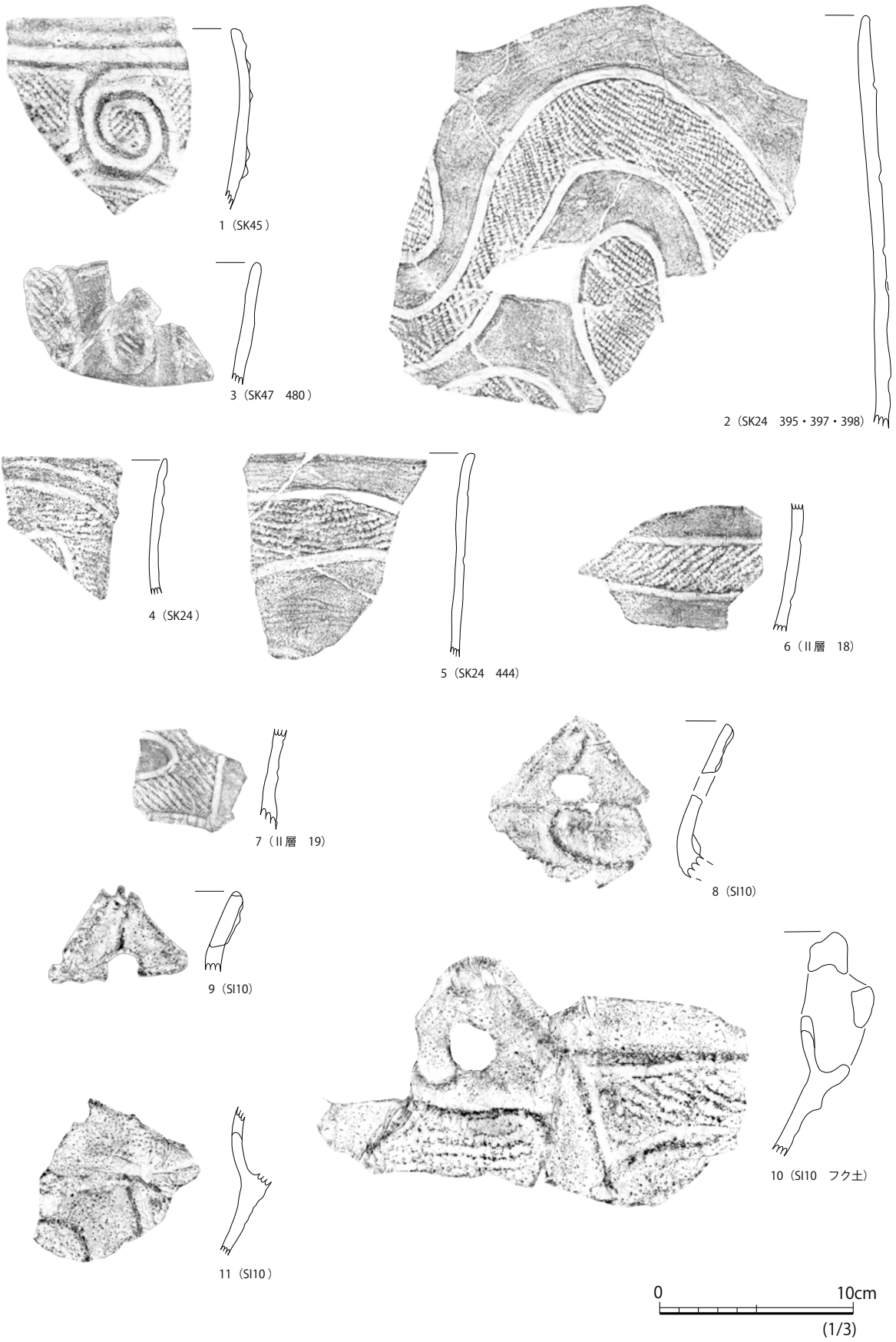
第 149 図 3 は頸部がすぼまり壺型を呈すると推定される。頸部に隆線と刻線が見られる。

第 156 図 1～7 は比較的残りの良い底部破片を一括した。底面には網代・木葉痕が見られる。

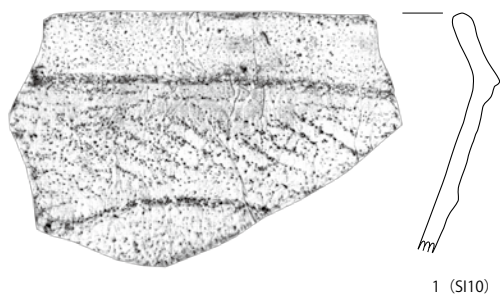
8 は深鉢型のミニチュア土器である。9 は注口土器の注口部である。



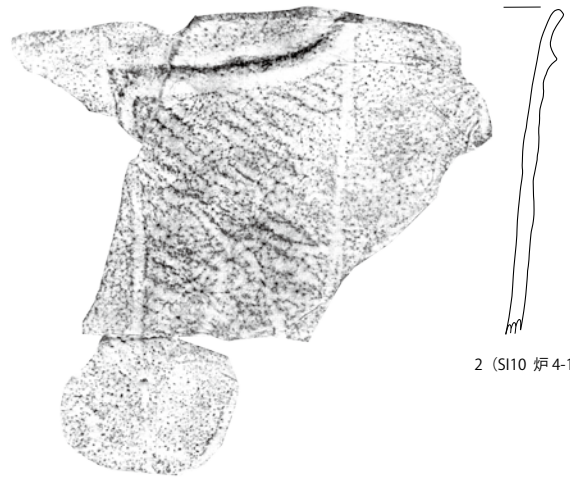
第 149 図 遺構外出土土器（1）



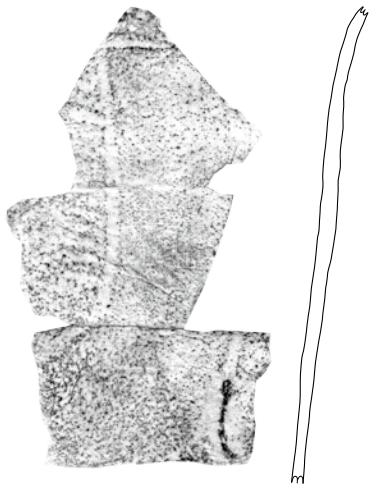
第150図 遺構外出土土器(2)



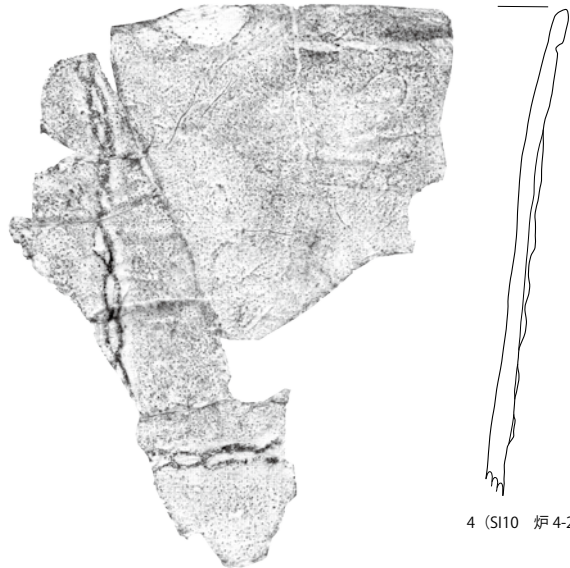
1 (SI10)



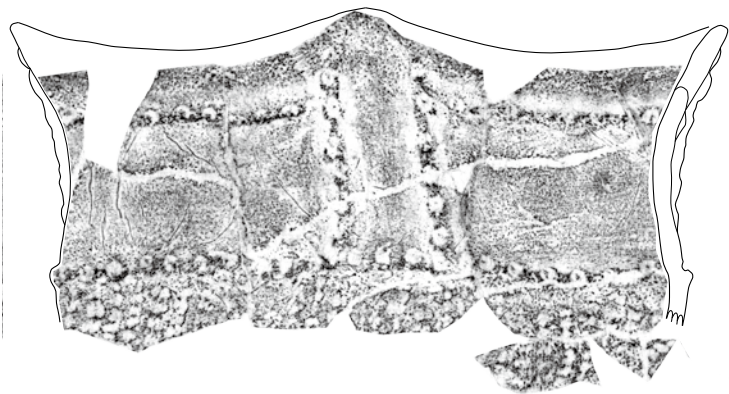
2 (SI10 炉4-1)



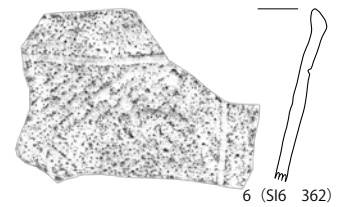
3 (SI10 炉4-1)



4 (SI10 炉4-2)



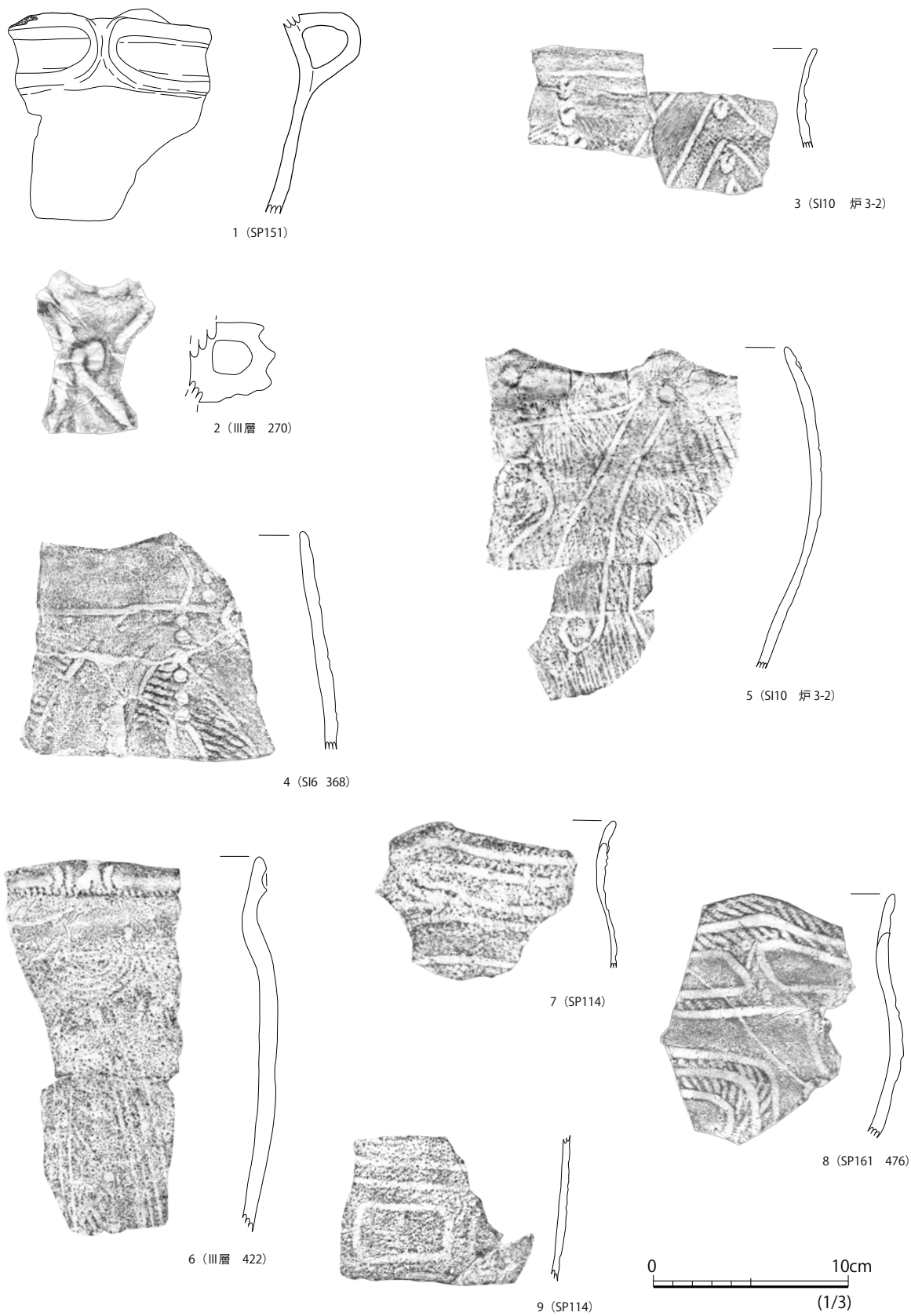
5 (SI10 476)



6 (SI16 362)



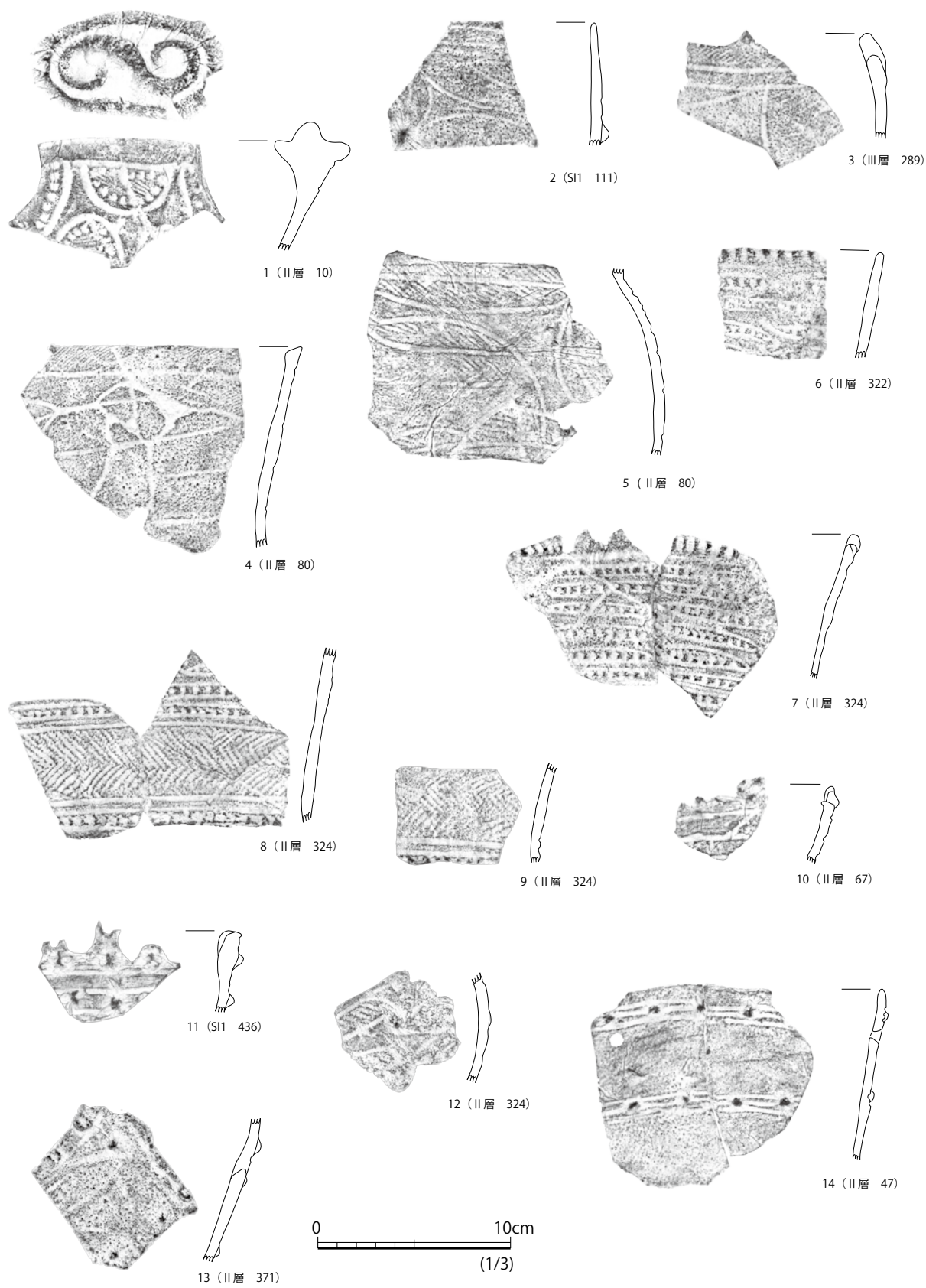
第 151 図 遺構外出土土器 (3)



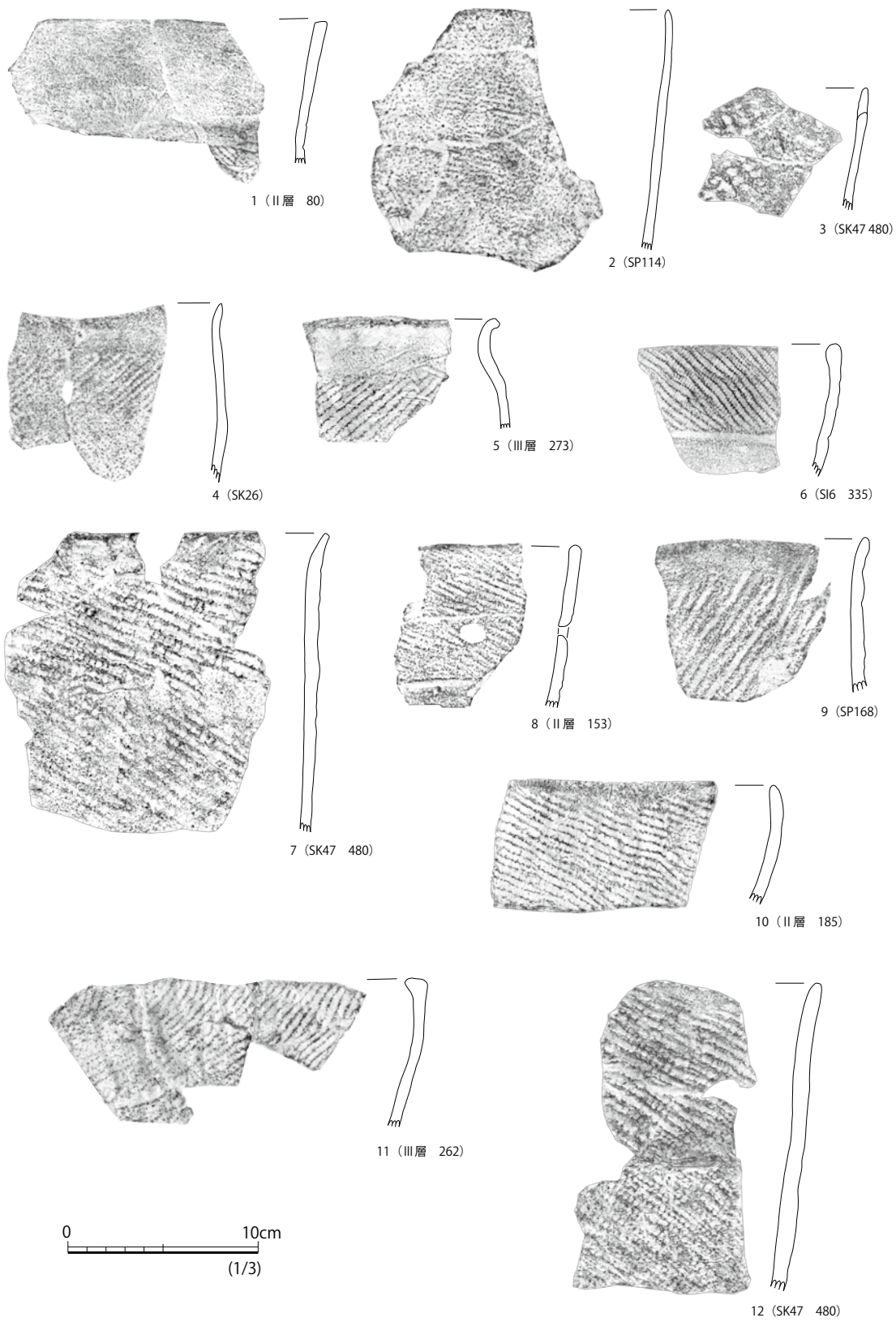
第152図 遺構外出土土器(4)



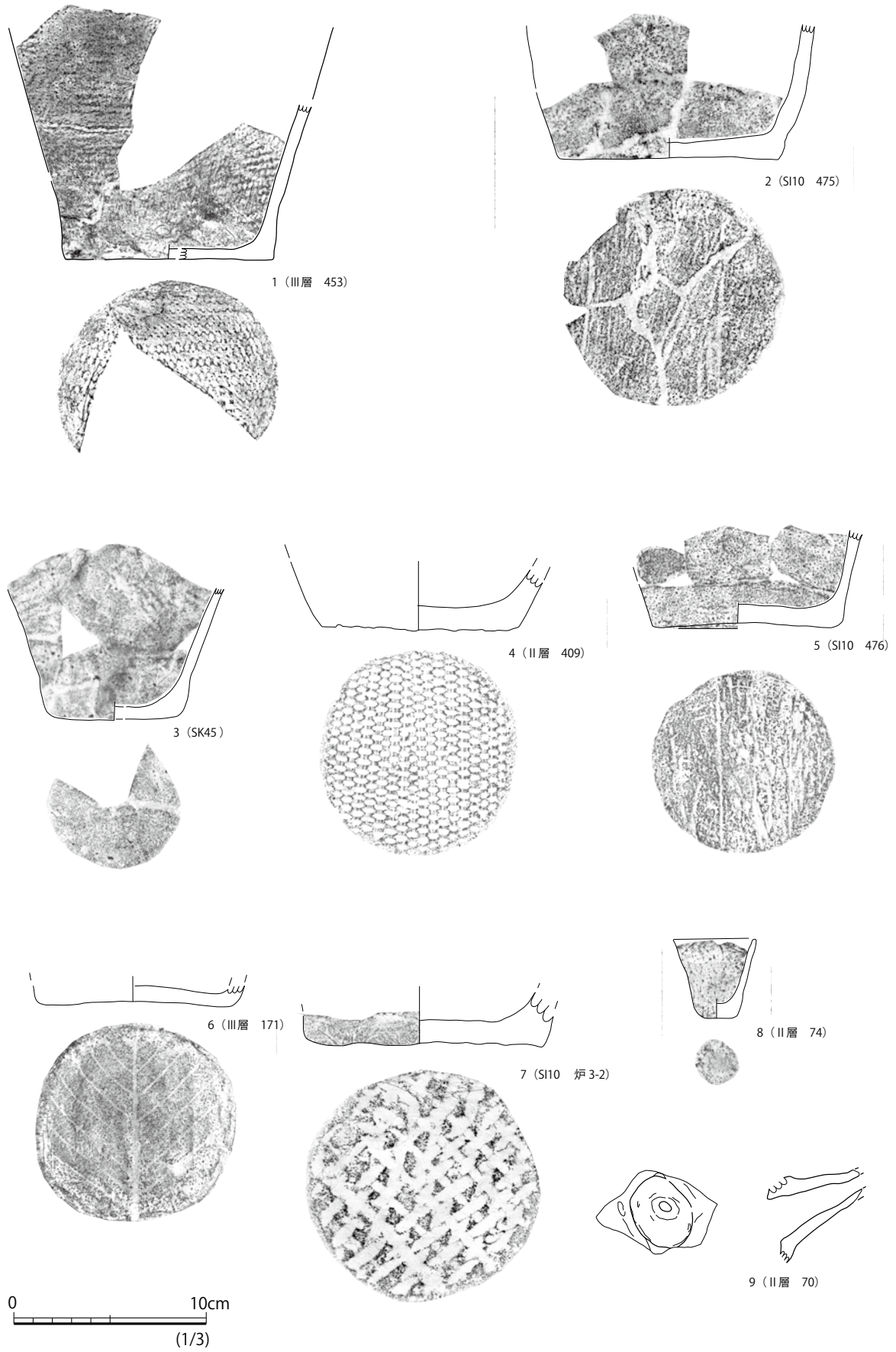
第 153 図 遺構外出土土器 (5)



第 154 図 遺構外出土土器 (6)



第 155 図 遺構外出土土器 (7)



第 156 図 遺構外出土土器 (8)

土製品

土偶（第 157・158 図、図版 35）

157 図 1 は頭部破片である。顔面は写實的造形で、頭部には粘土紐を振り鬘状に結った頭髪を表わしている。さらに頭部には縄文が施されている。2 は脚部破片である。全面に刻線文が見られる。3 は円板状で顔面を表現したような凹凸が見られる。

157 図 4・5 と 158 図 1 は板状土偶の破片と思われ、連続した円形刺突文で装飾される。157 図 4 は乳房の表現があり胸から左腕部分である。157 図 5 は左右いずれかの腕部分と思われる。

158 図 1 は弧状の縁辺から全形では円板状を呈し耳飾の可能性を考えたが、厚みが伴わず板状土偶の一部とした。

157 図 6、158 図 2～4 は、本遺跡から多出する全形が Y 字状を呈し身体を抽象表現した土偶の破片と推定される。いずれも連続円形刺突文で装飾される。

157 図 6 は胸から右腕基部の破片と推定した。158 図 2～4 は基部の破片で、底面は上げ底で円形を呈する。3 には表面に円錐状の突起が見られ、4 には表裏面を貫く穿孔が施されている。

ミニチュア土器（第 159 図 1～3、図版 35）

1 は深鉢形で口縁部には刻線文が見られる。2 は高台のある坏状である。3 は平底を呈する坏である。

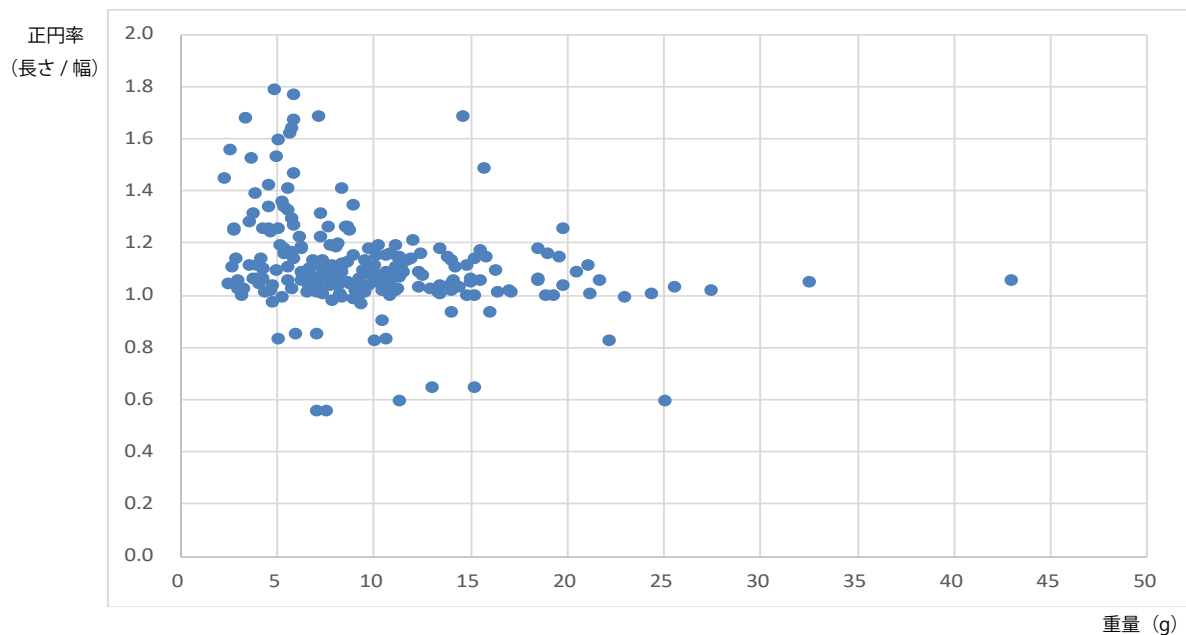
耳飾（第 159 図 4、図版 35）

滑車状を呈し、表面に同心円状の連続した刺突が施される。

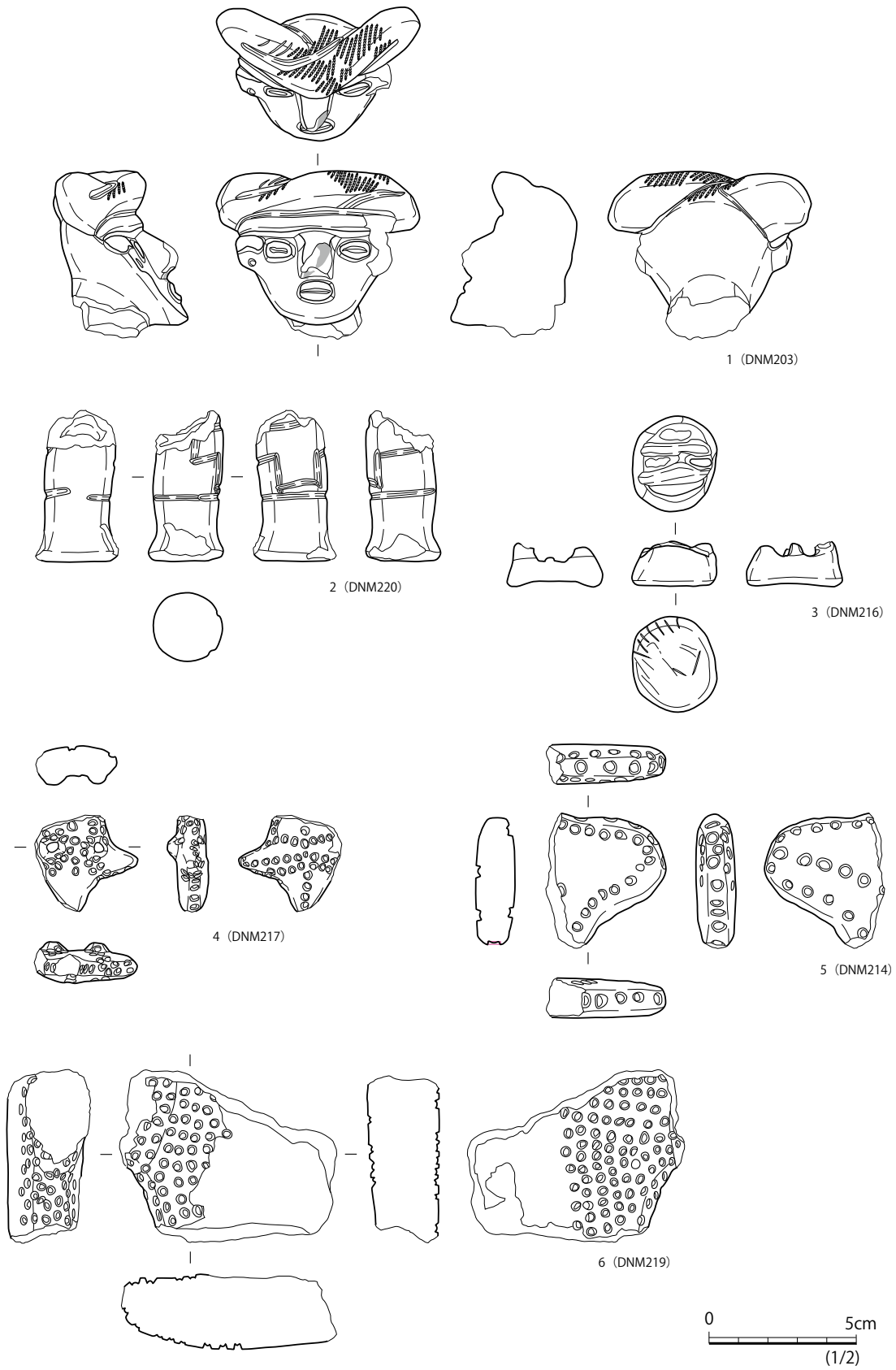
土器片製円盤（第 159 図 5～10）

遺構内の埋土中から出土したのもも含み 276 点（欠損品を除く）を数え、そのうち 6 点を図示した。

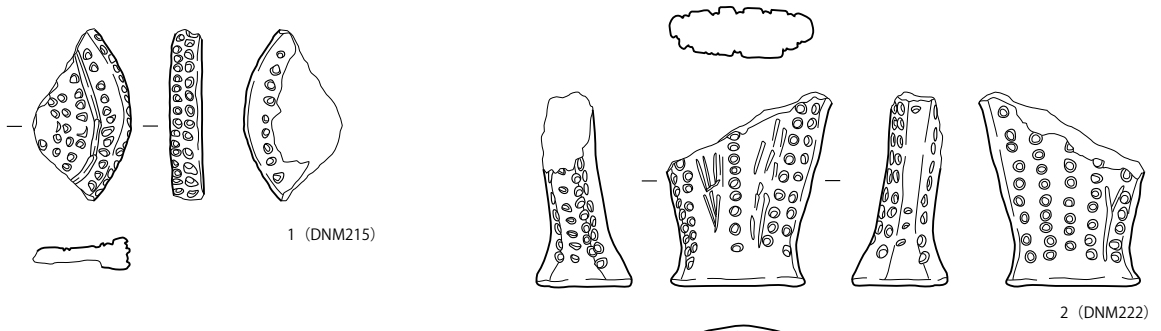
図表 1 に長さを幅で除した正円率と重量分布を示した。正円率 1.0～1.2、重量 5～12g に集中が見られる。図表から外周を円形に整え、重量を 5～10g に揃えるように整形された事が伺え、漁網あるいは編み物作成時の錘などに使用された可能性がある。



図表 1 10 区土器片製円盤属性分布

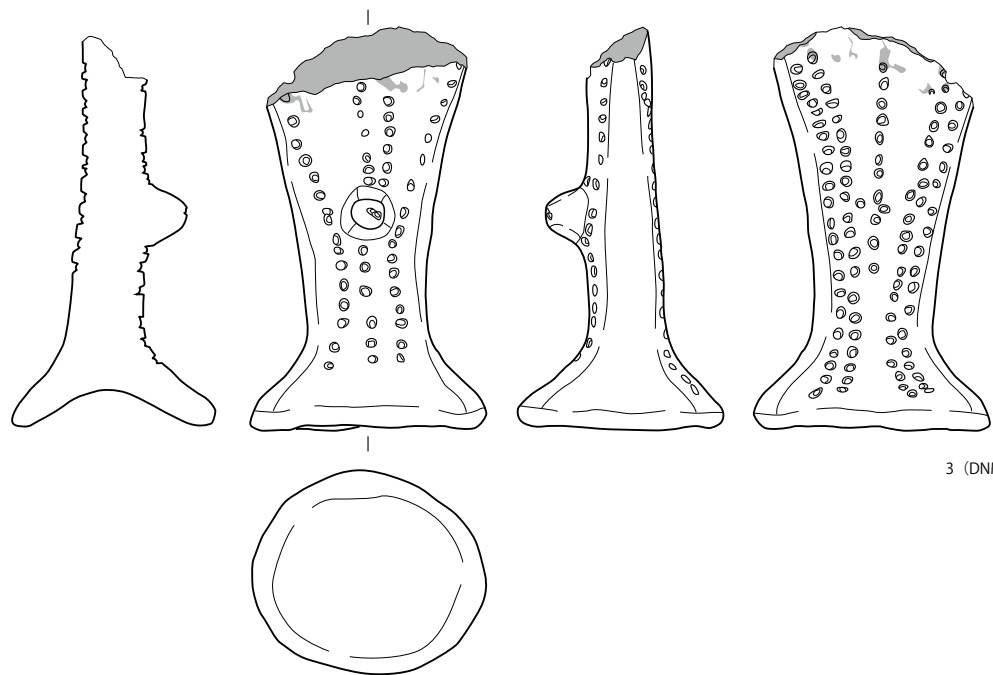


第 157 图 遺構外出土土偶 (1)

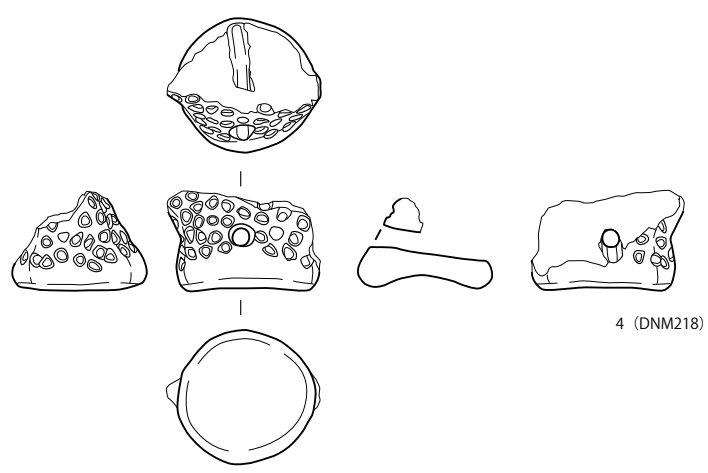


1 (DNM215)

2 (DNM222)



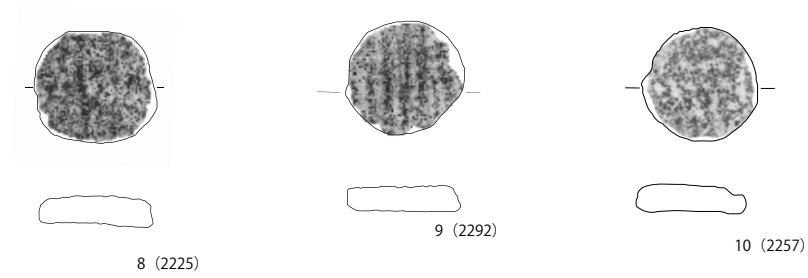
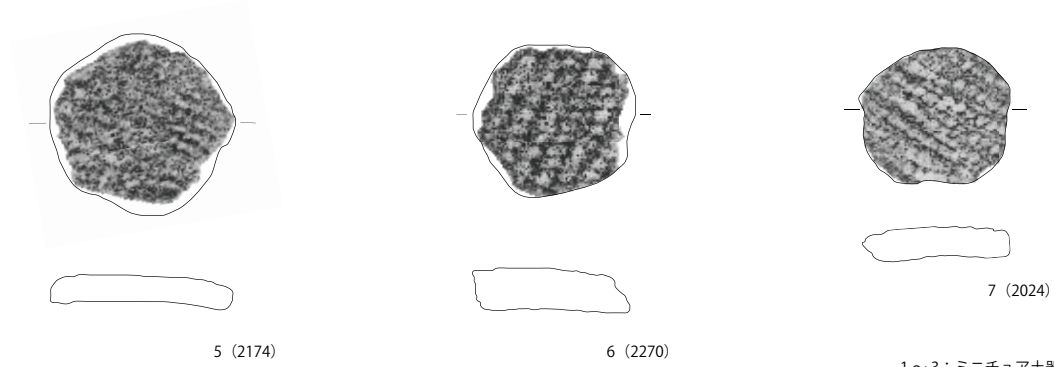
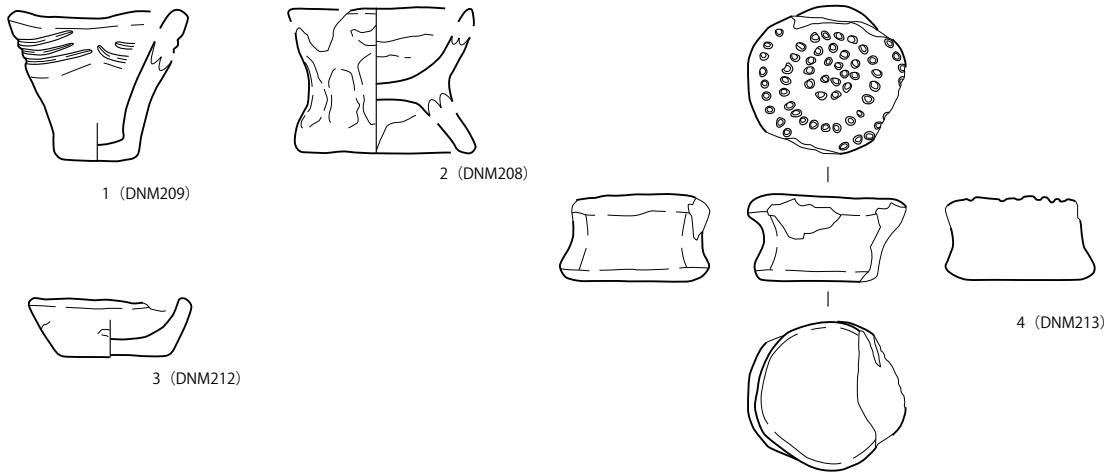
3 (DNM221)



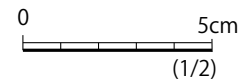
4 (DNM218)



第 158 図 遺構外出土土偶 (2)



1～3：ミニチュア土器
4：耳飾
5～10：土器片製円盤



第 159 図 遺構外出土土製品

石器

石鏃 (第 160 図 1～第 162 図 34、図版 36・37)

基部の柄の有無によって二つに大別できる。第 160 図 1～第 161 図 6 は有柄、第 161 図 7～第 162 図 34 は無柄である。

有柄型には、第 160 図 1～20 の身部の幅が広く正三角形に近いものと、第 160 図 21～第 161 図 1 の身部の幅が狭く二等辺三角形に近いものがある。161 図 2～6 は身部両側が弧状となる。

無柄型は、第 161 図 7～32 の基部中央の抉入が深いもの、第 161 図 33～第 162 図 21 は抉入が浅いもの、第 162 図 22～34 は抉入がほぼ見られず基部が直線状のものに細分される。

石錐 (第 163 図 1～13、図版 37)

摘み部と錐部が明確な 1～4 と不明瞭な 6～10 がある。また錐部が突出し逆三角形を呈する 11～13 もある。5 は錐部の破片である。

石匙 (第 164 図 1～9、図版 37)

刃部の作出方向によって、大きく縦型 1・2 と横型 3～9 に二分される。8・9 は摘みを除いた身部の平面形が鳥のくちばし形となる特徴を示す。

搔器 (第 165 図 1～第 166 図 4、図版 37・38)

第 165 図 1 は表面上端部から左側縁部にかけて入念な調整剥離を施し刃部とする。2～6 は逆三角形で左右両側縁に入念な調整が見られる。7～18 は円・楕円形あるいは三角形の形状で、周縁部に入念な調整が見られる。

第 166 図 1～4 は大形の搔器である。1 は表面右側縁に入念な調整が加えられている。2 は全周縁にわたり粗い調整剥離が施され刃部とする。3 は三角形を呈し長辺部に入念な調整が加えられている。4 は周縁部を粗く打ち欠き使用したと思われる。

石斧 (第 167 図 1～第 168 図 12、図版 38)

第 167 図 1～8 の打製石斧と第 167 図 9～第 168 図 12 の磨製石斧に分けられる。

第 167 図 1・2 は先端刃部が欠失しているが、方形を呈する斧である。3・4 は表裏面に粗い調整を加え、下端部を調整し刃部とする。5 は断面方形の自然石を斜めに破断し端部に調整を加え刃部とする。6・7 は先端部の破片、8 は基部の破片である。9・10 は断面方形で全面を入念に研磨し刃部を作出している。

第 168 図 1～6 は先端部の破片で、いずれも断面は楕円形を呈する。7 は入念に研磨され、断面楕円形となった半壊品である。8 は先端の刃部が欠失している。9～12 は基部の破片である。

敲石 (第 169 図 1～5、図版 39)

1～3 は棒状の敲き石の半壊品である。3 は磨製石斧の転用である可能性が高い。4・5 は円礫を素材としたもので全面に敲打による潰れや剥離が見られる。

凹石 (第 169 図 6～第 171 図 4、図版 39・40)

人為的な窪みが見られる石器をまとめた。第 169 図 6～8 は不定形なものである。

第 170 図には円・楕円形のをまとめた。表裏面のずれか、あるいは両面の中央付近に窪みが認められる。

171 図は大形のものである。据え置いて使用した可能性がある。

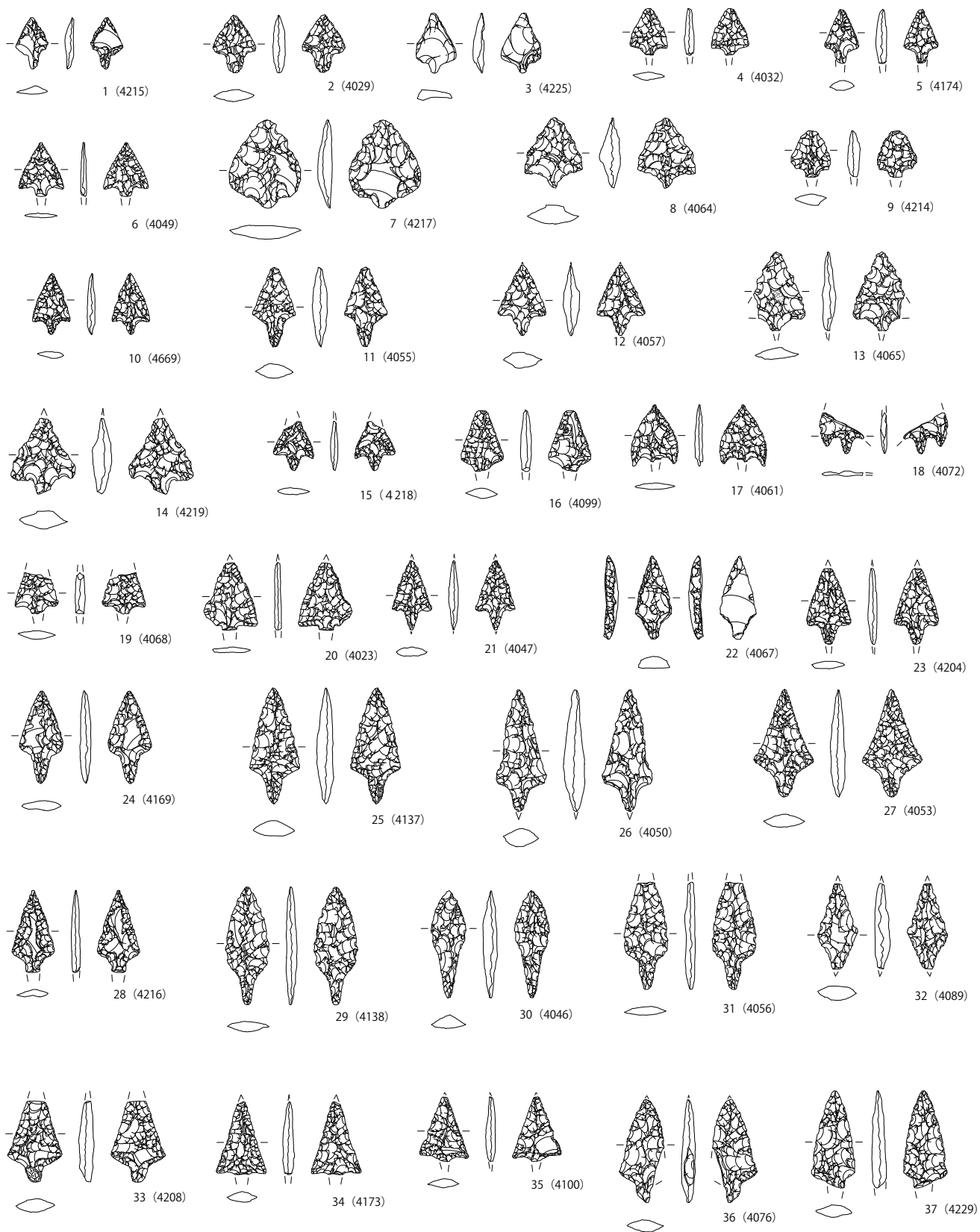
磨石 (第 172 図 1・2、図版 40)

楕円の形状を示し全面に研磨痕が見られる。

砥石 (第 172 図 3～第 173 図 3、図版 40)

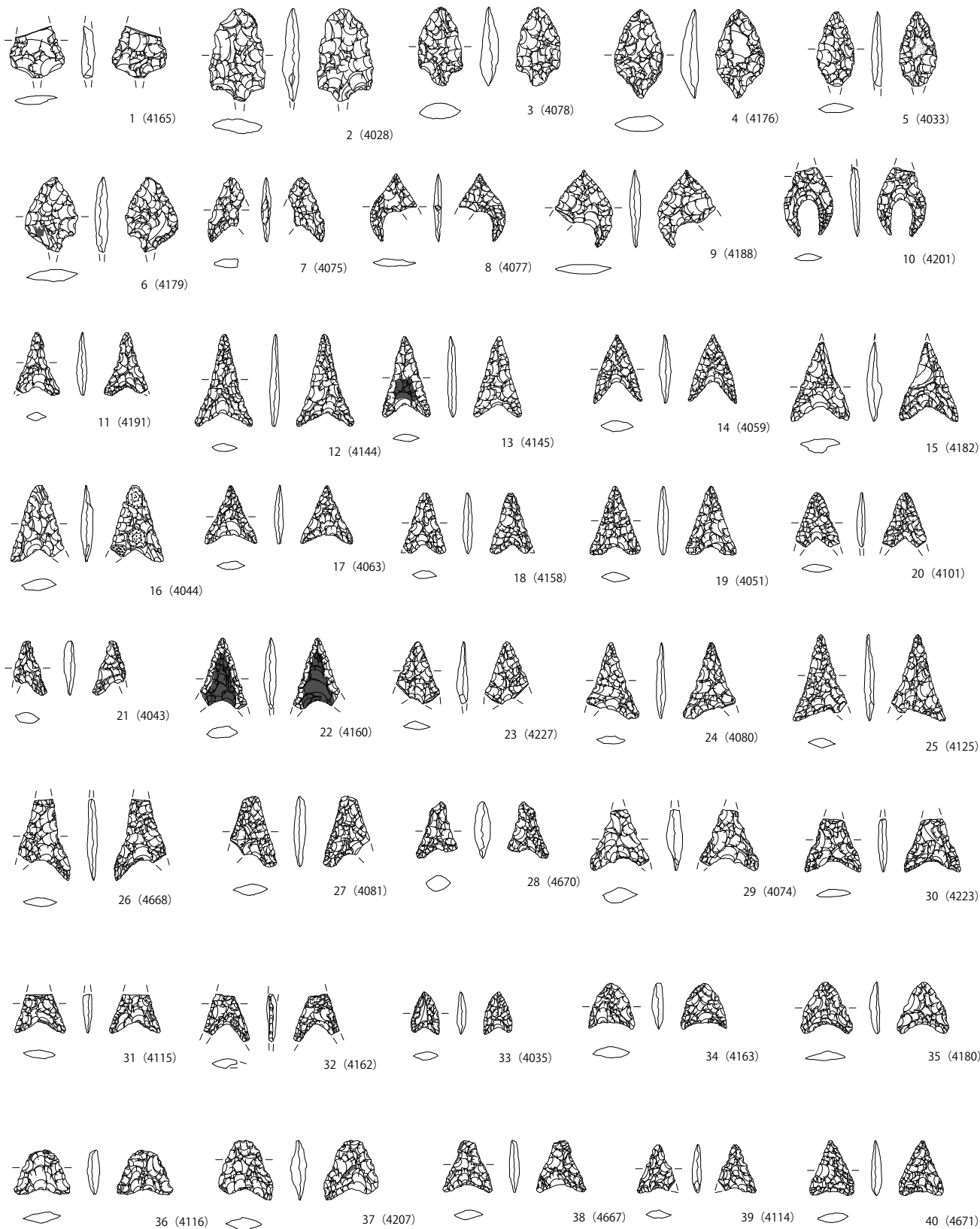
第 172 図 3 は断面が方形で表裏両面に研磨痕が見られる。

第 173 図 1 も断面方形で表裏面に研磨痕がみられる。大形の砥石の破片である。2 は四角いレンガ



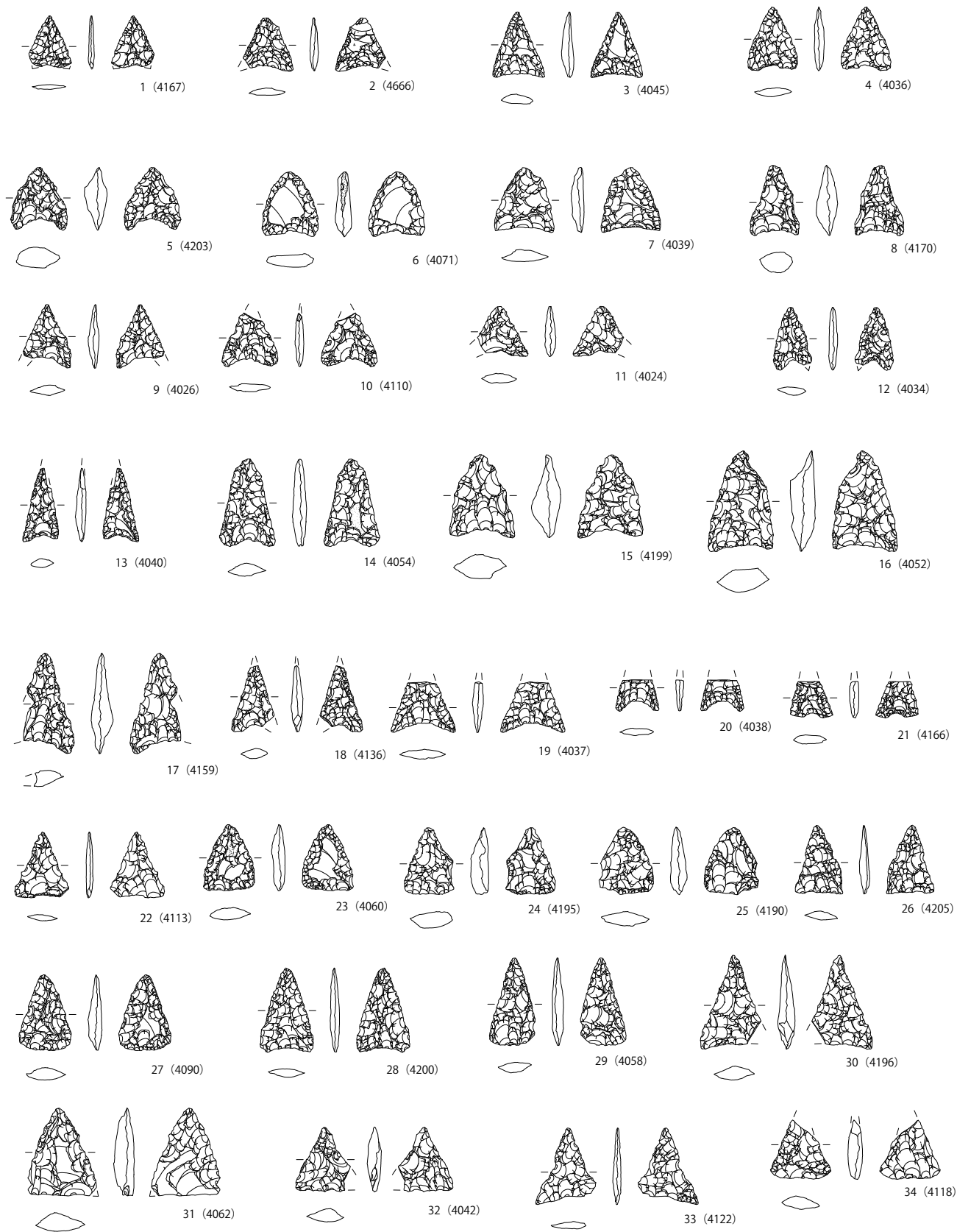
0 5cm
(3/5)

第160図 遺構外出土石器 (1)



0 5cm
(3/5)

第 161 图 遺構外出土石器 (2)



0 5cm
(3/5)

第 162 図 遺構外出土石器 (3)

状の石材を利用している。表裏面の一部に研磨痕が観察される。3は周縁を粗く打ち欠いた扁平な石材の表面に研磨痕が見られ、裏面には直線状の溝が見られる。

石皿（第174図1～第175図2、図版40）

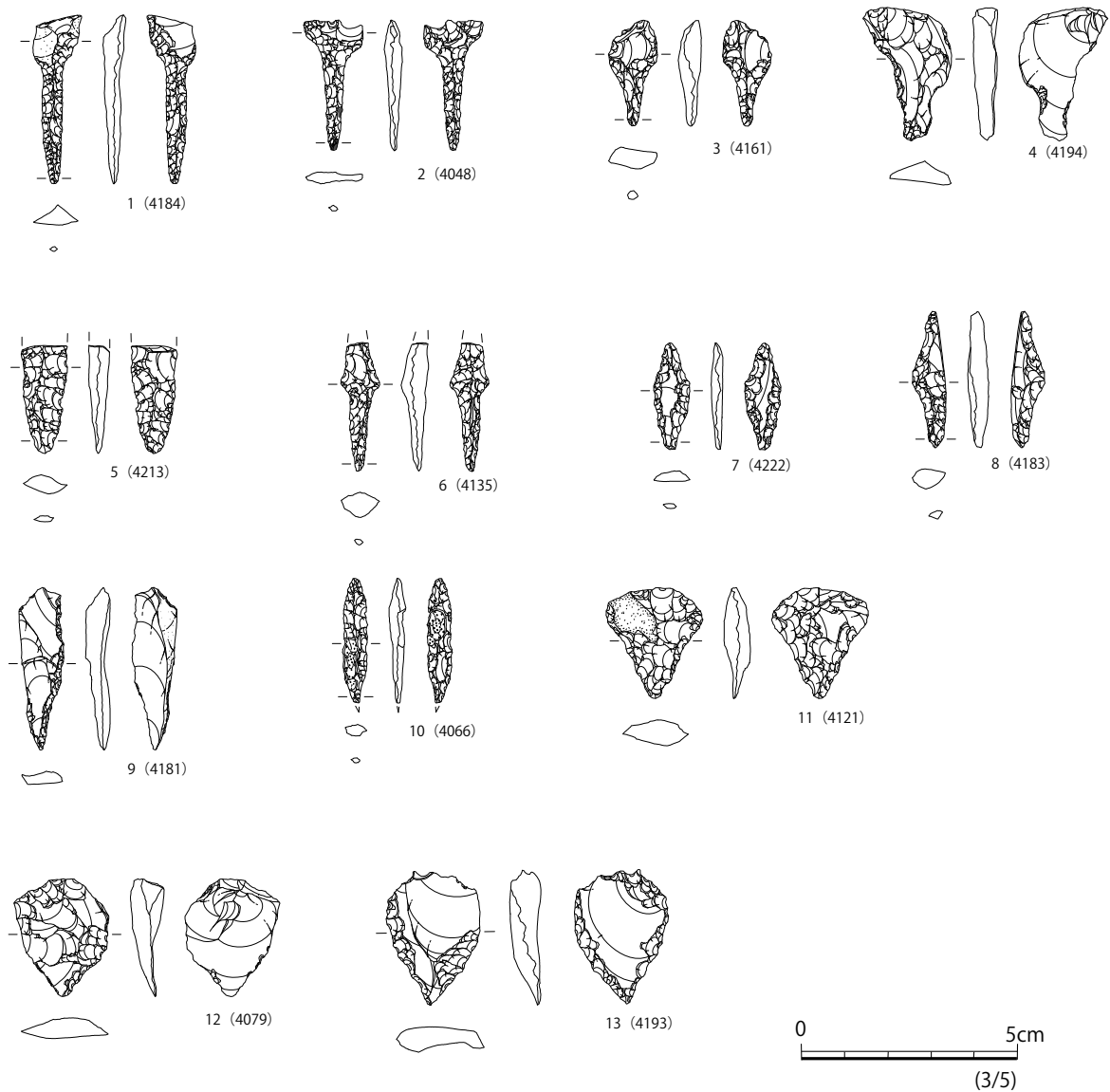
174図は脚付き、あるいは裏面が有段となった石皿の破片である。175図は重量のある大形の石皿である。

台石（第176図1～第177図3、図版41）

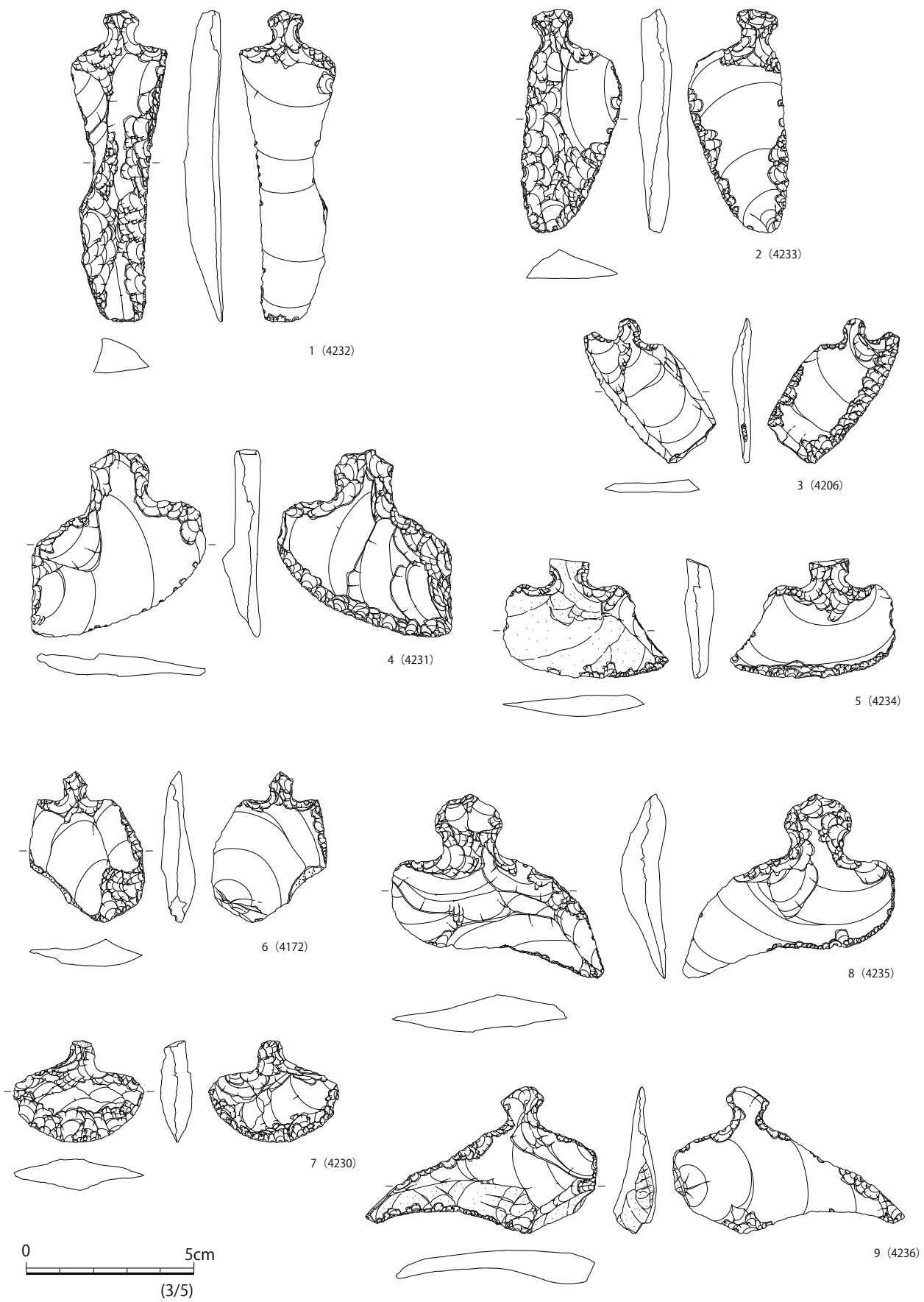
大形で重量があり据え置いて作業台として使用したと思われる。

176図1は扁平な自然石の表面に研磨痕や擦痕が見られ、周縁部にも打撃による剥離が見られる。

177図1は扁平な縦長の自然石に研磨痕や人為的溝状痕が見られる。2は円形の自然石であるが全面に研磨痕が見られる。3は扁平な自然石の表裏面に縦・横・斜位に大小無数の刻線が刻まれている。



第163図 遺構外出土石器 (4)



第 164 図 遺構外出土石器 (5)



第 165 図 遺構外出土石器 (6)

石製品

石棒 (第 178 図 1～3・第 179 図 1・2、図版 42)

178 図 1 は下端が欠失するものの有頭石棒である。全面をよく研磨し成形されている。2・3 は破片である。

179 図 1・2 は有頭石棒の端部破片である。1 はタガ状に巡る突帯で区切られた頭部に、方形区画内に一対の突起を作出している。2 は湾曲する体部の端部にサイコロ状の頭部が見られる。頭部の各面は研磨され、装飾は見られない。

石刀 (第 178 図 4、図版 42)

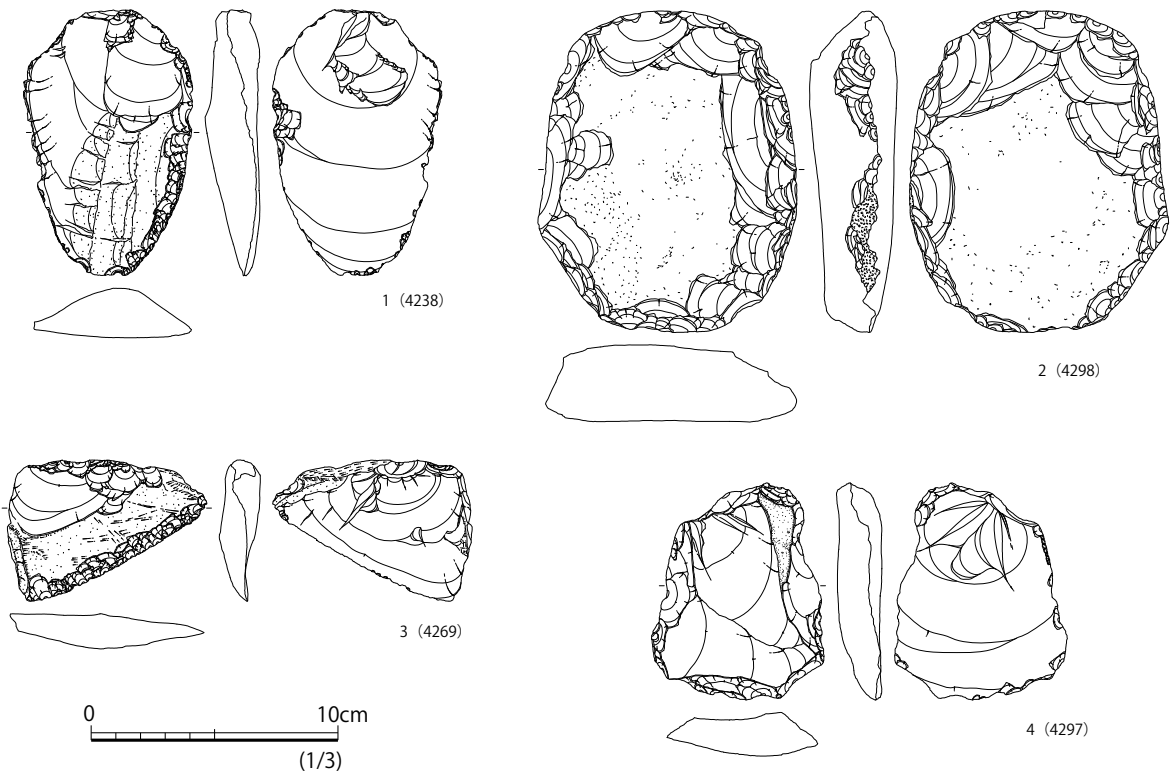
破片であるが表裏両面に粗い調整が加えられ扁平に成形されている。反りも見られ断面形から石刀とした。研磨整形する前の未製品の可能性もある。

異形石器 (第 179 図 3～5、図版 42)

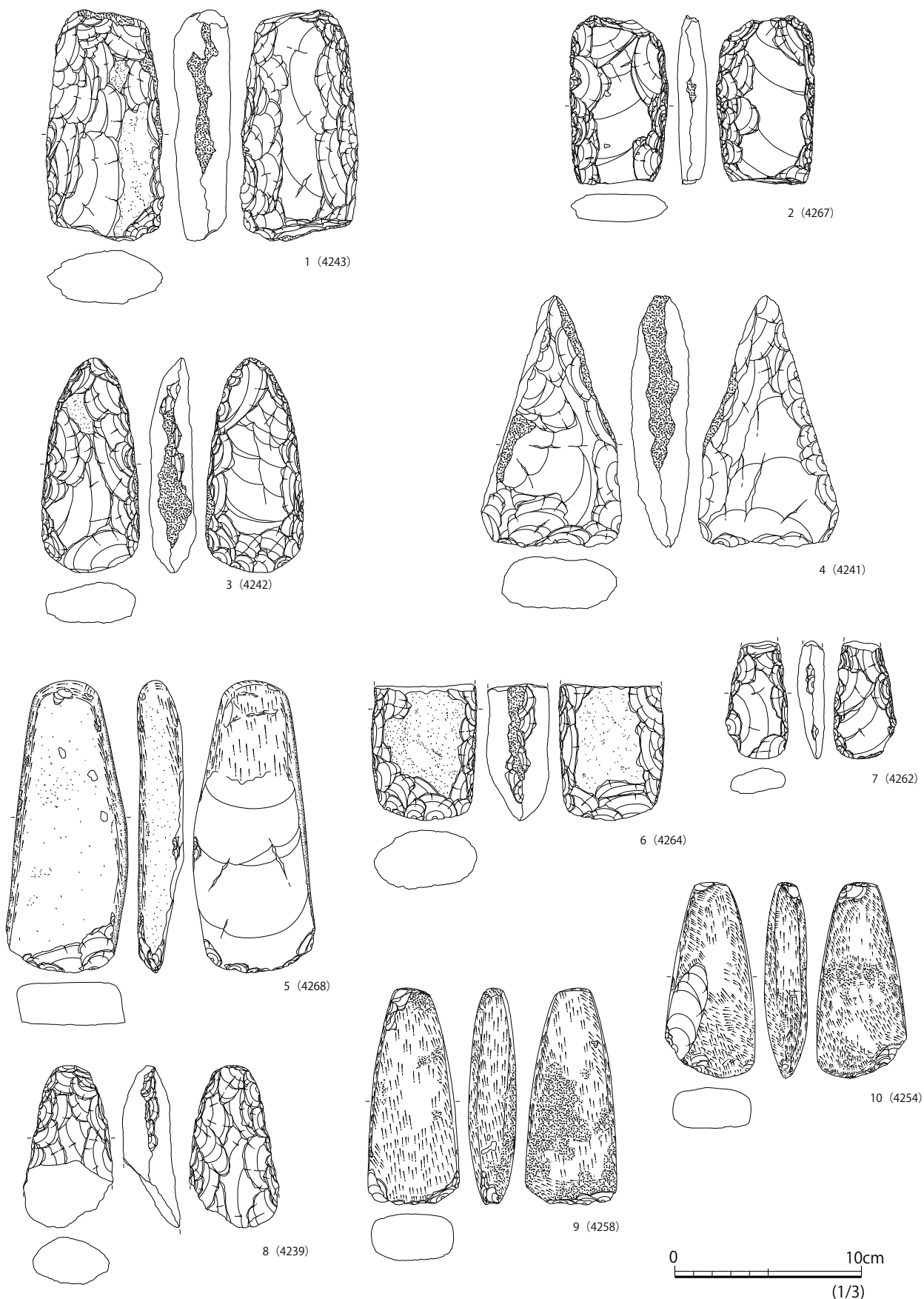
入念な調整剥離を施され人形状に成形されている。

石製円盤 (第 179 図 6、図版 42)

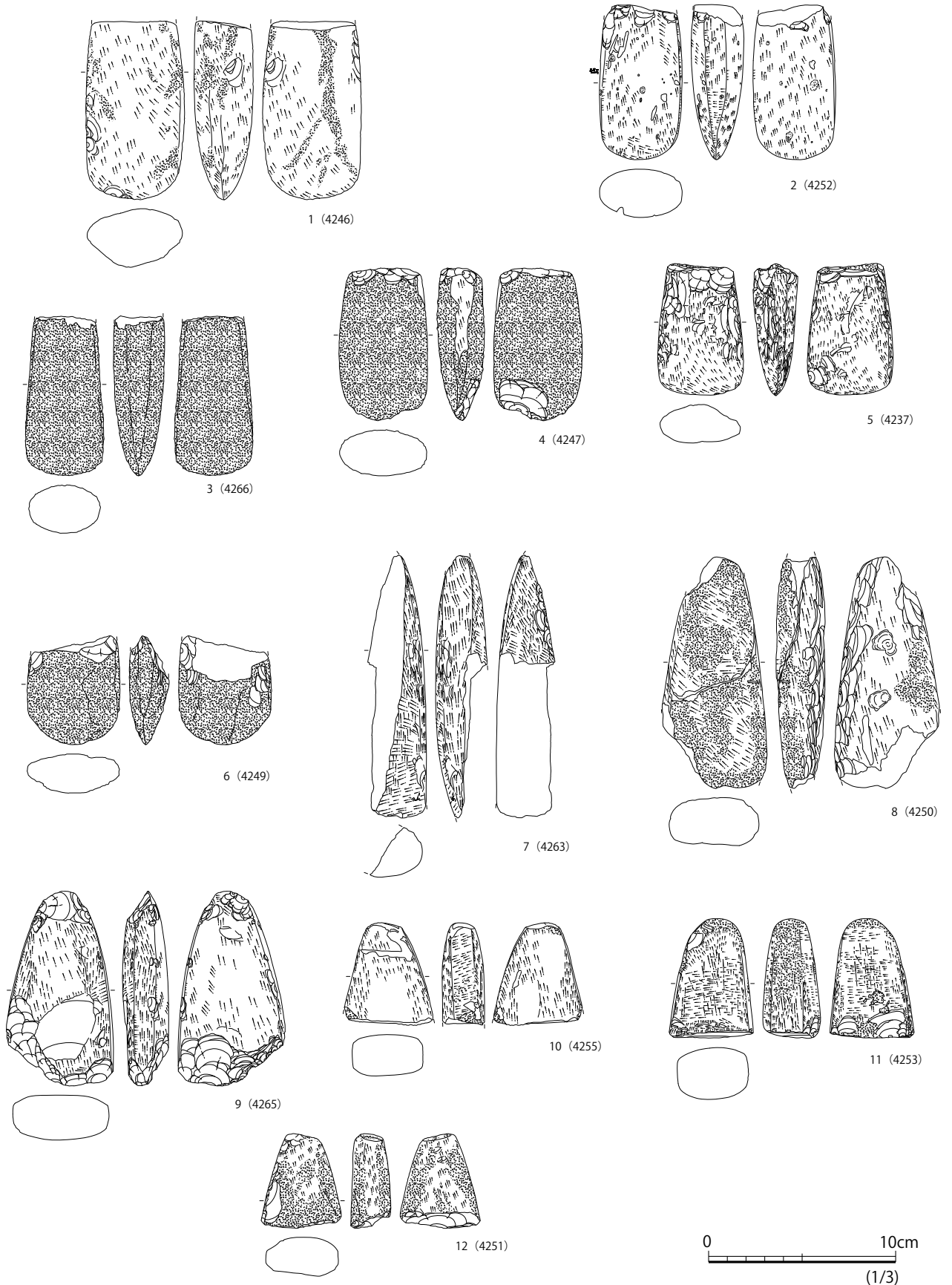
扁平でやや厚みのある石材の周縁部を粗く打ち欠き円盤状に成形している。



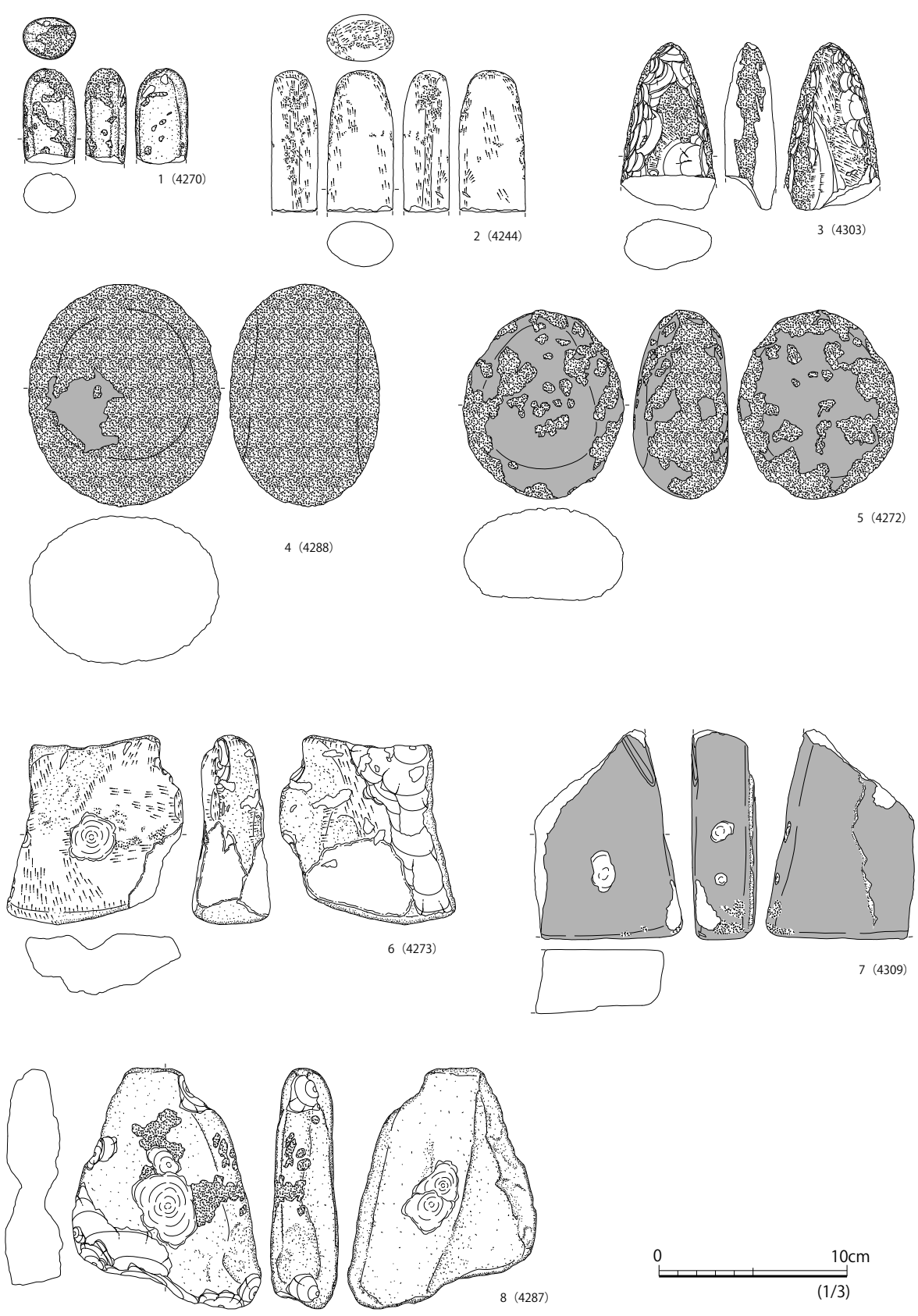
第 166 図 遺構外出土石器 (7)



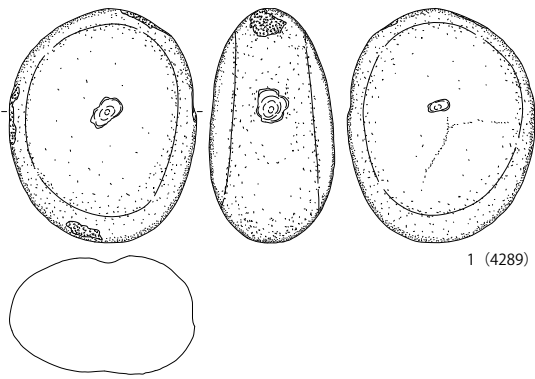
第 167 図 遺構外出土石器 (8)



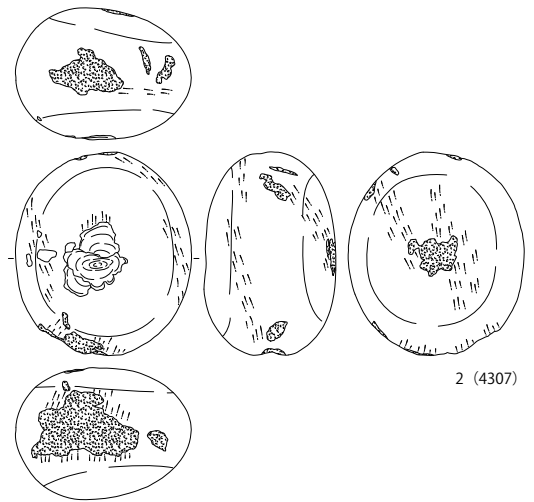
第 168 図 遺構外出土石器 (9)



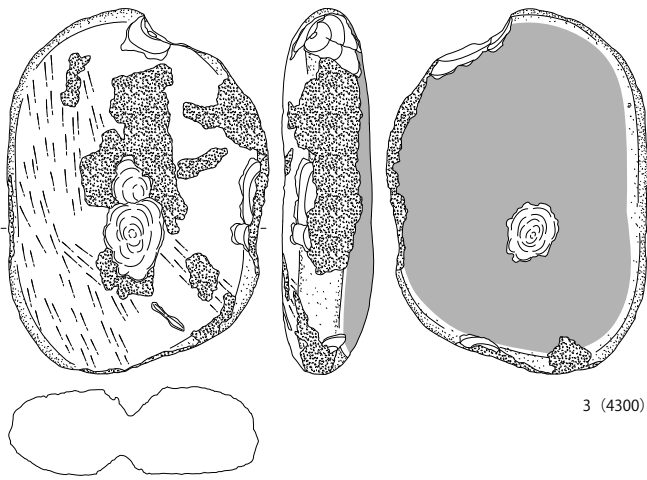
第 169 図 遺構外出土石器 (10)



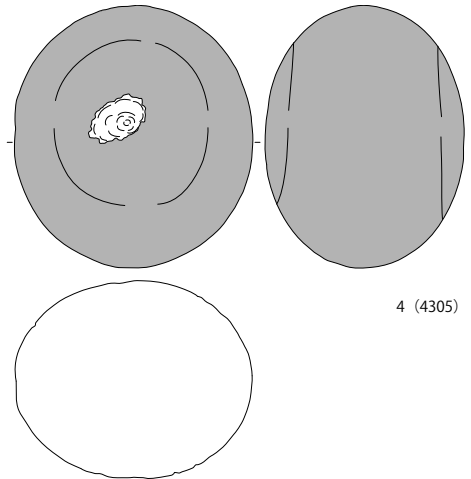
1 (4289)



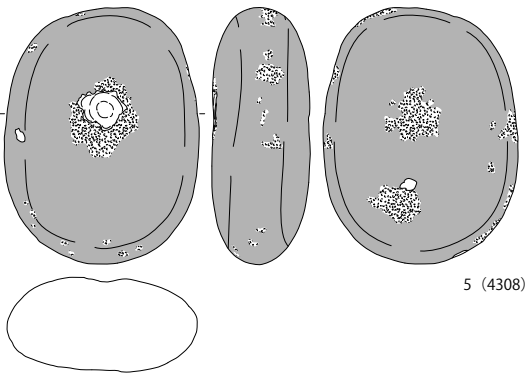
2 (4307)



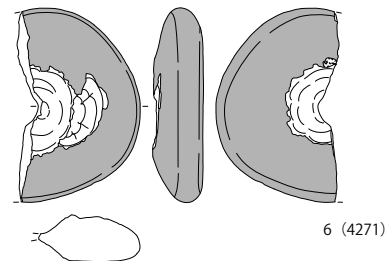
3 (4300)



4 (4305)



5 (4308)



6 (4271)

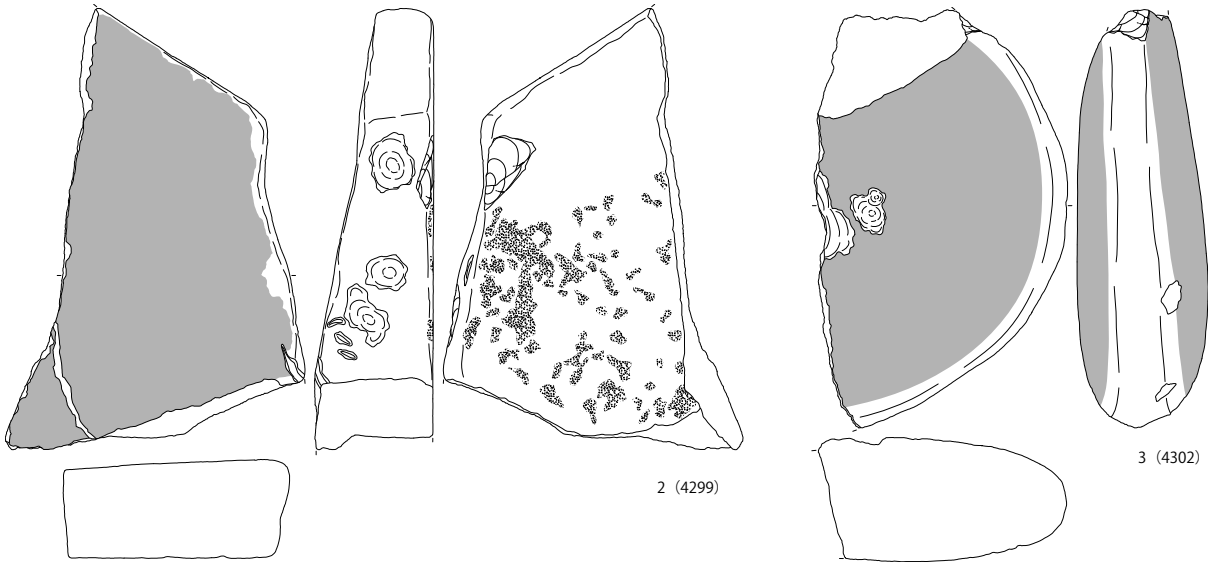


(1/3)

第 170 図 遺構外出土石器 (11)

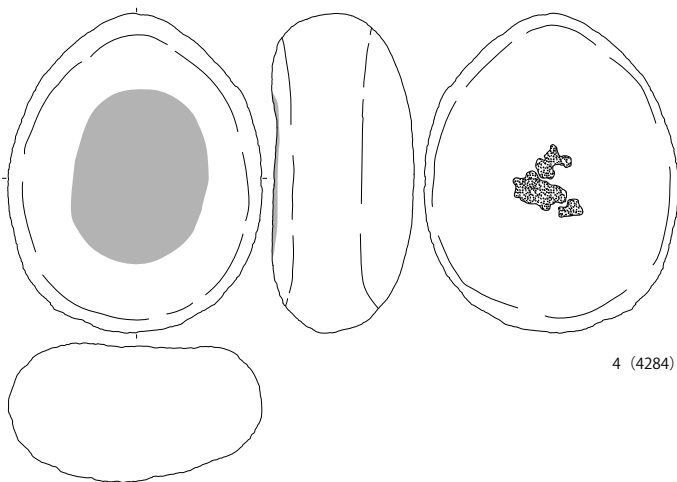


1 (4301)

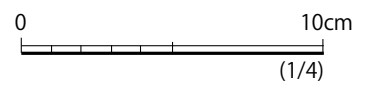


2 (4299)

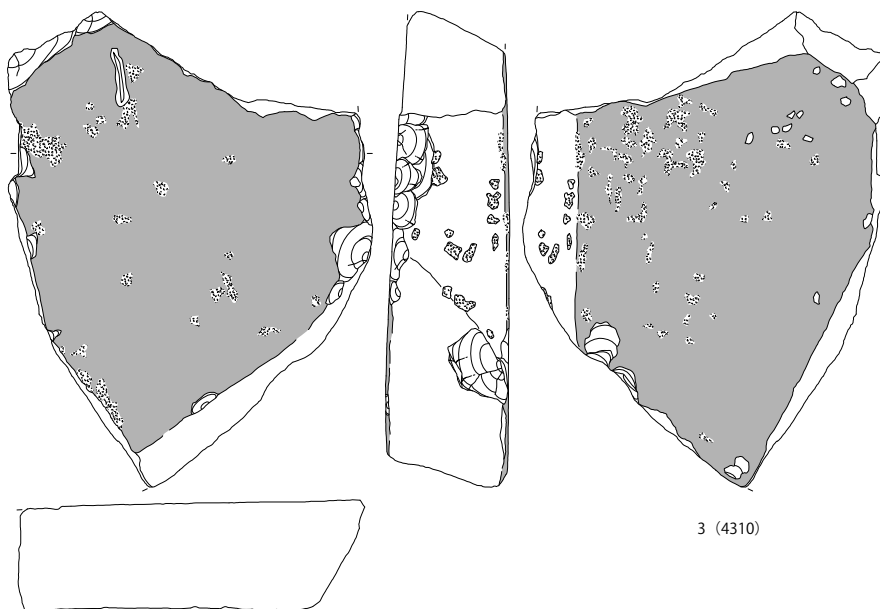
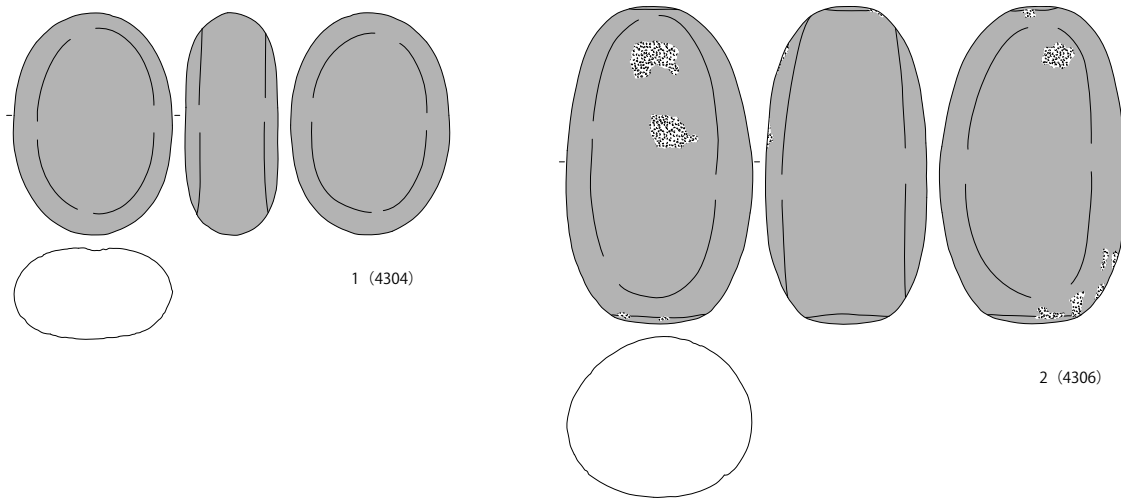
3 (4302)



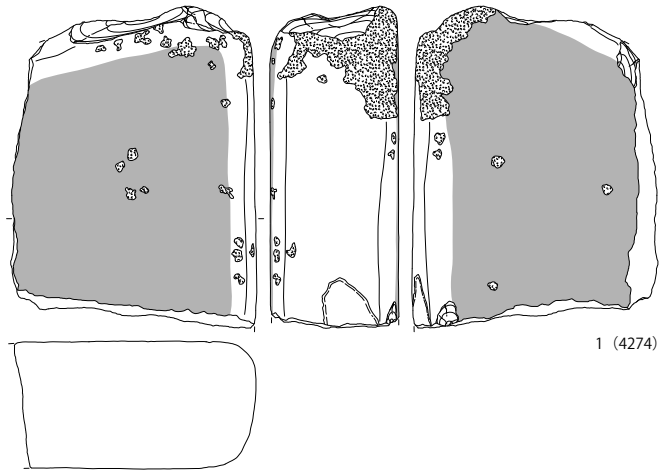
4 (4284)



第171図 遺構外出土石器(12)



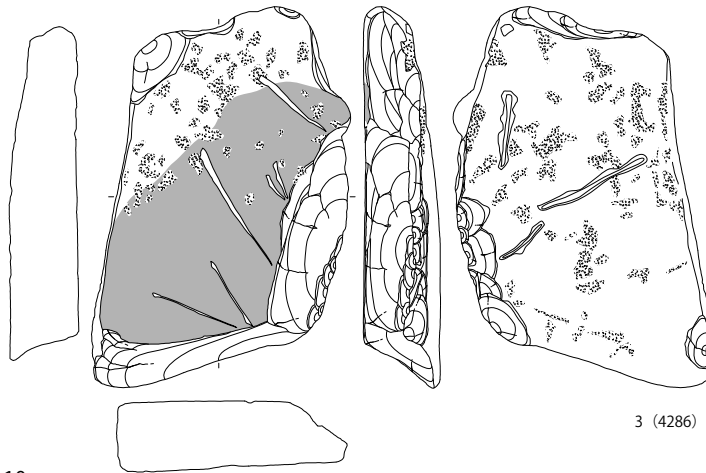
第 172 図 遺構外出土石器 (13)



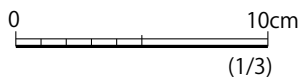
1 (4274)



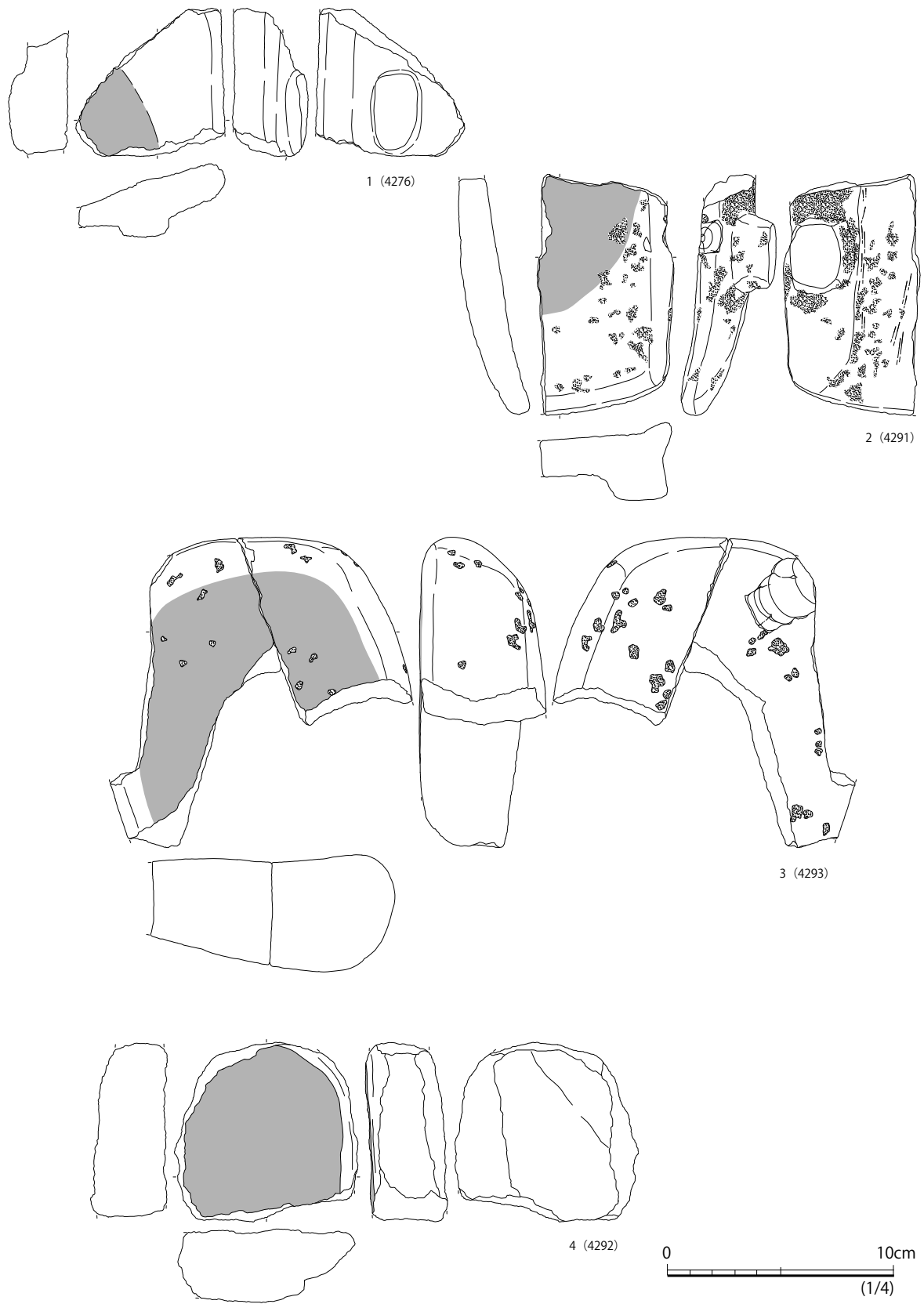
2 (4275)



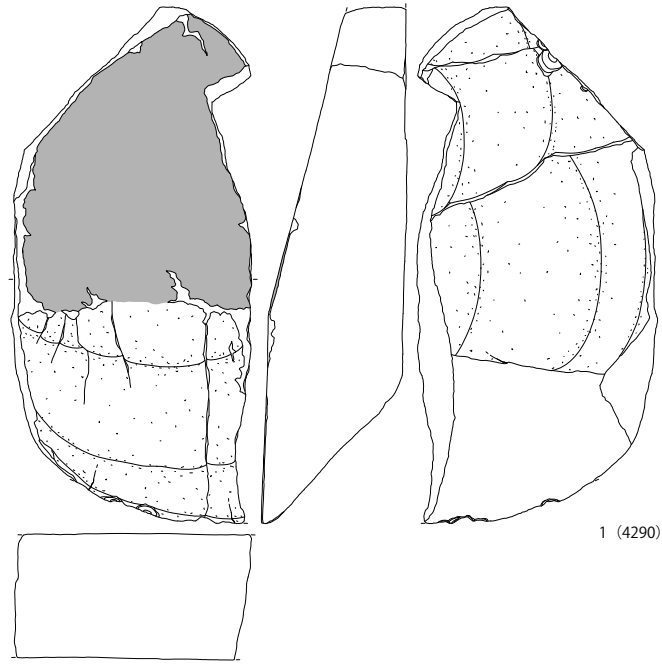
3 (4286)



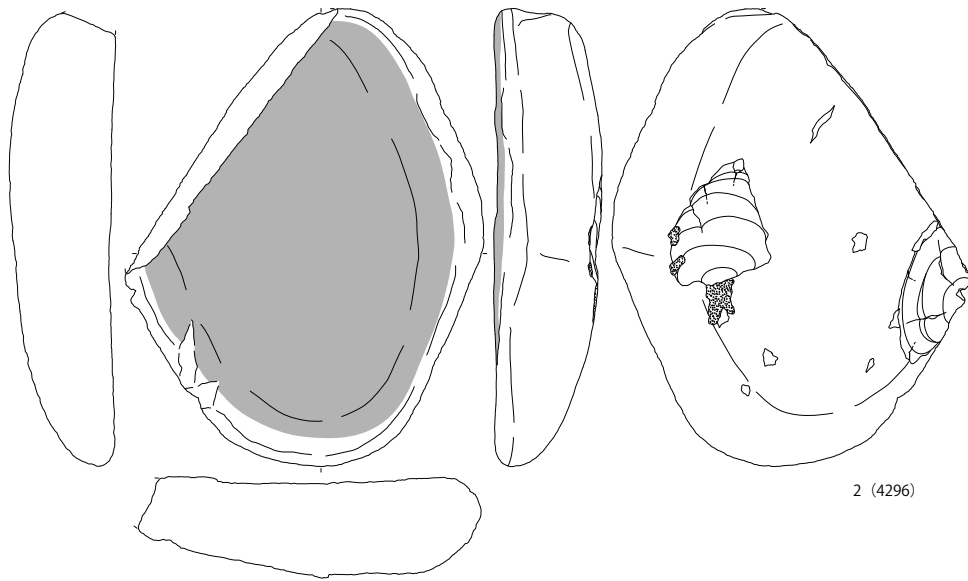
第173図 遺構外出土石器 (14)



第 174 図 遺構外出土石器 (15)



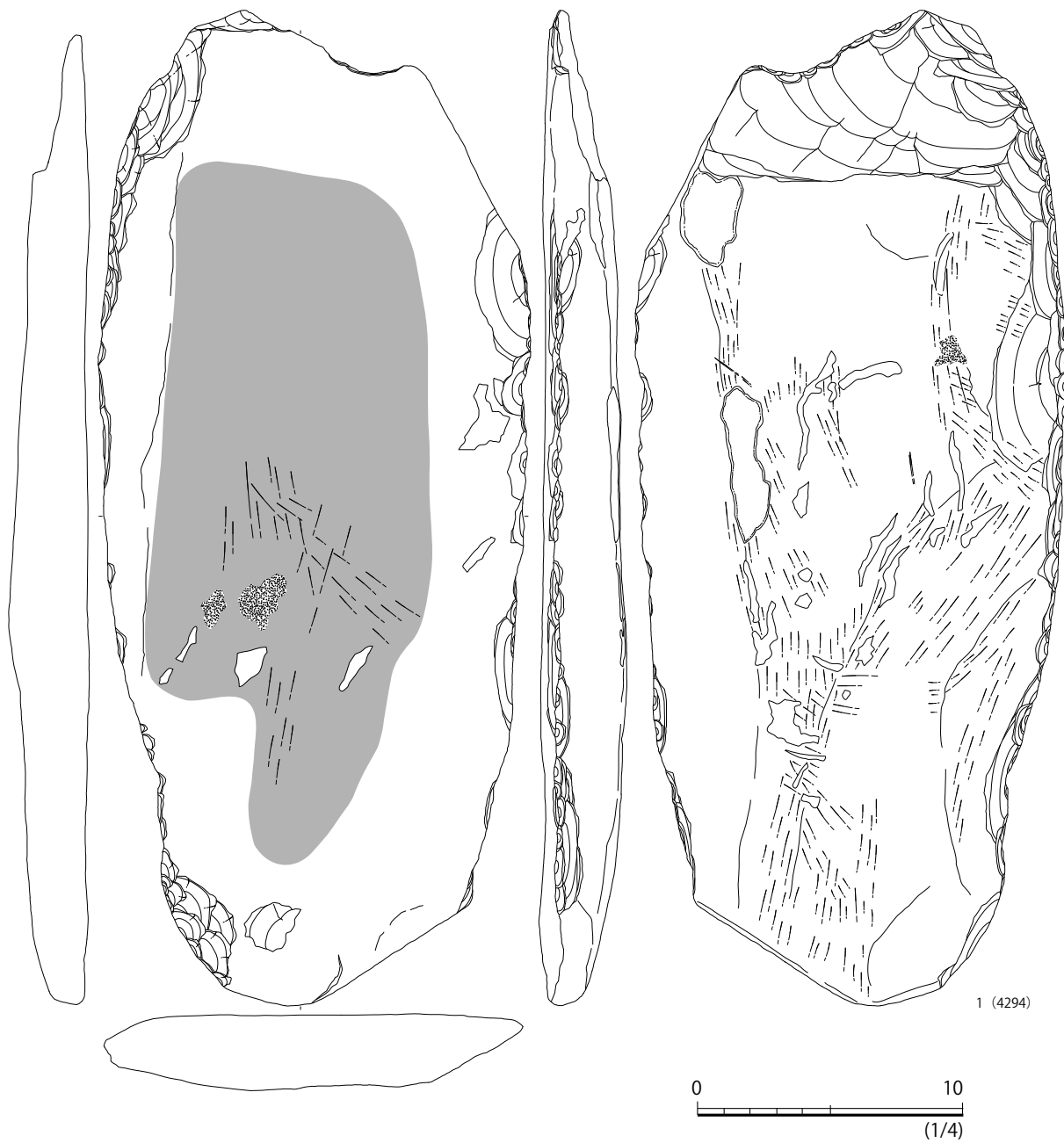
1 (4290)



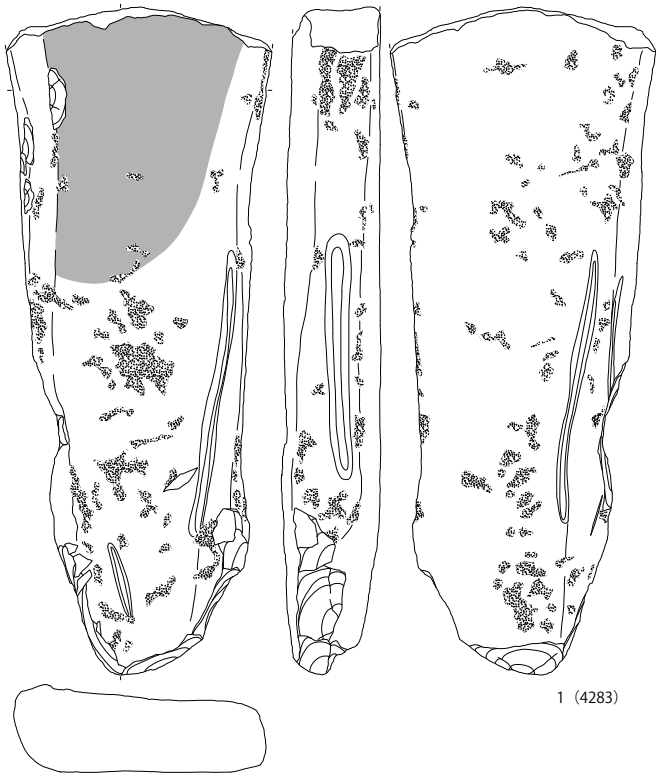
2 (4296)



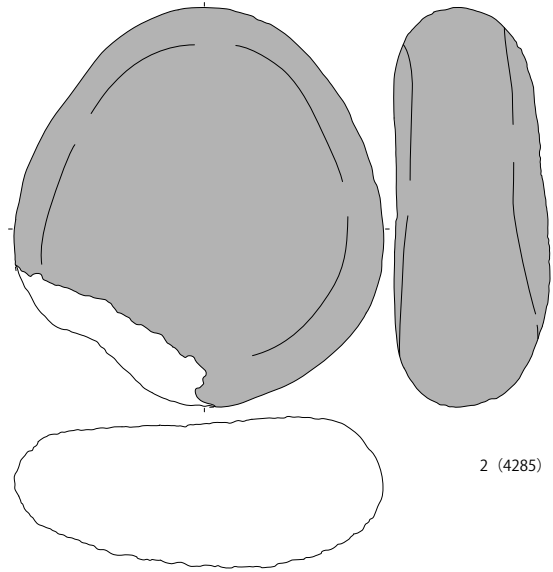
第 175 図 遺構外出土石器 (16)



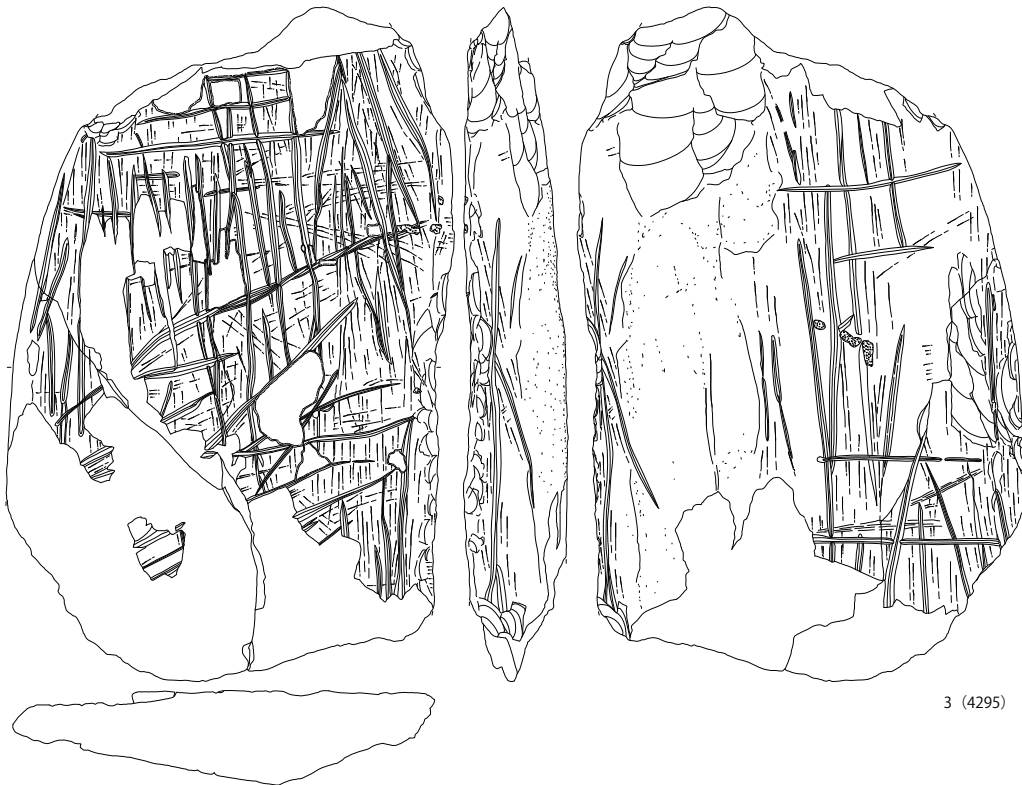
第 176 図 遺構外出土石器 (17)



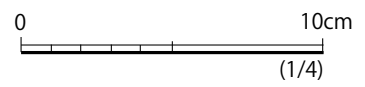
1 (4283)



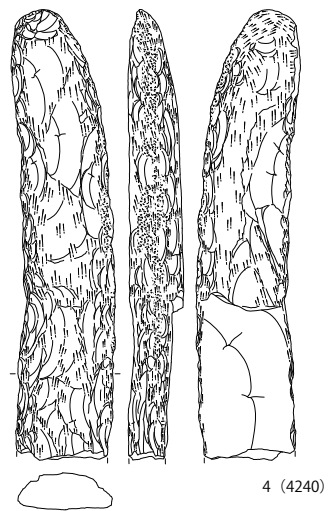
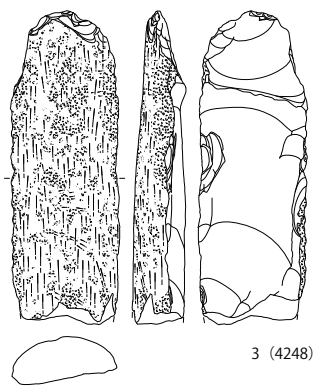
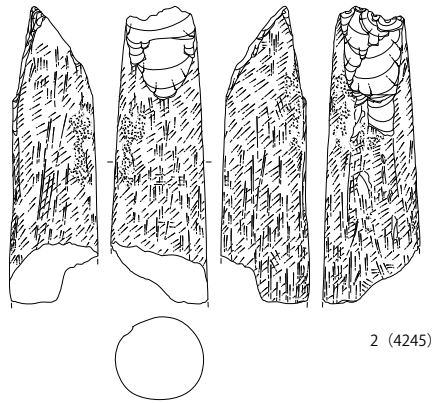
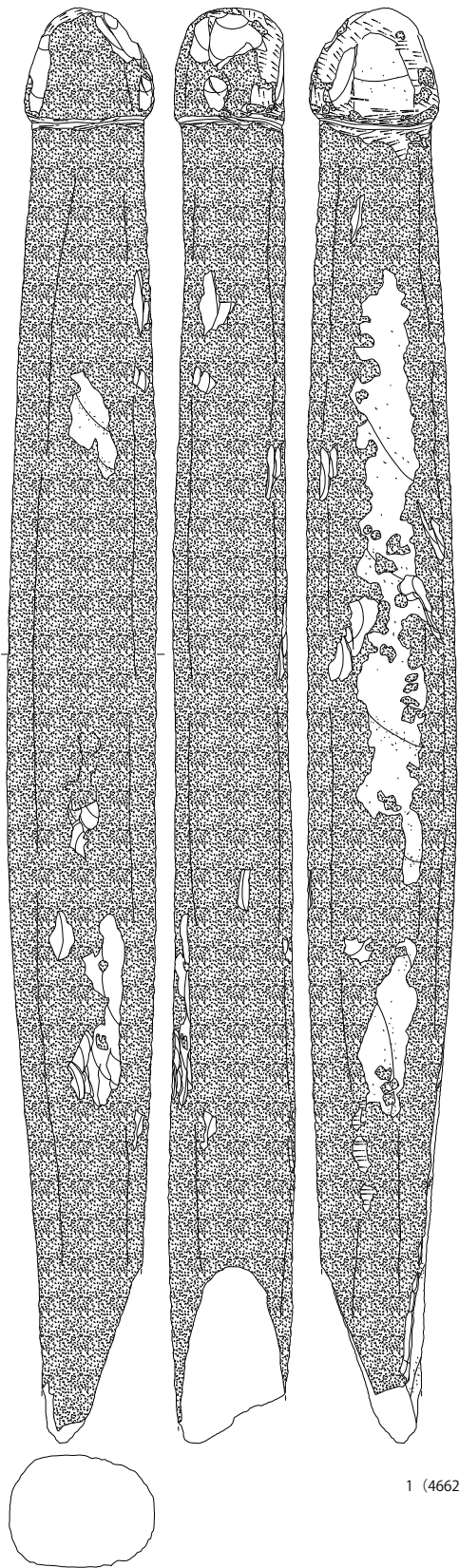
2 (4285)



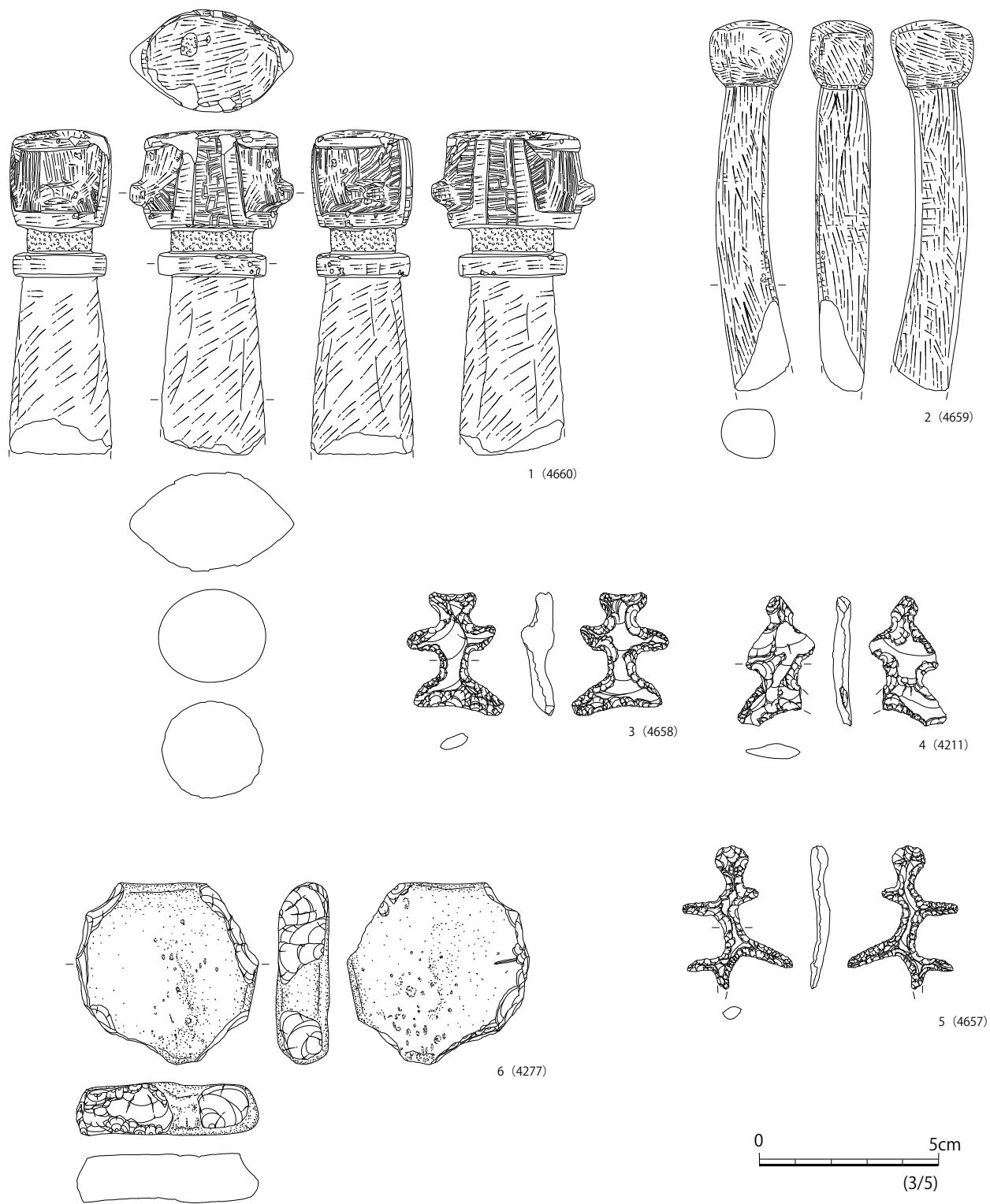
3 (4295)



第 177 図 遺構外出土石器 (18)



第 178 図 遺構外出土石製品 (1)



第 179 図 遺構外出土石製品 (2)

第三章 自然科学分析

第1節 堂の前貝塚9区における放射性炭素年代（AMS測定）

1 測定対象試料

堂の前貝塚（9区）は、岩手県陸前高田市米崎町字堂の前136番地1（北緯39°0′19″、東経141°40′23″）に所在する。測定対象試料は、大型掘立柱建物跡の柱穴から出土した炭化物3点である（表1）。

柱穴の出土遺物はすべて縄文時代に属するが、建物跡の時期は古代～近世と考えられている。

2 測定の意義

大型掘立柱建物跡の時期を把握する。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO₂）を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、14Cの計数、13C濃度（13C/12C）、14C濃度（14C/12C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HO_x II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta 13C$ は、試料炭素の13C濃度（13C/12C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表1）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) 14C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中14C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。14C年代は $\delta 13C$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。14C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、14C年代の誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、試料の14C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の14C濃度の割合である。pMCが小さい（14Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（14Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値も $\delta 13C$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、

補正していない値を参考値として表 2 に示した。

(4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の 14C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の 14C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、14C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が 14C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta 13C$ 補正を行い、下 1 桁を丸めない 14C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、14C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表 1、2 に示す。

試料の 14C 年代は、サンプル 1 が $1500 \pm 20\text{yrBP}$ 、サンプル 2 が $1320 \pm 20\text{yrBP}$ 、サンプル 3 が $1530 \pm 20\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) は、サンプル 1 が 546 ~ 594cal AD の範囲、サンプル 2 が 658 ~ 760cal AD の間に 2 つの範囲、サンプル 3 が 435 ~ 577cal AD の間に 3 つの範囲で示され、サンプル 1 が古墳時代後期頃、サンプル 2 が古墳時代後期から奈良時代頃、サンプル 3 が古墳時代中期から後期頃に相当する (佐原 2005)。推定される年代に対して、サンプル 2 は一致する範囲を含むが、サンプル 1、3 は古い値を示した。

試料の炭素含有率はいずれも 60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta 13C$ (‰) (AMS)	$\delta 13C$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-141353	サンプル 1	9 区 SB3-6 柱穴柱痕跡内	炭化物	AaA	-28.14 ± 0.62	$1,500 \pm 20$	82.93 ± 0.25
IAAA-141354	サンプル 2	9 区 SB3-13 柱穴柱痕跡内	炭化物	AAA	-27.81 ± 0.74	$1,320 \pm 20$	84.81 ± 0.26
IAAA-141355	サンプル 3	9 区 SB3-7 柱穴柱痕跡内	炭化物	AAA	-26.39 ± 0.57	$1,530 \pm 20$	82.69 ± 0.25

[#6840]

表 1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta 13C$ 補正值)

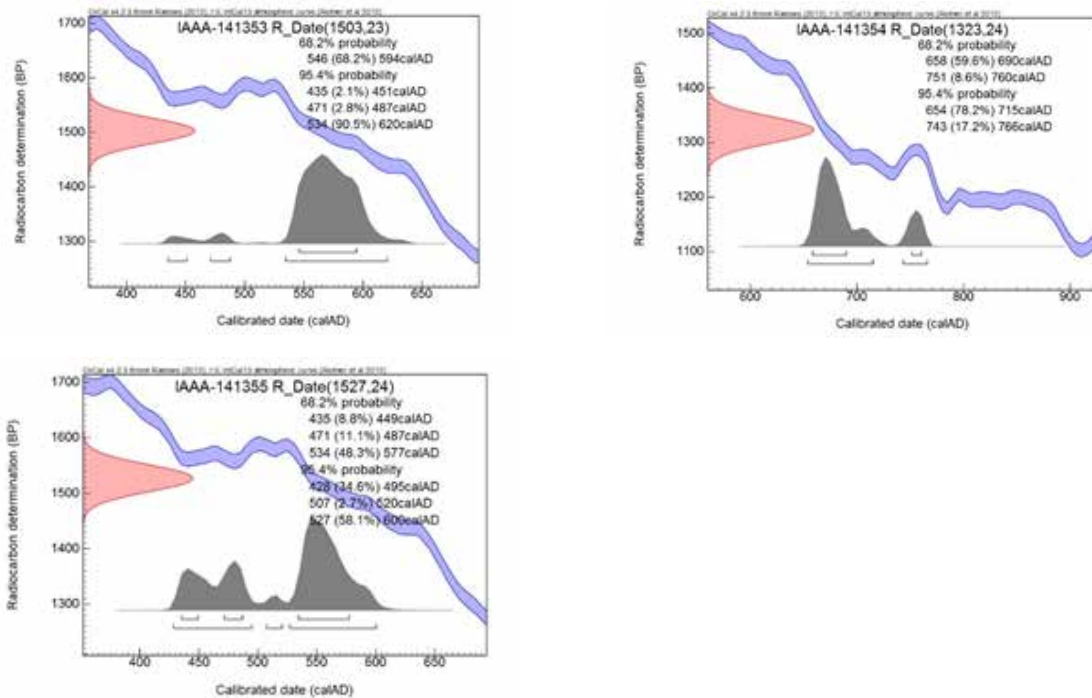
測定番号	δ 13C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-141353	1,560 ± 20	82.39 ± 0.22	1,503 ± 23	546calAD - 594calAD (68.2%) 471calAD - 487calAD (2.8%) 534calAD - 620calAD (90.5%)	435calAD - 451calAD (2.1%) 471calAD - 487calAD (2.8%) 534calAD - 620calAD (90.5%)
IAAA-141354	1,370 ± 20	84.32 ± 0.22	1,323 ± 24	658calAD - 690calAD (59.6%) 751calAD - 760calAD (8.6%)	654calAD - 715calAD (78.2%) 743calAD - 766calAD (17.2%)
IAAA-141355	1,550 ± 20	82.45 ± 0.23	1,527 ± 24	435calAD - 449calAD (8.8%) 471calAD - 487calAD (11.1%) 534calAD - 577calAD (48.3%)	428calAD - 495calAD (34.6%) 507calAD - 520calAD (2.7%) 527calAD - 600calAD (58.1%)

[参考値]

表 2 放射性炭素年代測定結果 (δ 13C 未補正值、暦年較正用 14C 年代、較正年代)

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
 Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887
 佐原眞 2005 日本考古学・日本歴史学の時代区分, 佐原眞, ウェルナー・シュタインハウス監修, 独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所編集, ドイツ展記念概説 日本の考古学 上巻, 学生社, 14-19
 Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363



暦年較正年代グラフ (参考)

第IV章 まとめ

縄文時代中期後葉から後期初頭を主体とする堂の前貝塚において、9区で調査された2間×7間の大形掘立柱建物(SB3)は、特筆すべき遺構である。同様の遺構は、9区の北側に隣接する平成9年の農道整備事業に先立った発掘調査で、1号掘立柱遺構として調査報告されている。

1号掘立柱遺構は8基の柱穴で構成された建物跡で、各柱穴は一辺1.0～1.6mの隅丸方形を呈し0.5～0.8mの深さを測る、いずれも柱痕と柱根のあたりが見られる。各柱間の芯心距離は2.6～3.0mを測る。

ただし、南西隅の柱間には地山層に大形礫が埋没しており、この間は5.4mとなる。遺構の北西側は未調査であるが、柱穴の配置から2間×4(5)間の掘立柱建物と推定される。長軸はほぼ東西方向を指している。

SB3と1号掘立柱遺構は16mほどの距離を隔てているが、柱穴の規格と配置が共通し方位に準じた長軸方向が直交する。また、1号掘立柱遺構は障害となる礫を避けることなく構築され、その配置に強い規制が働いたとみられる。これらから、両掘立柱建物は同時期に計画的に配置・構築されたと推定される。

さらに、1号掘立柱遺構の北東方向に23m程隔てて、南北から東西方向へ伸びる溝状遺構の屈曲点が、SB3と1号掘立柱遺構の北東隅の柱穴と直線上に整列し、各遺構の計画的配置が窺え、この溝状遺構は、両掘立柱建物を含む施設の外郭を区画するために構築された可能性がある。

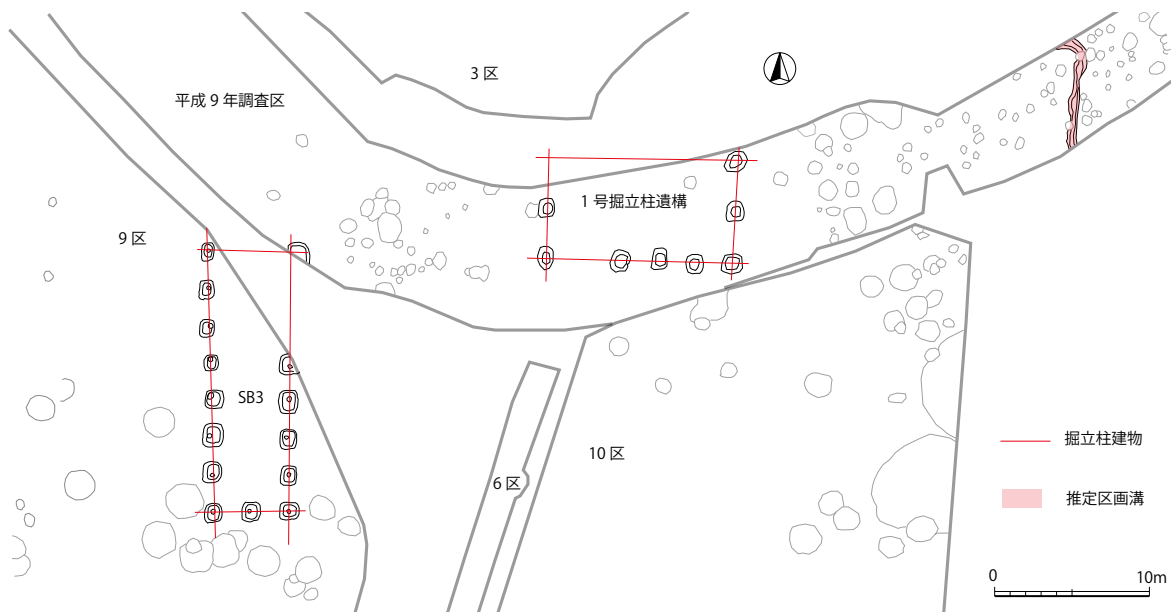
SB3と1号掘立柱遺構に加えて、10区東側の未調査区域にSB3と長軸方向を揃えた同規模の建物遺構があったと仮定すると、遺構群全体では南の海側へ開口する「コ」字形の建物配置となり、その外郭を溝が巡るという形態を推定できる。これは各地で官衙跡として報告されている遺構形態に相似している。

律令期における市域の歴史的環境をみると、「厨」銘を含む墨書土器119点が出土した小泉遺跡や式内社伝承がある氷上神社の存在など、気仙郡の中でも重要な地域であったと思われる。

両掘立柱建物が立地する台地からは海への眺望が開け、気仙郡の海上輸送の拠点とされる脇の沢の港とは指呼の距離にある。当地に郡内産物の集積や輸送、通行を管理する官衙的施設が存在した可能性は極めて高いといえる。

参考文献

- 陸前高田市教育委員会 1999 『堂の前貝塚発掘調査報告書 II』 陸前高田市文化財調査報告第21集
- 陸前高田市教育委員会 2003 『海の蝦夷—小泉遺跡が語りかけるもの—』 法政大学国際日本学サテライトシンポジウム資料集
- 陸前高田市 1995 『陸前高田市史』第3巻 沿革編(上)



第180図 1号掘立柱遺構とSB3

平成 26・27 年度堂の前貝塚発掘調査組織

主 体 陸前高田市教育委員会
教育長 山田市雄

総括 大久保裕明(生涯学習課長 平成 27 年 3 月まで)
堺 伸也(生涯学習課長 平成 27 年 4 月から)

事務局 高橋一成(同課課長補佐)
吉田志真(同課生涯学習係長)
桐木 亮(同課主任主事 京都市より派遣 平成 27 年 3 月まで)
藤元剛史(同課主任 京都市より派遣 平成 27 年 4 月から)
曳地隆元(同課学芸員)

調査担当者 加藤隆也(同課主査 福岡市より派遣 平成 27 年 3 月まで)
瀧本正志(同課主査 福岡市より派遣 平成 27 年 4 月から)

平成 26 年度

県教委調査員 鳥居達人 村本周三(北海道教委より派遣) 浅野晴樹(埼玉県教委より派遣)
今福利恵(山梨県教委より派遣) 上床 真(鹿児島県教委より派遣)
中澤寛将(青森県教委より派遣)

発掘作業員 高橋由美 佐々木美佳 佐々木由里 吉田のり子 菅野奈穂美 安井トミ子
近江伸子 新沼理香 和泉明子 堀口桂子 吉田友和 大和田健子 小笠原なな
黒森富郎 村上恵代子 中野恵美子 白井早苗 新沼礼子 小林恵美
金澤キミヨ 前川京子 四ツ目 清 津田昌子 菅野郁子 佐々木多美子
千葉 豊 菅原たか 金野勝也 田沢博昭 川原 満 梅木良子 佐藤キヨ子
佐藤美代子 荒木コギク 荒木美智代 佐々木栄子 菅野由美子 及川恵美子
村上由美子 金野由紀夫 菅原とみ子 大和田武喜 戸羽由美 村上奈穂子
菅野トシエ 菅野貴恵 戸羽さおり 鈴木貞子 佐々木美佳 三嶋登喜子
佐々木道子 後藤美知香 高橋景奈 山谷富助 横澤桐子 村上実枝
伊勢谷和雄 和泉静明 千葉晃子 村上真知子 鈴木昇市 梅澤敏行
近藤美也子 佐々木かおり 佐々木のり子

平成 30・令和元年度堂の前貝塚整理事業組織

主 体 陸前高田市教育委員会
教育長 金 賢治(令和元年 9 月まで)
教育長 大久保裕明(令和元年 10 月から)

総括 戸羽良一(教育次長兼生涯学習課長 平成 31 年 3 月まで)
細谷勇次(教育次長兼管理課長 平成 31 年 4 月から)

事務局 小野寺一典(生涯学習課長補佐兼生涯学習係長・管理課長補佐)
熊谷 賢(生涯学習課副主幹・管理課副主幹兼文化財係長)
佐々木敦美(管理課副主幹 平成 31 年 4 月から)
黒澤 弘(生涯学習課主任・京都市派遣職員
平成 30 年 4 月から平成 31 年 3 月まで)

調査員 増崎勝仁 曳地隆元(生涯学習課学芸員・管理課学芸員)
村上奈穂子(嘱託員・発掘調査員、包括委託社員 平成 31 年 4 月から)
鈴木めぐみ(嘱託員・発掘調査員 平成 31 年 3 月まで)
村上紀子(嘱託員・文化財専門員、包括委託社員 平成 31 年 4 月から)
岡田美幸(包括委託社員 平成 31 年 4 月から)

作業員 吉田光憲 村上ナオミ 新沼月子 古澤留美
(同課臨時職員平成 30 年 6 月から平成 31 年 3 月まで)

報告書抄録

ふりがな	どうのまえかいづかはくつちょうさほうこくしょ ご へいせいにじゅうろく・にじゅうななねんどふっこうこうふきんたいしょうじぎょうかんれんいせきはくつちょうさ						
書名	堂の前貝塚発掘調査報告書 V 平成 26・27 年度復興交付金対象事業関連遺跡発掘調査						
シリーズ名	陸前高田市文化財調査報告						
シリーズ番号	第 35 集						
編著者名	増崎勝仁						
編集機関	陸前高田市教育委員会						
所在地	〒 029-2292 岩手県陸前高田市高田町字鳴石 42 番地 5 TEL 0192 - 54 - 2111						
発行年月日	2020 年 9 月 1 日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積
		市町村	遺跡番号				
どうのまえかいづか 堂の前貝塚	いわてけんりくぜんたかたし 岩手県陸前高田市 よねさきちょうあざどうのまえ 米崎町字堂の前 136 番地 1 他	03210	NF68 - 2130	39° 00′ 19″	141° 40′ 23″	2014 年 8 月 21 日 から 2015 年 6 月 18 日 まで	3,067㎡
調査原因	宅地造成						
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
堂の前貝塚 (平成 26・27 年度 調査分 9・10 区)	集落跡 貝塚	縄文時代	竪穴建物跡 7 棟 掘立柱建物 2 棟 土坑 47 基 焼土跡 2 基 配石 2 基 不明 1 基 自然流路 1 条	縄文時代中期 大木 9・10 式土器 縄文時代後期 門前式土器 縄文時代晩期 大洞 A 式土器 石器・土製品・骨角器		9 区の調査 では、主軸 方向をほぼ 南北に向け た 2 間 × 7 間の掘立柱 建物を調査 した。過去 の調査成果 を合わせると、計画的 な建物配置 が推定され 官衛的施設 の可能性が 高い。	

陸前高田市文化財調査報告 第35集

堂の前貝塚発掘調査報告書 V

平成26・27年度復興交付金対象事業関連遺跡発掘調査

編集 令和2年1月28日

発行 令和2年9月1日

編集・発行 陸前高田市教育委員会

〒029-2292 岩手県陸前高田市高田町字鳴石42番地5

TEL: 0192-54-2111

印刷 川口印刷工業株式会社
